神栖市環境基本計画
資料・データ関連集

神栖市

2019（平成31）年 3月

目　次

1. 地域特性の把握 1

1.1 市の概況 1

1.2 地球環境 15

1.3 循環型環境 21

1.4 自然環境 26

1.5 生活環境 38

1.6 環境保全活動 51

2. 市民及び事業者、学生へのアンケート調査 53

2.1 アンケートの概要 53

2.2 アンケート集計分析結果 54

2.2.1 市民 55

2.2.2 事業所 134

2.2.3 学生 184

1. 地域特性の把握

1.1 市の概況

(1) 地理的特徴

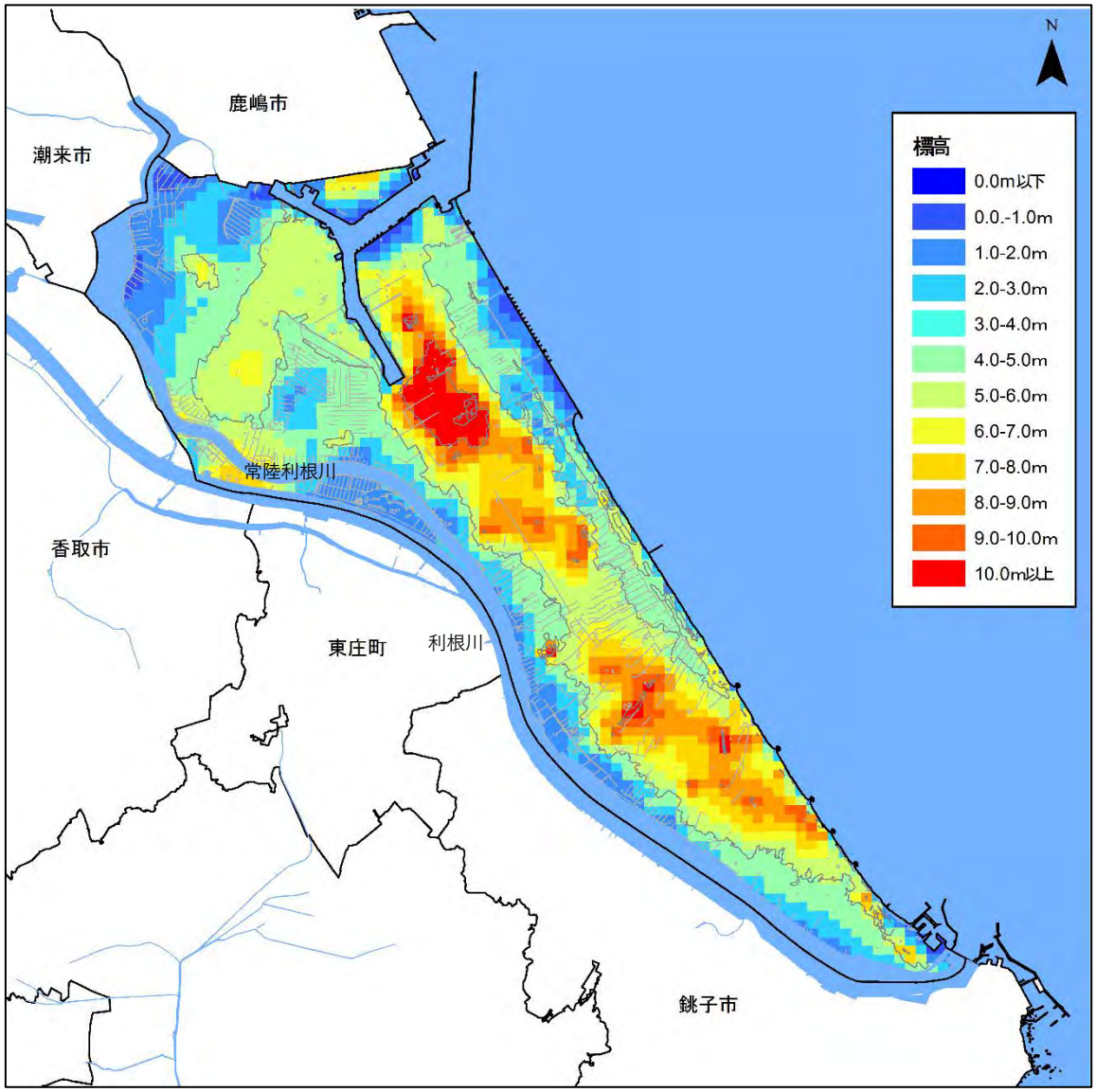
神栖市は、茨城県の南東部に位置しており、太平洋と利根川、常陸利根川に挟まれた地域である。東は太平洋の鹿島灘、北西は鹿嶋市、潮来市に、南西は利根川を経て千葉県の銚子市、東庄町、香取市に隣接している。市の面積 147.24km² で、南北に細長い形状をしている。

出典）神栖市「第 2 次神栖市総合計画」より

図 1　神栖市の航空写真

(2) 地形・地質

神栖市の地勢は、中央部の標高がやや高くなっているものの、概ね平坦地となっている。
なお、地質は、沖積層及び砂質土壌が発達している。

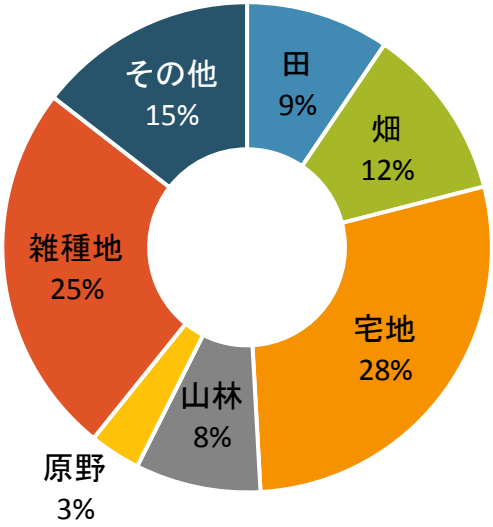


出典）国土交通省国土政策局「国土数値情報（標高データ）」をもとに株式会社建設技術研究所が編集・加工

図 2　標高

(3)　土地利用状況

神栖市の土地利用は、宅地が 28%と最も多く、続いて雑種地となっている。



備考）　平成 28 年 1 月時点の値。

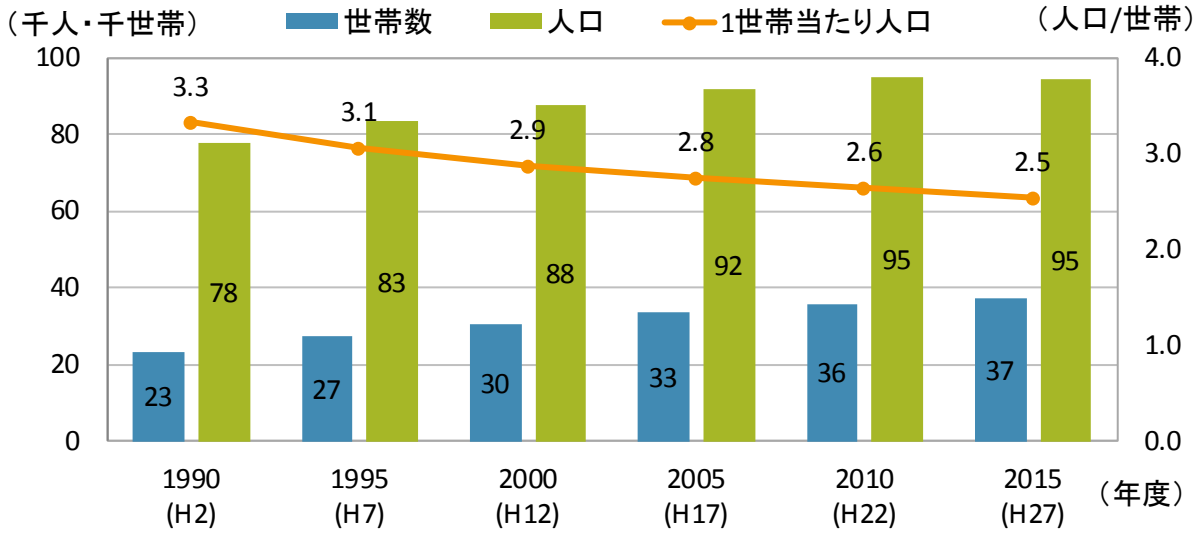
出典）神栖市ホームページ「統計かみす」より作成

図 3　地目別土地利用割合

(4) 人口構造

市の人口・世帯数は増加傾向にある一方で、世帯人員は減少傾向にあり、平成 27 年度には 2.5 人/世帯となっている。

今後、総人口は 2020 年度以降が減少傾向に転じると予測されている。

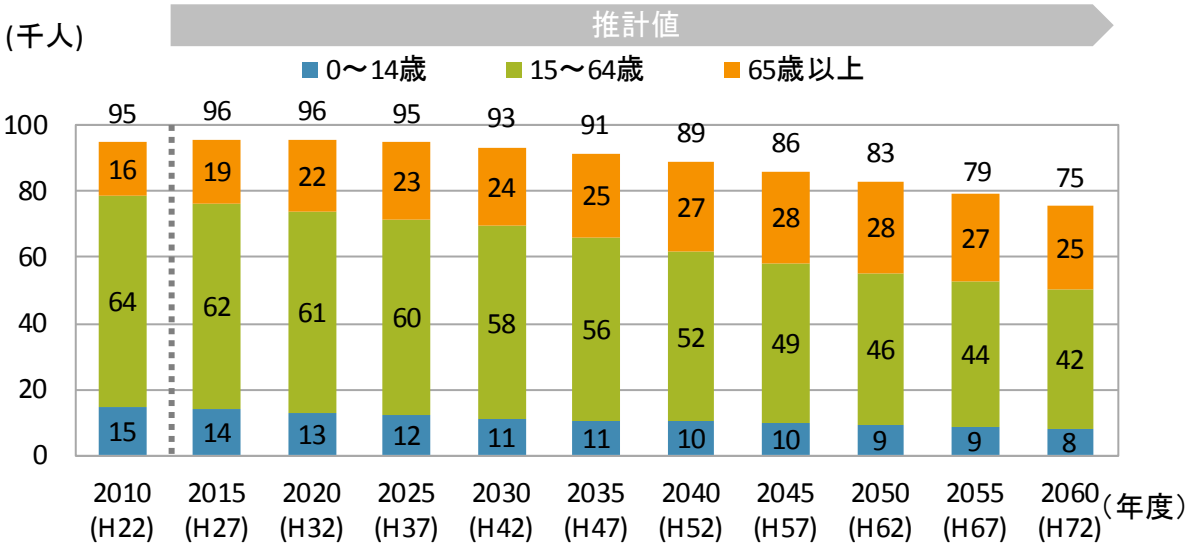


備考）1. 各年 10 月 1 日時点の値。

2. 「世帯人員」は「人口」を「世帯数」で除した値。

出典）神栖市ホームページ「統計かみす」より作成

図 4 人口・世帯数の推移



備考）1. 国立社会保障・人口問題研究所が平成 22 年国勢調査の結果を基に推計した人口推計値。

2. 数値を四捨五入している関係で、必ずしも合計値が一致しない場合がある。

出典）神栖市「神栖市人口ビジョン（平成 27 年度）」より作成

図 5 年齢 3 区分人口の推移と将来の見込み

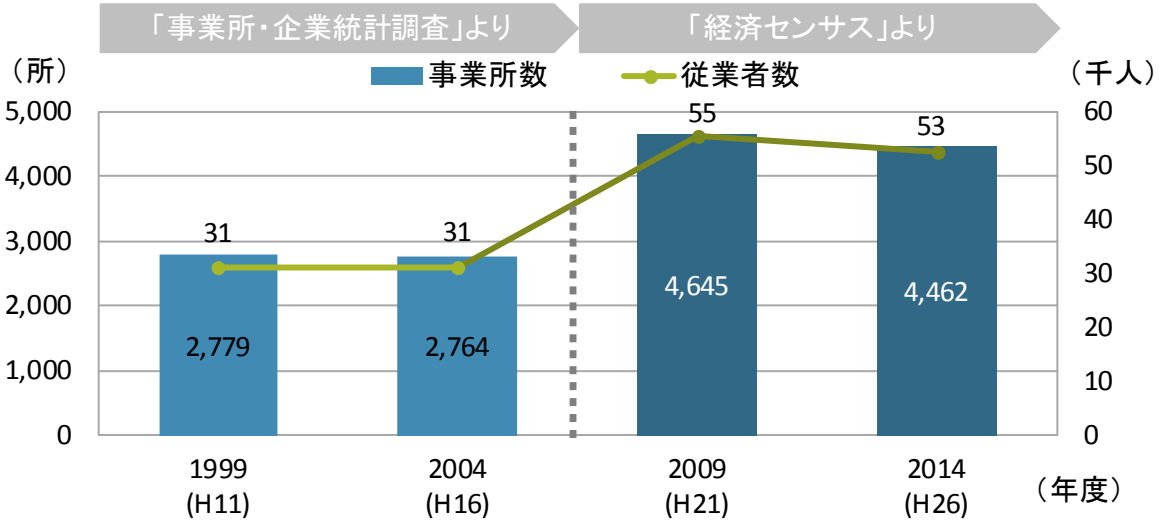
(5) 産業

神栖市の平成 26 年度の事業所数は 4,462 事業所、従業員数は約 5.3 万人である。

産業 3 区分別の就業人口構成比経年変化では、平成 7 年度に第 3 次産業がやや増加しているが、その後は概ね横ばいで推移している。

産業分類別事業者数では、「卸売業、小売業」が約 21%と最も多くなっている。

製造品出荷額は、リーマンショックの影響により平成 20 年度に大きく減少したものの、近年はやや回復傾向がある。

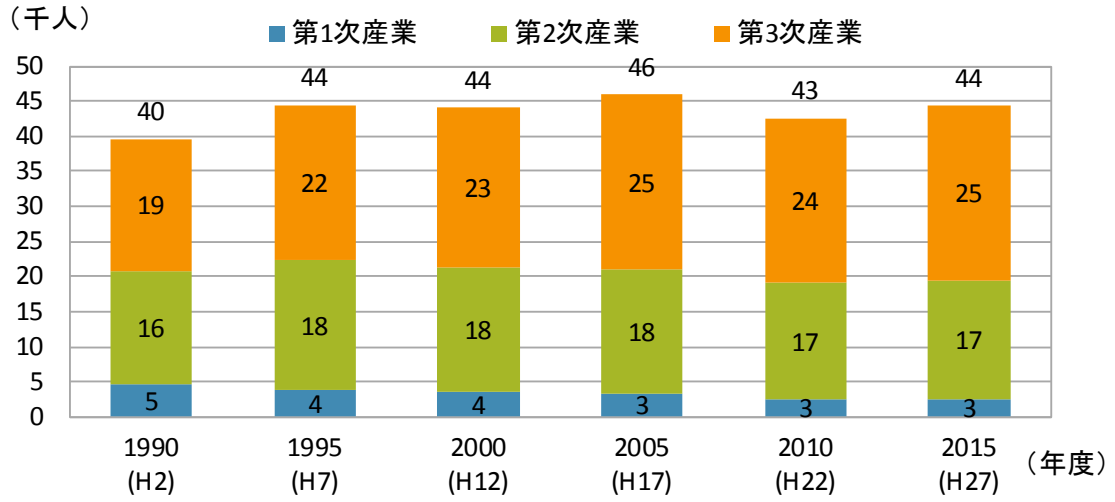


備考）1. 各年 10 月 1 日時点の値。

2. 平成 18 年までは「事業所・企業統計調査」、平成 21 年からは「経済センサス」として実施されており、調査方法が異なるため、データの比較には留意が必要。

出典）神栖市ホームページ「統計かみす」より作成

図 6 産業に係る事業所数及び従業者数の推移

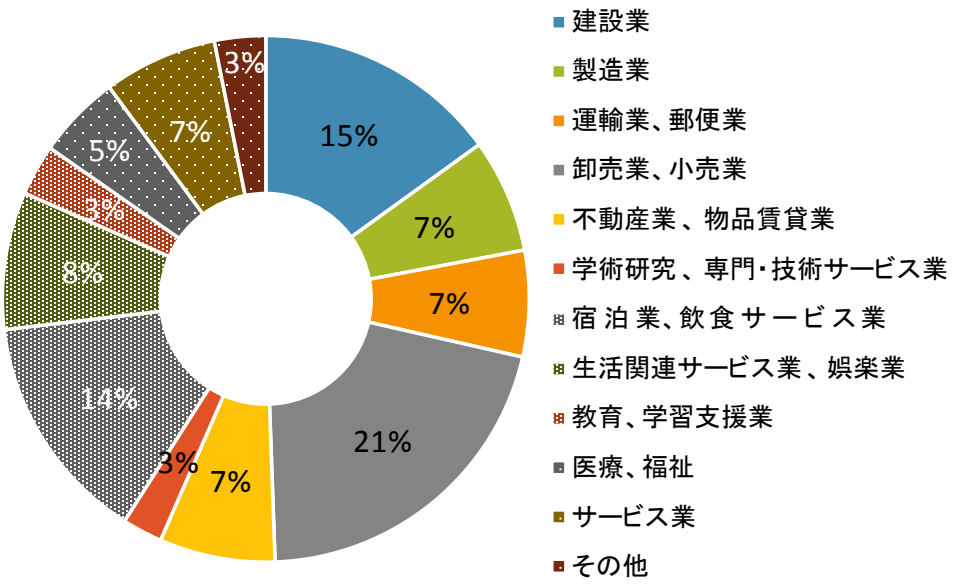


備考）1. 各年 10 月 1 日時点の値。

2. 数値を四捨五入している関係で、必ずしも合計値が一致しない場合がある。

出典）総務省「国勢調査」より作成

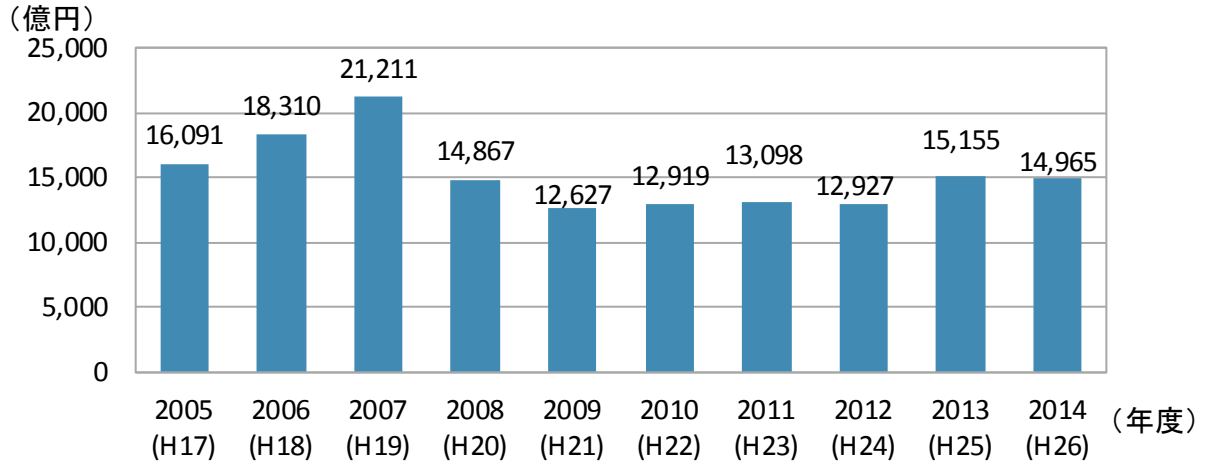
図 7 産業別就業者数の内訳



備考）　平成 26 年度時点の値。

出典）神栖市「統計かみす」より作成

図 8　産業分類別事業所数内訳



備考）1.　各年 12 月 31 日時点の値。
2.　H23 工業統計調査は H24 経済センサス-活動調査の製造業として実施されたもの。
3.　4 人未満の事業所を除く。

出典）神栖市「統計かみす」より作成

図 9　製造品出荷額の推移

(6) 自動車交通量・保有台数

市内での移動手段は、自動車の利用が必要不可欠となっている。

神栖市の交通量調査は、17 地点において実施している。全体の交通量は、平成 26 年度までは減少傾向であったが、平成 27 に増加に転じている。

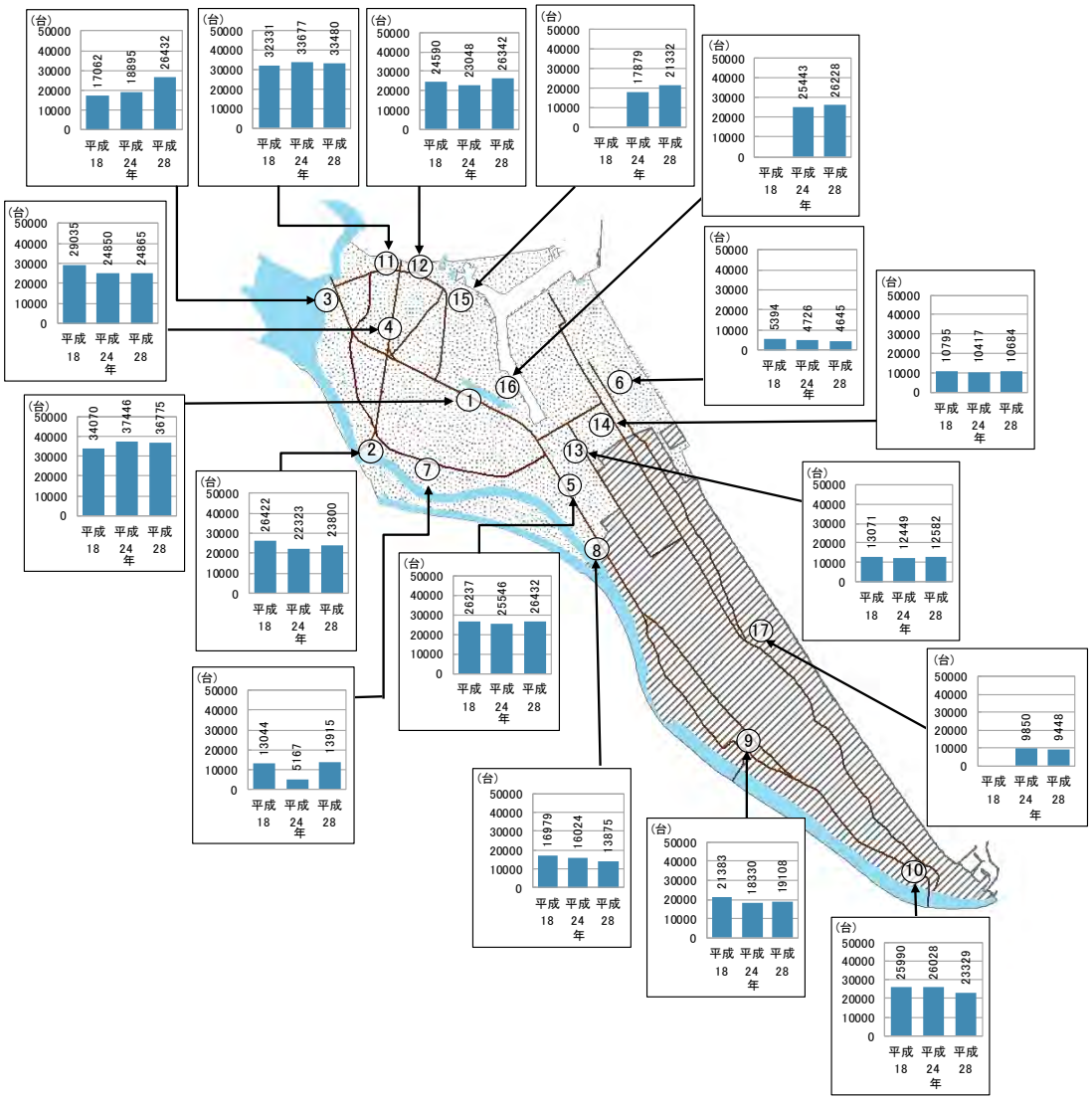
市内の自動車保有台数は、平成 24 年から漸増傾向となっている。車種別では、乗用車の増加傾向が見られる。

表 1　交通量調査結果

（単位：台/日）

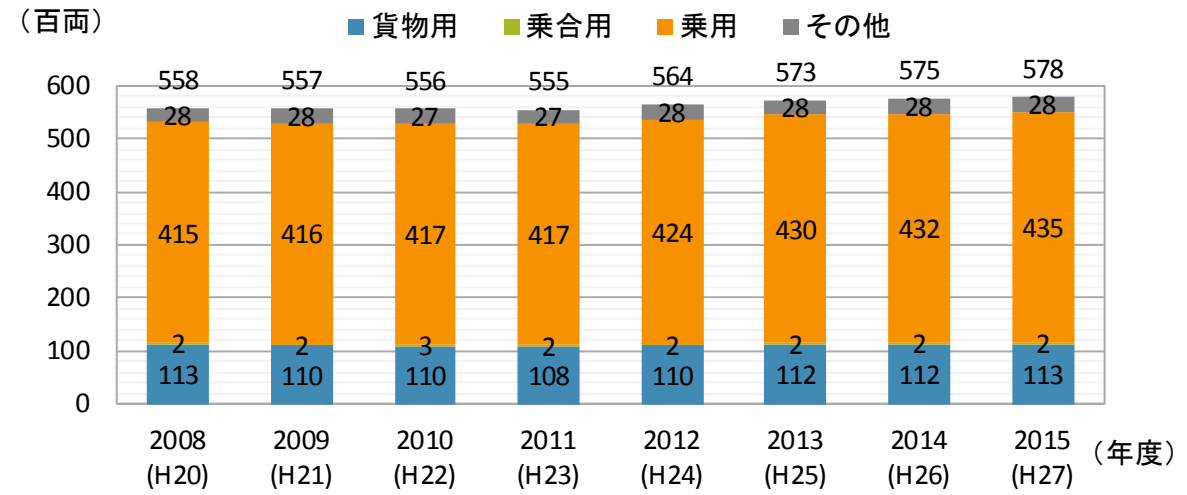
No.	調査地点名称	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
①	神栖市役所前	32,104	35,296	37,446	34,397	33,980	35,105	36,775
②	息栖大橋	24,240	23,472	22,323	22,732	25,070	23,643	23,800
③	下幡木	26,867	19,693	18,895	20,264	18,850	20,432	20,698
④	平泉	26,346	24,291	24,850	24,781	24,787	24,953	24,865
⑤	知手	26,366	29,385	25,546	26,446	23,929	26,175	26,432
⑥	奥野谷浜	4,726	5,717	4,726	5,166	4,666	4,813	4,645
⑦	石神	12,737	12,618	5,167	11,737	12,402	12,564	13,915
⑧	常陸川大陸	15,473	12,923	16,024	16,049	16,042	15,618	13,875
⑨	矢田部	17,863	17,915	18,330	17,479	18,377	18,802	19,108
⑩	銚子大橋	26,181	21,662	26,028	20,821	20,684	24,363	23,329
⑪	居切 1	31,923	38,344	33,677	33,189	32,886	34,600	33,480
⑫	居切 2	24,691	21,618	23,048	25,583	23,876	25,444	26,342
⑬	知手団地 1	11,596	13,063	12,449	12,648	12,952	13,270	12,582
⑭	知手団地 2	11,004	11,303	10,417	11,598	11,241	11,128	10,684
⑮	東深芝 1	20,044	21,670	17,879	20,270	20,085	17,700	21,332
⑯	東深芝 2	26,637	26,489	25,443	24,426	21,731	26,525	26,228
⑰	須田	9,895	9,775	9,850	9,304	8,912	8,875	9,448
合計		348,693	345,234	332,098	336,890	330,470	344,010	347,538

出典）神栖市「交通騒音・振動及び交通量調査　並びに自動車騒音常時監視調査業務委託　報告書」より作成



出典）神栖市「交通騒音・振動及び交通量調査　並びに自動車騒音常時監視調査業務委託　報告書」より作成

図 10　交通量調査結果



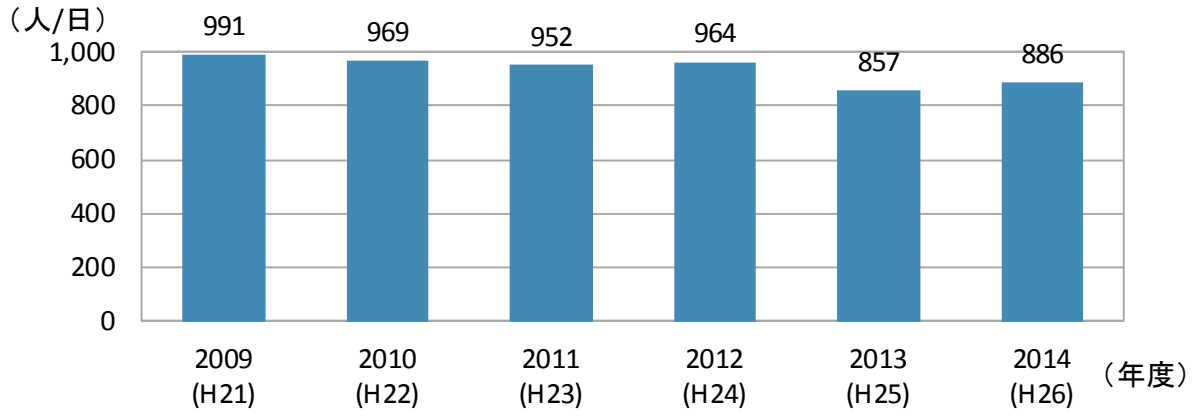
備考）　数値を四捨五入している関係で、必ずしも合計値が一致しない場合がある。

出典）神栖市「統計かみす」より作成

図 11　車種別自動車保有台数の推移

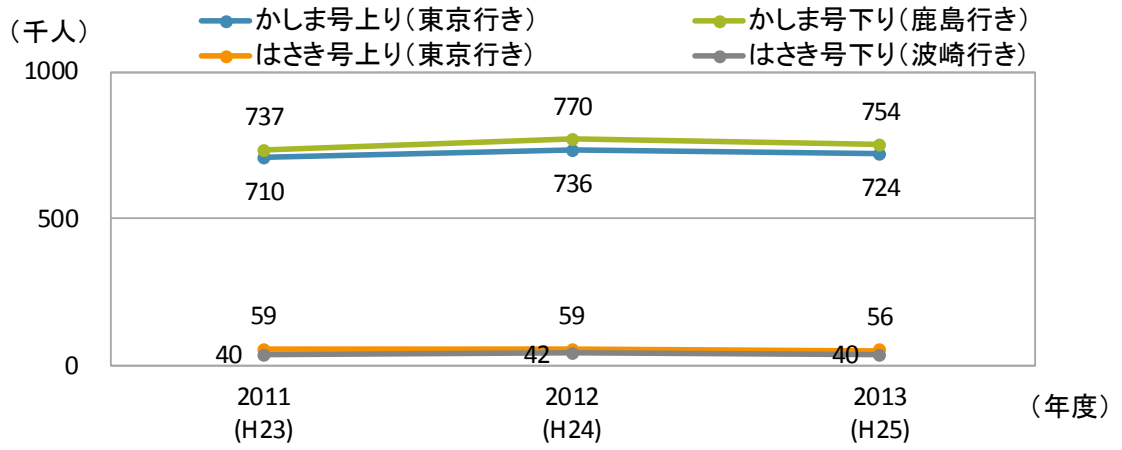
(7) 公共交通

1 日あたりの路線バス利用者数は、近年減少傾向にあり、900 人を割り込んでいる。
高速バスの利用者は横ばいで推移している。
また、デマンドタクシーの利用件数は近年、増加傾向にある。



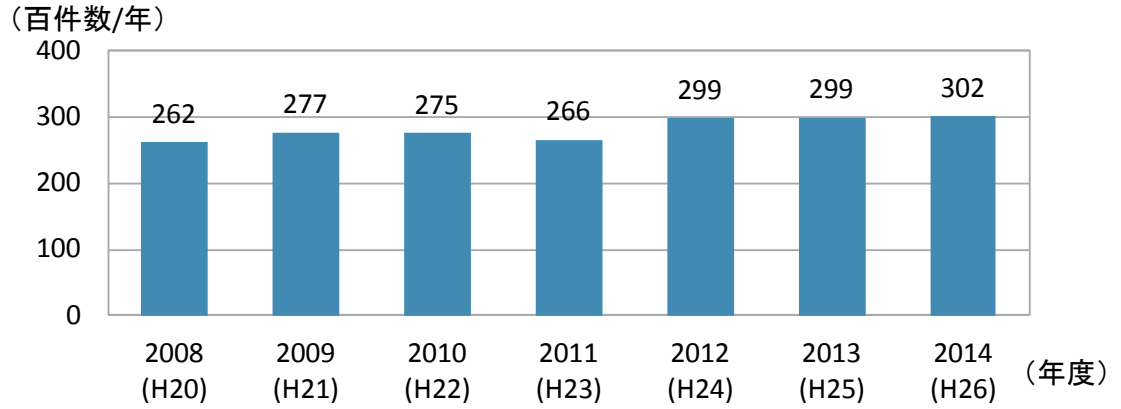
出典）神栖市「神栖市地域公共交通網形成計画」（平成 28 年 3 月）より作成

図 12　路線バスの乗車人員の推移



出典）神栖市「神栖市地域公共交通網形成計画」（平成 28 年 3 月）より作成

図 13　高速バスの年間利用者数



出典）神栖市「神栖市地域公共交通網形成計画」（平成 28 年 3 月）より作成

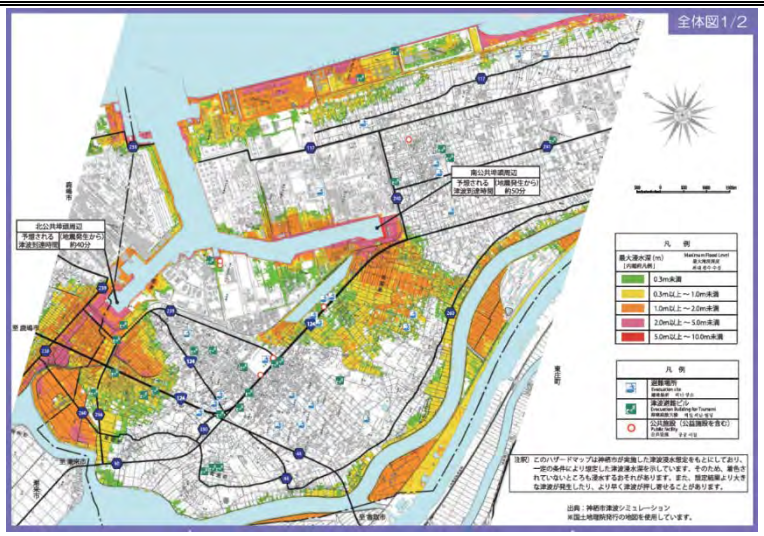
図 14　デマンドタクシー利用件数

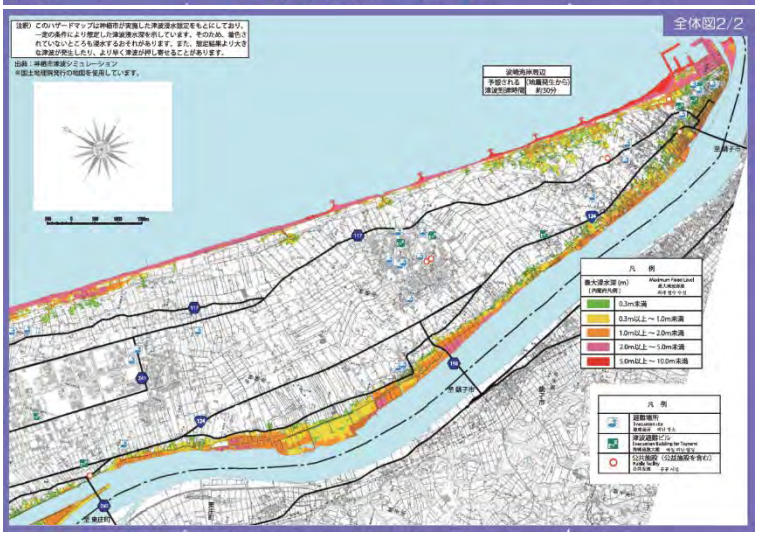
(8) 防災

神栖市では、津波に関する情報を提供し、事前の備えに役立てること等を目的として「神栖市津波ハザードマップ　神栖市津波避難計画」を作成・公表している。

また、降雨により利根川や霞ヶ浦が万が一破堤した場合の浸水範囲や深さ（浸水想定区域という）、及び避難所や災害対応のための情報などを示した「神栖市洪水ハザードマップ」を作成・公表している。

災害時における避難場所は 72 箇所を指定し、そのうち、津波発生時のみ一時的な避難場所も指定している。

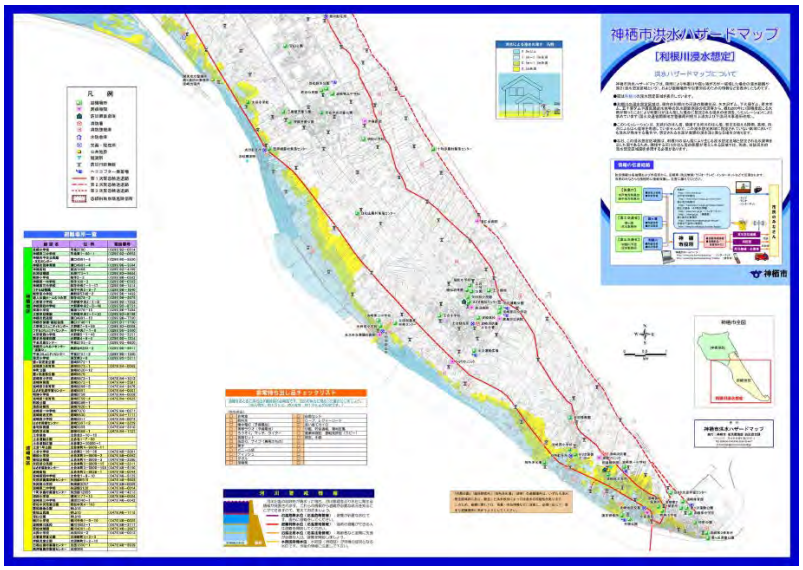




備考）　平成 29 年 3 月発行。

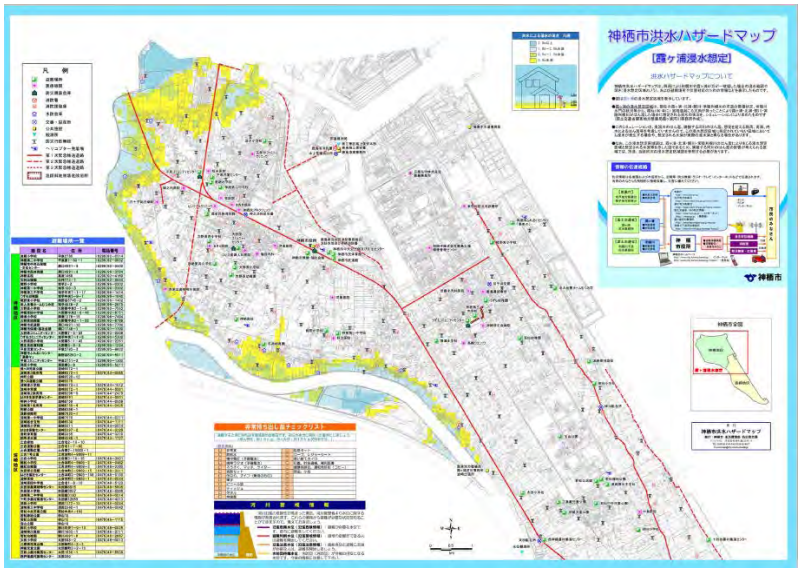
出典）神栖市ホームページ「ハザードマップ 津波・津波避難計画」より

図 15　神栖市津波ハザードマップ



出典）神栖市ホームページ「洪水ハザードマップ」より

図 16　神栖市洪水ハザードマップ①利根川浸水想定



出典）神栖市ホームページ「洪水ハザードマップ」より

図 17　神栖市洪水ハザードマップ②霞ヶ浦浸水想定

表 2　避難場所数

避難場所数	津波時避難場所数	津波避難ビル（津波発生時のみ一時的な避難場所）
72 箇所	41 箇所	27 箇所

出典）神栖市「神栖市地域防災計画（平成 26 年度改定）」より作成

(9) 歴史的・文化的資源

神栖市には、国指定重要文化財である「山本家住宅」や、千数百年の歴史を持つといわれる「息栖神社」があり、県の指定文化財が 4 件（天然記念物 2、有形 2)、市の指定文化財が 24 件（天然記念物 2、有形 17、無形 5）存在している。

表 3　国、県及び市の指定・国登録文化財の区別件数

指定区分	種類	名称	所在地	管理者
国	建造物	山本家住宅	奥野谷	個人
県	彫刻	木造　釈迦涅槃像	波崎	神善寺
県	彫刻	木造　大日如来座像	波崎	神善寺
県	天然記念物	波崎の大タブ	波崎	神善寺
県	天然記念物	ウチワサボテン群生地	太田	教育委員会
市	建造物	釈迦堂	波崎	神善寺
市	絵画	紙本　両界曼荼羅	波崎	神善寺
市	絵画	絹本　釈迦涅槃画	矢田部	正福寺
市	絵画	紙本　両界曼荼羅	矢田部	正福寺
市	彫刻	木造　地蔵菩薩立像	波崎	神善寺
市	彫刻	一石宝篋印塔	波崎	神善寺
市	彫刻	木造　薬師三尊像	矢田部	正福寺
市	彫刻	木造　大日如来座像	矢田部	正福寺
市	彫刻	木造　阿弥陀如来座像	矢田部	正福寺
市	彫刻	木造　大日如来座像	矢田部	正福寺
市	彫刻	木造　阿弥陀如来座像	波崎	廣憧院
市	彫刻	木造　毘沙門天立像	波崎	廣憧院
市	彫刻	木造　兜跋毘沙門天像	波崎	廣憧院
市	典籍	木版刷　大般若波羅密多経	波崎	神善寺
市	典籍	木版刷　大般若波羅密多経	矢田部	正福寺
市	書跡	写経石	下幡木	弥勒院
市	史跡	浄妙塚	筒井	筒井区
市	無形民俗文化財	獅子舞（ささら舞）	田畑地区	獅子舞保存会
市	無形民俗文化財	孫渡し	下幡木地区	下幡木区
市	無形民俗文化財	手子后神社　大潮祭鳴り物	波崎	波崎鳴物保存会
市	無形民俗文化財	大鳥神社　酉祭	矢田部	東海区、西前宿区、上中区
市	無形民俗文化財	益田神社　獅子舞	波崎	舎利鳴物保存会
市	天然記念物	ハマナス自生地	波崎豊ヶ浜	教育委員会
市	天然記念物	イヌマキ	波崎	廣憧院

出典）神栖市ホームページ

出典）環境省「自然環境調査 Web-GIS」より

図 18　指定文化財一覧

(10) 観光資源

神栖市は、太平洋と接し、海水浴場、海浜公園等が多く存在しており、市内外より観光客が訪れている。

また、神栖市の歴史・民俗等に関する資料を収集・保管し、展示している「歴史民俗資料館」や国の指定重要文化財である「山本家住宅」等の歴史・文化施設も存在している。

表 4　観光スポット

神栖西部地区	外浪逆浦（なさか夕日の郷公園）	神栖中部地区	港公園（港公園展望台）
	歴史民俗資料館		神栖中央公園
	息栖神社		神之池緑地
	リバーサイドサイクリングロード		山本家住宅（国指定重要文化財）
	常陸川大橋（利根川河口堰）		
	鹿島臨海工業地帯		
神栖東部・若松・矢田部地区	1000 人画廊	波崎地区	波崎かもめ公園・波崎漁港
	海浜温水プール		波崎海水浴場
	神栖海浜運動公園		サンサンパーク休憩施設
	温浴施設 ふれあいセンター「湯楽々(ゆらら)」		童子女（おとめ）の松原公園
	日川浜オートキャンプ場		シーサイドパーク
	日川浜海水浴場		波崎海岸砂丘植物公園
	市内の風力発電施設		かもめ大橋
	温浴施設 ゆ～ぽ～とはさき（天然温泉）		波崎の大タブ（神善寺）
	ウチワサボテン群生地（茨城県指定天然記念物）		銚子大橋
	波崎ウィンドファーム		河畔プロムナード
	矢田部サッカー場		

出典）神栖市ホームページ「観光マップ・観光スポット」より

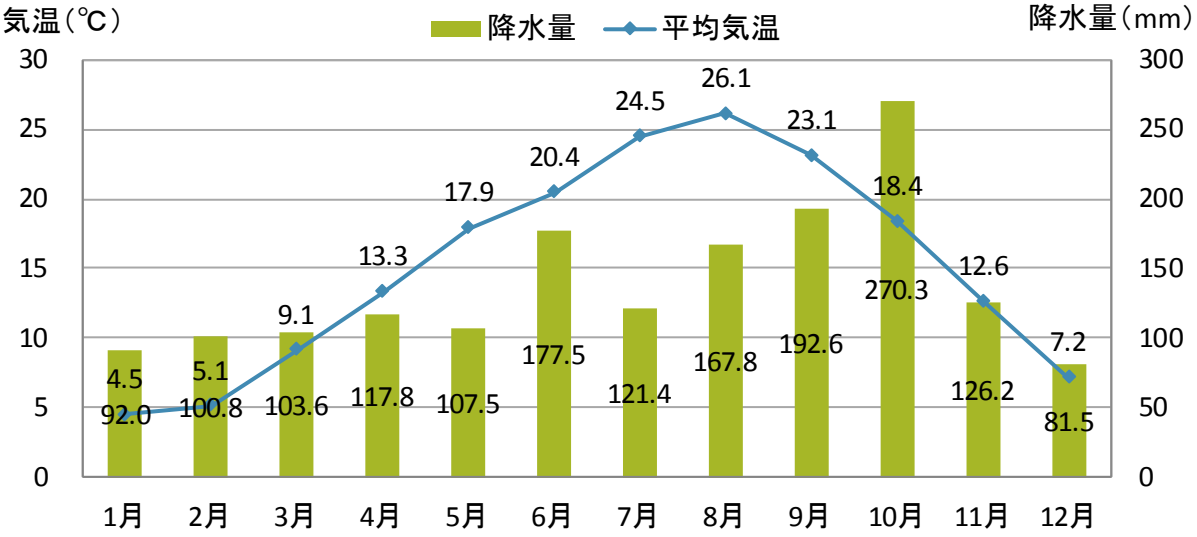
1.2　地球環境

(1)　気象

市の気象は、黒潮の影響を受けた海洋性気候に属し、四季を通じて雨量が少なく、比較的温暖であり、寒暖の差も比較的小さいものとなっている。

年平均気温は、昭和後期の約 14℃から近年は約 16℃となり、長期的な推移としてはやや上昇傾向にあると考えられる。

真夏日・熱帯夜の日数は、年による変動があるものの、平成 21 年度以降は概ね増加傾向にある。

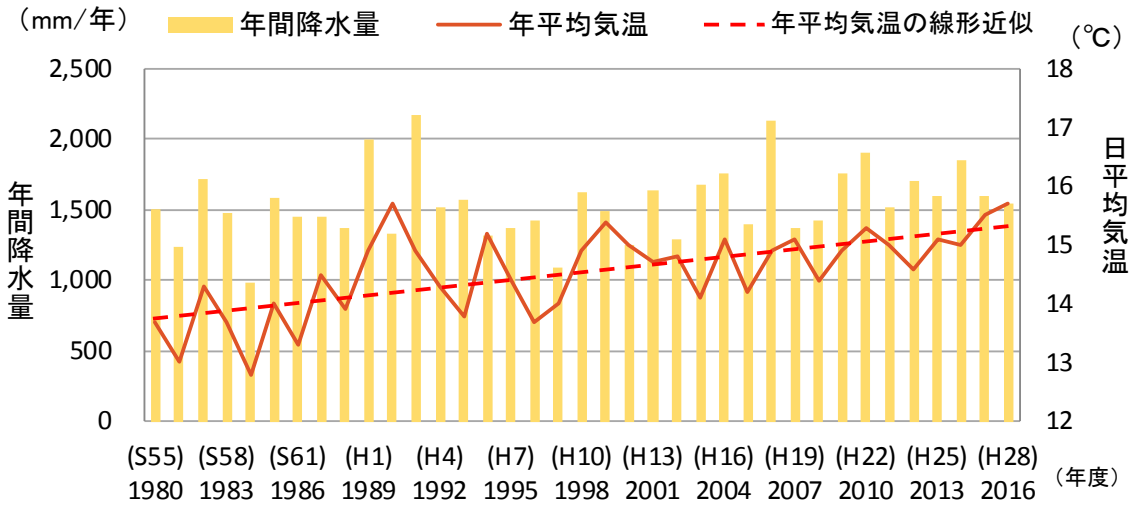


備考）1.　平成 24～28 年の平均値である。

2.　観測地点：鹿嶋　緯度：北緯 35 度 57.8 分/経度：東経 140 度 37.3 分

出典）気象庁「気象統計情報」より作成

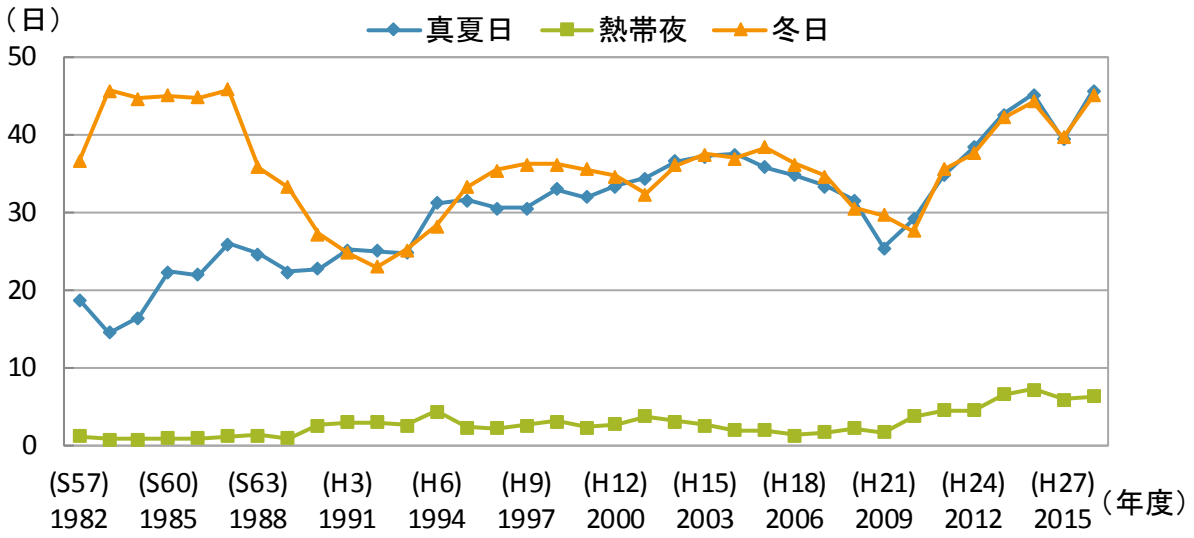
図 19　月別平均気温と降水量



備考）　観測地点：鹿嶋　緯度：北緯 35 度 57.8 分/経度：東経 140 度 37.3 分

出典）気象庁「気象統計情報」より作成

図 20　年平均気温と年間降水量の推移



備考）1. 5 年移動平均値である。

2. 観測地点：鹿嶋　緯度：北緯 35 度 57.8 分/経度：東経 140 度 37.3 分

出典）気象庁「気象統計情報」より作成

図 21　真夏日・熱帯夜・冬日の推移

(2) 温室効果ガス排出量

神栖市域における温室効果ガス排出量は、平成 27 年度は約 4,835 千トンであり、平成 2 年度と比較すると、40.2%を増加している。内訳は、産業部門の製造業が占める割合が最も多く全体の約 9 割を占めている。次いで多いのが民生部門の業務、家庭の順となっている。

エネルギー使用量は、平成 27 年度は 58,567,520GJ（ギガジュール）となり、平成 20 年度にリーマンショックの影響によりエネルギー使用量が製造業を中心に落ち込んだものの、近年は増加傾向で推移している。

表 5　神栖市域における温室効果ガス排出量の推計結果（部門別）

（単位：千 t-CO_2）

分野		H2	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
産業部門	農林水産業	2	2	2	3	4	4	4	4
	建設業・鉱業	43	22	20	27	29	28	28	22
	製造業	3,181	4,195	3,829	4,009	4,190	5,026	4,480	4,433
民生部門	家庭	57	98	118	133	166	153	149	149
	業務その他部門	127	156	154	185	199	192	183	173
運輸部門	自家用・事業用	40	55	60	56	56	57	53	55
計		3,450	4,528	4,183	4,413	4,643	5,460	4,896	4,835
H2 年度比		—	31.2%	21.3%	27.9%	34.6%	58.3%	41.9%	40.2%

備考）　数値を四捨五入している関係で、必ずしも合計値が一致しない場合がある。

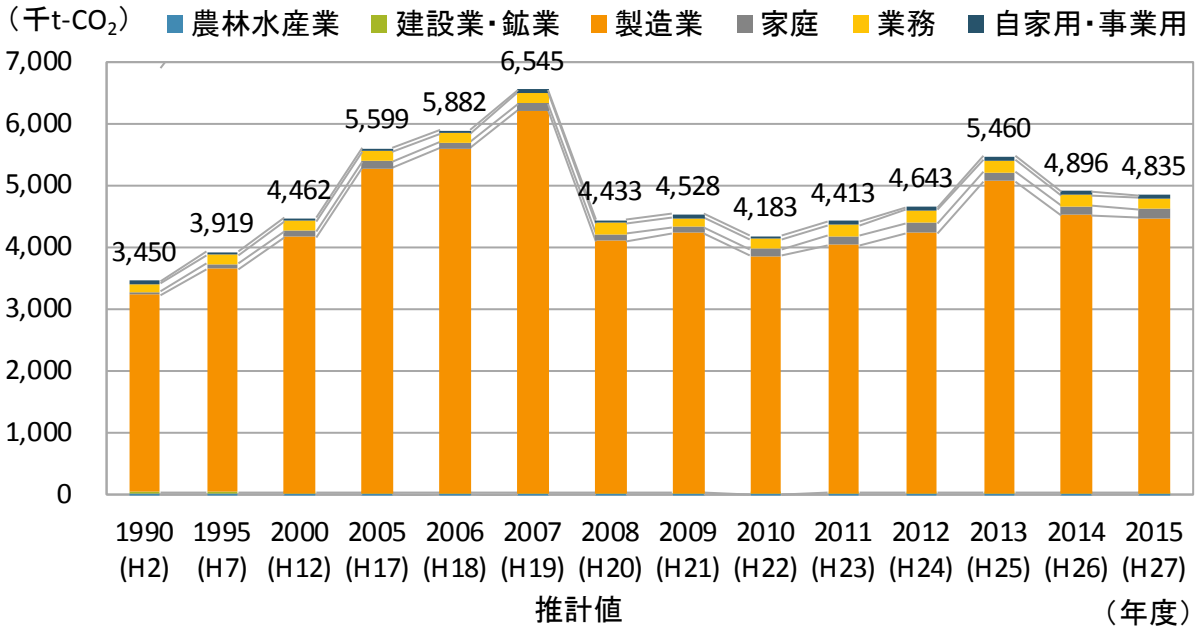


図 22　神栖市域からの温室効果ガス排出量の推計結果（部門別）

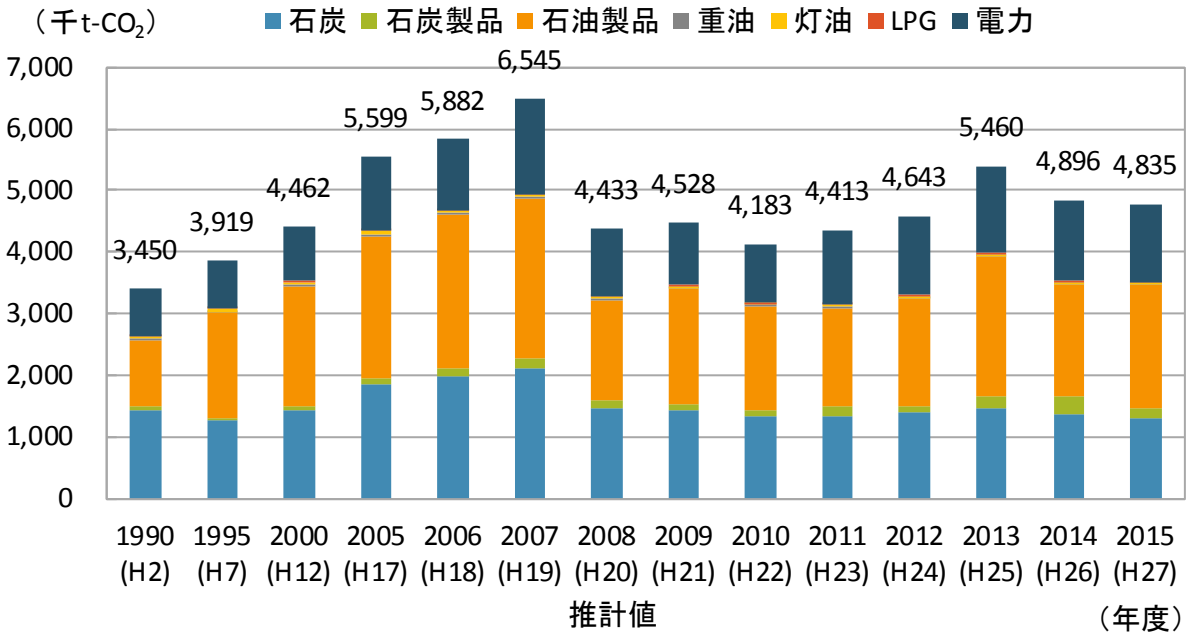


図 23　神栖市域からの温室効果ガス排出量の推計結果（燃料別）

表 6　神栖市域におけるエネルギー使用量の推計結果（部門別）

（単位：GJ）

分野		H2	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
産業部門	農林水産業	32,176	28,302	30,897	39,308	40,635	39,521	41,828	46,652
	建設業・鉱業	540,035	285,545	260,277	335,863	358,177	344,983	350,608	280,265
	製造業	38,780,494	53,970,541	49,241,613	48,709,377	50,449,892	61,118,274	53,872,928	54,753,772
民生部門	家庭	647,077	1,032,421	1,300,546	1,258,919	1,457,638	1,303,324	1,257,685	1,280,378
	業務その他部門	1,443,389	1,655,969	1,646,830	1,673,160	1,592,672	1,524,168	1,507,232	1,388,037
運輸部門	自家用・事業用	597,167	823,164	899,733	836,306	828,079	855,329	784,125	818,417
計		42,040,339	57,795,943	53,379,896	52,852,933	54,727,093	65,185,598	57,814,406	58,567,520

備考）　数値を四捨五入している関係で、必ずしも合計値が一致しない場合がある。

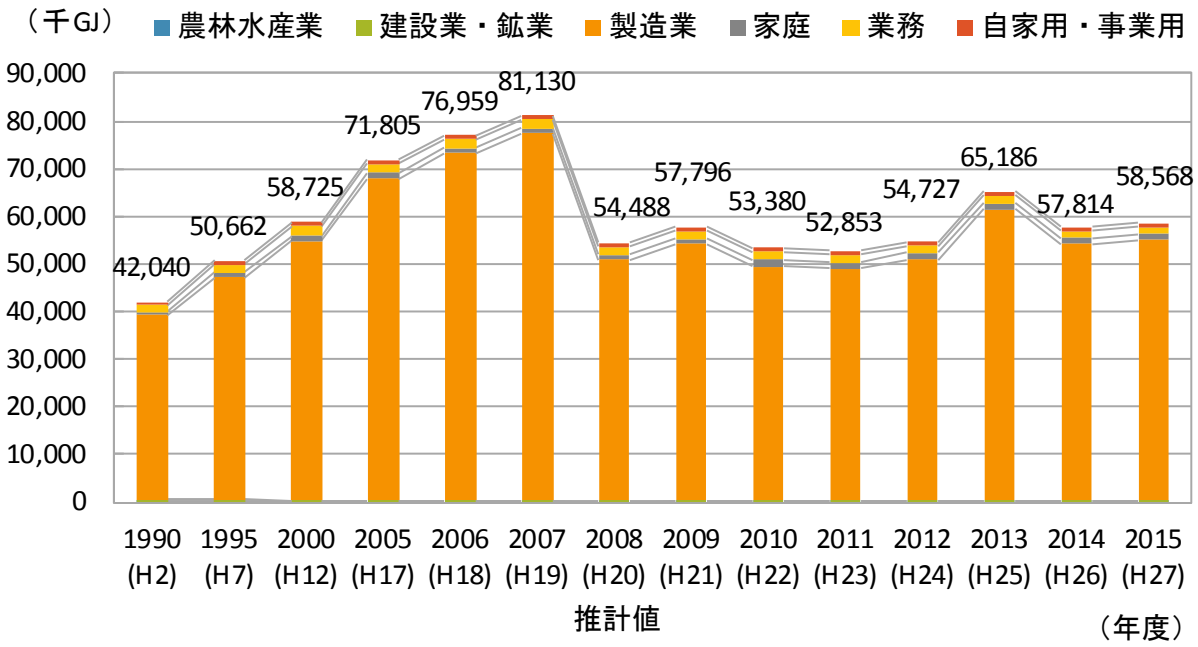
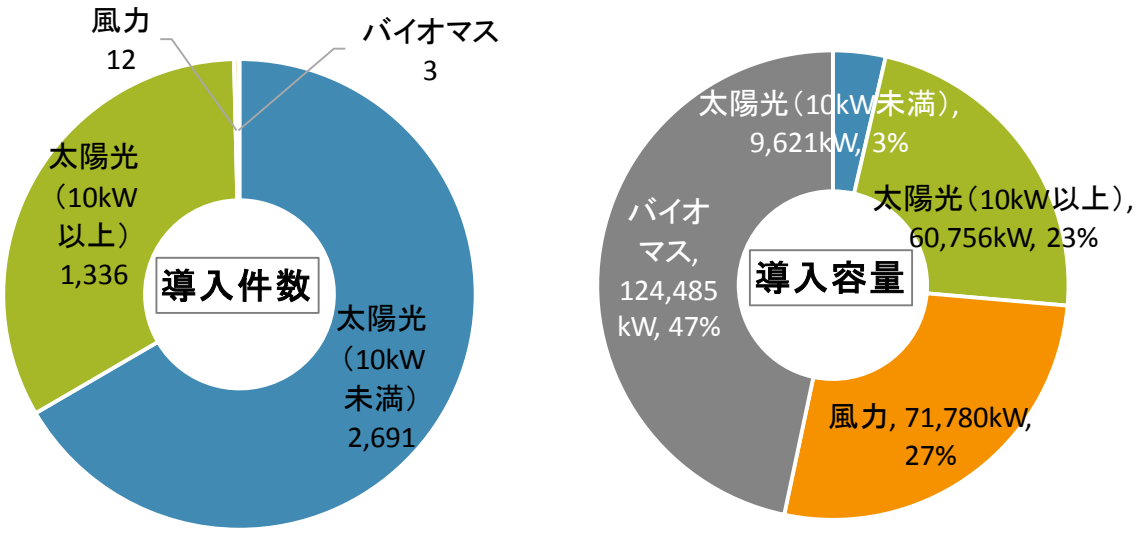


図 24　神栖市域におけるエネルギー使用量の推計結果（部門別）

(3) 再生可能エネルギー導入規模

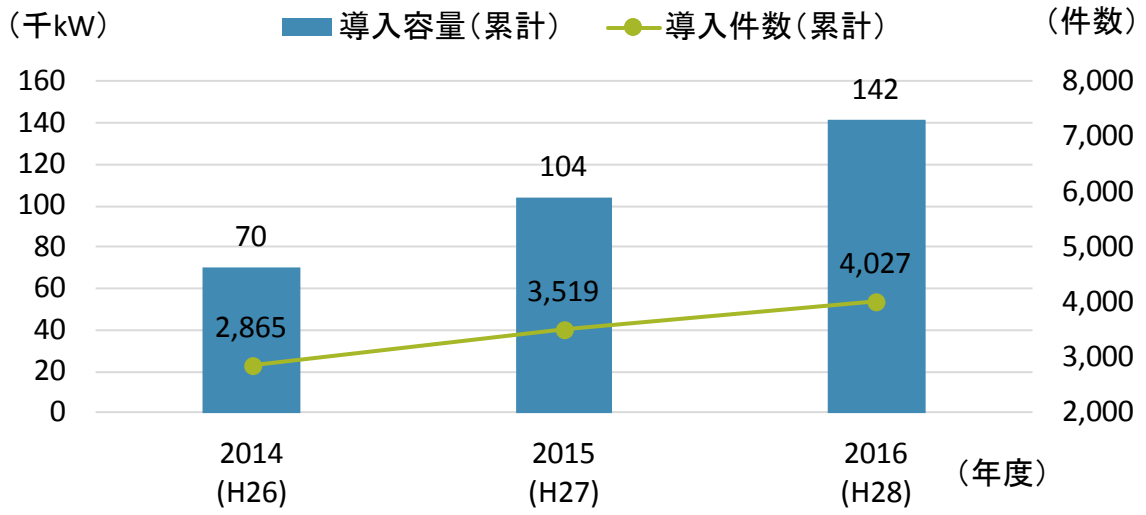
神栖市域において既に導入された再生可能エネルギーには、太陽光発電、風力発電及びバイオマス発電がある。全体の導入件数及び導入容量は、固定価格買取制度開始後、順調に増加しており、導入容量は平成 27 年 3 月の 2,865kW から平成 29 年 3 月には 4,027 kW と約 1.4 倍になっている。



備考）1. 平成 29 年 3 月末時点の値。
2. バイオマスの導入容量は、バイオマス比率考慮あり。

出典）資源エネルギー庁「固定価格買取制度情報公表用ウェブサイト」より作成

図 25 再生可能エネルギー導入件数及び容量の内訳



出典）資源エネルギー庁「固定価格買取制度情報公表用ウェブサイト」より作成

図 26 再生可能エネルギー導入件数及び容量の推移

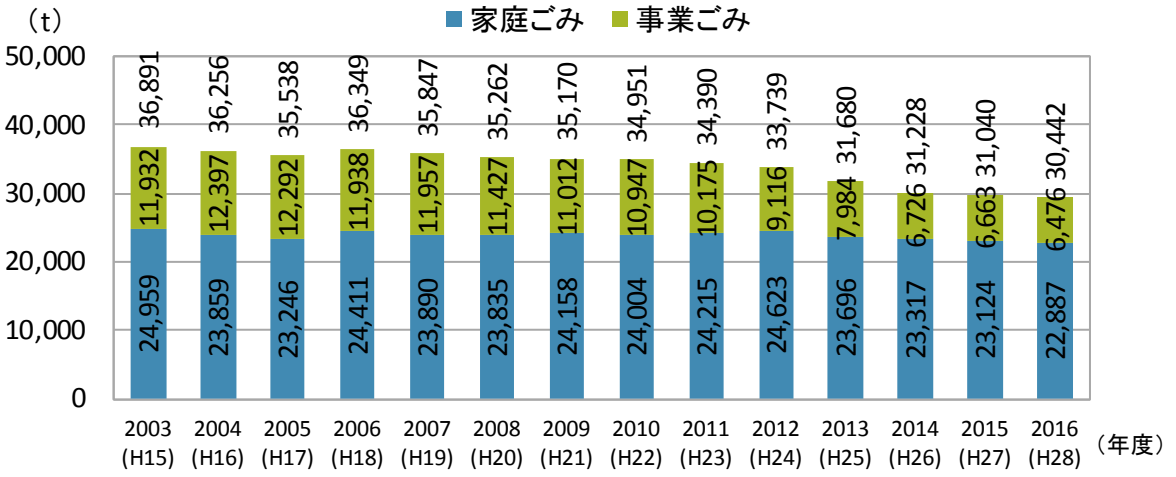
1.3　循環型環境

(1)　ごみの排出量

神栖市のごみ排出量は、これまでのごみの減量に関する取組の推進によって、総ごみ排出量は減少傾向にあり、一人あたりごみ排出量も減少傾向である。

なお、家庭ごみ排出量は近年概ね横ばいの状態がつづいているものの、事業ごみ排出量は順調に減少している。

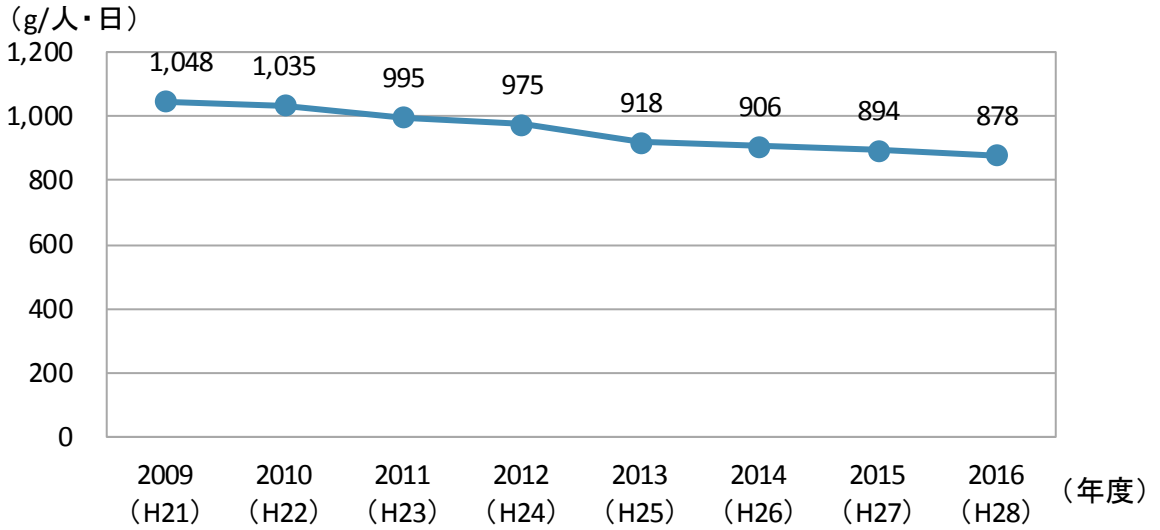
資源化率は、資源化の促進によって、近年は増加傾向にある。



備考）　平成 26 年度以降のごみの総排出量の数値は、市で支援している「資源物集団回収制度」において搬送されたごみの量を含んだ数値。

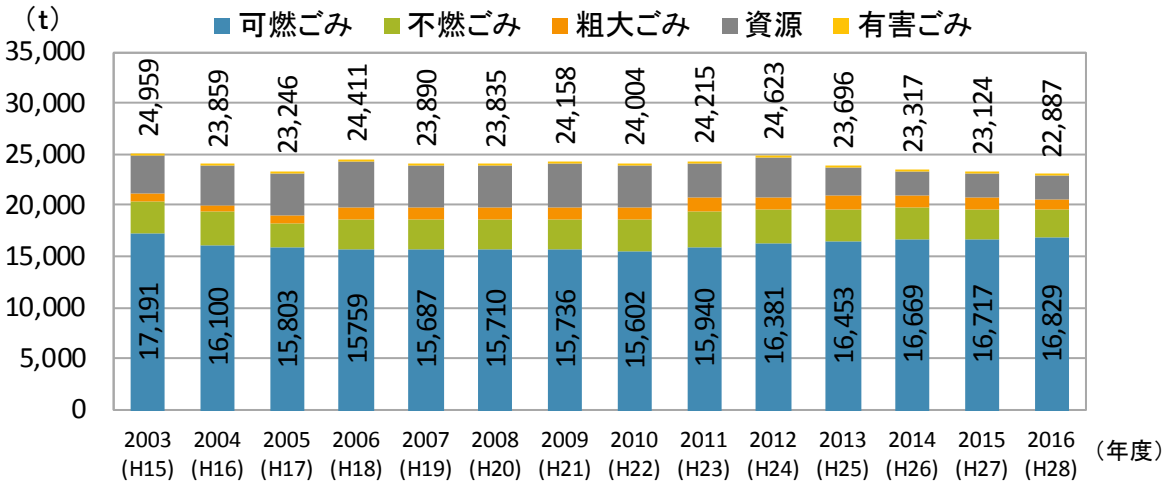
出典）神栖市環境課資料より作成

図 27　ごみ排出量の推移



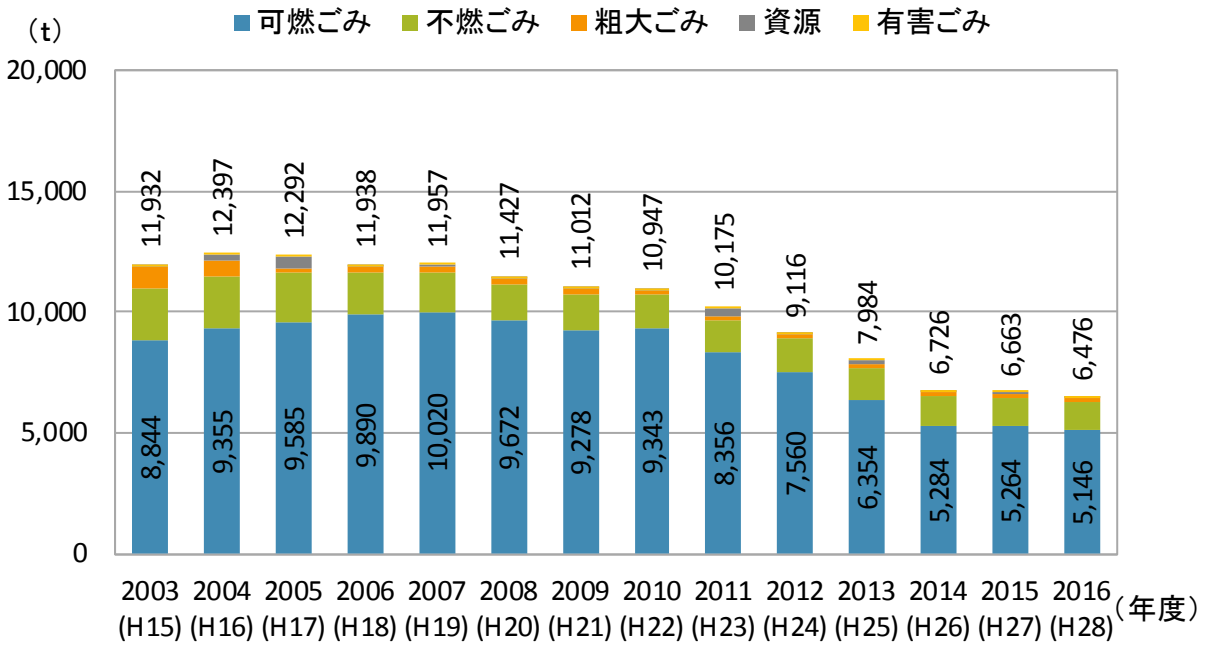
出典）神栖市環境課資料より作成

図 28　一人あたりごみ排出量



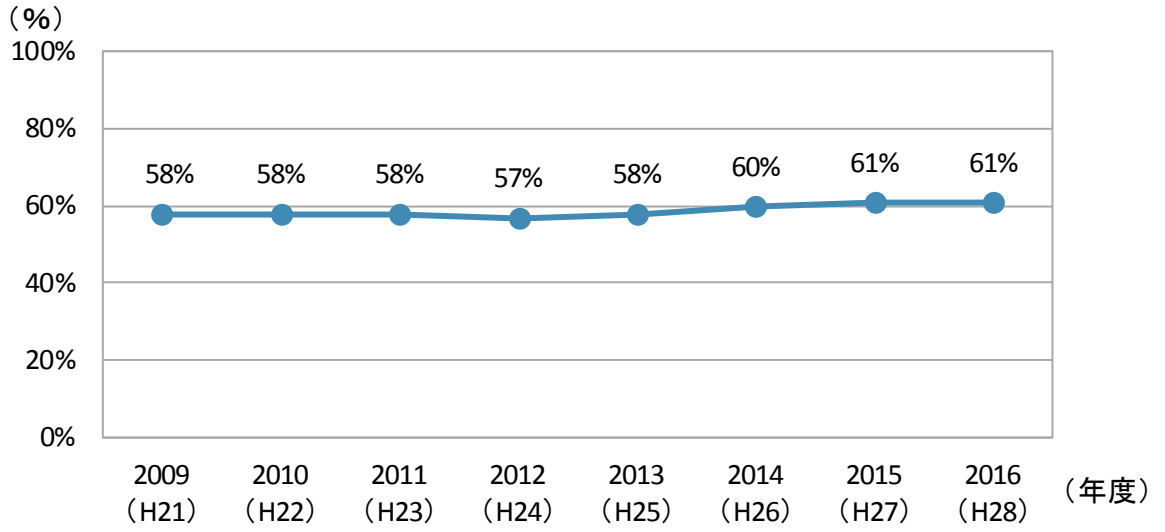
出典）神栖市環境課資料より作成

図 29　家庭ごみ排出量の推移



出典）神栖市環境課資料より作成

図 30　事業ごみ排出量の推移



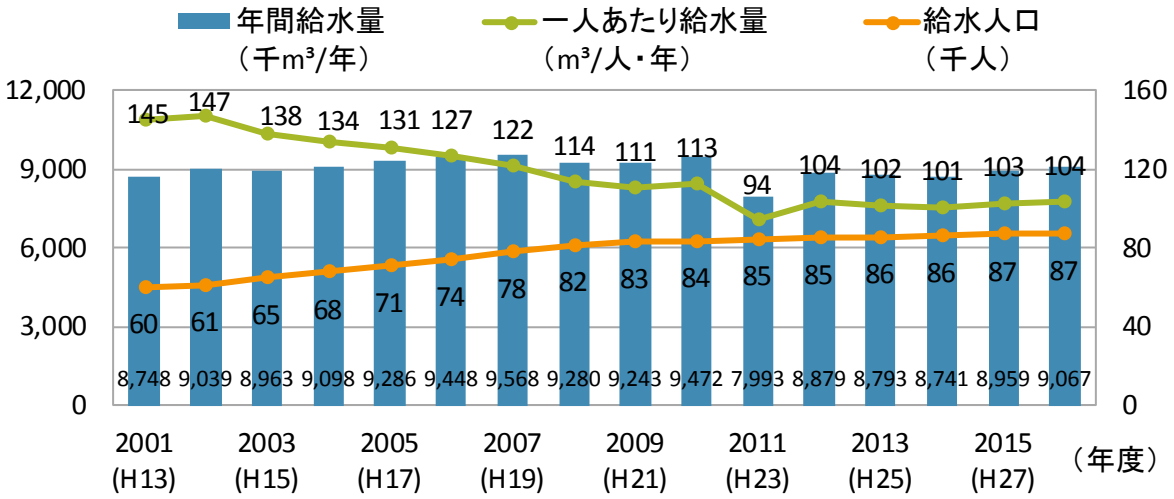
出典）神栖市環境課資料より作成

図 31　資源化率の推移

(2) 資源量

上水道の年間給水量は、平成 19 年度の 9,568 千 m^3 をピークにほぼ毎年減少していたが、平成 27 年度に 8,959 千 m^3 と増加に転じ、その後は微増傾向で推移している。

一人あたりの給水量は、経年的にみると年々減少していたが、近年はほぼ横ばいで推移している。



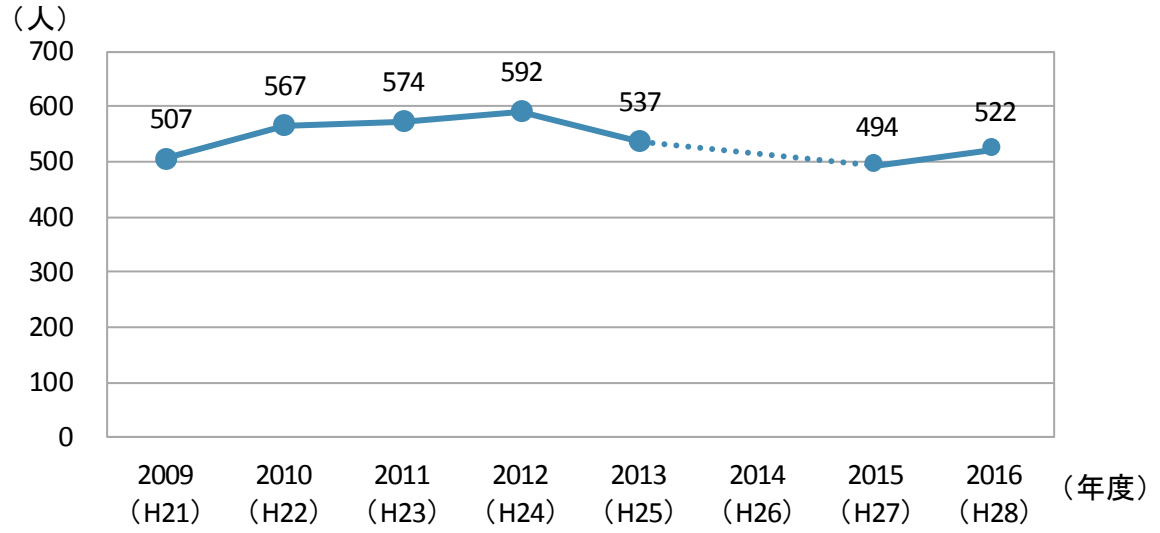
備考）　数値を四捨五入している関係で、必ずしも合計値が一致しない場合がある。

出典）神栖市環境課資料より作成

図 32　年間給水量及び一人あたり給水量の推移

(3) エコファーマー登録者数

「持続性の高い農業生産方式の導入に関する法律」に基づき認定されたエコファーマーは平成 24 年度に最も多かった。近年では減少傾向に転じ、平成 28 年度は 522 人となっている。



出典）茨城県ホームページ「エコファーマー」より作成

備考）　H26 は県未公表のため、実績なし。

図 33　エコファーマー登録者数

1.4　自然環境

(1)　動物・植物

神栖市では、ハクチョウ類、ガン類は確認されず、カモ類の生息が確認されている。

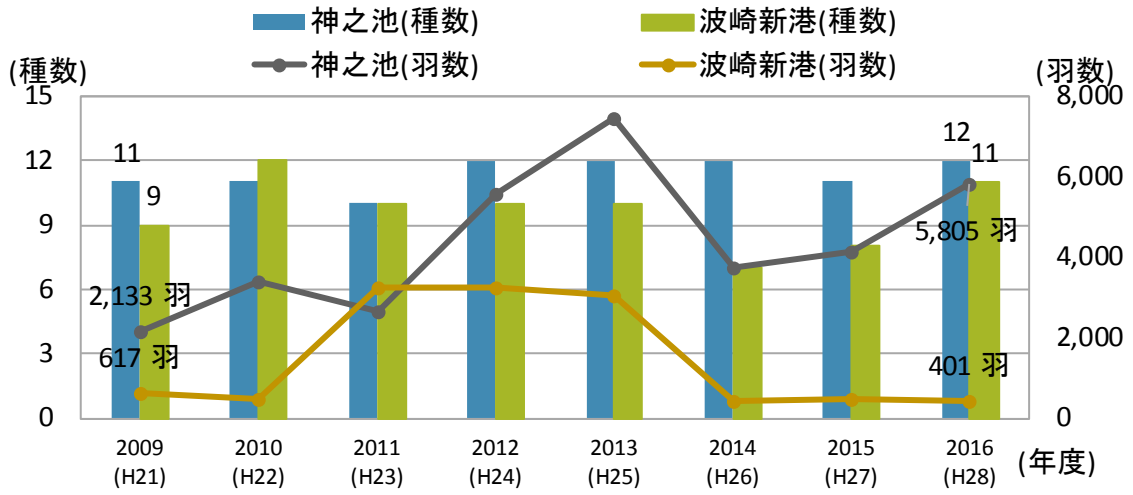
また、近年では、アライグマ、コジュケイ等の外来種の生息も調査により確認されている。波崎海岸砂丘植物公園や、息栖神社では、希少な菌類群も発見されている。

重要な植物群落の「ウチワサボテンの群落」、「常緑広葉樹林」が第 5 回自然環境保全基礎調査（環境省）により特定植物群落として選定されている。

表 7　ハクチョウ類・ガン類・カモ類生息調査結果

区分	神之池						波崎新港					
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H23	H24	H25	H26	H27	H28
ハクチョウ類	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種
	0 羽	0 羽	0 羽	0 羽	0 羽	0 羽	0 羽	0 羽	0 羽	0 羽	0 羽	0 羽
ガン類	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種	0 種
	0 羽	0 羽	0 羽	0 羽	0 羽	0 羽	0 羽	0 羽	0 羽	0 羽	0 羽	0 羽
カモ類	10 種	12 種	12 種	12 種	11 種	12 種	10 種	10 種	10 種	7 種	8 種	11 種
	2,668 種	5,574 種	7,452 種	3,758 種	4,121 種	5,805 種	3,223 種	3,223 種	3,025 種	412 種	473 種	401 種

出典）環境省「ガンカモ類の生息調査」より作成



備考）　ガンカモ類の生息調査方法は、全国的に定めた調査日に、各都道府県において各調査地点に調査員を配置し、双眼鏡等を使用した目視により、ガンカモ類の個体数を種ごとにカウント。

出典）環境省「ガンカモ類の生息調査」より作成

図 34　カモ類生息調査結果

表 8 市内で確認された地上哺乳類動物及び鳥類

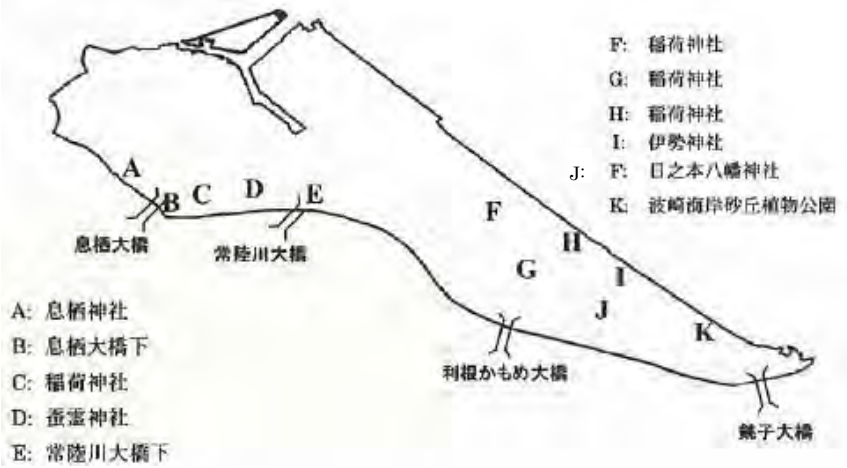
分類	種類	調査地点
食肉目（ネコ目）	タヌキ	B,C,D,E,F
	イタチ	B,F
	ハクビシン	A,E,F,J,H
	アライグマ	E,J
	ネコ	A,B,C,D,E,F,I,J
	イヌ	B,D,E,,H,F
齧歯目（ネズミ目）	アカネズミ	A,B,C,D,E,F,G,J,K
	ドブネズミ	K
重歯目（ウサギ目）	ニホンノウサギ	E
キジ目	コジュケイ	B,C,D,E,F,G,H,I,J,K
	キジ	F,H,K

タヌキ（つがい）　イタチ　ハクビシン（幼獣）　アライグマ

ニホンノウサギ　コジュケイ（親子）

備考）1. 平成 28 年 5 月から 11 月に実施。

2. 調査地点は、以下の通り：



出典）神栖市「平成 28 年度神栖市自然環境調査事業委託研究報告書」より

図 35　波崎海岸砂丘植物公園に分布する海浜生きのこ類

（左：スナヤマチャワンタケ、右：ハチスタケ）

備考）　スナヤマチャワンタケやハチスタケといった海浜性のきのこ類は、Gastrosporium 属菌の一種である。Gastrosporium 属菌はユーラシア大陸のみに分布し、これまで日本では知られていない分類群であり、形態観察及び DNA 情報の解析を行った結果、波崎海岸砂丘植物公園で採集された標本は新種の可能性がある。

出典）神栖市「平成 27 年度神栖市自然環境調査事業委託研究報告書」より

図 36　息栖神社境内で採集されたきのこ類

（左：アカハニセクロハツ、右：ヒメアジロガサモドキ）

備考）　アカハニセクロハツは、正式な学名は発表されていない未記載種で、本州の中部地方以西の地域では常緑広葉樹林内に広く見られるベニタケ属菌であるが、関東地方からの報告はこれまでに知られていなかった。本菌は死亡例もある猛毒きのこであるニセクロハツに類似することから、誤食の予防が必要である。

出典）神栖市「平成 28 年度神栖市自然環境調査事業委託研究報告書」より

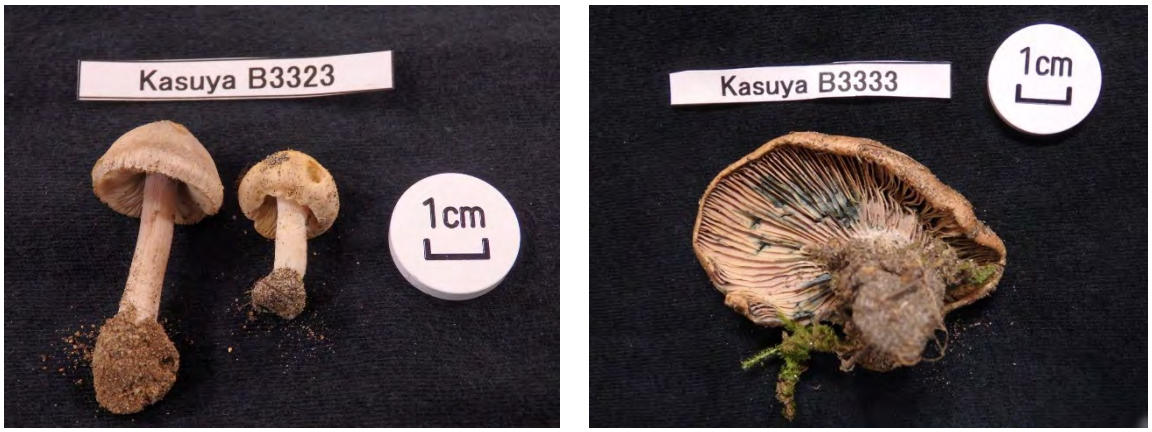


図 37　童子女の松原公園に分布する菌根性きのこ類

（左：モモエノトマヤタケ，右：ハツタケ）

備考）　モモエノトマヤタケは北海道から近畿地方に至る広い地域で採集されているが，茨城県からの記録はこれまでに知られていなかった。また，ハツタケは茨城県鹿行地域から千葉県九十九里地域にかけては「あおはつ」などの地方名で呼ばれる食用きのこであり，海岸のマツ林に好んで発生する。神栖市内でも古くから食用にされ，市民に親しまれているきのこである。

出典）神栖市「平成 28 年度神栖市自然環境調査事業委託研究報告書」より

表 9　神栖市に存在する重要な植物群落

名称	選定基準	相観区分	面積（ha）
ウチワサボテンの群落	③④	暖温帯常緑広葉低木林	0.2
常緑広葉樹林	①②	暖温帯常緑広葉高木林	3

備考）選定基準：

① 比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群。

② 郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの（武蔵野の雑木林、阿蘇の山地草原、各地の社寺林。特に郷土景観を代表する二次林や二次草原についてはもれの無いよう注意すること）

③ 過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの。

④ その他、学術上重要な植物群落または個体群(種の多様性の高い群落、貴重種の生息地となっている群落等)

出典）環境省「第 5 回自然環境保全基礎調査　特定植物群落調査報告書（平成 12 年)」より作成

出典）環境省「自然環境調査 Web-GIS」より

図 38　神栖市に存在する重要な植物群落の分布

(2) 河川

神栖市は、東に鹿島灘、西に利根川・常陸利根川、中央に神之池と大変豊かな水の恵みを受けている。これらは、工業用水、農業用水として利用されるほか、水辺は、海水浴場、魚釣り場、サイクリングロードとして、多くの人々に親しまれている。

図 39　河川・水辺の分布状況

(3) 公園・緑地

神栖市の公園・緑地は、基幹公園が 86 箇所、特殊公園 1 箇所、緩衝緑地 4 箇所、都市緑地 3 箇所の計 94 箇所がある。緑地の面積が最も広く、都市公園の 46%を占めている。

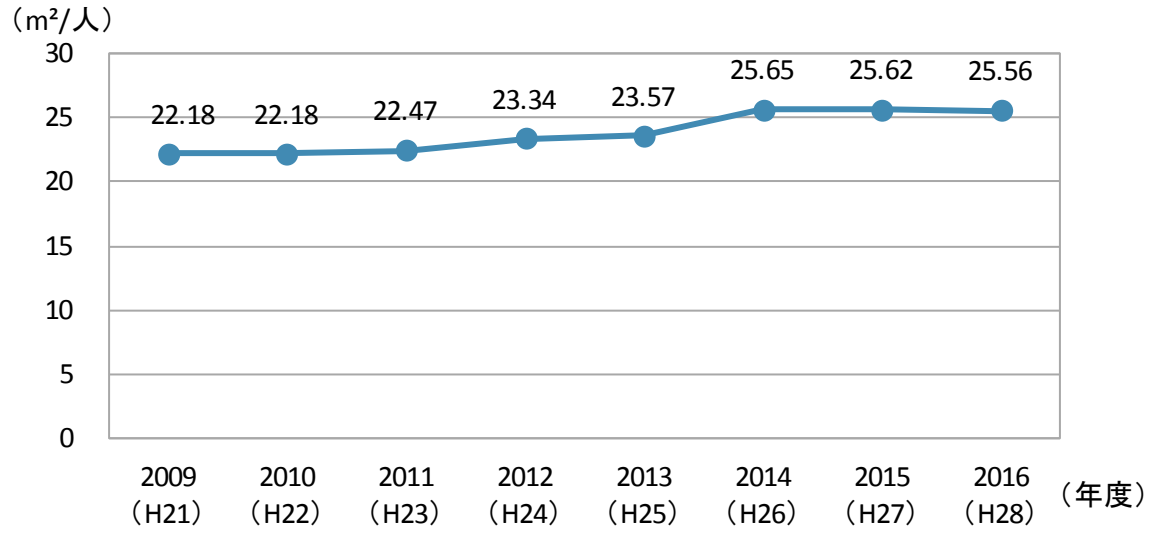
一人あたりの都市公園面積は増加傾向であり、平成 28 年度では 25.56m² となっている。

表 10　神栖市都市公園数及び面積

平成 29 年 3 月末現在

種類		種別	公園数	公園数の種別割合(%)	面積(ha)	面積の種別割合(%)	整備済公園数	整備済面積
基幹公園	住区基幹公園	街区公園	71	76%	16.49	6%	71	16.49
		近隣公園	10	11%	23.04	9%	10	23.04
		地区公園	2	2%	11.24	4%	2	11.24
	都市基幹公園	総合公園	2	2%	50.9	20%	2	46.75
		運動公園	1	1%	28.71	11%	1	23.72
特殊公園			1	1%	7.3	1%	1	4.23
緩衝緑地			4	4%	107.96	42%	4	107.96
都市緑地			3	3%	9.3	4%	3	9.3
都市公園合計			94	100%	254.94	100%	94	242.73
一人あたりの都市公園面積			25.56m²/人					

出典）神栖市施設管理課資料より作成



出典）神栖市施設管理課資料より作成

図 40　人口一人あたりの都市公園面積の推移

出典）神栖市ホームページ「市内の公園」（平成 29 年 3 月末現在）より作成

図 41　公園・緑地等の分布状況

表 11　神栖市公園一覧

平成 29 年 3 月末現在

神栖地域の西		
地区	公園名	場所
息栖	息栖運動広場	息栖 2632-3
	息栖仲谷原農村公園	息栖 4366
石神	もみのき児童公園	石神 699-1
大野原	まつば児童公園	大野原 3 丁目 324-1
	さつき児童公園	大野原 1 丁目 2479-34
	大野原児童公園	大野原中央 3 丁目 3843-1
	大野原南街区公園	大野原中央 5 丁目 1361-5
神栖	いずみ児童公園	神栖 3 丁目 1222-177
	すみれ児童公園	神栖 1 丁目 1203-20 外
賀	つつじ児童公園	賀 2123-12
	立野街区公園	賀 2108-131
木崎	きさき児童公園	木崎 748-1
	神栖中央公園	木崎 1203-9
下幡木	わかば児童公園	下幡木 1185
	なさか夕日の郷公園	下幡木 4571-1、-2
高浜	高浜児童公園	高浜 2494-14
田畑	田畑児童公園	田畑 303-1 外
	亀の甲児童公園	田畑 583-1 外
筒井	あかしあ児童公園	筒井 1374-2
	息栖原児童公園	筒井 1470
東深芝	和田山緑地	東深芝 39 外
	港公園	東深芝 10
平泉	さくら児童公園	平泉 2637-1
	平泉多目的広場	平泉 302-17 外
平泉東	平泉外十二入会街区公園	平泉東三丁目 25
	いずみ野街区公園	平泉東二丁目 10 番地
深芝	ふかしば児童公園	深芝 660-2 外
深芝南	五郎台南児童公園	深芝南 2 丁目 7
	五郎台東児童公園	深芝南 1 丁目 24
	五郎台中央公園	深芝南 3 丁目 14
	若松南街区公園	深芝 2898-3 外
	若松北街区公園	深芝 2921-3 外
堀割	あすなろ児童公園	堀割 2 丁目 55-87
鰐川	鰐川児童公園	鰐川 690-60
神栖地域の東		
地区	公園名	場所
一貫野	一貫野児童公園	知手 98-4
奥野谷	しらゆり児童公園	知手 3081-9
奥野谷浜	ルピナス児童公園	奥野谷 7797-2
	神栖総合公園	奥野谷 6170-16
知手	つばき児童公園	知手 2905
知手中央	あけぼの児童公園	知手中央 8 丁目 1181-71
	かえで児童公園	知手中央 3 丁目 4805-226
	うずも児童公園	知手中央 6 丁目 5024-151
	うずも坂児童公園	知手中央 5 丁目 3406-21 外
	ひかり街区公園	知手中央 1 丁目 4726-65
知手(浜)	ひまわり児童公園	知手 3578
	潮騒街区公園	知手 3428-1
	はまゆう児童公園	知手 4678-180
芝崎	芝崎児童公園	芝崎 1259
東和田	砂山都市緑地	東和田 21-2
日川	くるみ児童公園	日川 1138
日川(浜)	日川浜児童公園	日川 2034-44 外
萩原	萩原児童公園	萩原 760-1
溝口	つくし児童公園	溝口 5329-2
	神之池緑地	溝口 4991 外

南浜	海浜運動公園	南浜 1-3
柳堀	柳堀児童公園	知手 6239 外
横瀬・横瀬団地	あさひ児童公園	横瀬 2966-69
	よこせ児童公園	横瀬 862-1
波崎地区の西		
地区	**公園名**	**場所**
太田	宝山児童公園	太田 4570 番地
	西宝山児童公園	太田 3421 番地 1
太田新町	押揚児童公園	太田新町 2 丁目 2-10
	三番蔵児童公園	太田新町 4 丁目 2-3
	新町公園	太田新町 5 丁目 3-1
砂山	宝山公園	砂山 18 番地
	若松緑地	砂山 15 番地
柳川	柳川団地 1 号公園	柳川 2730 番地 5
	柳川団地 2 号公園	柳川 2730 番地 4
	柳川団地 3 号公園	柳川 2730 番地 3
	柳川団地 4 号公園	柳川 2730 番地 2
	北若松団地 1 号公園	柳川 4091 番地 7
	北若松団地 2 号公園	柳川 2609 番地 30
	北若松団地 3 号公園	柳川 2609 番地 20
若松	若松中央児童公園	若松中央 4 丁目 103
	ひばり第 1 児童公園	若松中央 2 丁目 47
	ひばり第 2 児童公園	若松中央 3 丁目 60
波崎地区の中央		
地区	**公園名**	**場所**
土合	土合 1 号公園	土合本町 4 丁目 9809-11
	土合 2 号公園	土合本町 2 丁目 9809-19
	土合 3 号公園	土合東 1 丁目 7-7
	土合 4 号公園	土合南 2 丁目 1-30
	土合 5 号公園	土合南 3 丁目 3-20
	土合 6 号公園	土合南 3 丁目 6-8
	土合緑地	土合北 2 丁目 10-10
矢田部	大沼公園	矢田部 8883 番地 4
	弁天公園	矢田部 600 番 1
波崎地区の東		
地区	**公園名**	**場所**
波崎	豊ヶ浜運動公園	波崎 9579 番地
	童子女の松原公園	波崎 9594 番地 1
	利根公園	波崎 8386 番地 1
	豊ヶ浜児童公園	波崎 9572 番地 1
	仲町公園	波崎 9520 番地 12
	漁村広場	波崎 9572－1
	砂丘植物公園	波崎 9594
	波崎かもめ公園	波崎新港 12
	波崎灯台跡公園	波崎 9524 番 24
別所	別所農村集落公園	別所 4853 番 1

出典）神栖市ホームページ「市内の公園」より作成

(4) 景観資源

急激な都市化の進展により、市内の自然は大きく変貌したが、市内には、日川浜や沖の州地区及び常陸利根川など、豊かな自然が残っており、良好な自然景観を形成している。

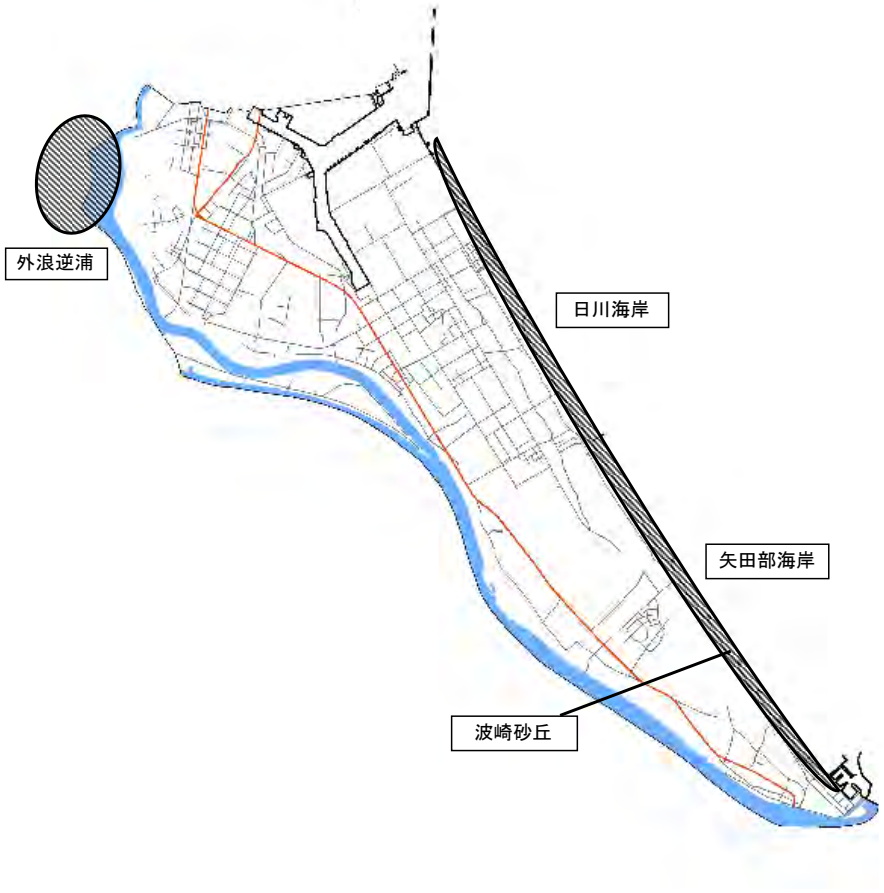
自然景観のひとつとして、古くから残る巨樹・巨木林をあげることができる。市内には、息栖神社（息栖）や蚕霊神社（日川）、隆野神社（萩原）、神善寺（波崎地域）に幹周 3m 以上の巨木林を見ることができる。息栖神社のスダジイで幹周が 5m もあり、樹齢も 300 年以上と推定されている。樹種としては、スダジイ、タブノキなどの神栖市の在来の種類によるものが多く、これらの社寺林がかつての森林の状態を良く保存していることが伺える。

自然景観を形成する重要な要素として、奥野谷浜や知手浜を含む海岸線や外浪逆浦、砂山公園、波崎海岸が選定されている。

備考） 「自然環境保全基礎調査」より一部抜粋

出典）環境省「自然環境保全基礎調査」より作成

図 42 巨樹・巨木林の分布状況



出典）環境省「自然環境保全基礎調査」等より作成

図 43　自然景観資源の分布

1.5　生活環境

(1)　大気汚染

神栖市における大気汚染物質の排出源の多くは、鹿島臨海工業地帯に分布している。

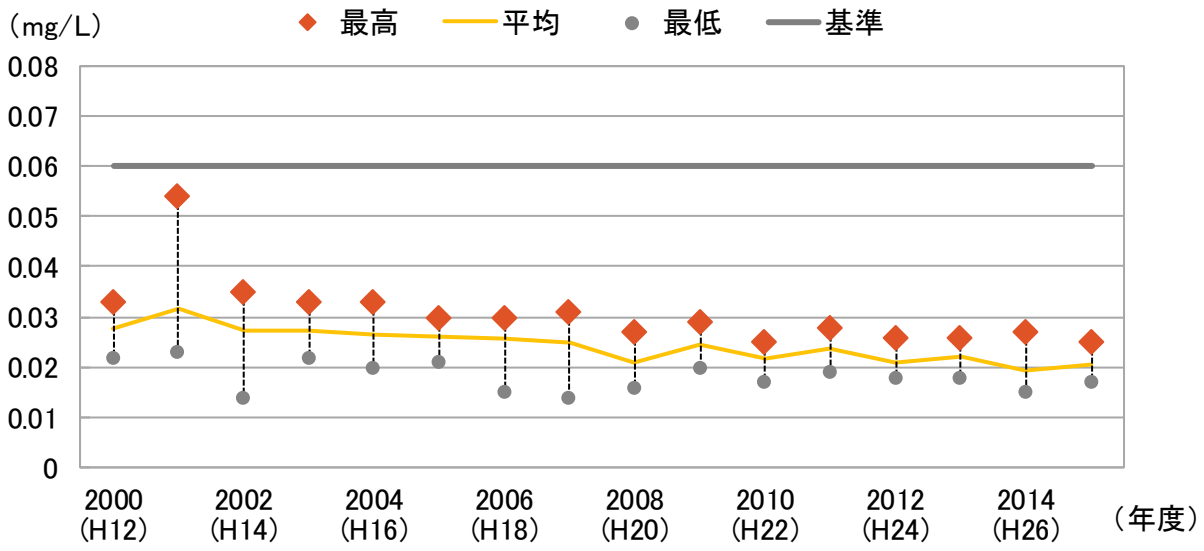
大気質の状態は常時測定しており、現在では、各事業所の対策の向上により、大気汚染物質である二酸化窒素や二酸化硫黄、一酸化炭素はすべての測定局で環境基準を達成している状態を維持している。

浮遊粒子状物質では、環境基準を超過する値が見られることがあるが、直近 10 か年は環境基準を達成している状態を維持している。

光化学オキシダントでは、継続的に環境基準を超過している。

出典）国立環境研究所「環境数値データベース」より作成

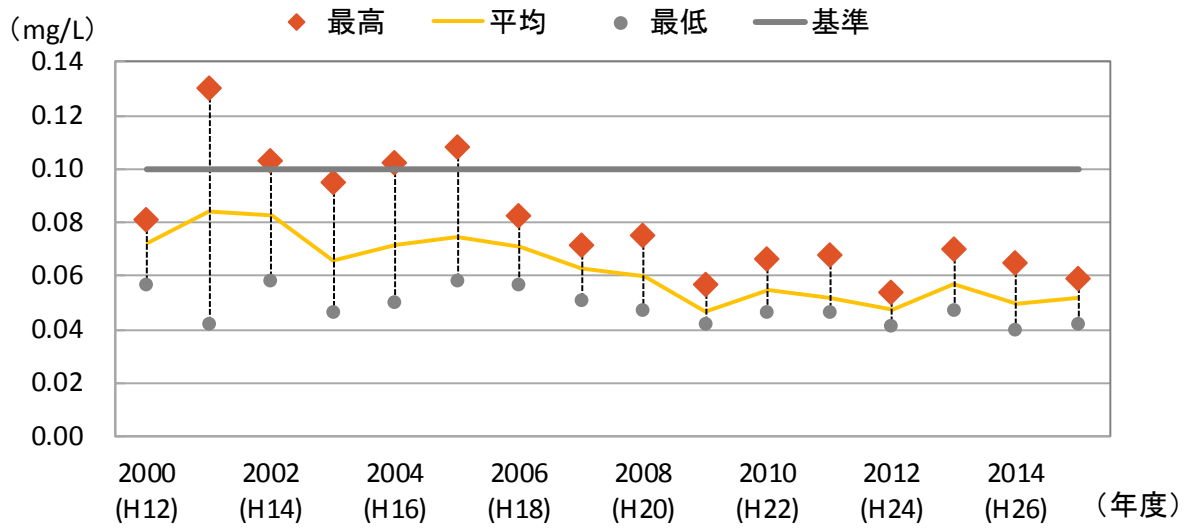
図 44　一般環境大気測定局の配置



備考）最高：各年度における調査を実施した測定局の中の最高値
平均：各年度における調査を実施した測定局の中の平均値
最低：各年度における調査を実施した測定局の中の最低値

出典）国立環境研究所「環境数値データベース」より作成

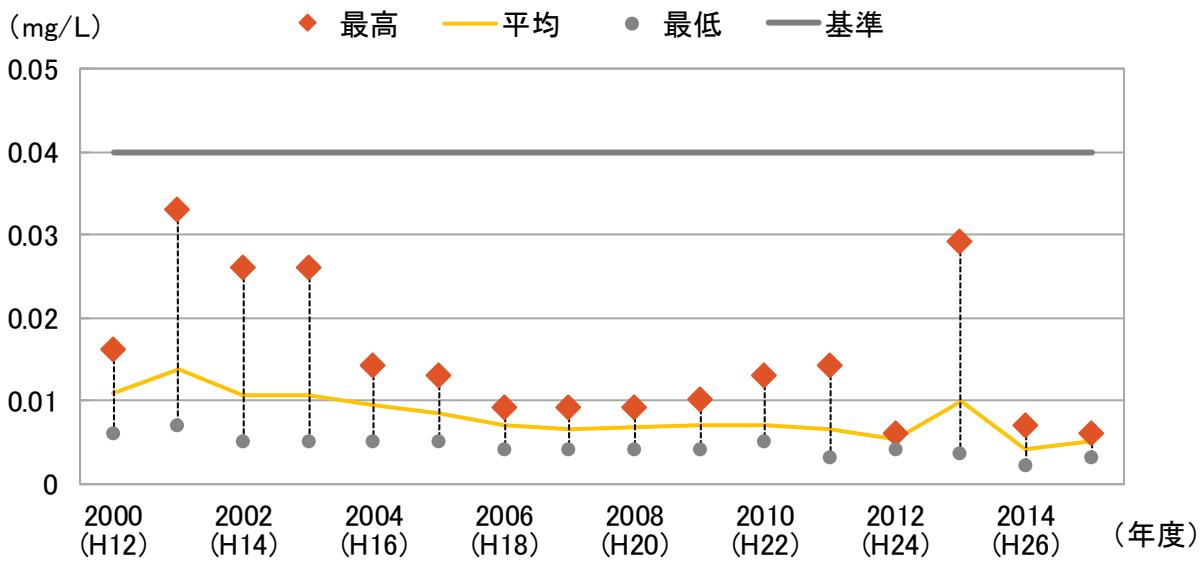
図 45　二酸化窒素濃度の推移（98%値）



備考）最高：各年度における調査を実施した測定局の中の最高値
平均：各年度における調査を実施した測定局の中の平均値
最低：各年度における調査を実施した測定局の中の最低値

出典）国立環境研究所「環境数値データベース」より作成

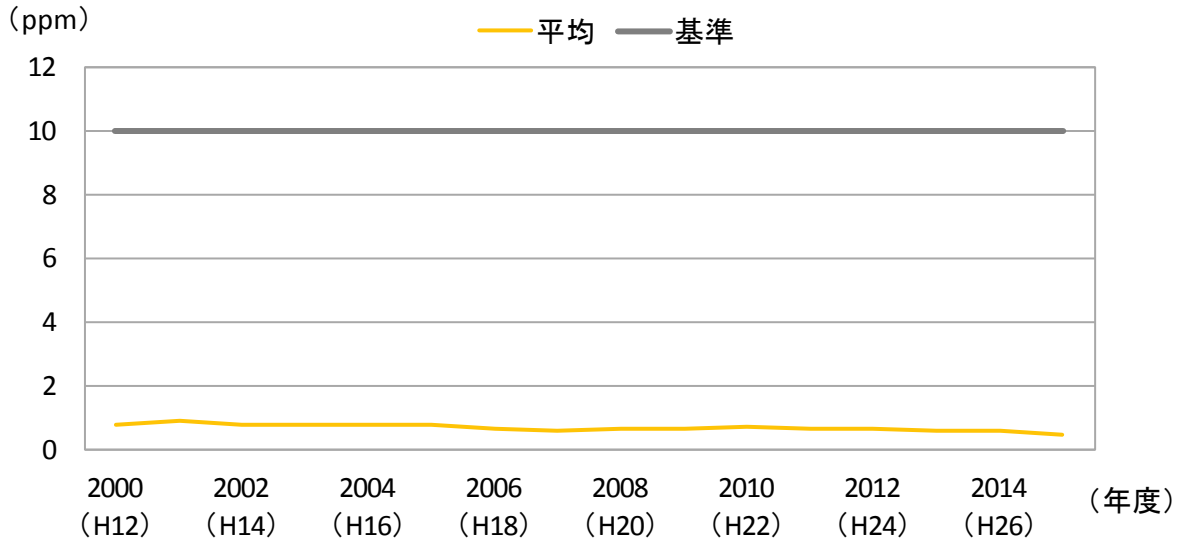
図 46　浮遊粒子状物質濃度の推移（2%除外値）



備考）最高：各年度における調査を実施した測定局の中の最高値
平均：各年度における調査を実施した測定局の平均値
最低：各年度における調査を実施した測定局の中の最低値

出典）国立環境研究所「環境数値データベース」より作成

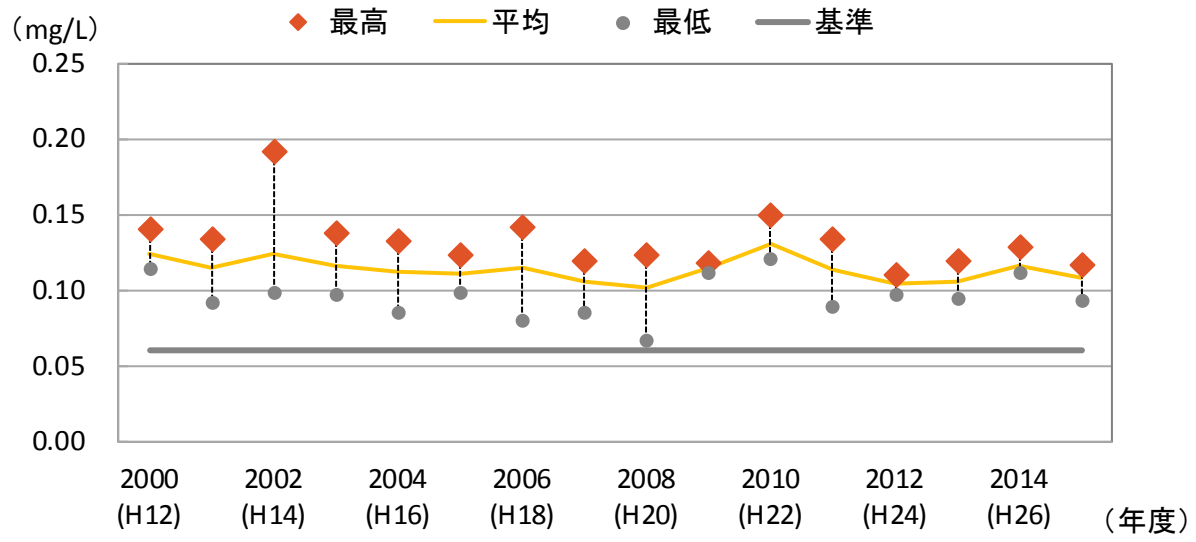
図 47　二酸化硫黄濃度の推移（2%除外値）



備考）平均：各年度における調査を実施した測定局の平均値

出典）国立環境研究所「環境数値データベース」より作成

図 48　一酸化炭素濃度の推移（2%除外値）



備考）最高：年度ごとに測定局の中の最高値
平均：年度ごとに各測定局の平均値
最低：年度ごとに測定局の中の最低値

出典）国立環境研究所「環境数値データベース」より作成

図 49　光化学オキシダント濃度の推移（昼間の 1 時間値の最高値）

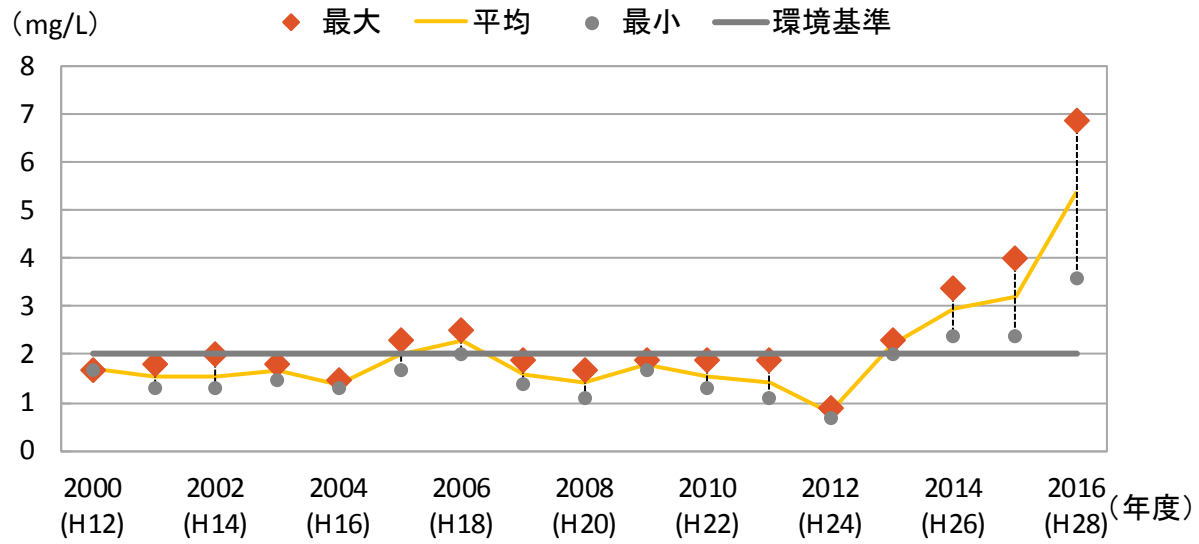
(2) 水質汚濁

海域や湖沼の汚濁指標として用いられる COD（化学的酸素要求量）は、鹿島灘海域において、平成 25 年度からは環境基準を上回っている。常陸利根川の COD は、息栖大橋と常陸川水門上において、目標値を超過することが多く、また神之池では、環境基準を超過する状態が続いている。

河川の汚濁指標として用いられる BOD（生物化学的酸素要求量）は、矢田部において大きく環境基準を超過した平成 16 年度以降は減少傾向が続いており、平成 20 年度以降は環境基準を下回ったが、平成 28 年度は環境基準をやや超過した。銚子大橋では増減を繰り返しており、平成 28 年度は環境基準を超過している。

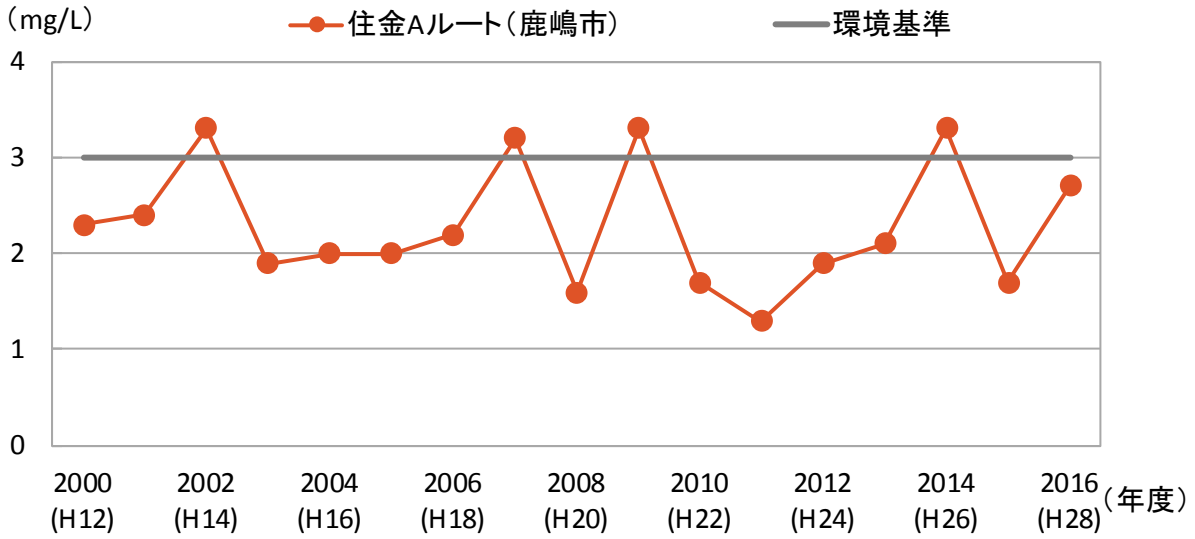
出典）神栖市「水質・底質・魚介類の総合調査業務委託　報告書」より作成

図 50　水質調査地点図



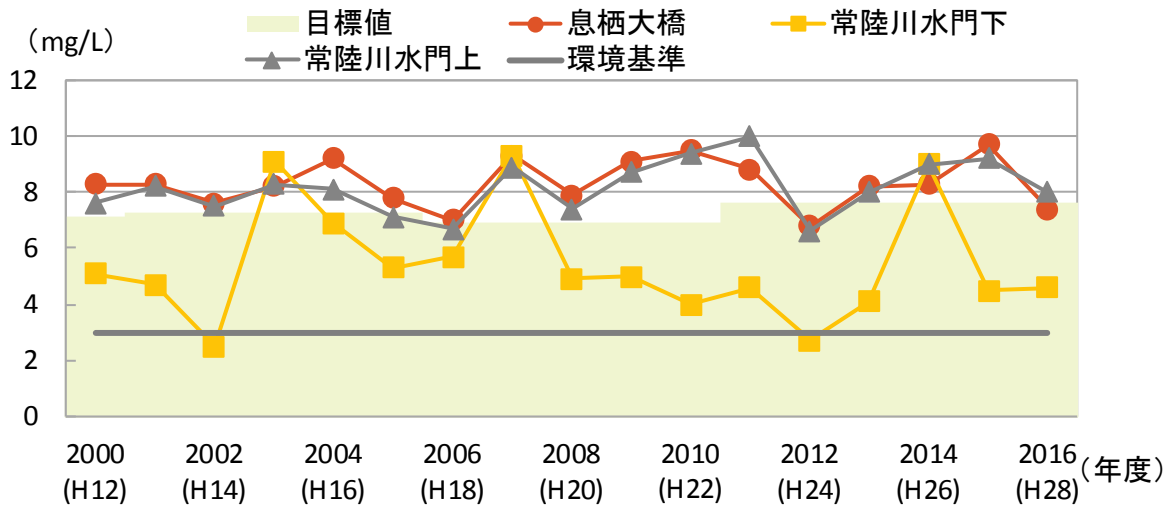
出典）神栖市「水質・底質・魚介類の総合調査業務委託　報告書」より作成

図 51　鹿島灘海域における COD の推移



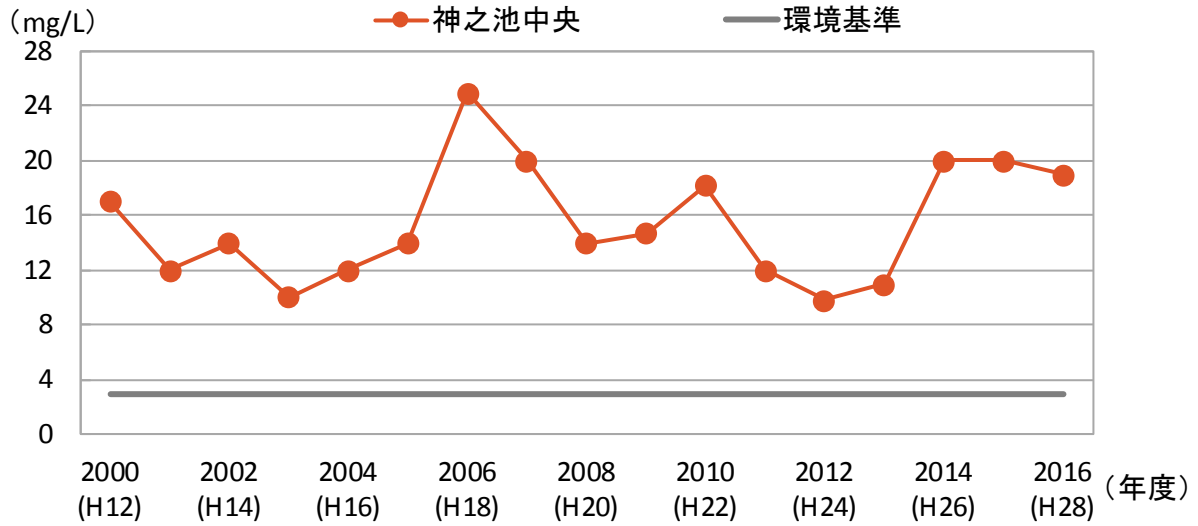
出典）神栖市「水質・底質・魚介類の総合調査業務委託　報告書」より作成

図 52　港湾北部における COD の推移



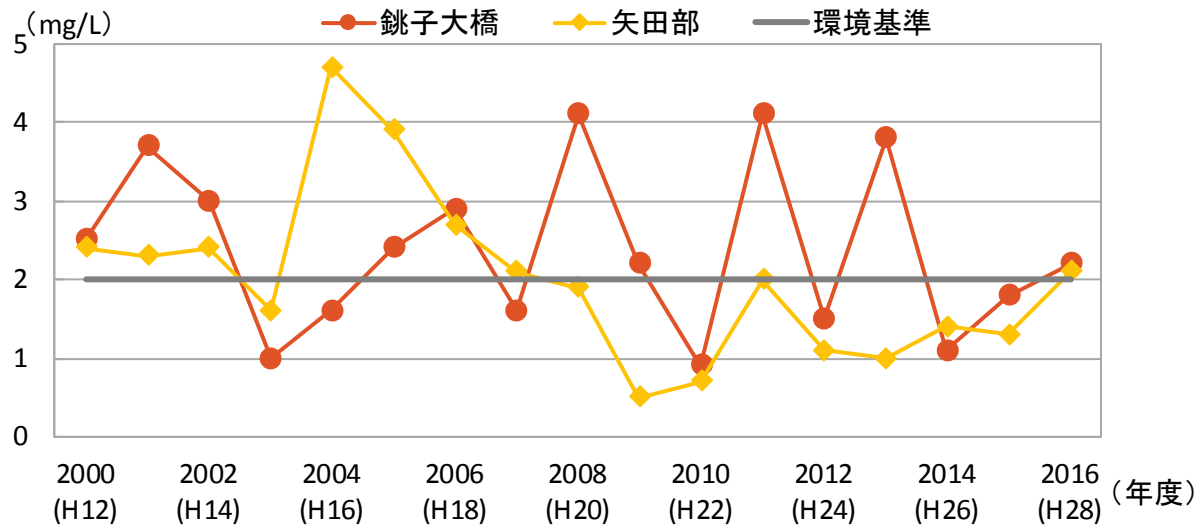
出典）神栖市「水質・底質・魚介類の総合調査業務委託　報告書」より作成

図 53　常陸利根川における COD の推移



出典）神栖市「水質・底質・魚介類の総合調査業務委託　報告書」より作成

図 54　神之池における COD の推移

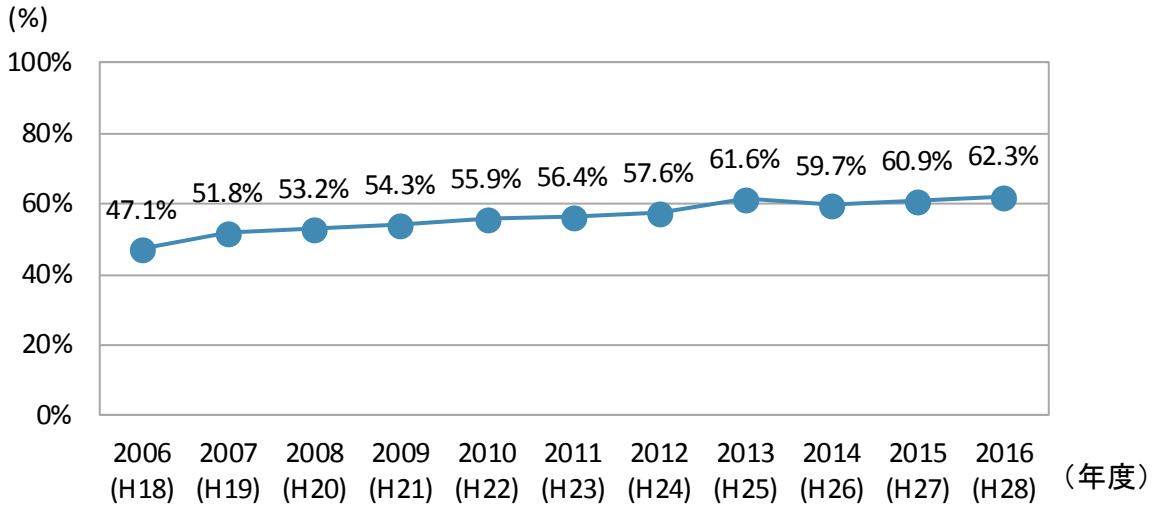


出典）神栖市「水質・底質・魚介類の総合調査業務委託　報告書」より作成

図 55　河川における BOD の推移

(3) 生活排水

生活排水処理率は、経年的に増加傾向にあり、平成 28 年度では 62.3%となっている。



出典）神栖市環境課資料より作成

図 56　生活排水処理率の推移

(4) 騒音・振動

平成 28 年度の道路交通騒音について、環境基準を達成している地点は、神栖市役所前、下幡木、平泉、奥野谷浜、常陸川大橋、矢田部及び銚子大橋となっている。一方、息栖大橋、知手、石神は継続的に環境基準を超過する状態が続いている。

道路交通振動について、すべての調査地点が環境基準を達成している。

表 12　交通騒音の調査結果

(単位：dB)

No.	調査地点	時間区分	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	環境基準
①	神栖市役所前	昼	73	72	72	72	71	71	69	70
		夜	69	68	69	69	67	68	65	65
②	息栖大橋	昼	74	75	74	75	75	75	74	70
		夜	73	72	72	72	73	73	73	65
③	下幡木	昼	68	69	69	71	69	70	70	70
		夜	63	65	65	66	64	65	65	65
④	平泉	昼	67	67	65	66	65	66	64	70
		夜	63	62	61	62	61	61	60	65
⑤	知手	昼	72	73	72	72	72	72	73	70
		夜	67	69	67	68	67	67	69	65
⑥	奥野谷浜	昼	67	67	67	67	68	66	67	70
		夜	57	57	58	58	61	59	58	65
⑦	石神	昼	73	73	68	72	72	72	72	65
		夜	70	69	64	68	69	68	69	60
⑧	常陸川大橋	昼	－	－	－	－	70	69	67	70
		夜	－	－	－	－	65	64	62	65
⑨	矢田部	昼	70	68	70	70	68	68	68	70
		夜	64	63	64	64	63	63	63	65
⑩	銚子大橋	昼	65	73	69	69	69	69	69	70
		夜	60	71	63	64	64	64	65	65

備考）1.　時間区分は、「昼間」を 8 時から 18 時、「夜間」を 21 時から翌 6 時とする。

2.　網掛けは環境基準を上回っていることを示している。

出典）神栖市「交通騒音・振動及び交通量調査　並びに自動車騒音常時監視調査業務委託　報告書」より作成

表 13　交通振動の調査結果

（単位：dB）

No.	調査地点	時間区分	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	要請限度
①	神栖市役所前	昼	48	47	49	49	47	47	45	70
		夜	39	42	41	42	41	39	38	65
②	息栖大橋	昼	53	53	53	56	56	57	58	70
		夜	49	47	48	51	51	53	53	65
③	下幡木	昼	42	43	43	42	45	44	44	70
		夜	34	38	37	35	37	36	37	65
④	平泉	昼	39	36	38	38	38	37	37	65
		夜	32	32	36	33	33	32	32	60
⑤	知手	昼	46	46	46	47	47	47	48	70
		夜	39	40	38	39	39	39	40	65
⑥	奥野谷浜	昼	37	38	36	38	34	34	36	70
		夜	24	26	23	25	24	23	24	65
⑦	石神	昼	44	45	30	46	45	46	42	70
		夜	34	37	21	37	36	38	35	65
⑧	常陸川大橋	昼	42	46	50	49	49	45	41	70
		夜	31	37	42	38	39	35	33	65
⑨	矢田部	昼	41	40	41	42	43	41	41	70
		夜	32	30	31	34	33	31	34	65
⑩	銚子大橋	昼	38	39	43	40	41	40	41	70
		夜	30	29	31	31	30	31	33	65

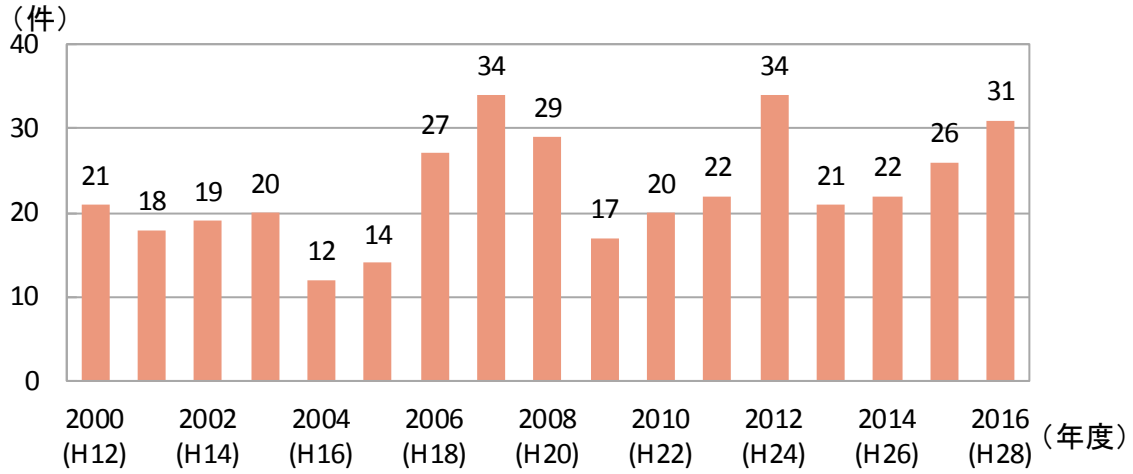
備考）1.　時間区分は、「昼間」を 8 時から 18 時、「夜間」を 21 時から翌 6 時とする。

2.　網掛けは環境基準を上回っていることを示している。

出典）神栖市「交通騒音・振動及び交通量調査　並びに自動車騒音常時監視調査業務委託　報告書」より作成

(5) 悪臭

悪臭については適宜調査を行い、公害の防止に向けた監視・観測作業を実施している。
また、工業団地の立地企業に対しては、公害防止協定を締結の上、定期的な立入調査等を実施し、公害関係法令等の遵守状況を確認している。
悪臭の苦情件数は、増減を繰り返しており、平成 25 年度以降は増加傾向にある。



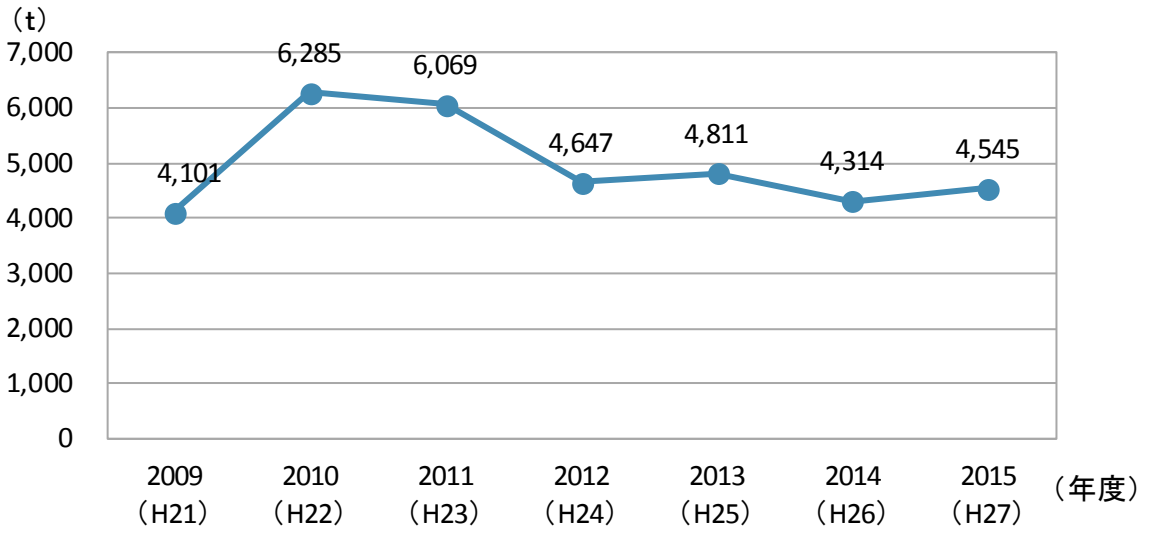
出典：神栖市「公害苦情等受理処理件数報告書」より作成

図 57　悪臭の苦情件数の推移

(6) 化学物質

PRTR 制度に基づいて届出が必要な化学物質の排出量・移動量の合計が平成 23 年度以降は減少傾向にあり、平成 27 年度は 4,545t となっている。

また、市内又は鹿島港内、河川、海域で測定されたダイオキシン類は、いずれも環境基準を達成している。



出典）環境省「PRTR インフォメーション広場」より作成

図 58　化学物質の排出・移動量

表 14　ダイオキシンの環境基準達成状況

	H23	H24	H25	H26	H27	H28
ダイオキシン（水質）	○	○	－	○	○	－
ダイオキシン（底質）	○	○	－	○	○	－
ダイオキシン（地下水質）	○	○	○	○	－	－
ダイオキシン（土壌）	○	○	○	○	－	○

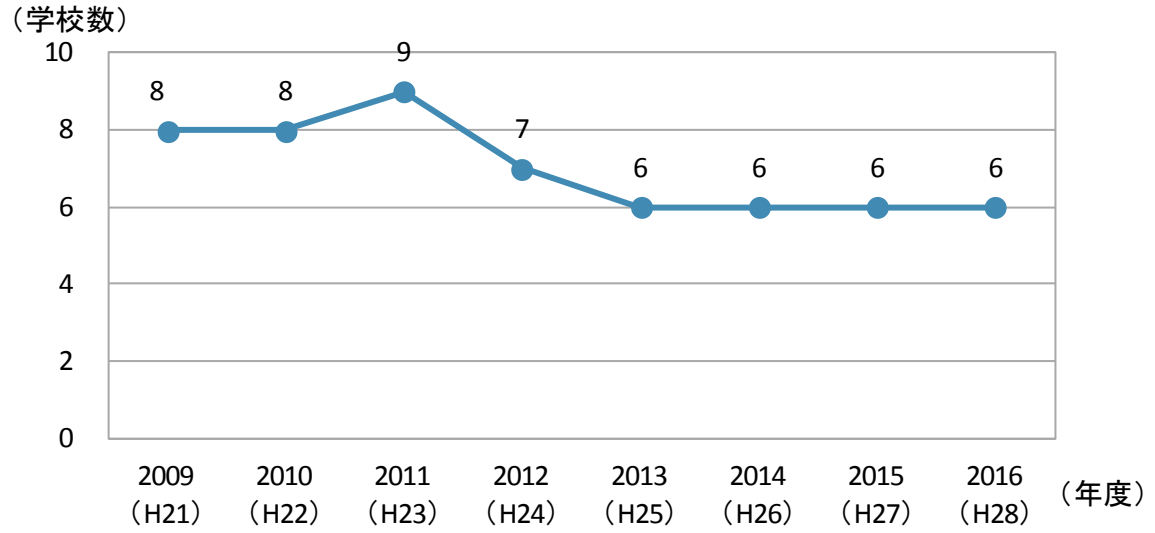
備考）○：環境基準達成　－：未調査

出典）茨城県「環境白書」より作成

1.6　環境保全活動

(1)　環境教育

神栖市の小学校における、平成 28 年度の設置状況は 6 校となっている。

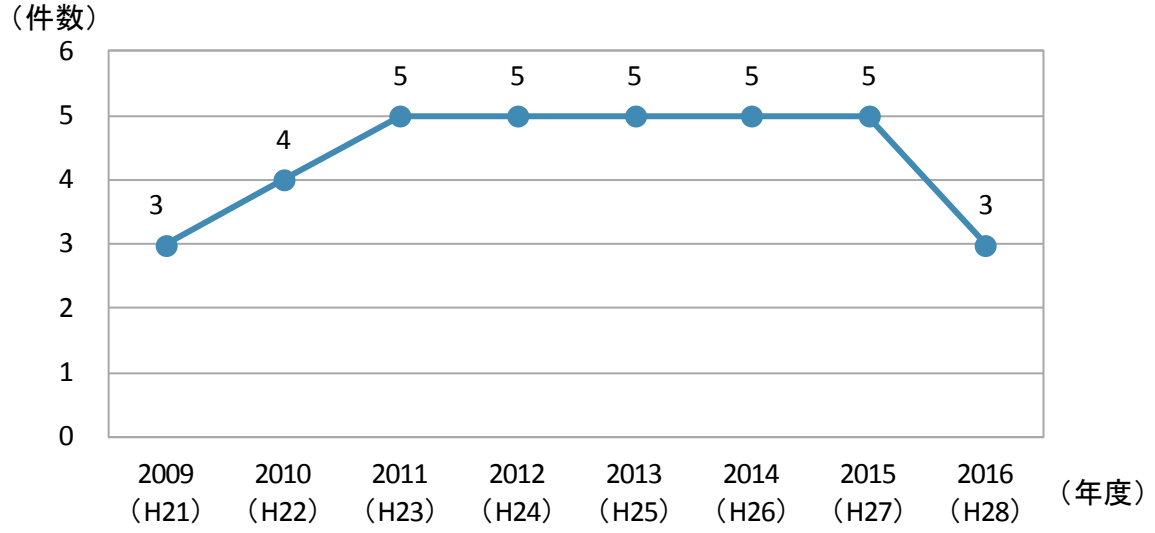


出典）神栖市環境課資料より作成

図 59　学校ビオトープ設置数の推移

(2)　事業者のエコアクション 21 認証登録件数

環境に配慮した活動のひとつであるエコアクション 21 の認証登録件数は、5 件で推移していたが、平成 28 年度では 3 件に減少している。

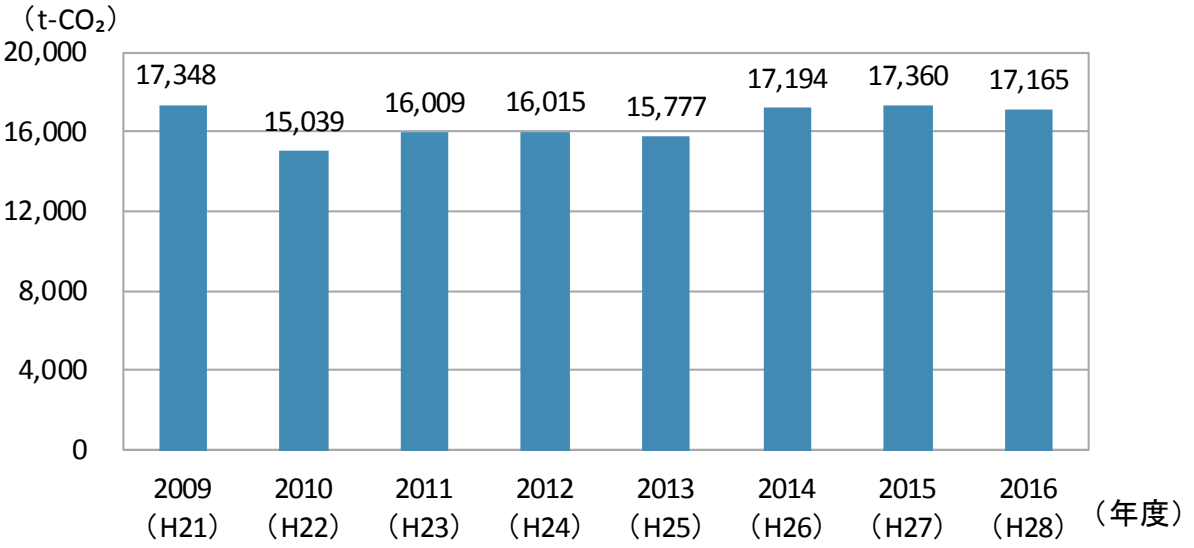


出典）神栖市環境課資料より作成

図 60　エコアクション 21 認証取得件数の推移

(3) 神栖市庁舎等の温室効果ガス排出量

神栖市庁舎等で排出される温室効果ガス排出量は、平成 25 年度から平成 27 年度にかけて増加傾向にあったが、平成 28 年度は減少傾向に転じ、17,165t-CO_2 となっている。



備考） 電気排出係数は、「平成 18 年度の電気事業者別排出係数」を用いる。その他の排出係数は「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令第三条（平成 18 年 3 月 24 日 一部改正）」を用いる。

図 61 神栖市庁舎等の温室効果ガス排出量の推移

(4) 土壌汚染

土壌汚染は、原因となる有害物質の不適切な取り扱いによる原材料の漏出などから土壌に直接混入する場合や、事業活動などによる水質汚濁や大気汚染を通じ、二次的に土壌中に負荷される場合がある。

近年、全国的には、市街地で工場跡地などの再開発に伴い、有害物質の不適切な取り扱いや汚染物質の漏洩等による汚染の判明する事例が増加している。市街地等の土壌汚染は、平成 15 年 2 月に「土壌汚染対策法」が施行され、土壌汚染による健康影響を防ぐ仕組みが整備されたことなどから、実態が明らかになりつつある。

なお、市内では土壌汚染対策法に基づく形質変更時要届出区域が 2 箇所ある。

表 15 形質変更時要届出区域

指定年月日	指定区域の所在地	指定基準に適合しない特定有害物質
平成 24 年 8 月 2 日	神栖市東和田 25 番 2 の一部	ふっ素
平成 24 年 10 月 11 日	神栖市田畑 475 及び市道（地番無し（木崎 1073-3～5 と田畑 475 の間）、道路認定番号 8-491）の一部	砒素

出典）茨城県ホームページ「土壌汚染対策法に基づく要措置区域等の指定状況」より作成

2. 市民及び事業者、学生へのアンケート調査

2.1 アンケートの概要

表 16　アンケート概要

	市民	事業者	学生
対象	・住民基本台帳登録者 1,200 人（住民基本台帳から年齢別人口比率抽出）	・事業者 200 事業所（商用データベースをもとに層別抽出）	・小学校・中学校・高等学校在校生徒 958 人
調査項目	・設問 1～7　回答者の属性 ・設問 8　環境の現状認識 ・設問 9～10　保全活動の状況 ・設問 11～13　環境に関連する新しい動向 ・設問 14～15　環境問題と必要な取組	・設問 1～6　回答者の属性 ・設問 7～14　保全活動の状況 ・設問 15～16　環境に関連する新しい動向 ・設問 17　市への要望	・学校名 ・設問 1～2　回答者の属性 ・設問 3～8　環境への関心 ・設問 9～10　環境に関連する新しい動向 ・設問 11　市への要望
回収率	47.4%（563/1189※）	59.6%（115/193※）	99.2%（950/958）
実施時期	平成 29 年 11 月 16 日発送 平成 29 年 12 月 4 日投函〆切		
発送回収方法	調査票の郵送回収		
送付資料	・依頼文 ・調査票 ※平成 29 年 11 月 28 日にリマインダ葉書を送付		

※宛先不明で返却された分は、母数から除外している。

2.2　アンケート集計分析結果

市民、事業者、学生のアンケート集計分析結果を以下に示す。単純集計の結果を考察するとともに、年齢や住居形態、従業員数規模などでクロス集計を実施することで、より詳細な傾向等を抽出している。

なお、集計結果は端数処理の関係により、合計が 100%とならないことがある。

【結果の見方について】

設問内容及び集計分析結果は、以下に示す記載様式で統一してまとめています。各設問内容を記載し、アンケート集計をもとに作成したグラフと集計表を記載しています。

なお、平成 19 年に同様の趣旨でアンケート調査を行っており、同じ設問で比較可能なものに参考として併記している。

□設問内容（記載イメージ）

（1）　設問○

・・。	
1. ・・・・・・・・・・・・ 2. ・・・・・・・・・・・・	3. ・・・・・・・・・・・ 4. ・・・・・・・・・・・

図○　神栖市の○○について

表○　神栖市の○○について

	H29 結果（回答数）	H29 結果（%）	H19 結果（%）
1.			
2.			
計（無回答を除く）			
無回答			

2.2.1 市民

(1) 回答者の属性

1) 設問１ 性別

あなたの性別についてお尋ねします。該当する番号に○をつけて下さい。	
1. 男	2. 女

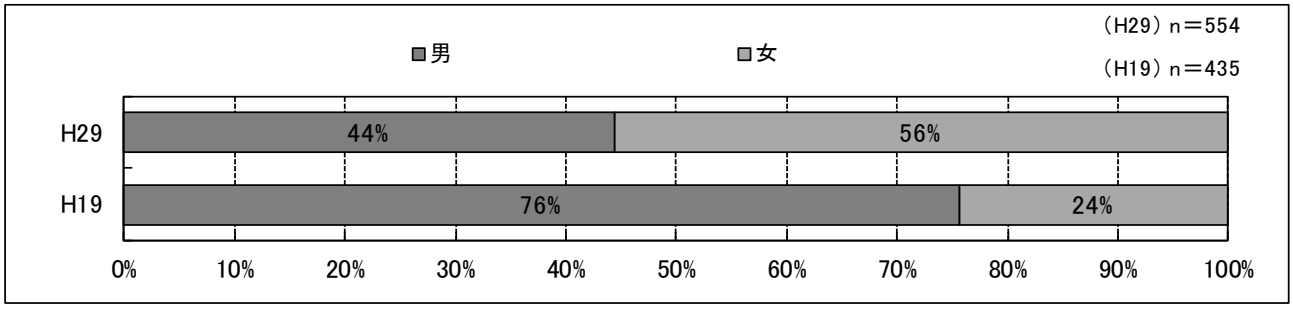


図 62 性別

表 17 性別

	H29 結果（回答数）	H29 結果（%）	H19 結果（%）
男	246	44%	76%
女	308	56%	24%
計（無回答を除く）	554	100%	100%

2) 設問 2　年齢

あなたの年齢についてお尋ねします。該当する番号に○をつけて下さい。	
1. 10 歳代 2. 20 歳代 3. 30 歳代 4. 40 歳代	5. 50 歳代 6. 60 歳代 7. 70 歳代

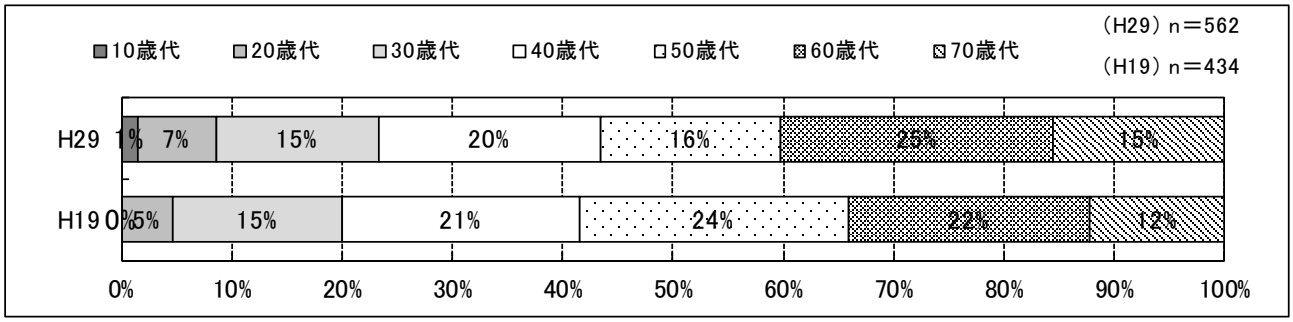


図 63　年齢

表 18　年齢

	H29 結果（回答数）	H29 結果（%）	H19 結果（%）
10 歳代	8	1%	0%
20 歳代	40	7%	5%
30 歳代	83	15%	15%
40 歳代	113	20%	21%
50 歳代	92	16%	24%
60 歳代	139	25%	22%
70 歳代	87	15%	12%
計（無回答を除く）	562	100%	100%

3) 設問３　居住地区

あなたのお住まいの地区についてお尋ねします。該当する番号に○をつけて下さい。

神栖東部地域	神栖西部地域	波崎地域	矢田部地域	若松地域
1. 横瀬	25. 居切	41. 東町	63. 仲新田	80. 日和山
2. 日川	26. 深芝	42. 仲町	64. 清水	81. 東押揚
3. 萩原	27. 平泉	43. 西町	65. 東海	82. 西押揚
4. 芝崎	28. 下幡木	44. 東仲島東	66. 西前宿	83. 東宝山
5. 石神	29. 鰐川	45. 東仲島西	67. 上中	84. 西宝山
6. 高浜	30. 筒井	46. 西仲島	68. 川尻	85. 太田新町
7. 田畑	31. 立野	47. 東明神町	69. 押植	86. 東須田
8. 木崎	32. 賀	48. 東明神前	70. 土合東	87. 仲須田
9. 溝口	33. 浜松	49. 明神前	71. 土合西	88. 西須田
10. 奥野谷	34. 神栖	50. 浜新田	72. 土合中央	89. 須田浜
11. 知手	35. 泉町	51. 本新町	73. 土合南	90. 須田団地
12. 柳堀	36. 新港	52. 海老台	74. 土合本町中	91. 相生
13. 一貫野	37. 大野原	53. 本郷	75. 東松下	92. 高砂
14. 亀の甲団地	38. 息栖原	54. 高野	76. 西松下	93. 二本松
15. 知手中央仲町	39. 息栖	55. 別所	77. 十町歩	94. 若ノ松
16. 知手中央東町	40. 掘割	56. 荒波	78. 土合北	95. 柳川団地
17. 奥野谷浜		57. 石津	79. 矢田部	96. 北若松
18. 知手浜		58. 仲舎利		97. 波崎工業団地
19. 知手浜東団地		59. 内出		
20. 日川浜		60. 松本		
21. 横瀬団地		61. 芝		
22. 砂山		62. 舎利浜		
23. 東和田				
24. 南浜				

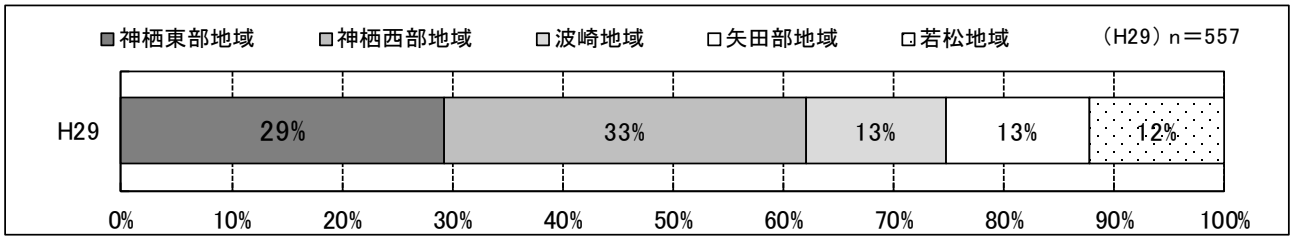


図 64　居住地区

表 19　居住地区

	H29 結果（回答数）	H29 結果（%）
神栖東部地域	163	29%
神栖西部地域	183	33%
波崎地域	70	13%
矢田部地域	73	13%
若松地域	68	12%
計　（無回答・無効を除く）	557	100%

4) 設問 4　居住年数

あなたは神栖市にお住まいになって、何年になりますか？該当する番号に○をつけて下さい。	
1. 2 年未満 2. 2～5 年未満 3. 5～10 年未満	4. 10～20 年未満 5. 20 年以上

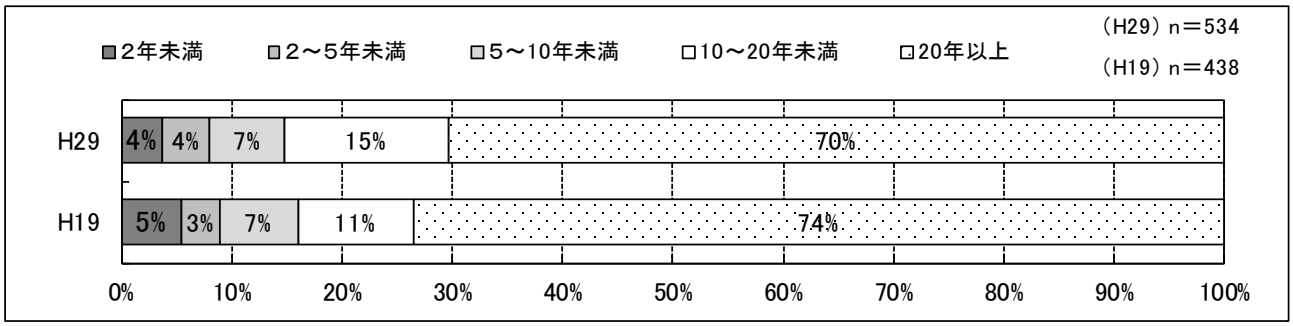


図 65　居住年数

表 20　居住年数

	H29 結果（回答数）	H29 結果（%）	H19 結果（%）
2 年未満	20	4%	5%
2～5 年未満	23	4%	3%
5～10 年未満	36	7%	7%
10～20 年未満	79	15%	11%
20 年以上	376	70%	74%
計（無回答を除く）	534	100%	100%

5) 設問５　職業

あなたの職業についてお尋ねします。該当する番号に○をつけて下さい。	
1. 農林業（農・畜産・林業の従事者） 2. 水産漁業（水産・漁業の従事者） 3. 会社員・会社役員 4. 自営業主（[小規模な] 工場主、商店主、個人企業経営者）及びその手伝い 5. 自由業（医師、裁判官、弁護士、代議士、芸術家、作家など） 6. 教員	7. 教員以外の公務員（国家・地方公務員、警察官、消防士など） 8. 専業主婦・主夫 9. パート・アルバイト（学生を除く） 10. 学生 11. 無職 12. その他

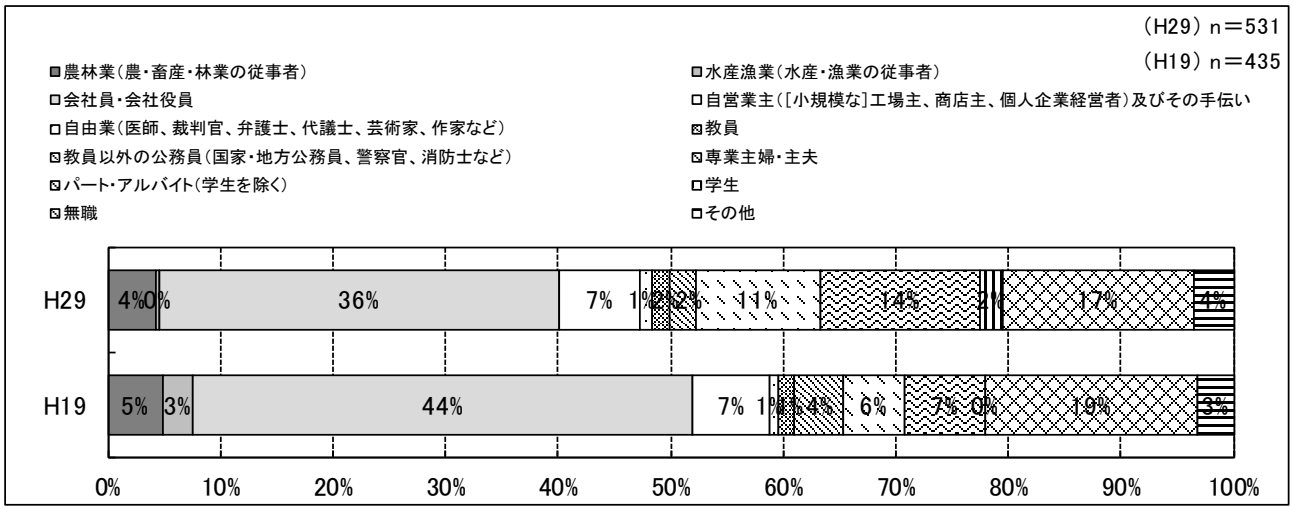


図 66　職業

表 21　職業

	H29 結果（回答数）	H29 結果（%）	H19 結果（%）
農林業（農・畜産・林業の従事者）	23	4%	5%
水産漁業（水産・漁業の従事者）	1	0%	3%
会社員・会社役員	189	36%	44%
自営業主（[小規模な] 工場主、商店主、個人企業経営者）及びその手伝い	38	7%	7%
自由業（医師、裁判官、弁護士、代議士、芸術家、作家など）	6	1%	1%
教員	8	2%	1%
教員以外の公務員（国家・地方公務員、警察官、消防士など）	12	2%	4%
専業主婦・主夫	59	11%	6%
パート・アルバイト（学生を除く）	75	14%	7%
学生	11	2%	0%
無職	90	17%	19%
その他	19	4%	3%
計（無回答を除く）	531	100%	100%

6) 設問 6　世帯数

あなたの家の居住者人数は何人ですか？該当する番号に○をつけて下さい。	
1. 1 人 2. 2 人 3. 3 人 4. 4 人	5. 5 人 6. 6 人 7. 7 人 8. 8 人以上

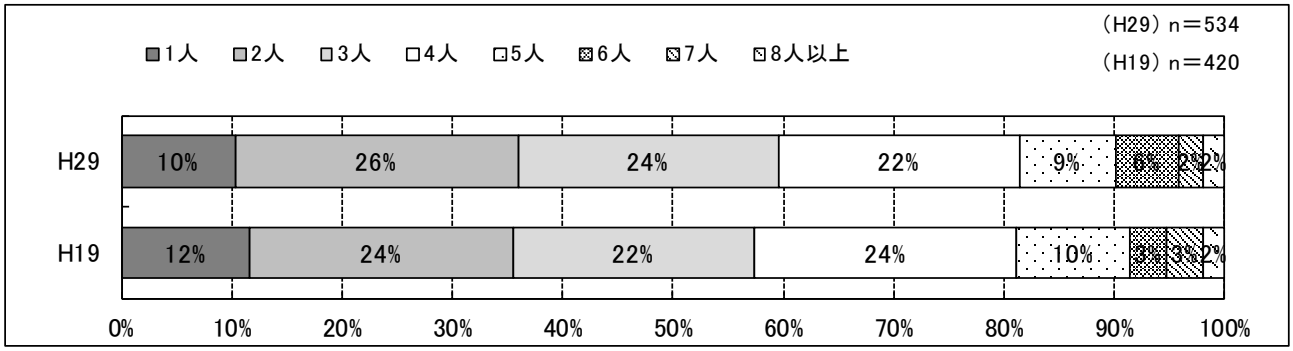


図 67　居住人数

表 22　居住人数

	H29 結果（回答数）	H29 結果（%）	H19 結果（%）
1 人	55	10%	12%
2 人	137	26%	24%
3 人	126	24%	22%
4 人	117	22%	24%
5 人	46	9%	10%
6 人	31	6%	3%
7 人	12	2%	3%
8 人以上	10	2%	2%
計（無回答を除く）	534	100%	100%

7) 設問 7　家事有無

家事は、主にあなたがしていますか？該当する番号に○をつけて下さい。	
1. はい	2 いいえ

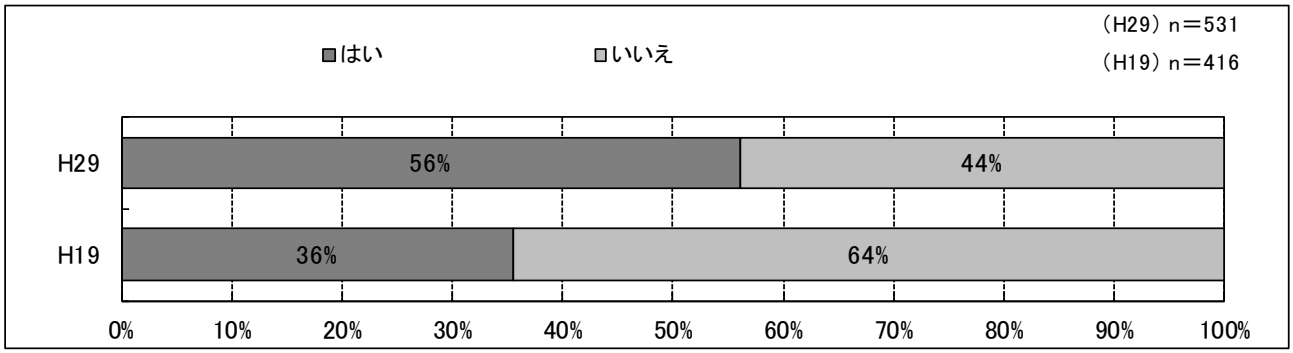


図 68　家事状況

表 23　家事状況

	H29 結果（回答数）	H29 結果（%）	H19 結果（%）
はい	298	56%	36%
いいえ	233	44%	64%
計（無回答を除く）	531	100%	100%

(2) 環境の現状認識

1) 設問 8-1 地域の環境について

あなたは、神栖市の環境を、どう感じていますか？ 項目ごとにあなたの考えにもっとも近い答えを 1 つずつ選んで、該当する番号に○をつけて下さい。 ※項目は下記集計結果を参照

1. 満足	3. どちらかと言えば不満
2. どちらかと言えば満足	4. 不満

a) 全体

満足度の高い項目は「ごみの収集、処理の状況」の割合が最も多く、続いて「星の見やすさ」、「環境学習の場の整備状況」となっている。一方で「公共交通機関の利用のしやすさ」が最も満足度の低い項目となっている。

平成 19 年度と比較して、「空気のさわやかさ、きれいさ」及び「星の見やすさ」への満足度がやや減少しているが、全体的な傾向に大きな変化は見られない。

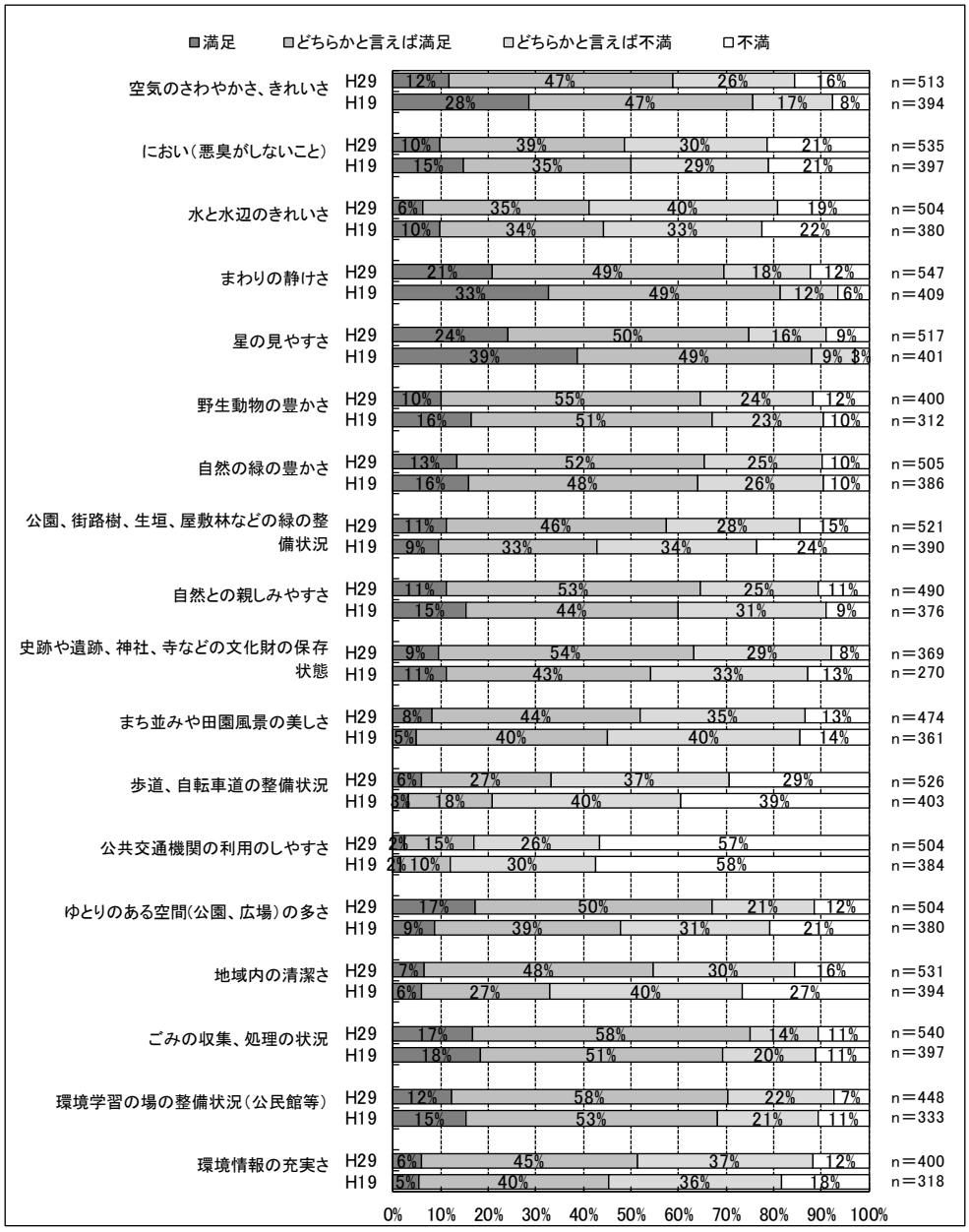


図 69 神栖市の環境

表 24　神栖市の環境

			満足	どちらかと言えば満足	どちらかと言えば不満	不満	計(無回答を除く)
空気のさわやかさ、きれいさ	H29	(回答数)	60	241	132	80	513
		(%)	12%	47%	26%	16%	100%
	H19	(%)	28%	47%	17%	8%	100%
におい（悪臭がしないこと）	H29	(回答数)	52	208	160	115	535
		(%)	10%	39%	30%	21%	100%
	H19	(%)	15%	35%	29%	21%	100%
水と水辺のきれいさ	H29	(回答数)	32	175	200	97	504
		(%)	6%	35%	40%	19%	100%
	H19	(%)	10%	34%	33%	22%	100%
まわりの静けさ	H29	(回答数)	114	266	100	67	547
		(%)	21%	49%	18%	12%	100%
	H19	(%)	33%	49%	12%	6%	100%
星の見やすさ	H29	(回答数)	125	261	84	47	517
		(%)	24%	50%	16%	9%	100%
	H19	(%)	39%	49%	9%	3%	100%
野生動物の豊かさ	H29	(回答数)	40	218	95	47	400
		(%)	10%	55%	24%	12%	100%
	H19	(%)	16%	51%	23%	10%	100%
自然の緑の豊かさ	H29	(回答数)	68	262	126	49	505
		(%)	13%	52%	25%	10%	100%
	H19	(%)	16%	48%	26%	10%	100%
公園、街路樹、生垣、屋敷林などの緑の整備状況	H29	(回答数)	58	241	146	76	521
		(%)	11%	46%	28%	15%	100%
	H19	(%)	9%	33%	34%	24%	100%
自然との親しみやすさ	H29	(回答数)	55	262	121	52	490
		(%)	11%	53%	25%	11%	100%
	H19	(%)	15%	44%	31%	9%	100%
史跡や遺跡、神社、寺などの文化財の保存状態	H29	(回答数)	35	198	107	29	369
		(%)	9%	54%	29%	8%	100%
	H19	(%)	11%	43%	33%	13%	100%
まち並みや田園風景の美しさ	H29	(回答数)	39	207	165	63	474
		(%)	8%	44%	35%	13%	100%
	H19	(%)	5%	40%	40%	14%	100%
歩道、自転車道の整備状況	H29	(回答数)	31	143	197	155	526
		(%)	6%	27%	37%	29%	100%
	H19	(%)	3%	18%	40%	39%	100%
公共交通機関の利用のしやすさ	H29	(回答数)	12	74	132	286	504
		(%)	2%	15%	26%	57%	100%
	H19	(%)	2%	10%	30%	58%	100%
ゆとりのある空間(公園、広場）の多さ	H29	(回答数)	87	251	108	58	504
		(%)	17%	50%	21%	12%	100%
	H19	(%)	9%	39%	31%	21%	100%
地域内の清潔さ	H29	(回答数)	35	255	158	83	531
		(%)	7%	48%	30%	16%	100%
	H19	(%)	6%	27%	40%	27%	100%

			満足	どちらかと言えば満足	どちらかと言えば不満	不満	計(無回答を除く)
ごみの収集、処理の状況	H29	(回答数)	90	315	78	57	540
		(%)	17%	58%	14%	11%	100%
	H19	(%)	18%	51%	20%	11%	100%
環境学習の場の整備状況（公民館等）	H29	(回答数)	55	260	100	33	448
		(%)	12%	58%	22%	7%	100%
	H19	(%)	15%	53%	21%	11%	100%
環境情報の充実さ	H29	(回答数)	24	181	148	47	400
		(%)	6%	45%	37%	12%	100%
	H19	(%)	5%	40%	36%	18%	100%

b) クロス集計

地域別に比較すると、神栖東部地域、神栖西部地域では「ごみの収集、処理の状況」、波崎地区、矢田部地域、若松地域では「星の見やすさ」への満足度が最も高く、一方でどの地域も「公共交通機関の利用のしやすさ」への満足度が最も低い。

①地域別分析

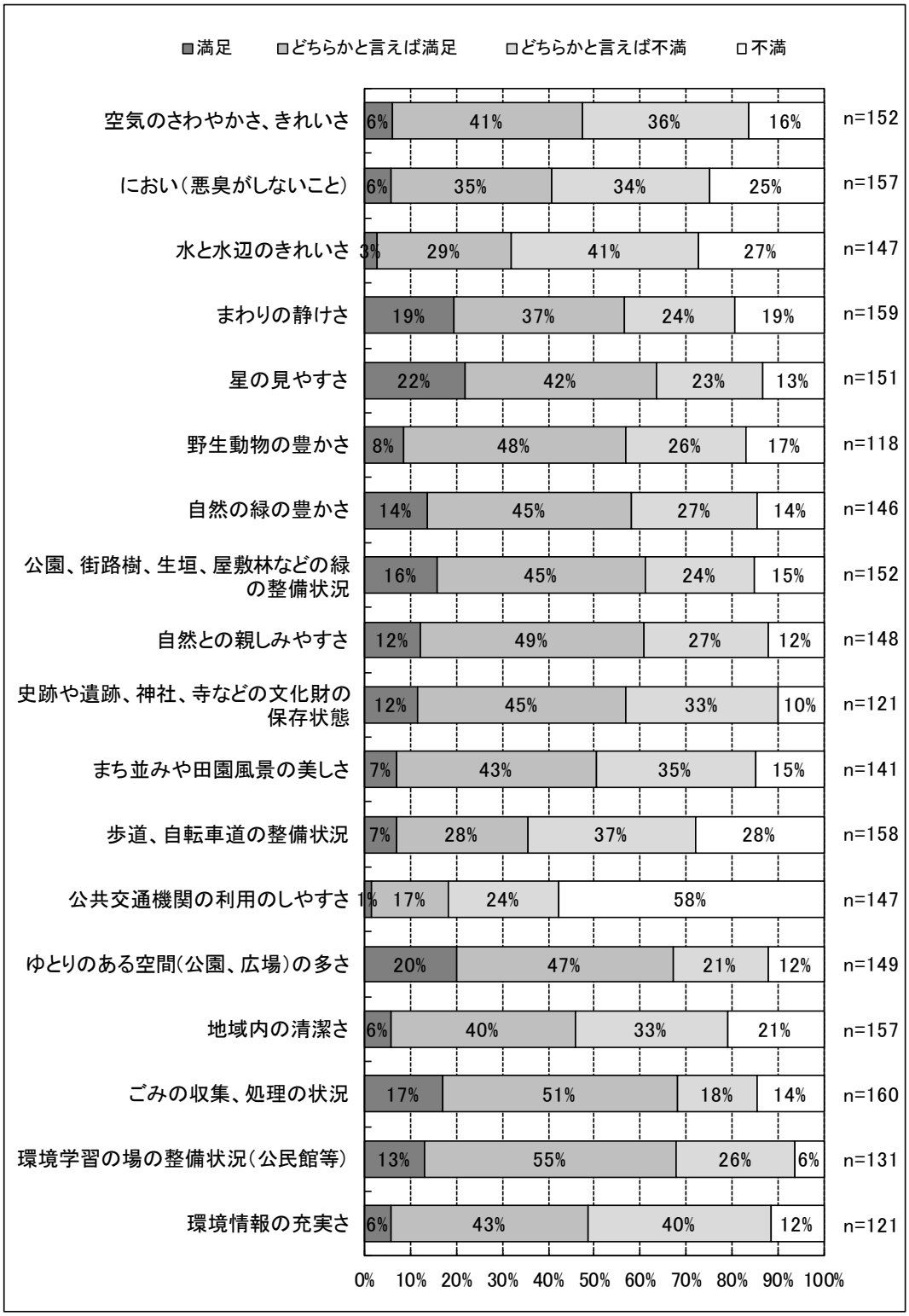


図 70　地域別分析　神栖東部地域

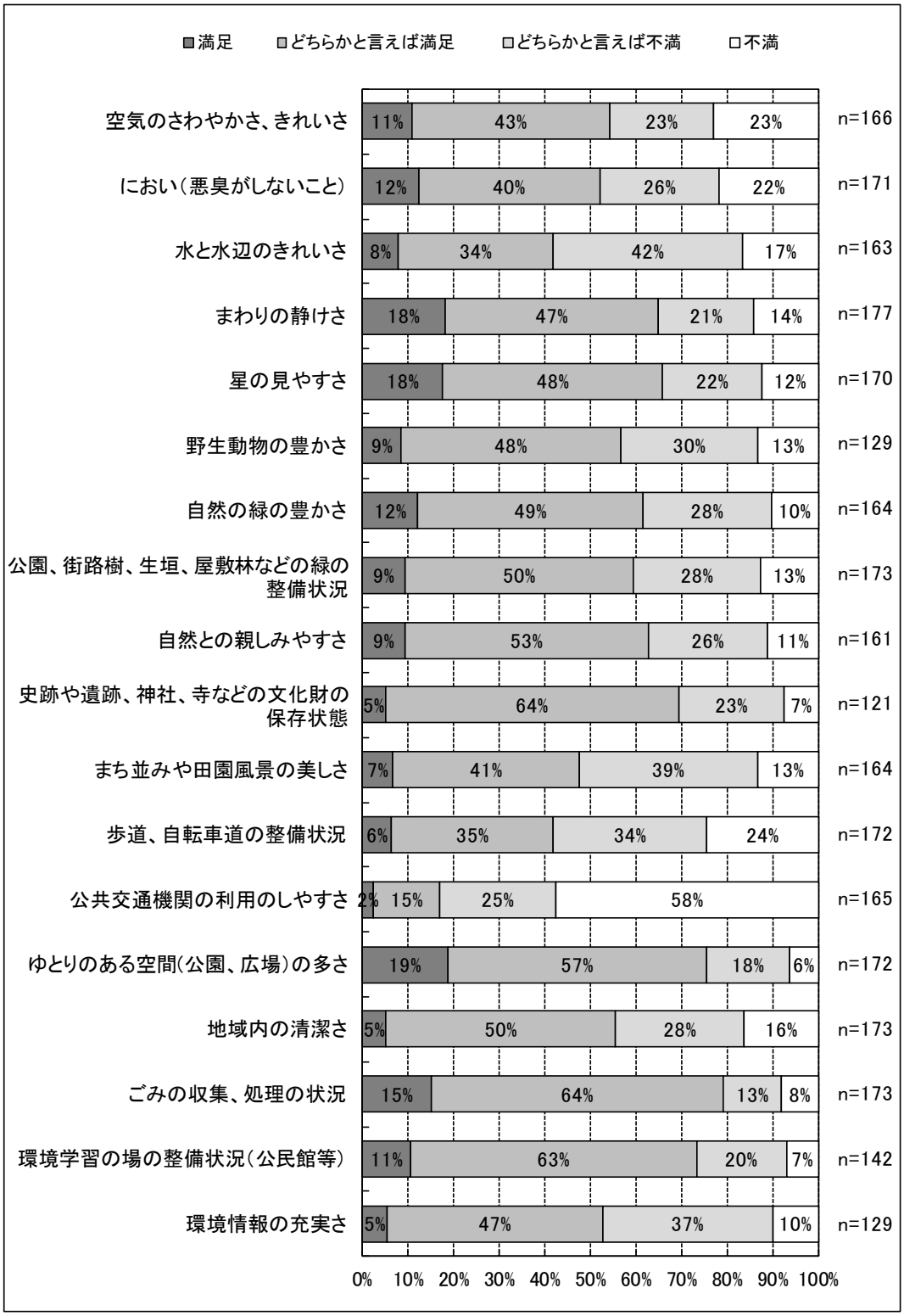


図 71　地域別分析　神栖西部地域

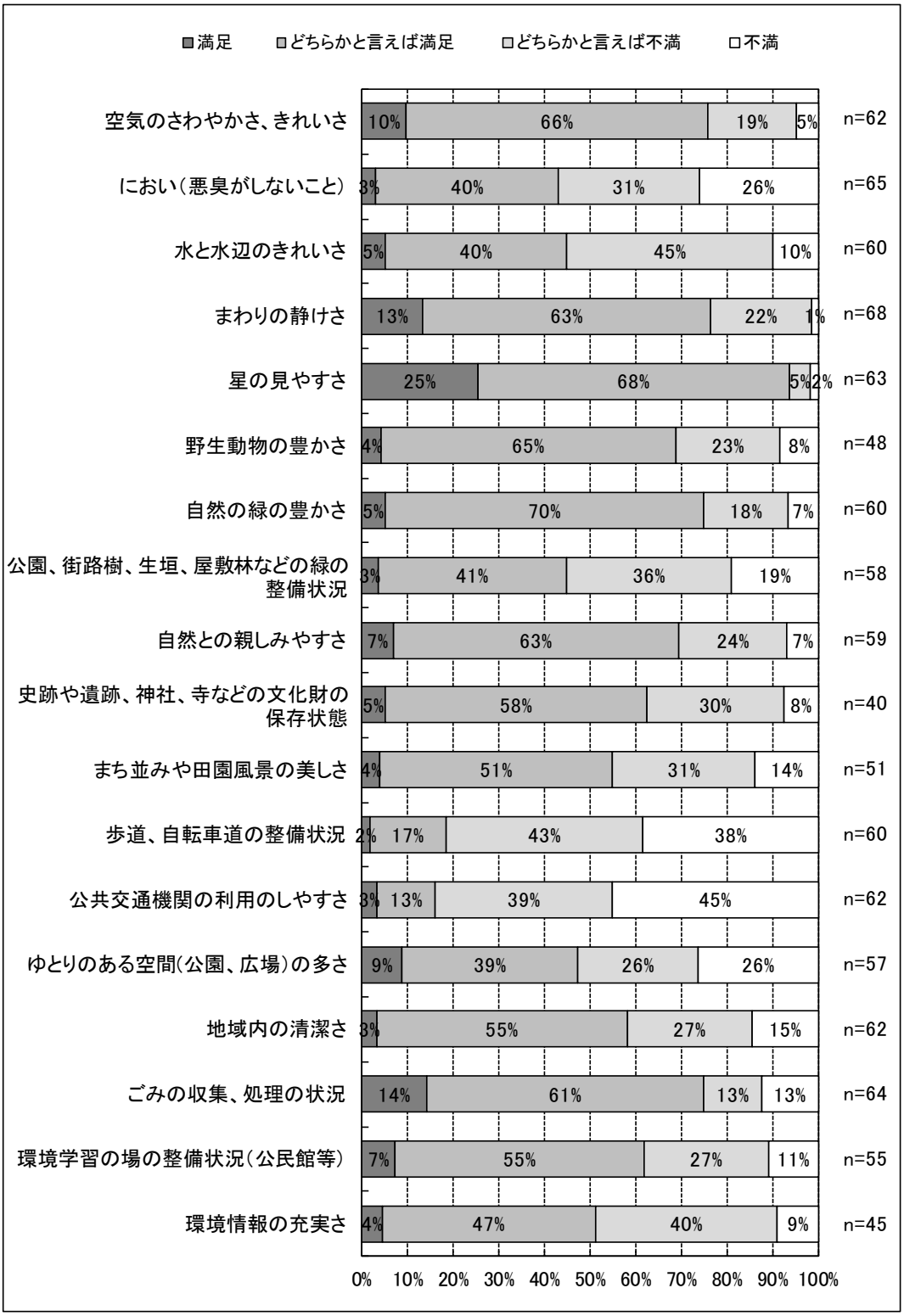


図 72　地域別分析　波崎地域

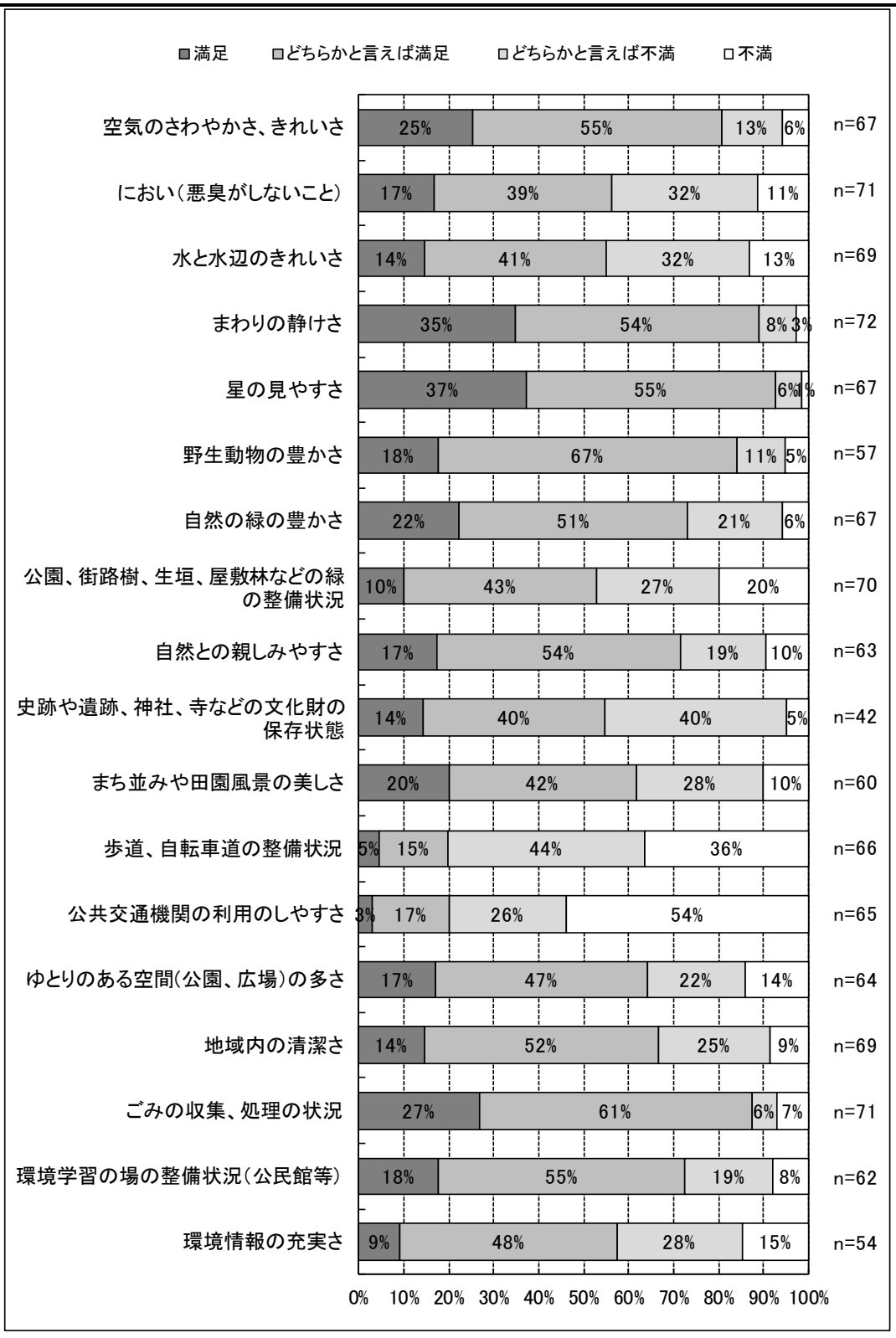


図 73　地域別分析　矢田部地域

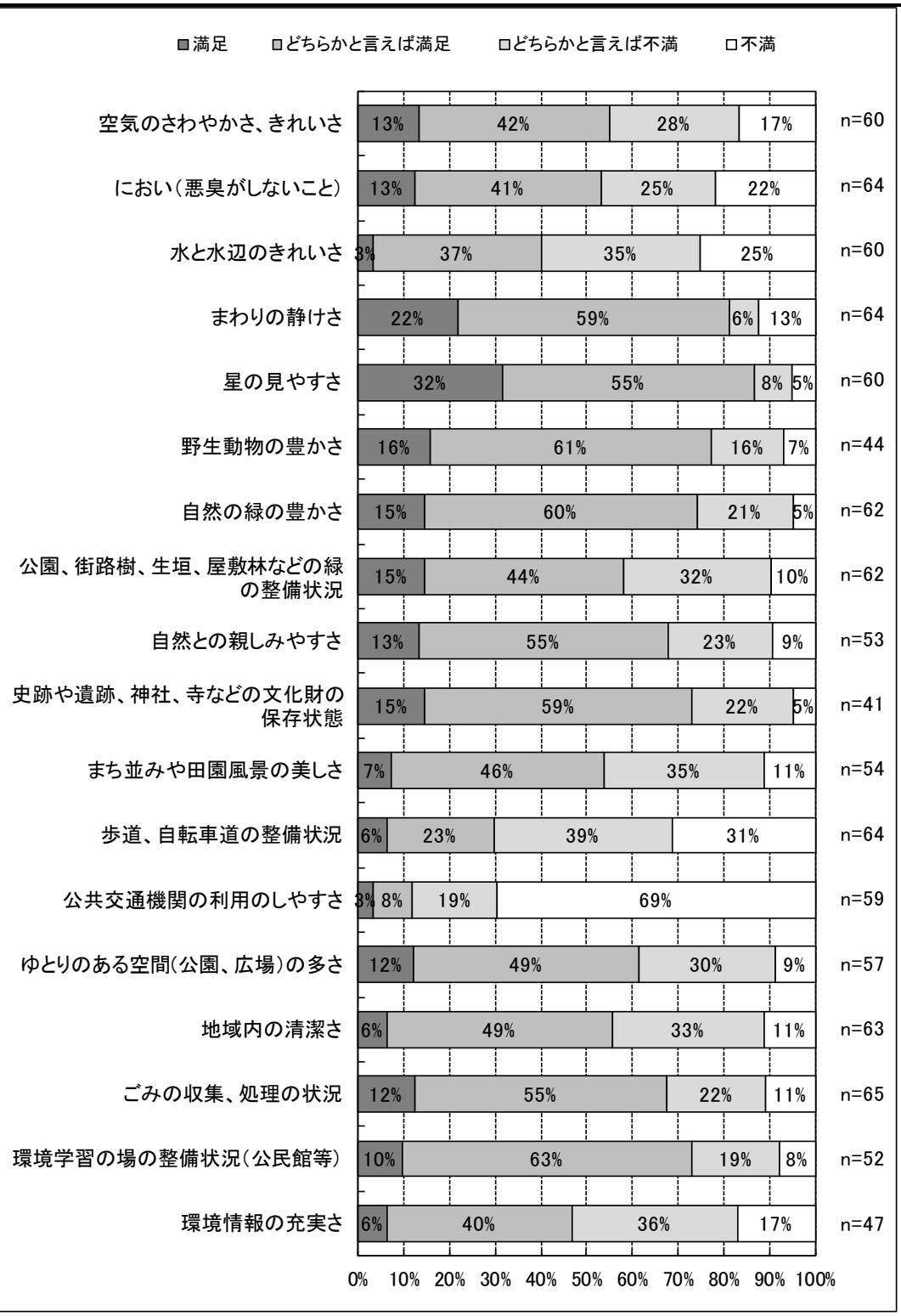


図 74　地域別分析　若松地域

2) 設問 8-2　重要と考える地域の環境

また、この中で神栖市の環境にとって、特に重要と考える項目はどれですか？
あなたが、特に重要と考える項目を①～⑱の中から選び上位 5 つを下の欄に記入してください。

1. 空気のさわやかさ、きれいさ	10. 史跡や遺跡、神社、寺などの文化財の保存状態
2. におい（悪臭がしないこと）	11. まち並みや田園風景の美しさ
3. 水と水辺のきれいさ	12. 歩道、自転車道の整備状況
4. まわりの静けさ	13. 公共交通機関の利用のしやすさ
5. 星の見やすさ	14. ゆとりのある空間(公園、広場）の多さ
6. 野生動物の豊かさ	15. 地域内の清潔さ
7. 自然の緑の豊かさ	16. ごみの収集、処理の状況
8. 公園、街路樹、生垣、屋敷林などの緑の整備状況	17. 環境学習の場の整備状況（公民館等）
9. 自然との親しみやすさ	18. 環境情報の充実さ

a) 全体

特に重要と考える項目で、「公共交通機関の利用のしやすさ」が 1 位となっている。
平成 19 年度と比較して、上位 5 つの項目に大きな変化はないが、1 位と 2 位の順位が入れ替わり、5 位が「空気のさわやかさ、きれいさ」の項目となっている。

表 25　神栖市の環境にとって重要な項目

	H29（地域全体）	H19（波崎地域）
1 位	公共交通機関の利用のしやすさ	歩道、自転車道の整備状況
2 位	歩道、自転車道の整備状況	公共交通機関の利用のしやすさ
3 位	地域内の清潔さ	地域内の清潔さ
4 位	におい（悪臭がしないこと）	水と水辺のきれいさ
5 位	空気のさわやかさ、きれいさ	におい（悪臭がしないこと）

(3) 保全活動の状況

1) 設問 9-1 物の購入について

あなたは、環境のために、毎日の生活の中で次のようなことをしていますか？ 物の購入（項目ごとに最も近い答えを 1 つ選んで下さい） ※項目は下記集計結果を参照	
1. いつもしている 2. どちらかと言えばしている	3. どちらかと言えばしていない 4. まったくしていない

a) 全体

「詰め替えできる商品を購入する」に関しての取組が最も多く、一方で「エコマークがついているなど環境に配慮した商品を選ぶ」に関しての取組が最も少ない。

平成 19 年度と比較して、平成 29 年度では「買い物袋等を持参している」に関しての取組が大きく上回っている。

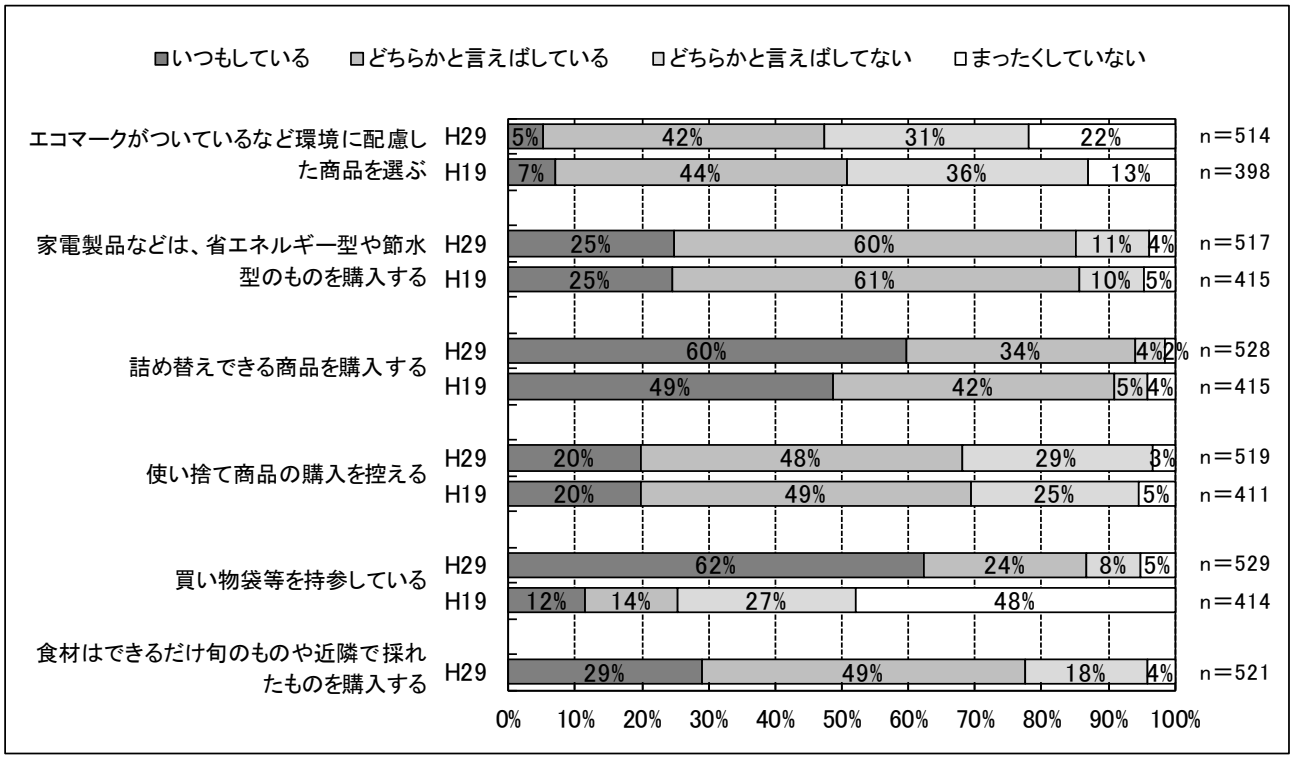


図 75 環境のための取組

表 26 環境のための取組

			いつもしている	どちらかと言えばしている	どちらかと言えばしてない	まったくしていない	計(無回答を除く)
エコマークがついているなど環境に配慮した商品を選ぶ	H29	(回答数)	27	216	158	113	514
		(%)	5%	42%	31%	22%	100%
	H19	(%)	7%	44%	36%	13%	100%
家電製品などは、省エネルギー型や節水型のものを購入する	H29	(回答数)	129	311	57	20	517
		(%)	25%	60%	11%	4%	100%
	H19	(%)	25%	61%	10%	5%	100%
詰め替えできる商品を購入する	H29	(回答数)	315	182	23	8	528
		(%)	60%	34%	4%	2%	100%
	H19	(%)	49%	42%	5%	4%	100%
使い捨て商品の購入を控える	H29	(回答数)	103	250	148	18	519
		(%)	20%	48%	29%	3%	100%
	H19	(%)	20%	49%	25%	5%	100%
買い物袋等を持参している	H29	(回答数)	330	129	43	27	529
		(%)	62%	24%	8%	5%	100%
	H19	(%)	12%	14%	27%	48%	100%
食材はできるだけ旬のものや近隣で採れたものを購入する	H29	(回答数)	151	253	95	22	521
		(%)	29%	49%	18%	4%	100%

b) クロス集計

年齢層別に比較すると、10～60 歳代では「詰め替えできる商品を購入する」、70 歳代では「買い物袋等を持参している」に関しての取組が最も多く、一方でどの年代も「エコマークがついているなど環境に配慮した商品を選ぶ」に関しての取組が最も少ない。

①年代別分析

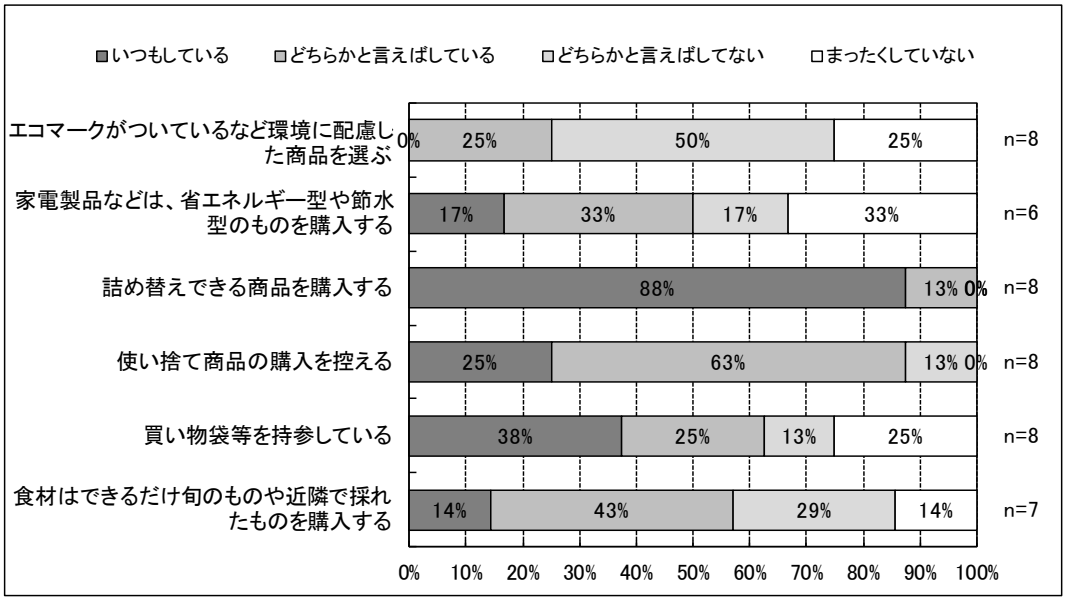


図 76 年代別分析 10 歳代

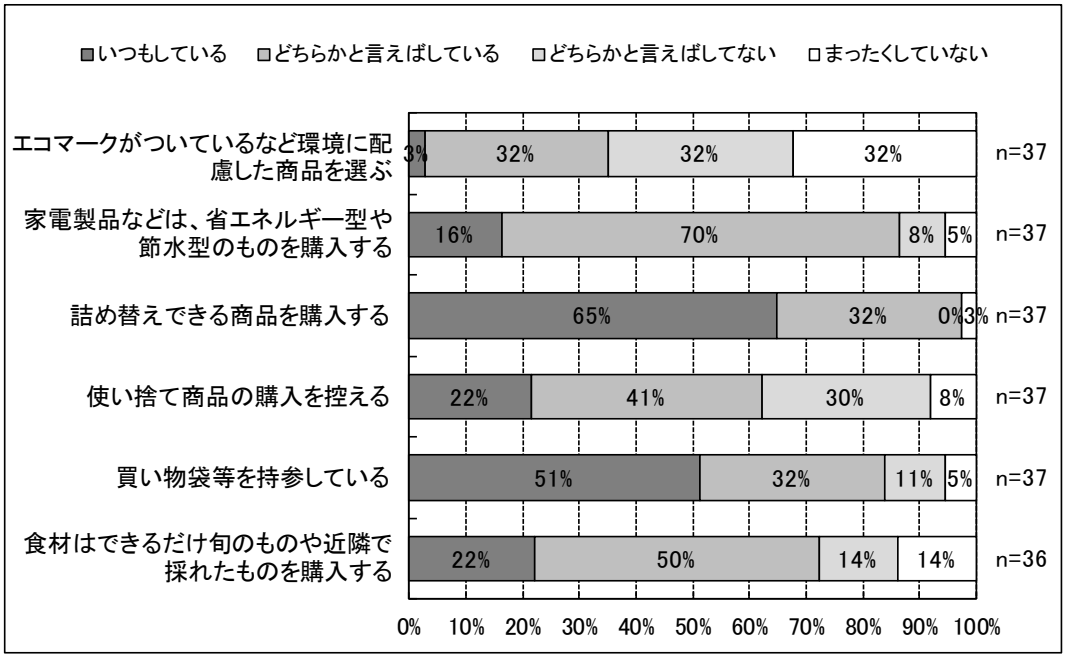


図 77 年代別分析 20 歳代

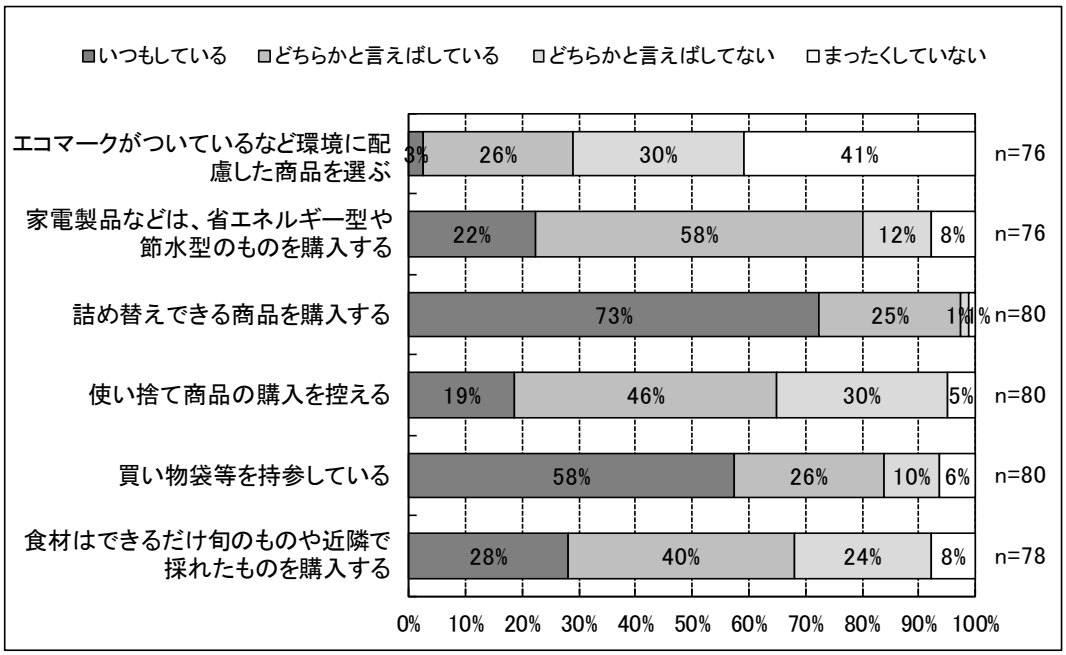


図 78　年代別分析　30 歳代

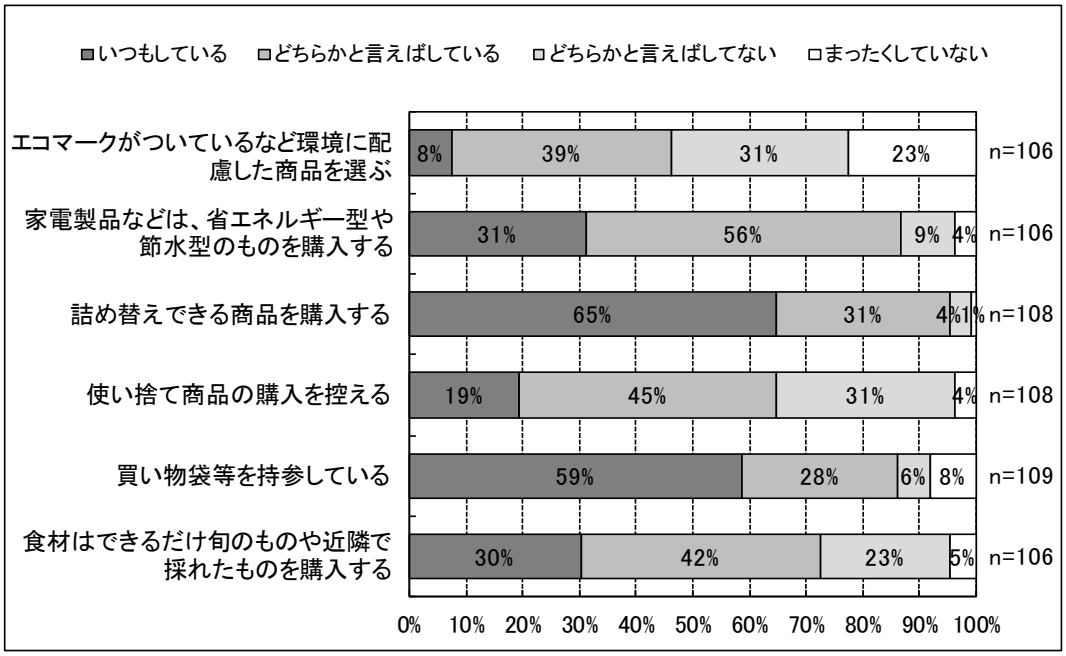


図 79　年代別分析　40 歳代

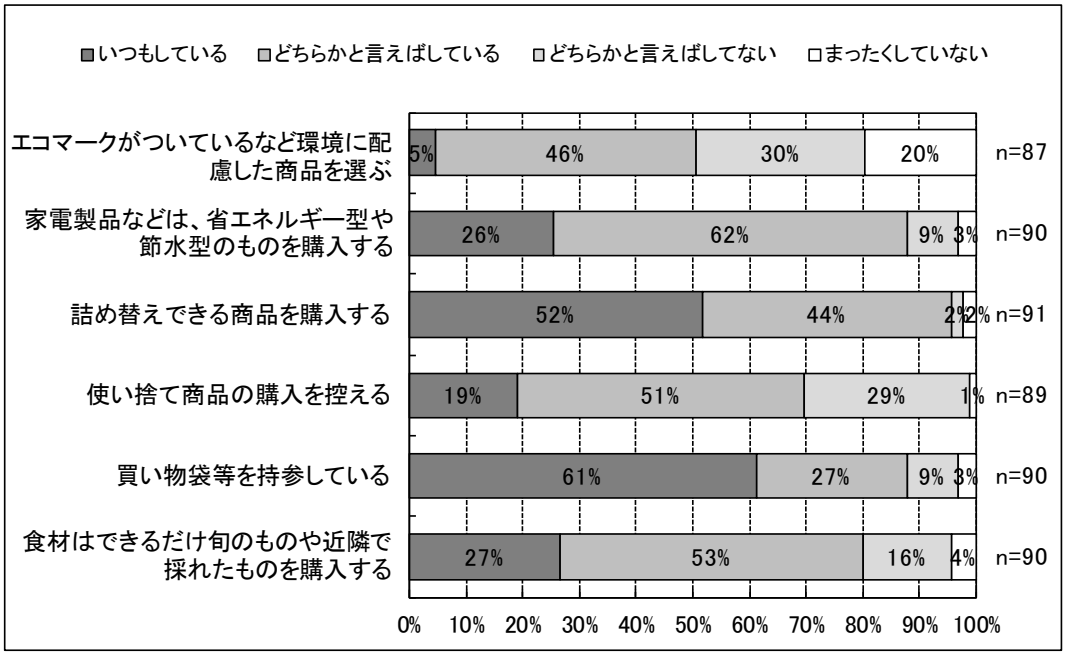


図 80　年代別分析　50 歳代

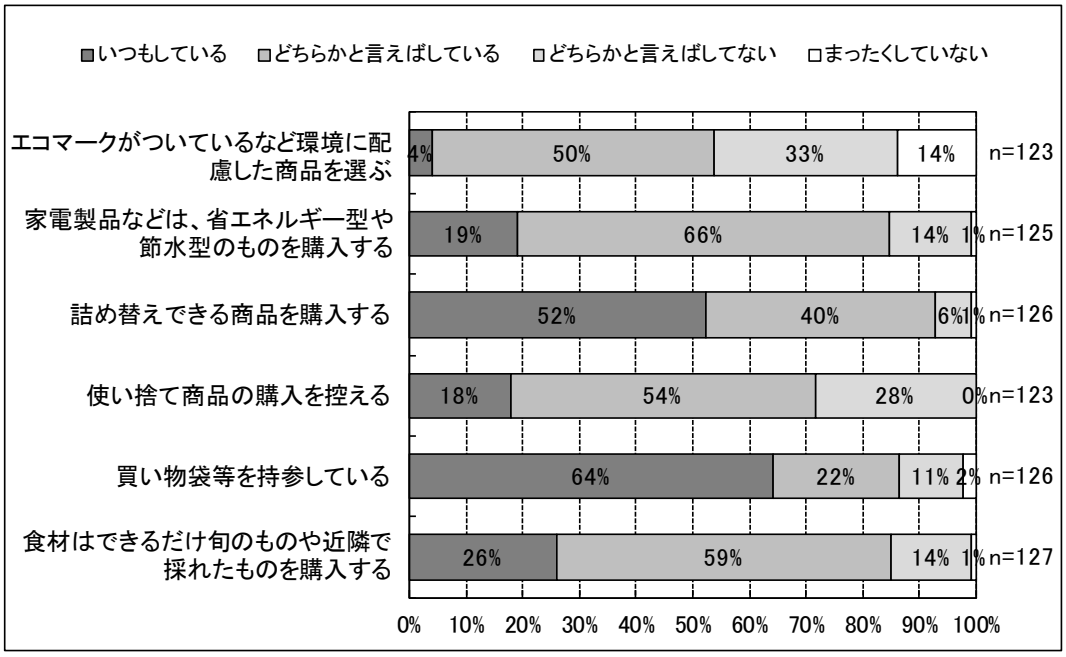


図 81　年代別分析　60 歳代

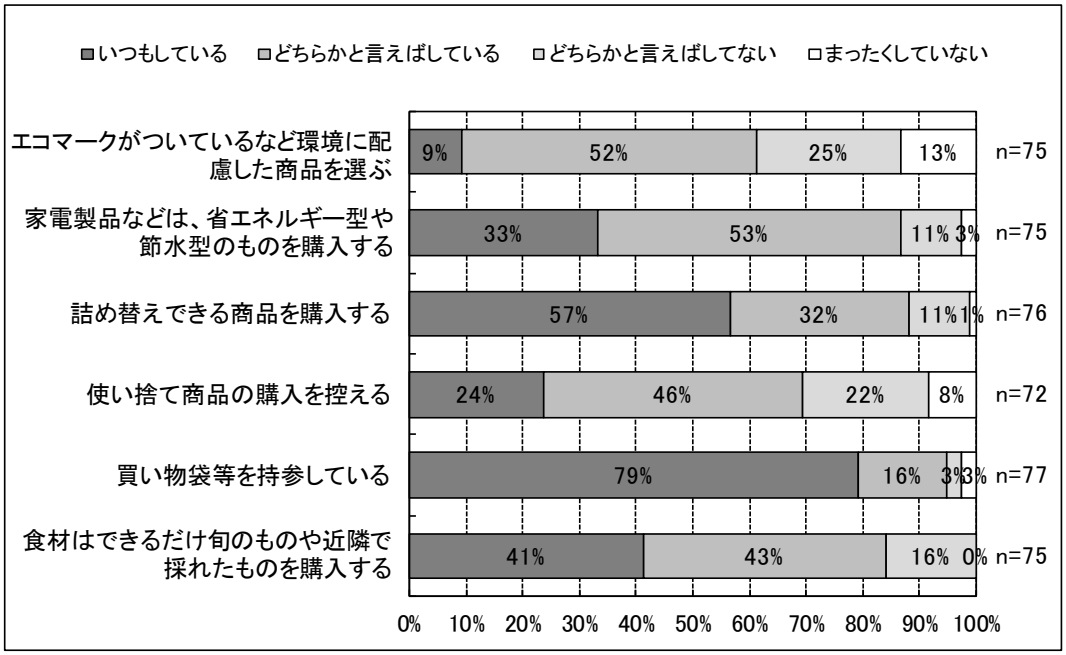


図 82　年代別分析　70 歳代

2) 設問 9-2　電気・燃料の節約

電気・燃料の節約（項目ごとに最も近い答えを 1 つ選んで下さい） ※項目は下記集計結果を参照	
1. いつもしている 2. どちらかと言えばしている	3. どちらかと言えばしていない 4. まったくしていない

a) 全体

「冷暖房の使用時間、設定温度」に関しての取組が最も多く、一方で「電気機器等の使用しないときのコンセントを抜いている」に関しての取組が最も少ない。
平成 19 年度と比較して、全体的な傾向に大きな変化は見られない。

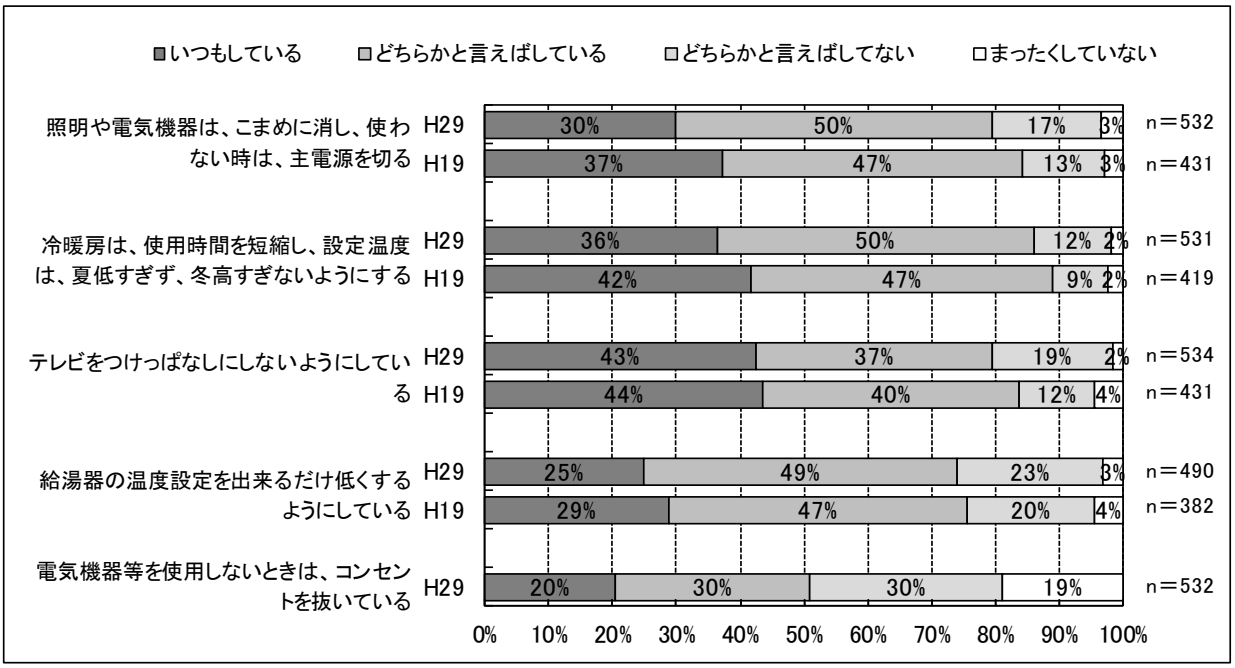


図 83　電気・燃料の節約

表 27　電気・燃料の節約

			いつもしている	どちらかと言えばしている	どちらかと言えばしてない	まったくしていない	計(無回答を除く)
照明や電気機器は、こまめに消し、使わない時は、主電源を切る	H29	(回答数)	159	264	91	18	532
		(%)	30%	50%	17%	3%	100%
	H19	(%)	37%	47%	13%	3%	100%
冷暖房は、使用時間を短縮し、設定温度は、夏低すぎず、冬高すぎないようにする	H29	(回答数)	193	264	64	10	531
		(%)	36%	50%	12%	2%	100%
	H19	(%)	42%	47%	9%	2%	100%
テレビをつけっぱなしにしないようにしている	H29	(回答数)	227	198	100	9	534
		(%)	43%	37%	19%	2%	100%
	H19	(%)	44%	40%	12%	4%	100%
給湯器の温度設定を出来るだけ低くするようにしている	H29	(回答数)	122	241	112	15	490
		(%)	25%	49%	23%	3%	100%
	H19	(%)	29%	47%	20%	4%	100%
電気機器等を使用しないときは、コンセントを抜いている	H29	(回答数)	109	162	161	100	532
		(%)	20%	30%	30%	19%	100%

b) クロス集計

年齢層別に比較すると、10 歳代では「テレビをつけっぱなしにしないようにしている」、20～60 歳代では「冷暖房は、使用時間を短縮し、設定温度は、夏低すぎず、冬高すぎないようにする」、70 歳代では「照明や電気機器は、こまめに消し、使わない時は、主電源を切る」に関しての取組が最も多く、一方でどの年代も「電気機器等を使用しないときは、コンセントを抜いている」に関しての取組が最も少ない。

①年代別分析

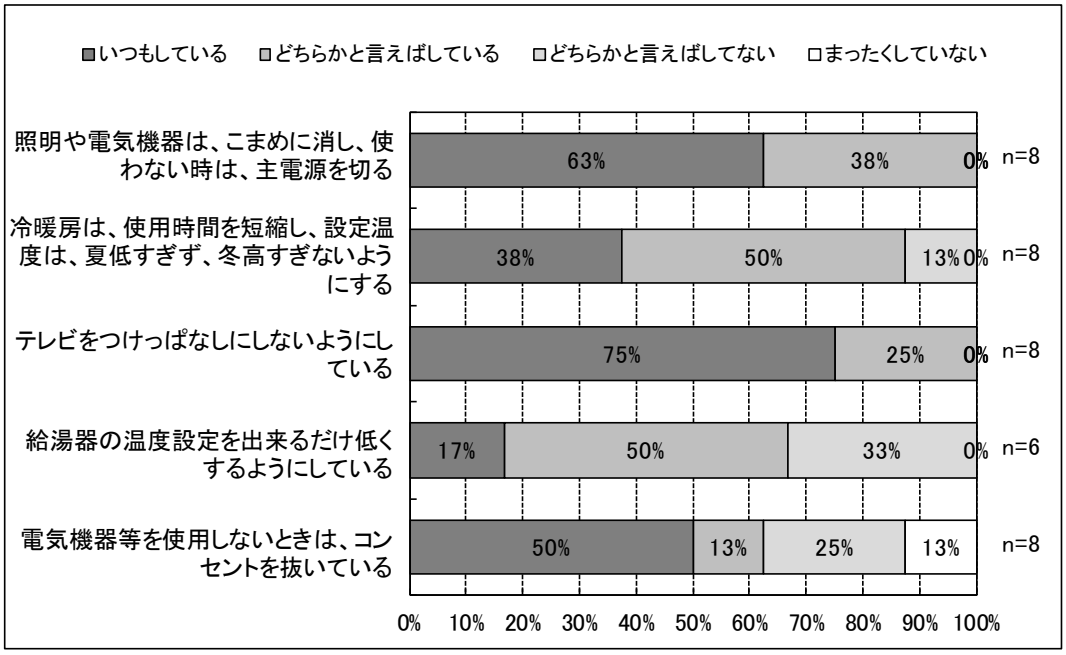


図 84　年代別分析　10 歳代

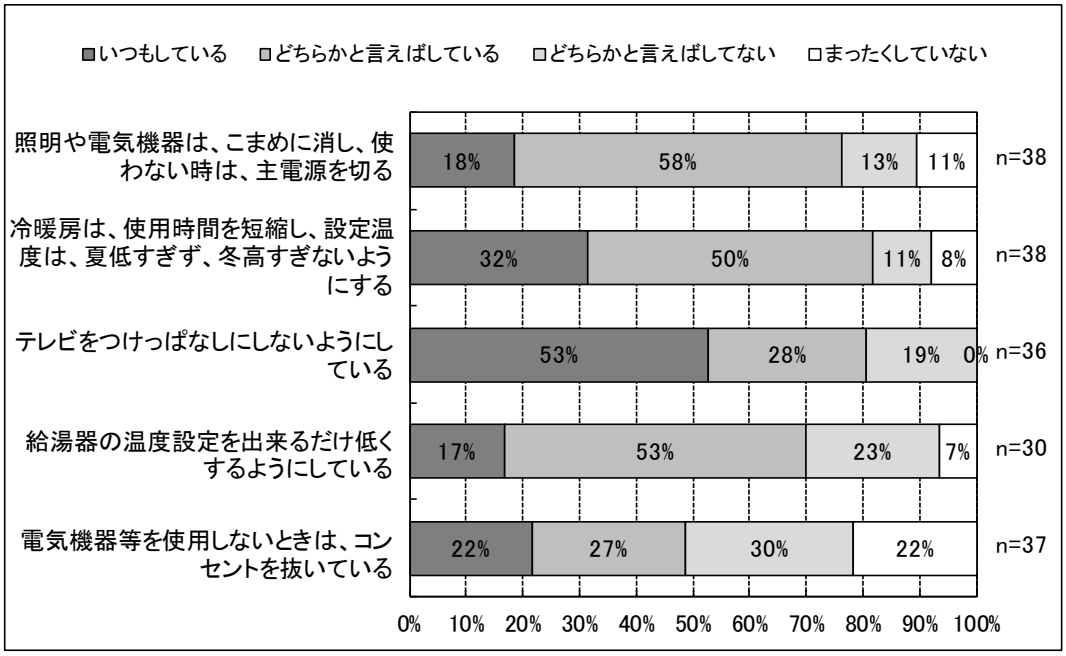


図 85　年代別分析　20 歳代

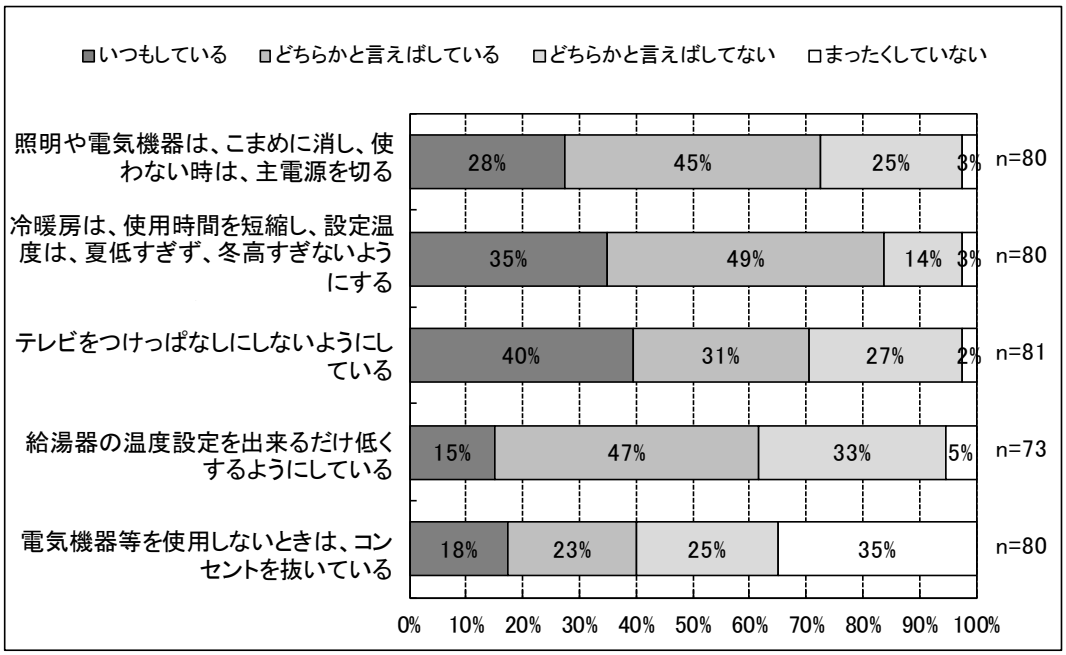


図 86　年代別分析　30 歳代

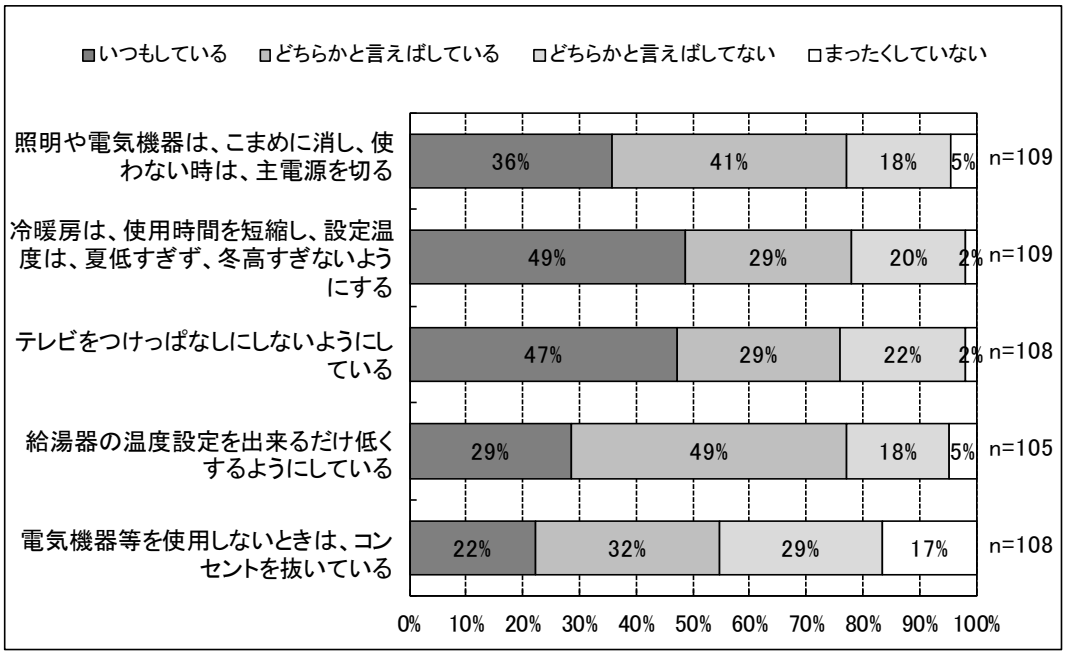


図 87　年代別分析　40 歳代

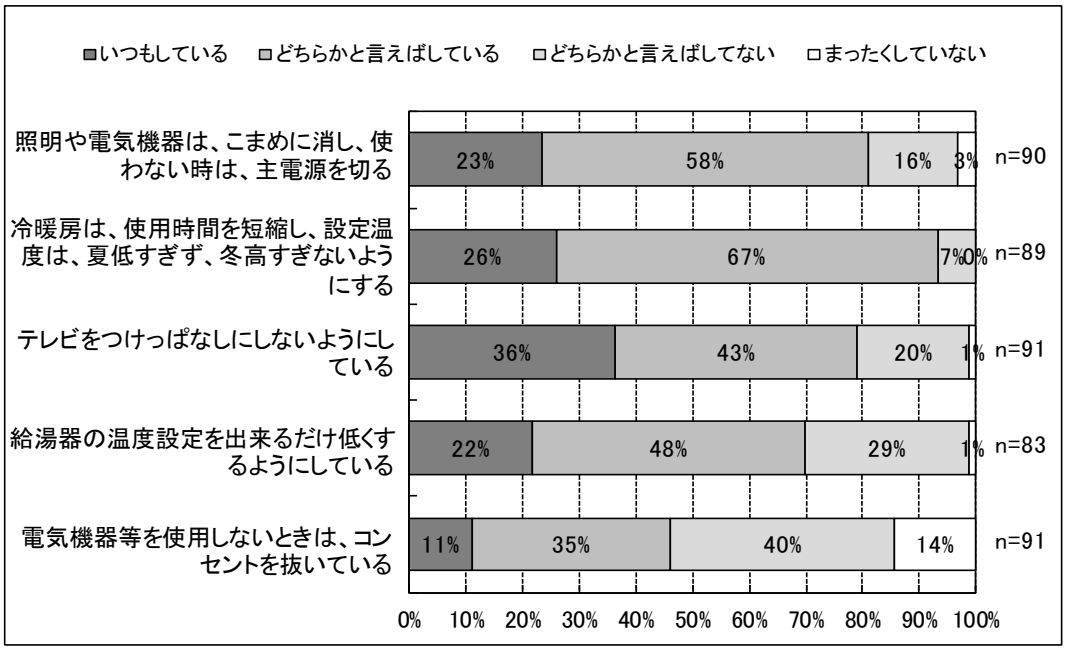


図 88　年代別分析　50 歳代

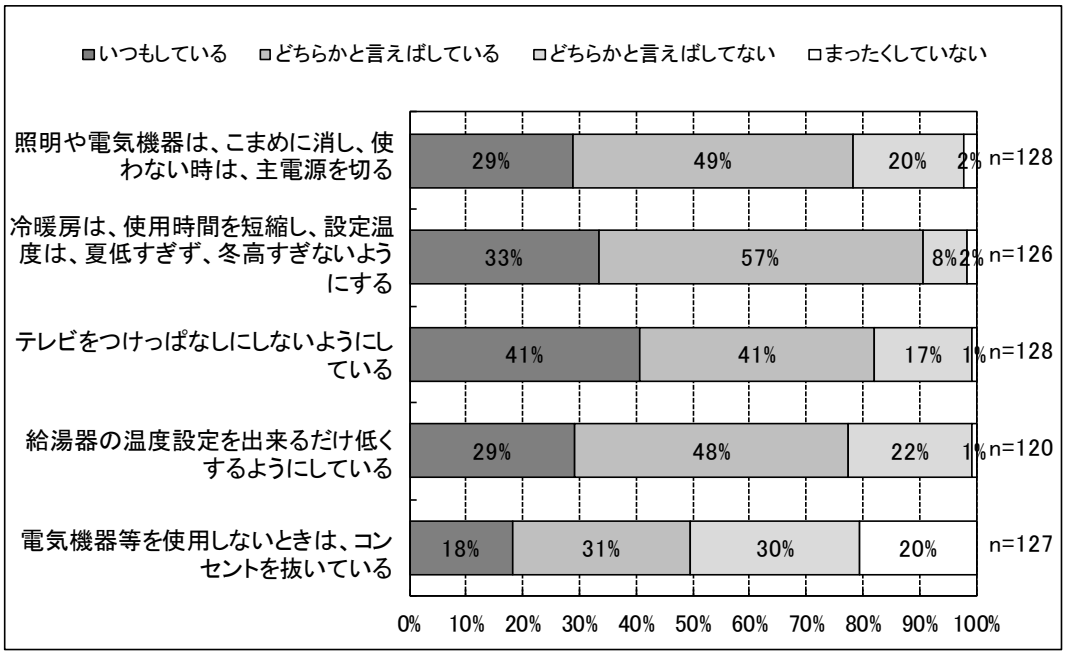


図 89　年代別分析　60 歳代

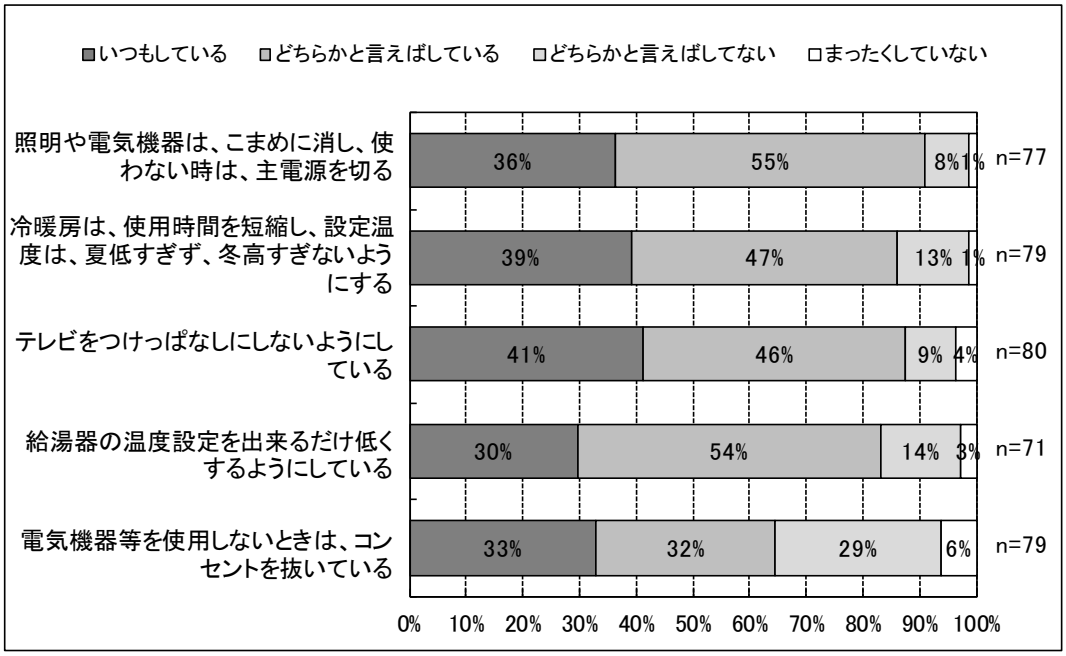


図 90　年代別分析　70 歳代

3) 設問 9-3 節水について

節水（項目ごとに最も近い答えを 1 つ選んで下さい） ※項目は下記集計結果を参照	
1. いつもしている 2. どちらかと言えばしている	3. どちらかと言えばしていない 4. まったくしていない

a) 全体

「洗濯は、まとめ洗いをする」に関しての取組が最も多く、一方で「お風呂の残り湯を、洗濯、洗車、植木の水やりに使う」に関しての取組が最も少ない。
平成 19 年度と比較して、全体的な傾向に大きな変化は見られない。

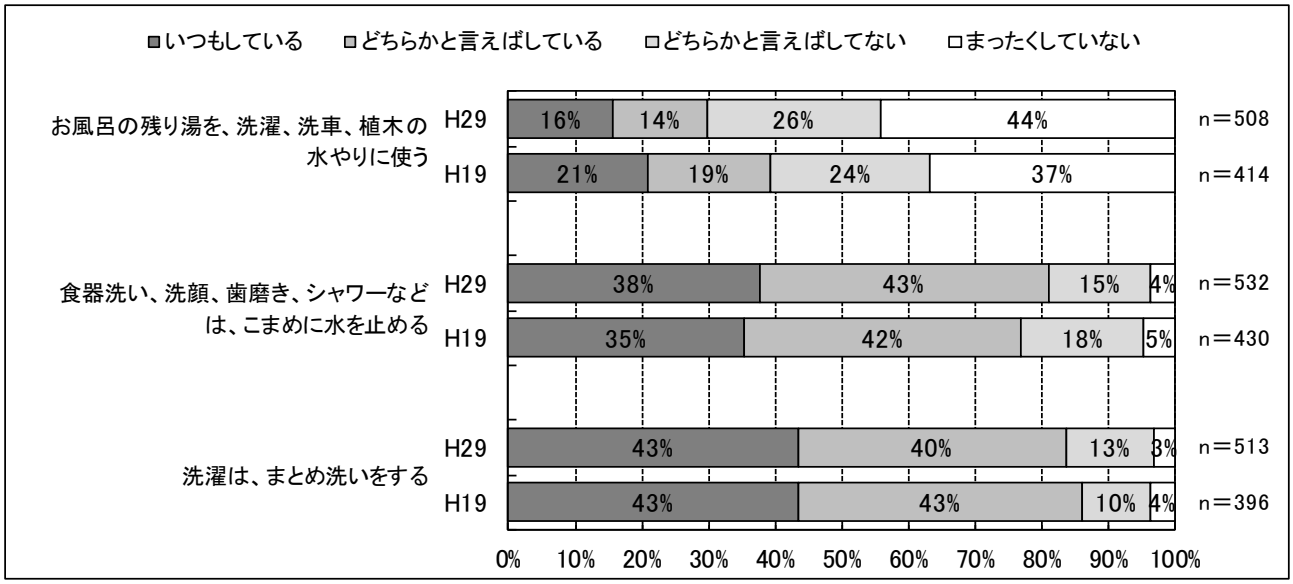


図 91 節水

表 28 節水

			いつもしている	どちらかと言えばしている	どちらかと言えばしてない	まったくしていない	計(無回答を除く)
お風呂の残り湯を、洗濯、洗車、植木の水やりに使う	H29	(回答数)	80	71	133	224	508
		(%)	16%	14%	26%	44%	100%
	H19	(%)	21%	19%	24%	37%	100%
食器洗い、洗顔、歯磨き、シャワーなどは、こまめに水を止める	H29	(回答数)	200	231	82	19	532
		(%)	38%	43%	15%	4%	100%
	H19	(%)	35%	42%	18%	5%	100%
洗濯は、まとめ洗いをする	H29	(回答数)	223	206	68	16	513
		(%)	43%	40%	13%	3%	100%
	H19	(%)	43%	43%	10%	4%	100%

b) クロス集計

年齢層別に比較すると、10・20・40・60 歳代では「洗濯は、まとめ洗いをする」、30・50・70 歳代では「食器洗い、洗顔、歯磨き、シャワーなどは、こまめに水を止める」に関しての取組が最も多く、一方でどの年代も「お風呂の残り湯を、洗濯、洗車、植木の水やりに使う」に関しての取組が最も少ない。

①年代別分析

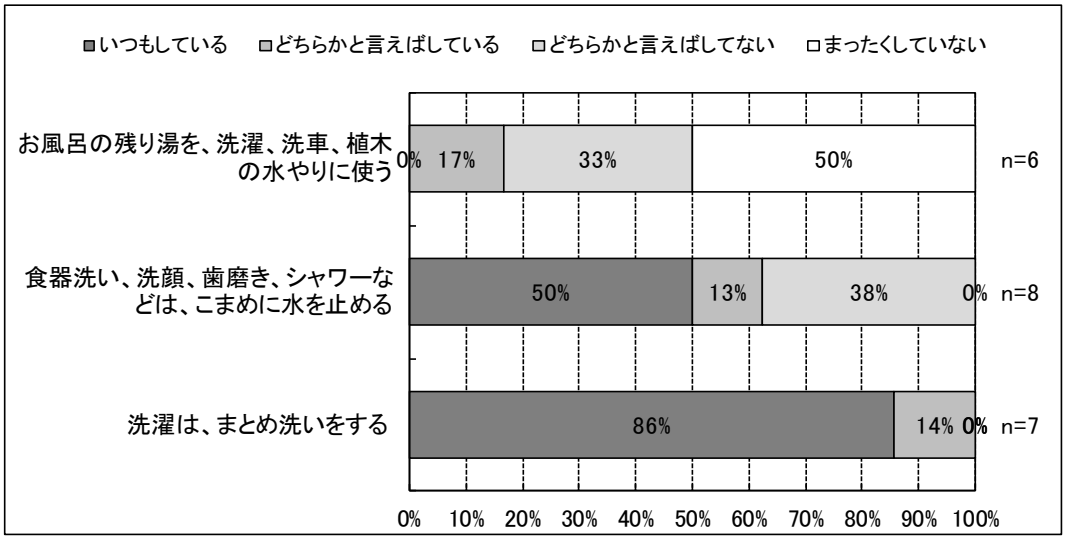


図 92　年代別分析　10 歳代

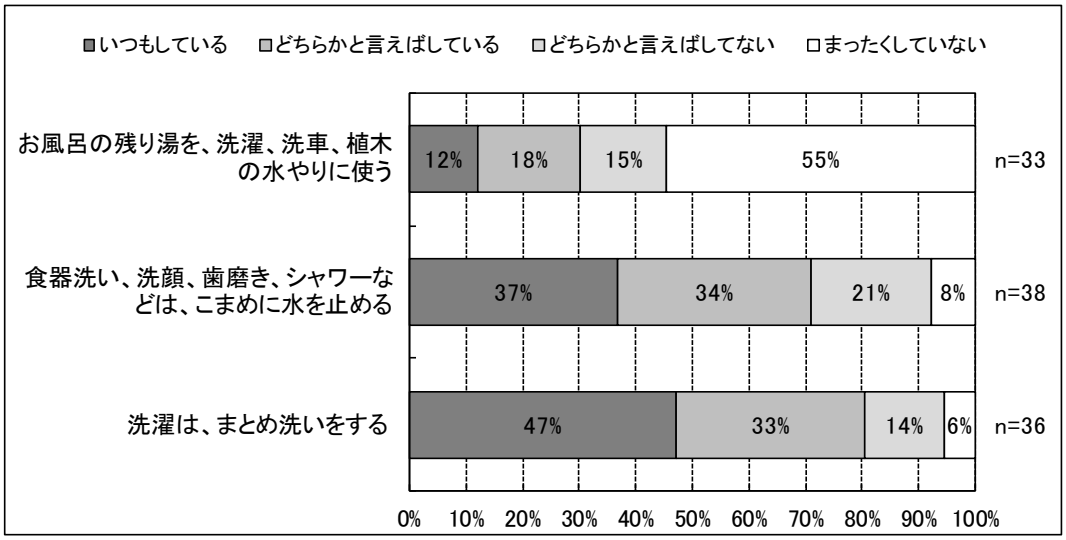


図 93　年代別分析　20 歳代

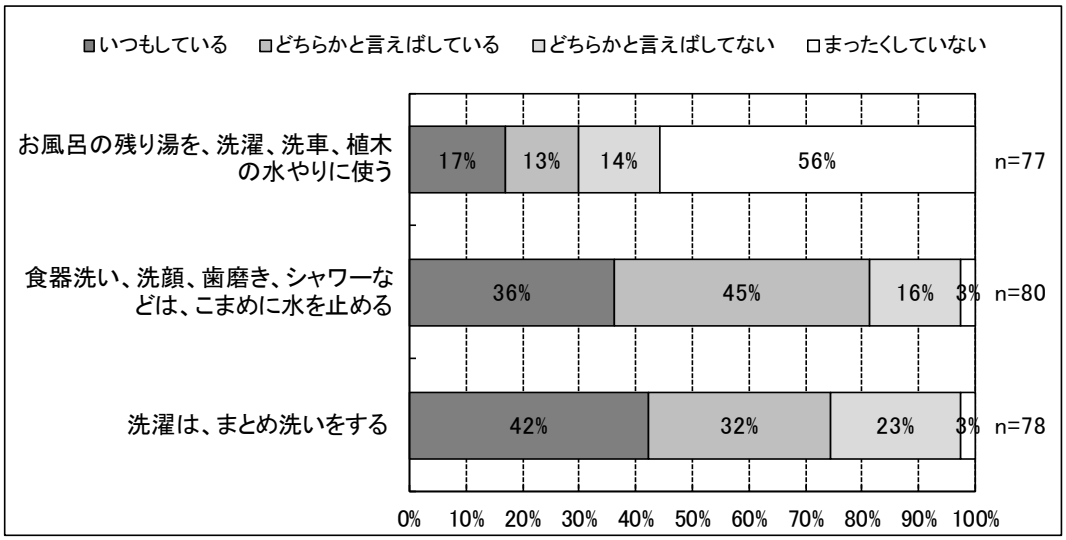


図 94　年代別分析　30 歳代

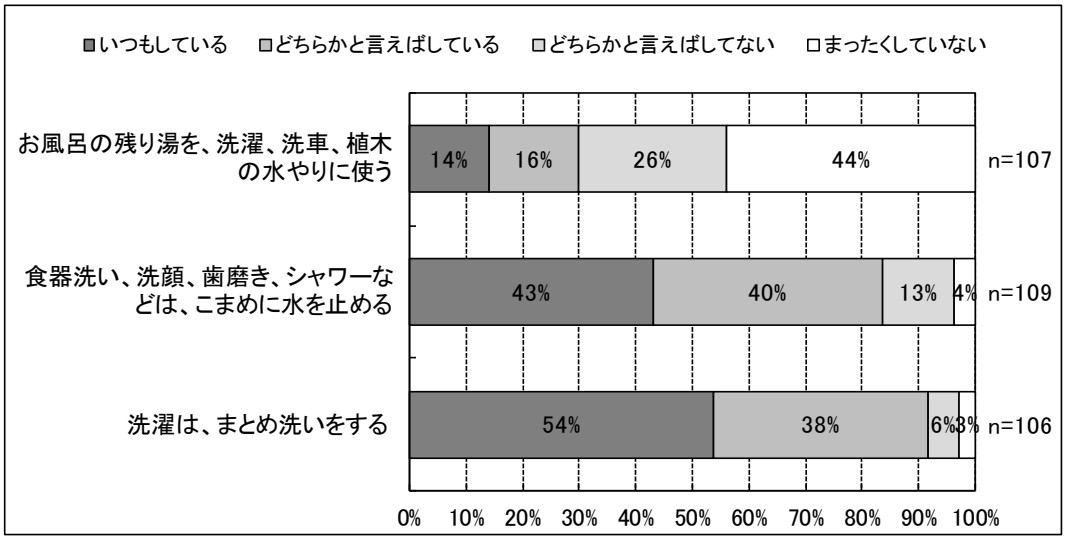


図 95　年代別分析　40 歳代

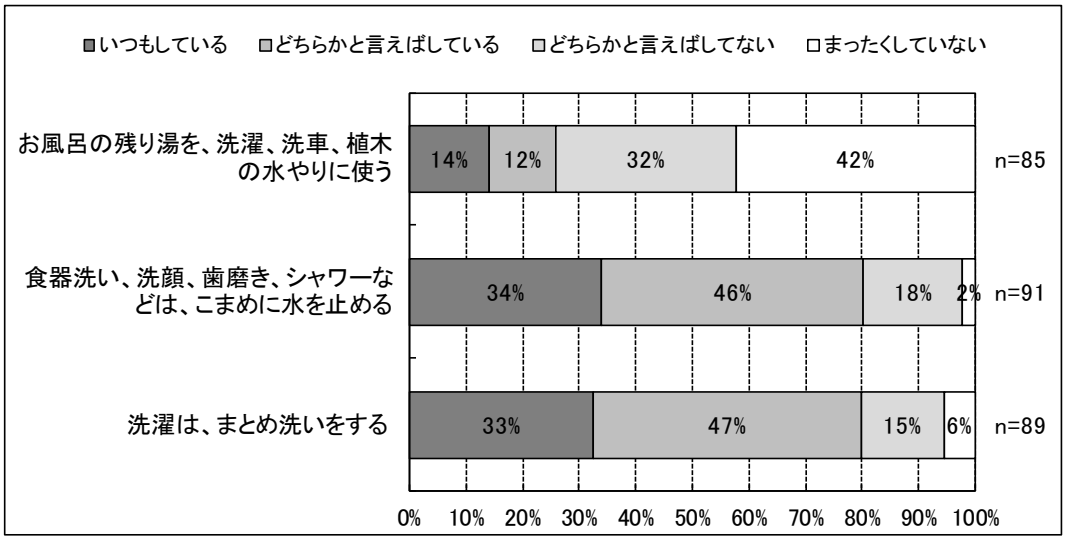


図 96　年代別分析　50 歳代

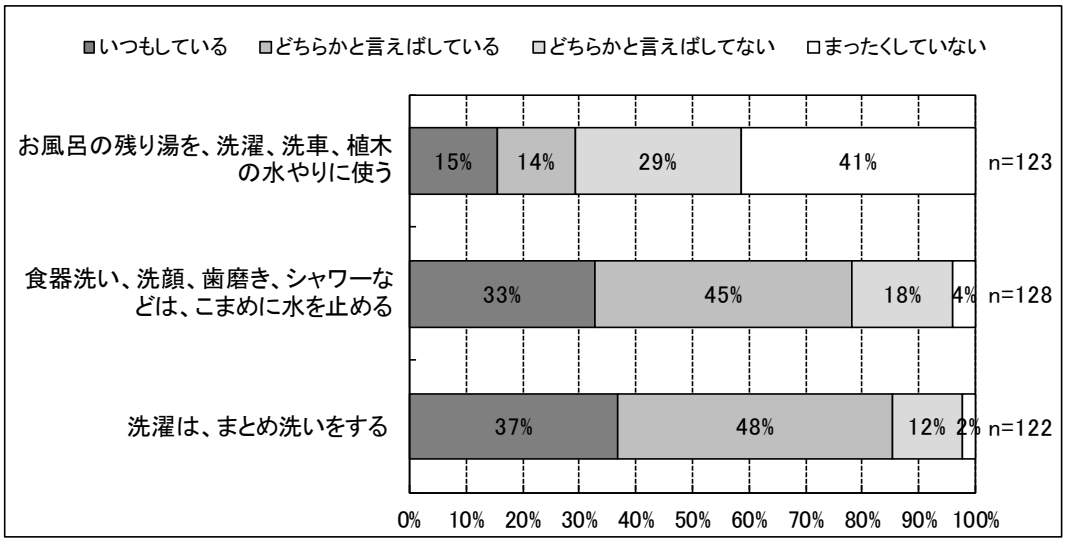


図 97　年代別分析　60 歳代

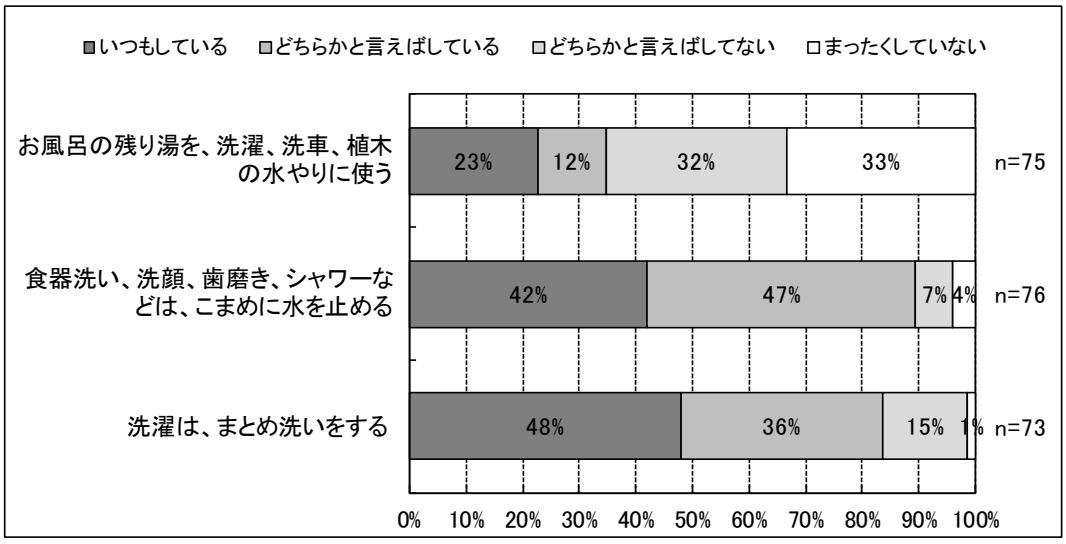


図 98　年代別分析　70 歳代

4) 設問 9-4 自動車の使い方

自動車の使い方（各項目ごとに最も近い答えを 1 つ選んで下さい。なお、自動車をお持ちでない方は、「該当しない」に○をつけて下さい） ※項目は下記集計結果を参照	
1. いつもしている 2. どちらかと言えばしている	3. どちらかと言えばしていない 4. まったくしていない

a) 全体

「人を待つ時や荷物の積み下ろしをする時は、車のエンジンを止めている」に関しての取組が最も多く、一方で「車の使用を控え、歩き、自転車、バス等を利用する」に関しての取組が最も少ない。
平成 19 年度と比較して、全体的な傾向に大きな変化は見られない。

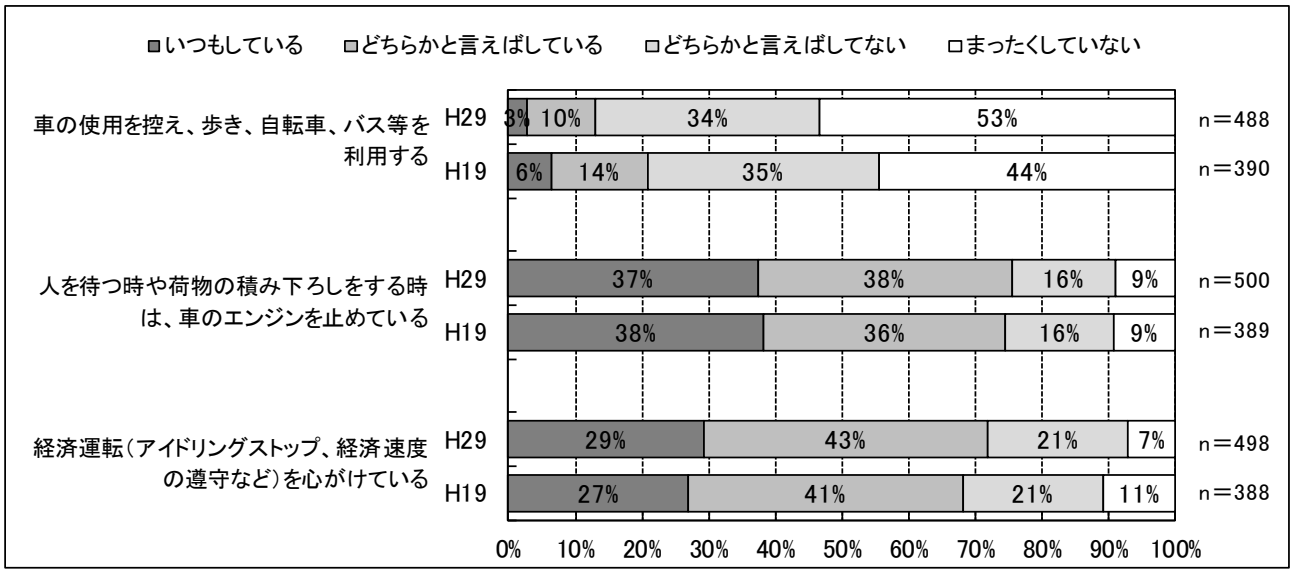


図 99 自動車の使い方

表 29 自動車の使い方

			いつもしている	どちらかと言えばしている	どちらかと言えばしてない	まったくしていない	計(無回答を除く)
車の使用を控え、歩き、自転車、バス等を利用する	H29	(回答数)	13	51	164	260	488
		(%)	3%	10%	34%	53%	100%
	H19	(%)	6%	14%	35%	44%	100%
人を待つ時や荷物の積み下ろしをする時は、車のエンジンを止めている	H29	(回答数)	187	190	78	45	500
		(%)	37%	38%	16%	9%	100%
	H19	(%)	38%	36%	16%	9%	100%
経済運転（アイドリングストップ、経済速度の遵守など）を心がけている	H29	(回答数)	146	212	105	35	498
		(%)	29%	43%	21%	7%	100%
	H19	(%)	27%	41%	21%	11%	100%

b) クロス集計

年齢層別に比較すると、どの年代も「人を待つ時や荷物の積み下ろしをする時は、車のエンジンを止めている」、「経済運転を心がけている」に関しての取組が最も多く、一方でどの年代も「車の使用を控え、歩き、自転車、バス等を利用する」に関しての取組が最も少ない。

①年代別分析

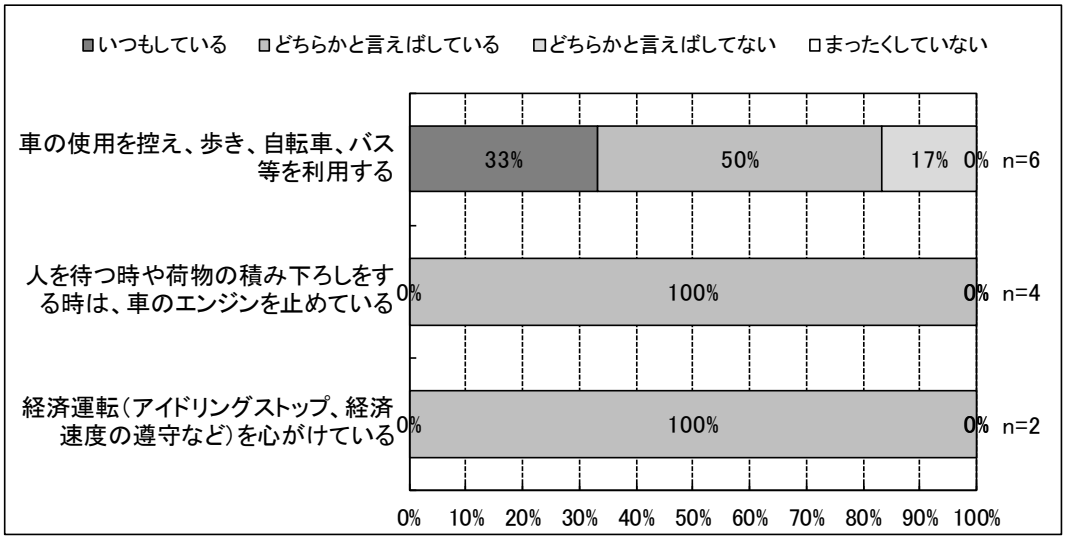


図 100　年代別分析　10 歳代

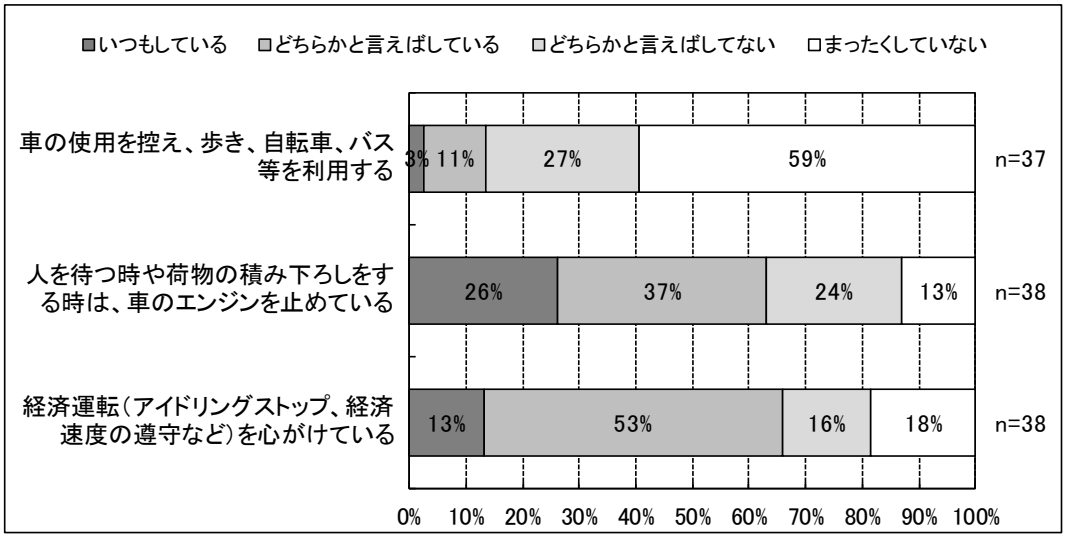


図 101　年代別分析　20 歳代

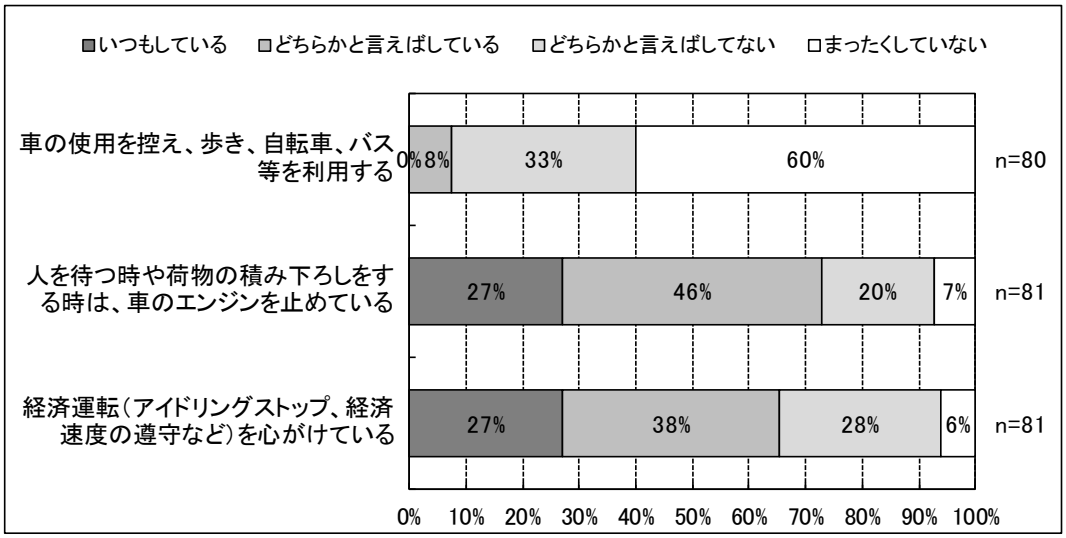


図 102　年代別分析　30 歳代

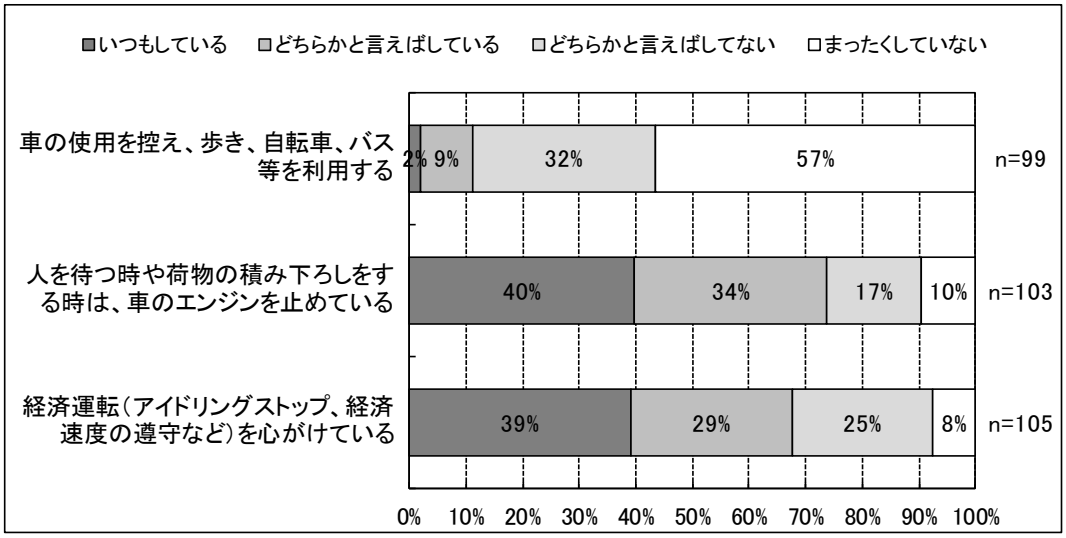


図 103　年代別分析　40 歳代

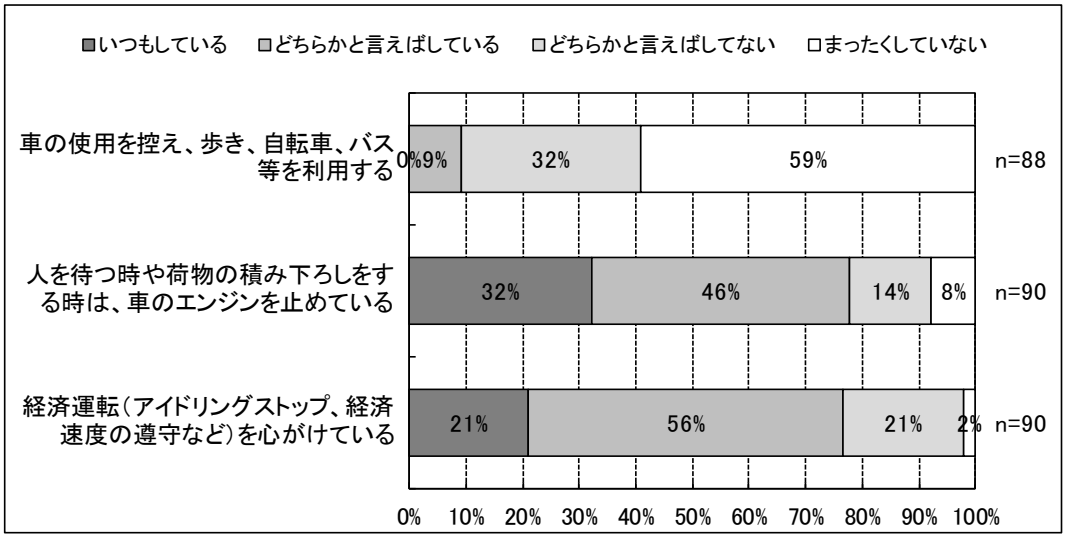


図 104　年代別分析　50 歳代

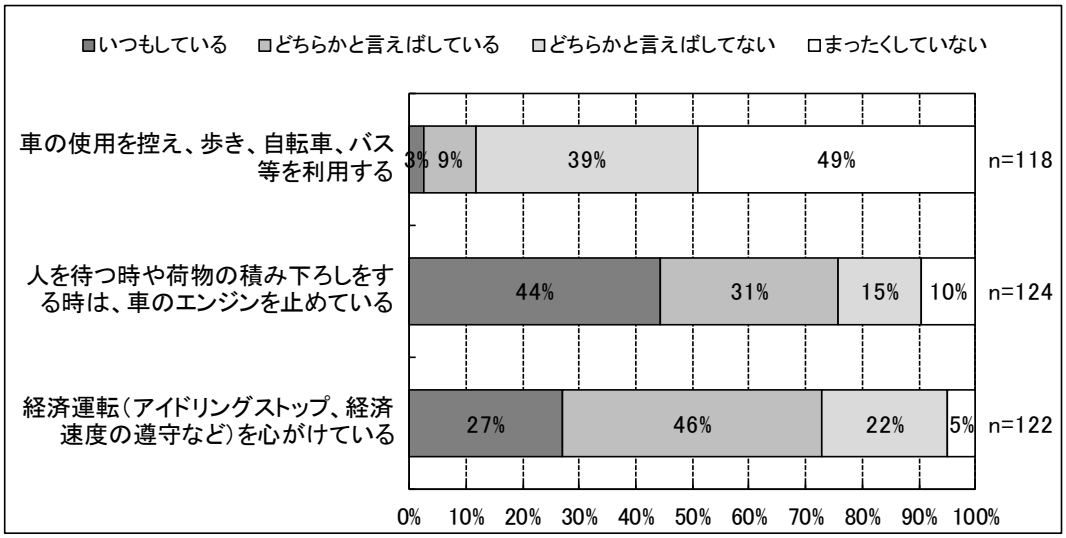


図 105　年代別分析　60 歳代

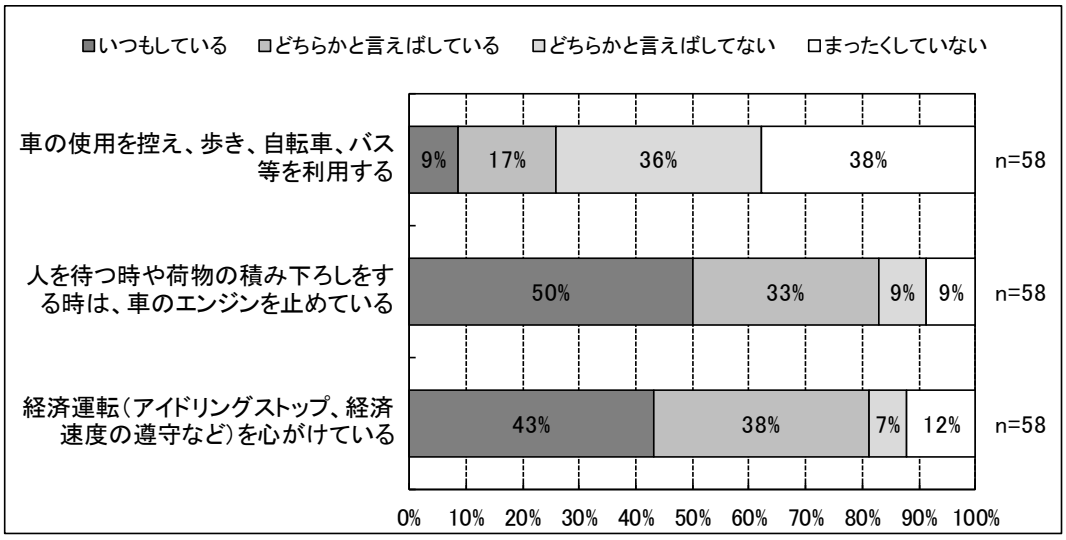


図 106　年代別分析　70 歳代

5) 設問 9-5　廃棄物・環境汚染物質の排出抑制

廃棄物・環境汚染物質の排出抑制（項目ごとに最も近い答えを 1 つ選んで下さい） ※項目は下記集計結果を参照	
1. いつもしている 2. どちらかと言えばしている	3. どちらかと言えばしていない 4. まったくしていない

a) 全体

「決められたごみの出し方を守る」に関しての取組が最も多く、一方で「広告をメモ代わりに使う」に関しての取組が最も少ない。

平成 19 年度と比較して、平成 29 年度では「犬の散歩の時、フンの後始末をする」に関しての取組が大きく上回っている。

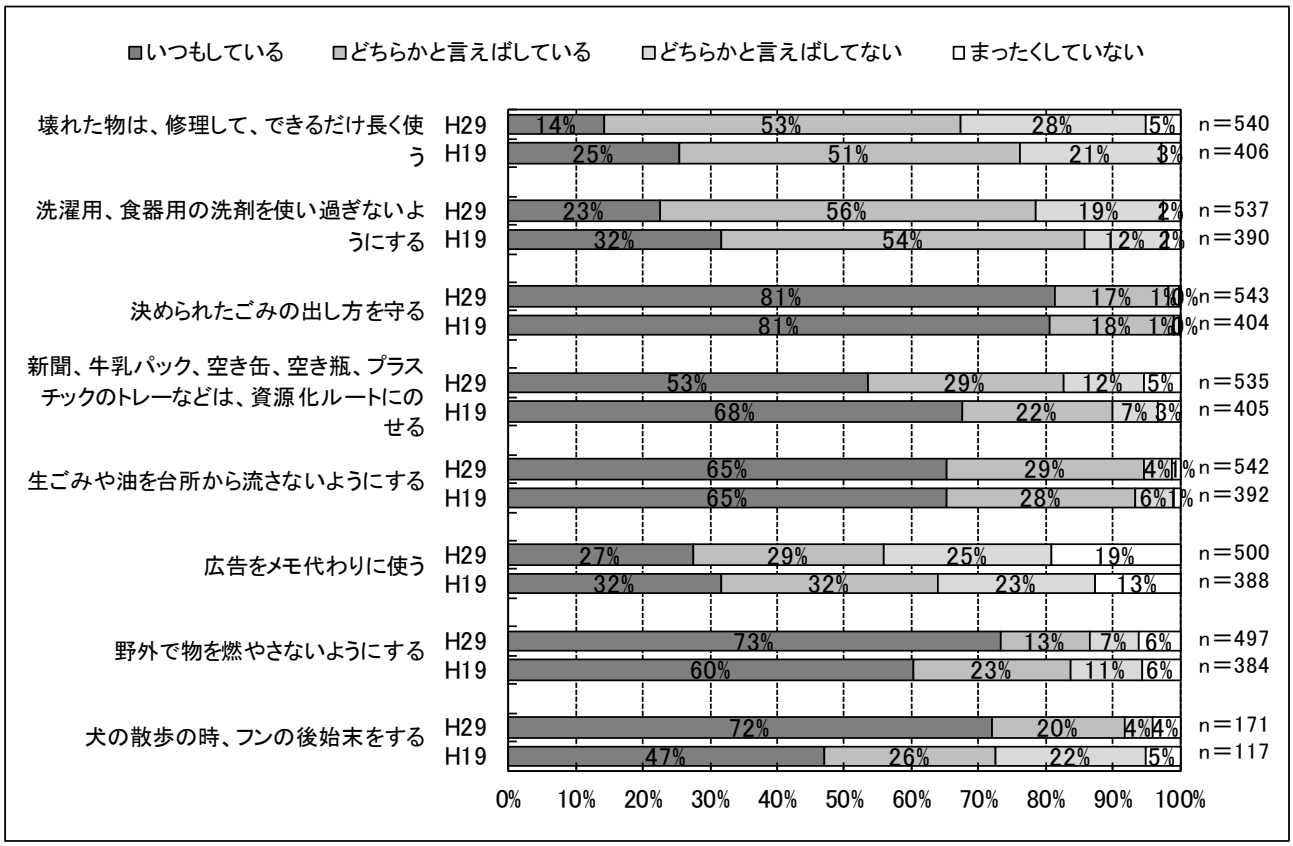


図 107　廃棄物・環境汚染物質の排出抑制

表 30　廃棄物・環境汚染物質の排出抑制

			いつもしている	どちらかと言えばしている	どちらかと言えばしてない	まったくしていない	計(無回答を除く)
壊れた物は、修理して、できるだけ長く使う	H29	(回答数)	77	286	150	27	540
		(%)	14%	53%	28%	5%	100%
	H19	(%)	25%	51%	21%	3%	100%
洗濯用、食器用の洗剤を使い過ぎないようにする	H29	(回答数)	121	300	103	13	537
		(%)	23%	56%	19%	2%	100%
	H19	(%)	32%	54%	12%	2%	100%
決められたごみの出し方を守る	H29	(回答数)	442	92	8	1	543
		(%)	81%	17%	1%	0%	100%
	H19	(%)	81%	18%	1%	0%	100%
新聞、牛乳パック、空き缶、空き瓶、プラスチックのトレーなどは、資源化ルートにのせる	H29	(回答数)	286	156	64	29	535
		(%)	53%	29%	12%	5%	100%
	H19	(%)	68%	22%	7%	3%	100%
生ごみや油を台所から流さないようにする	H29	(回答数)	354	159	23	6	542
		(%)	65%	29%	4%	1%	100%
	H19	(%)	65%	28%	6%	1%	100%
広告をメモ代わりに使う	H29	(回答数)	137	143	124	96	500
		(%)	27%	29%	25%	19%	100%
	H19	(%)	32%	32%	23%	13%	100%
野外で物を燃やさないようにする	H29	(回答数)	364	66	37	30	497
		(%)	73%	13%	7%	6%	100%
	H19	(%)	60%	23%	11%	6%	100%
犬の散歩の時、フンの後始末をする	H29	(回答数)	123	34	7	7	171
		(%)	72%	20%	4%	4%	100%
	H19	(%)	47%	26%	22%	5%	100%

b) クロス集計

年齢層別に比較すると、10 歳代では「犬の散歩の時、フンの後始末をする」、20 歳代では「生ごみや油を台所から流さないようにする」、30～70 歳代では「決められたごみの出し方を守る」に関しての取組が最も多い。一方で 20～70 歳代では「広告をメモ代わりに使う」に関しての取組が最も少ない。

①年代別分析

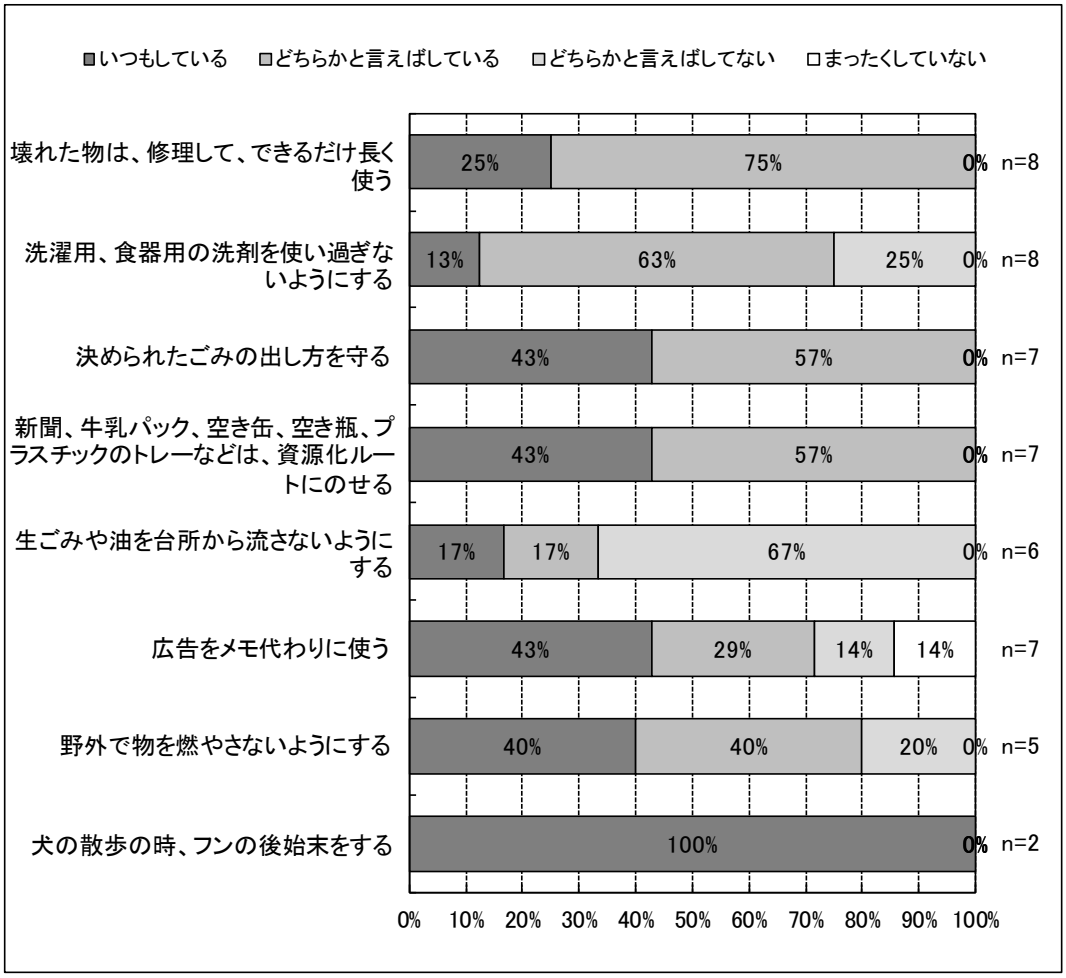


図 108　年代別分析　10 歳代

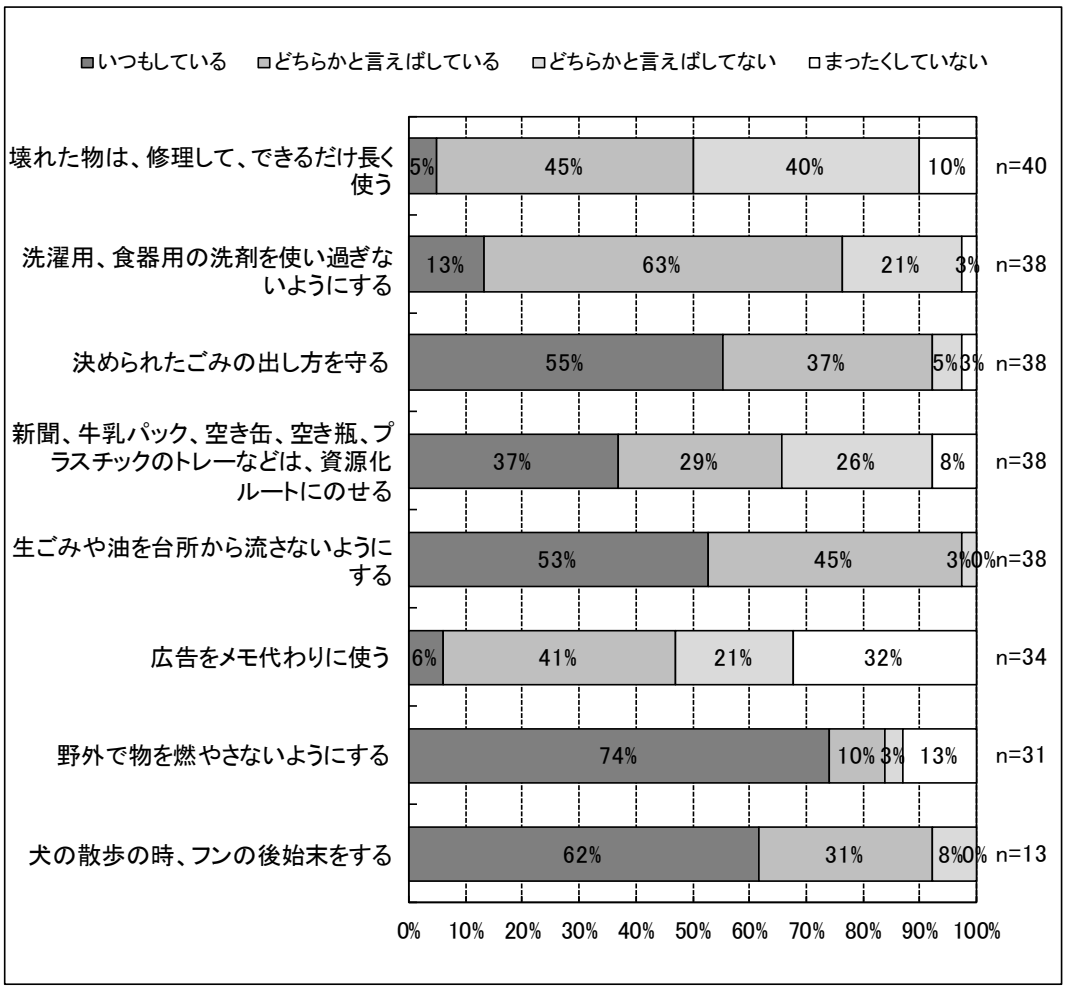


図 109　年代別分析　20 歳代

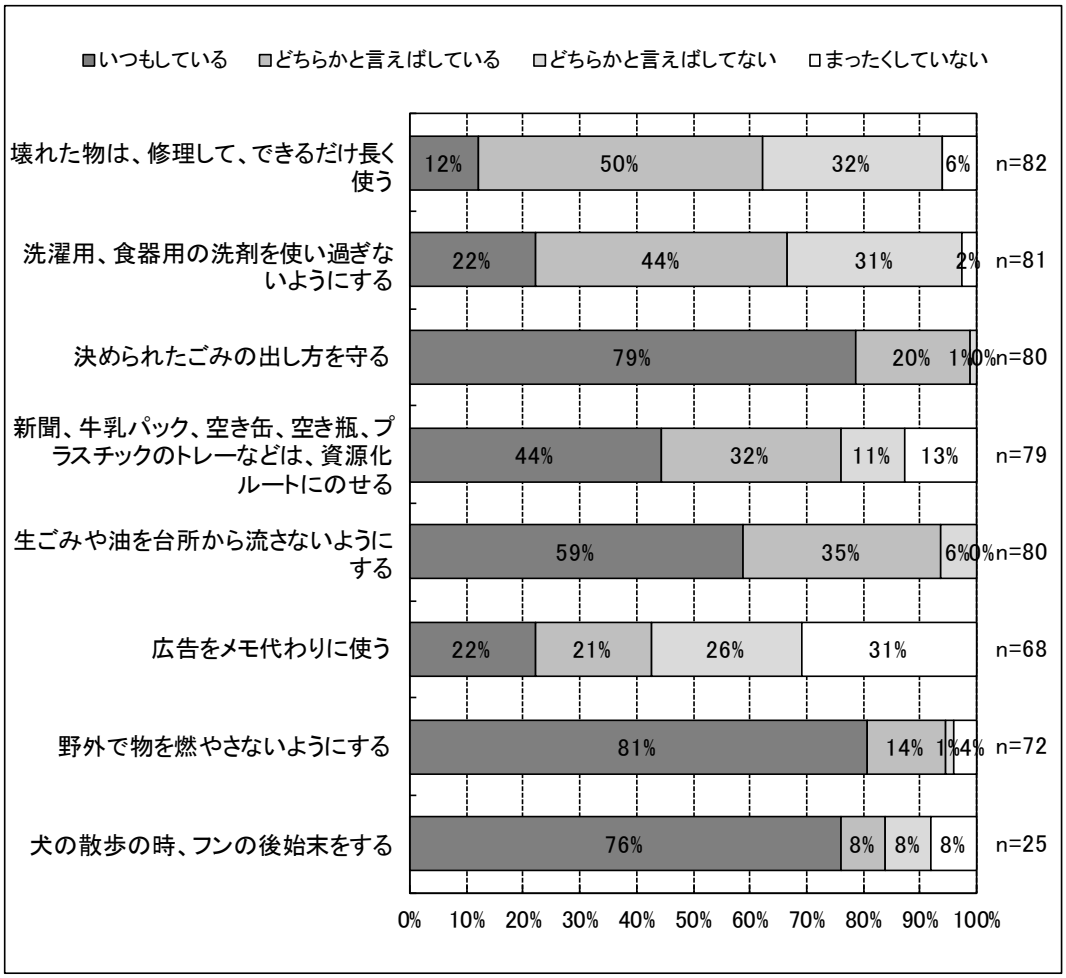


図 110　年代別分析　30 歳代

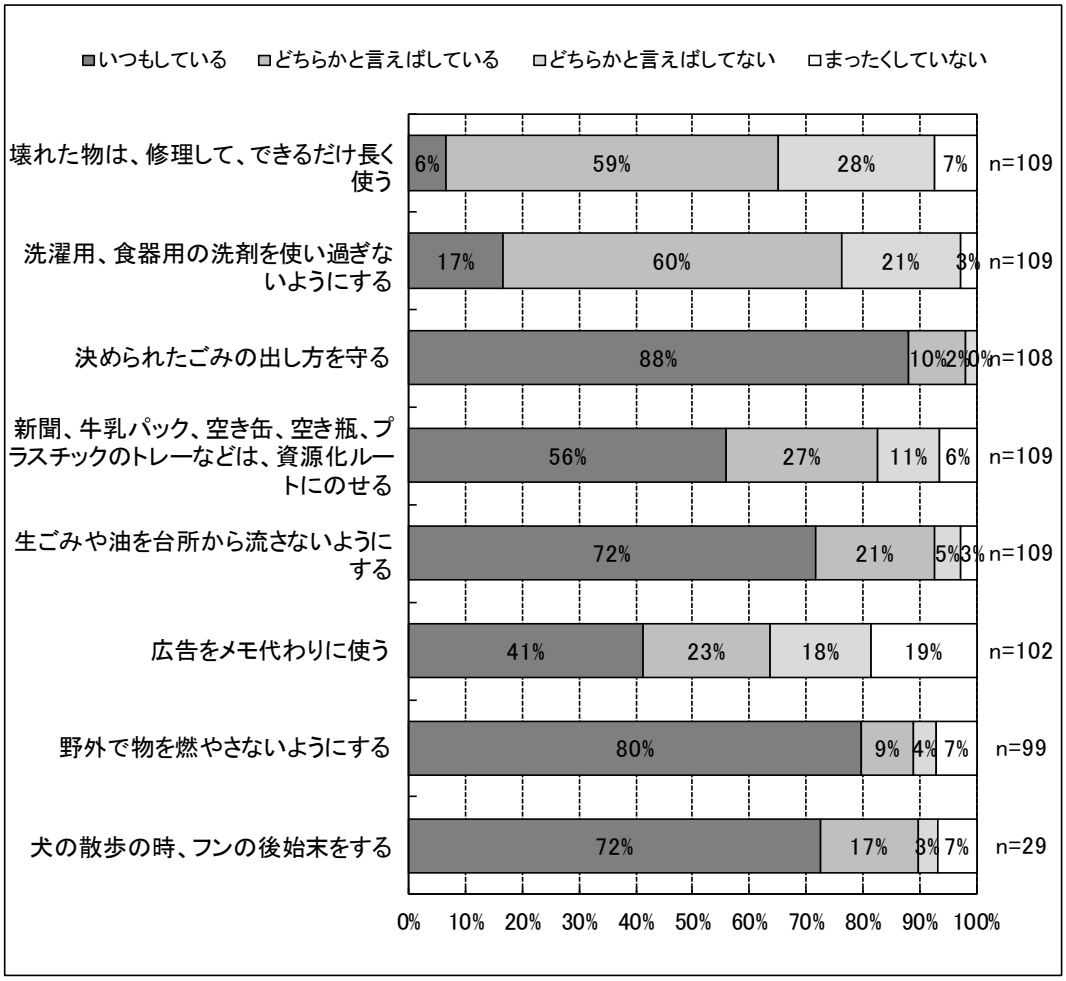


図 111　年代別分析　40 歳代

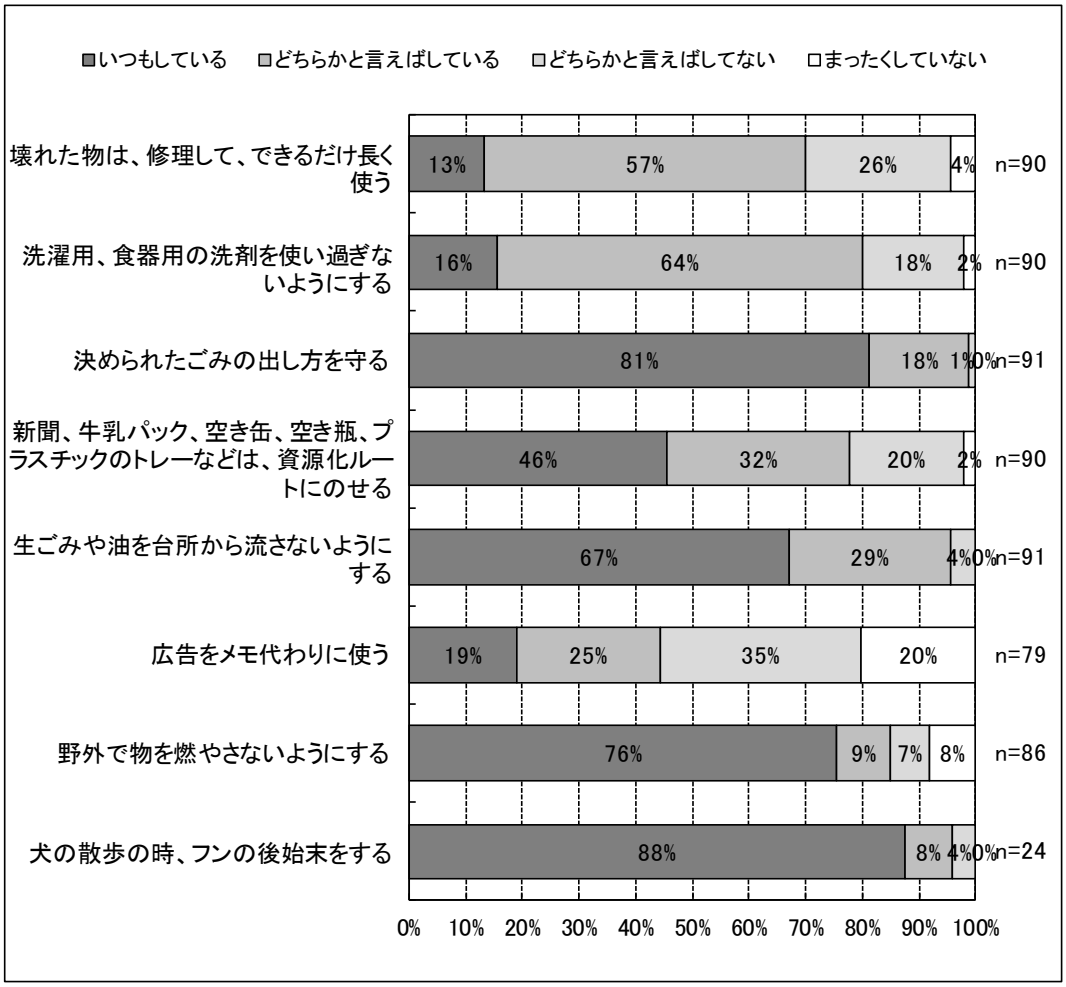


図 112　年代別分析　50 歳代

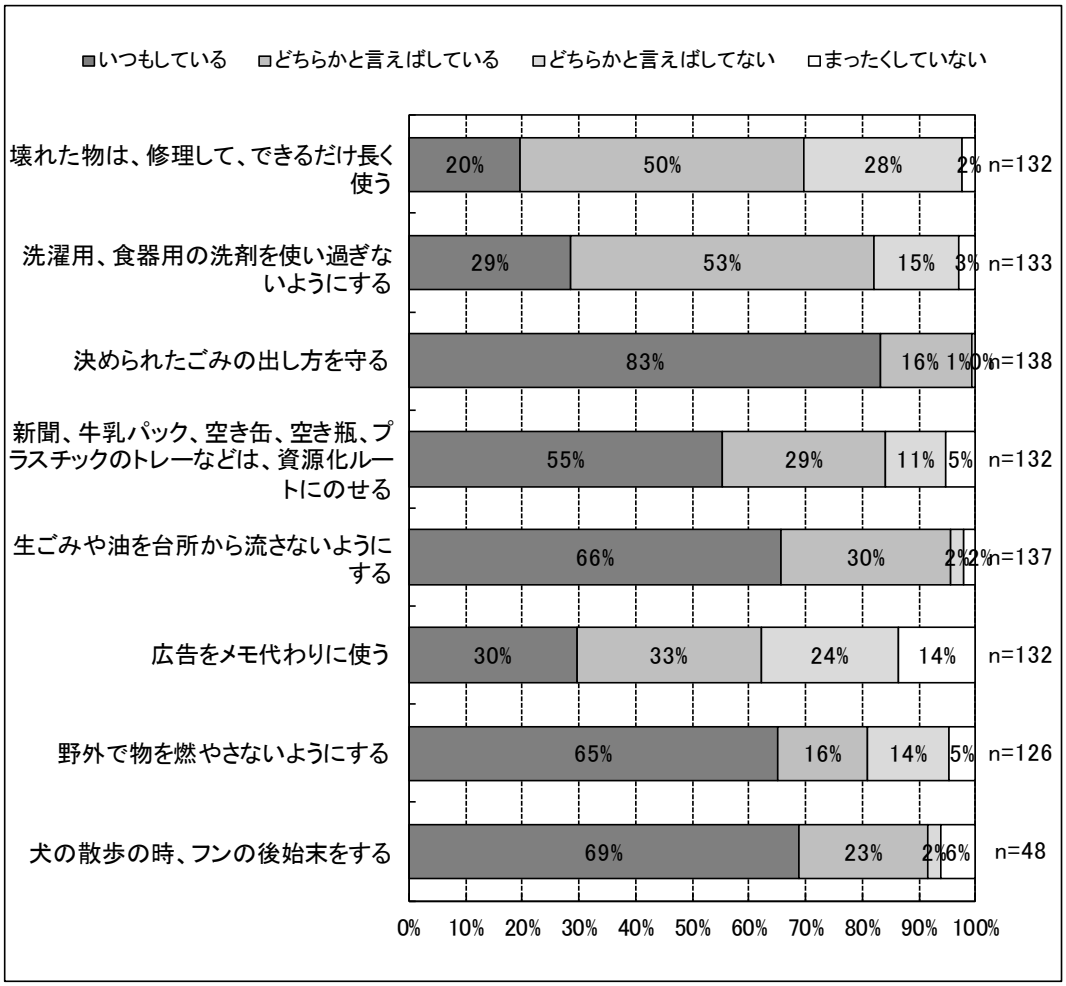


図 113　年代別分析　60 歳代

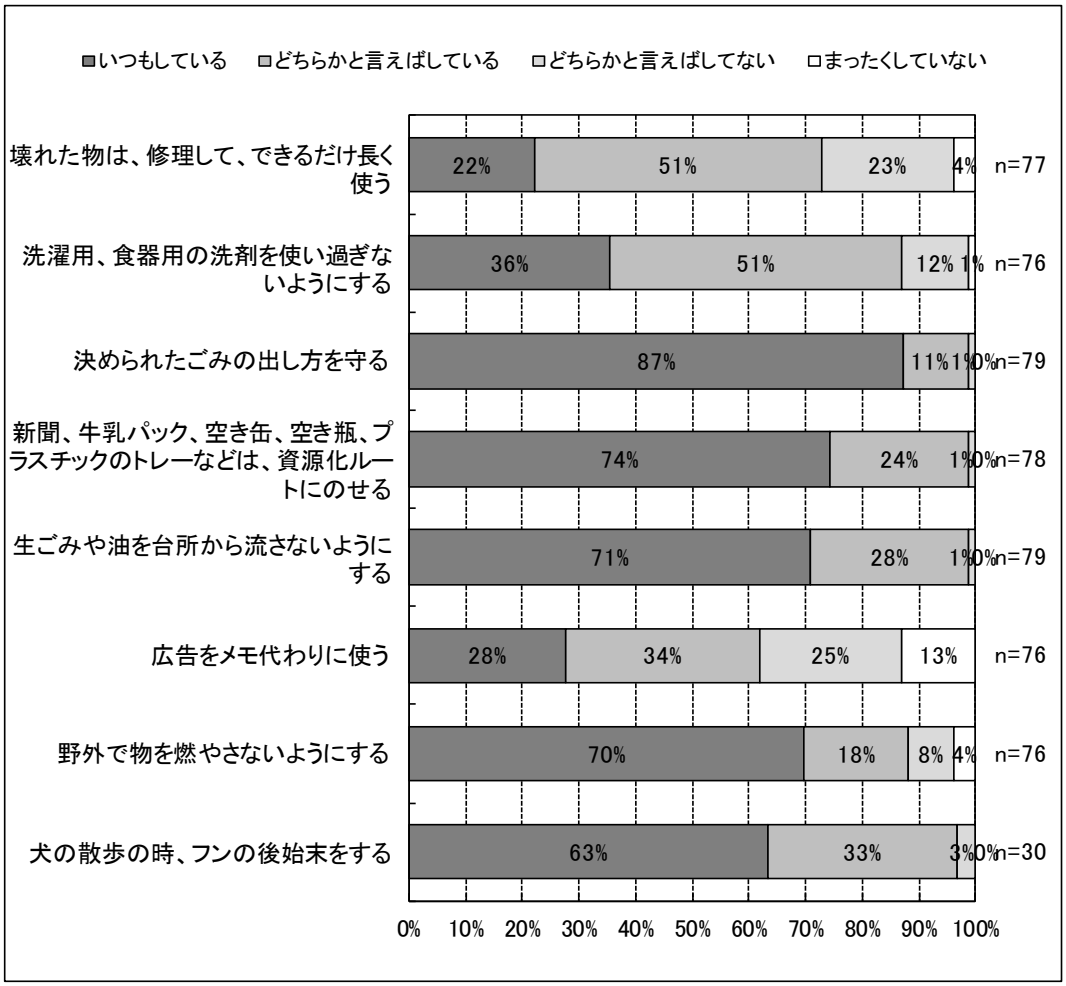


図 114　年代別分析　70 歳代

6) 設問 9-6 自然や身の回りの環境

自然や身の回りの環境 ※項目は下記集計結果を参照	
1. いつもしている 2. どちらかと言えばしている	3. どちらかと言えばしていない 4. まったくしていない

a) 全体

「音やにおい等について、近隣に配慮する」に関しての取組が最も多く、一方で「自治会などの緑化活動に参加する」に関しての取組が最も少ない。
平成 19 年度と比較して、全体的な傾向に大きな変化は見られない。

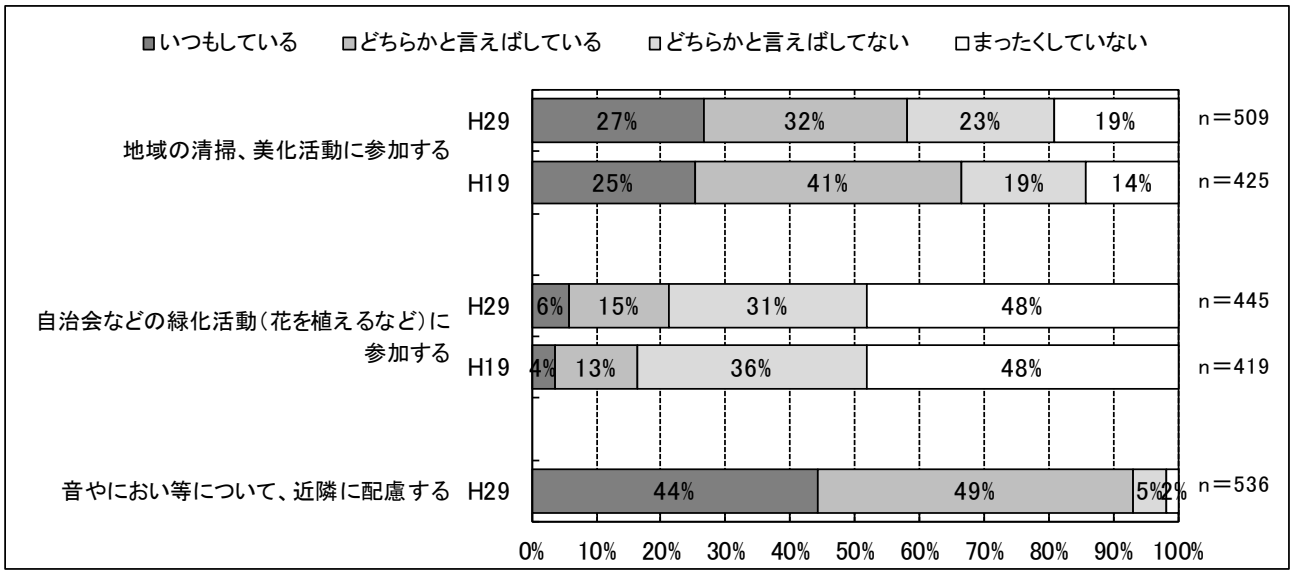


図 115 自然や身の回りの環境

表 31 自然や身の回りの環境

			いつもしている	どちらかと言えばしている	どちらかと言えばしてない	まったくしていない	計（無回答を除く）
地域の清掃、美化活動に参加する	H29	(回答数)	135	161	115	98	509
		(%)	27%	32%	23%	19%	100%
	H19	(%)	25%	41%	19%	14%	100%
自治会などの緑化活動（花を植えるなど）に参加する	H29	(回答数)	26	68	137	214	445
		(%)	6%	15%	31%	48%	100%
	H19	(%)	4%	13%	36%	48%	100%
音やにおい等について、近隣に配慮する	H29	(回答数)	237	262	28	9	536
		(%)	44%	49%	5%	2%	100%

b) クロス集計

年齢層別に比較すると、どの年代も「音やにおい等について、近隣に配慮する」に関しての取組が最も多く、一方でどの年代も「自治会などの緑化活動に参加する」に関しての取組が最も少ない。

①年代別分析

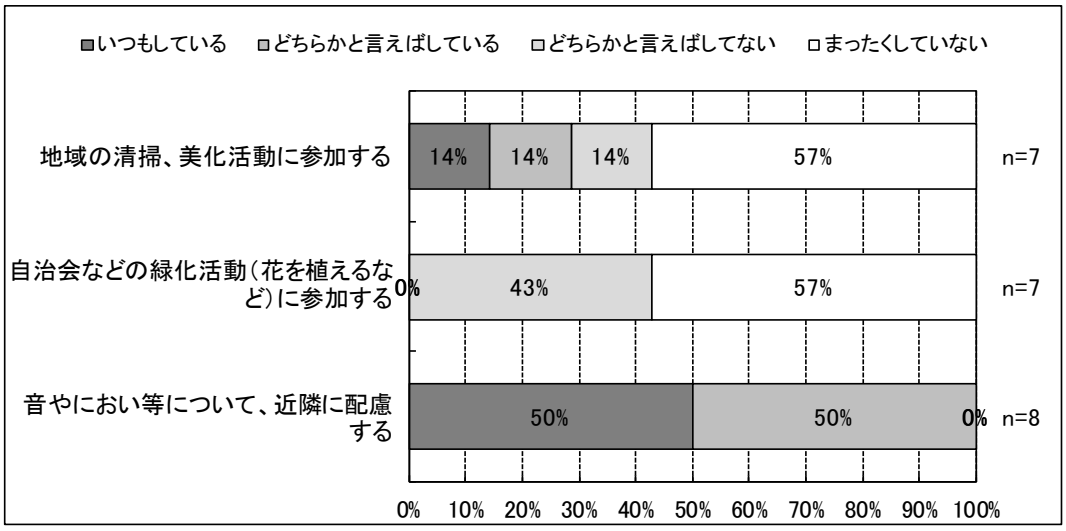


図 116 年代別分析 10 歳代

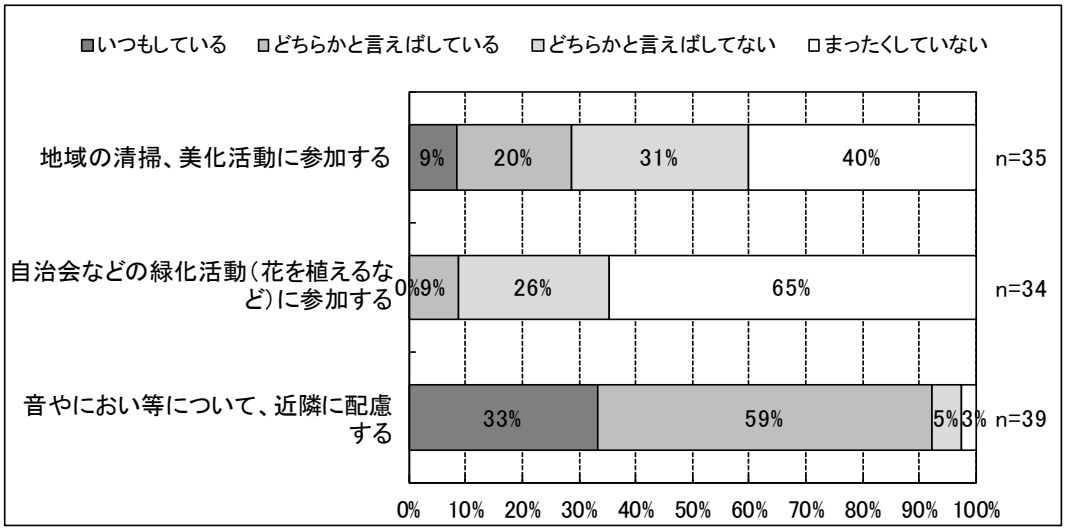


図 117 年代別分析 20 歳代

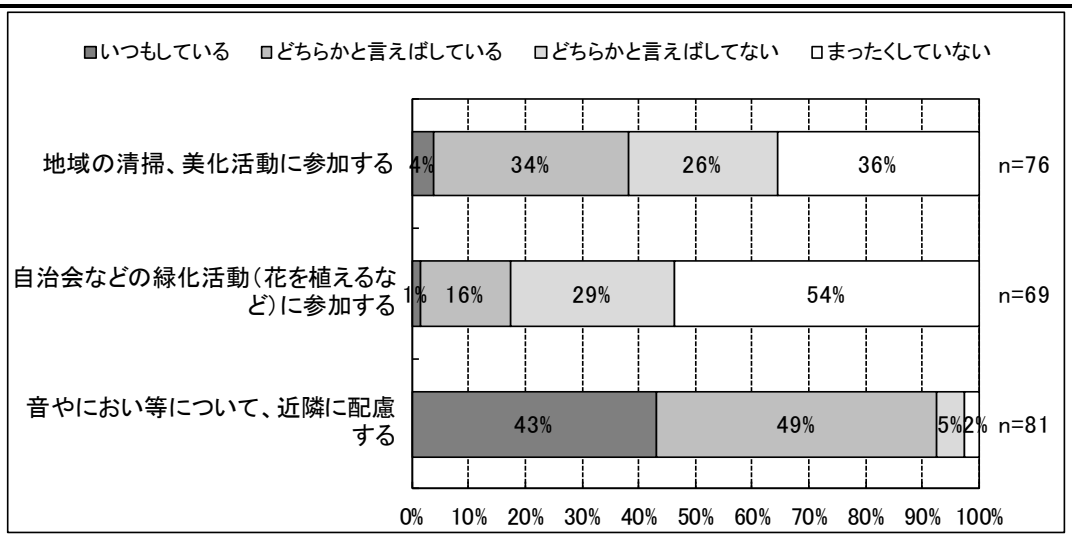


図 118　年代別分析　30 歳代

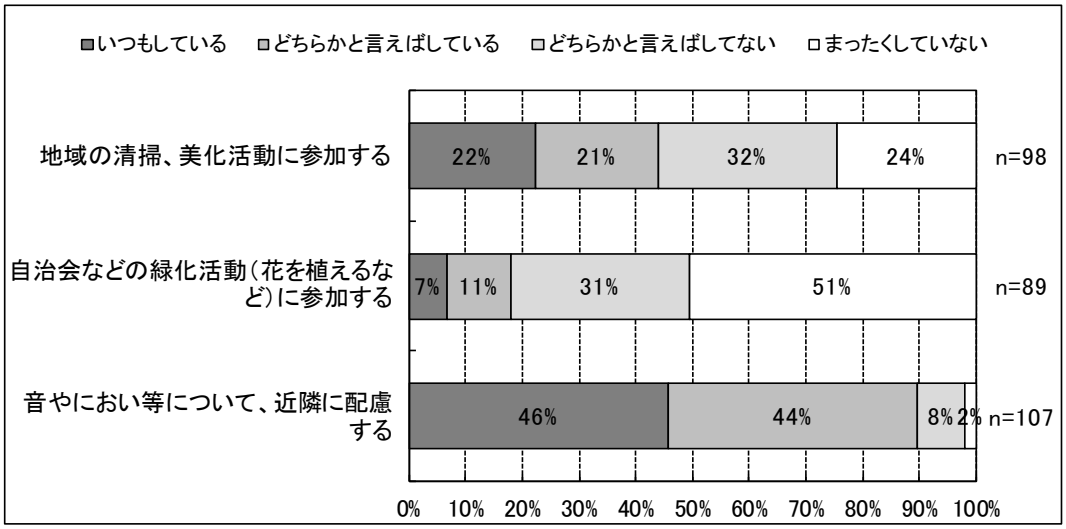


図 119　年代別分析　40 歳代

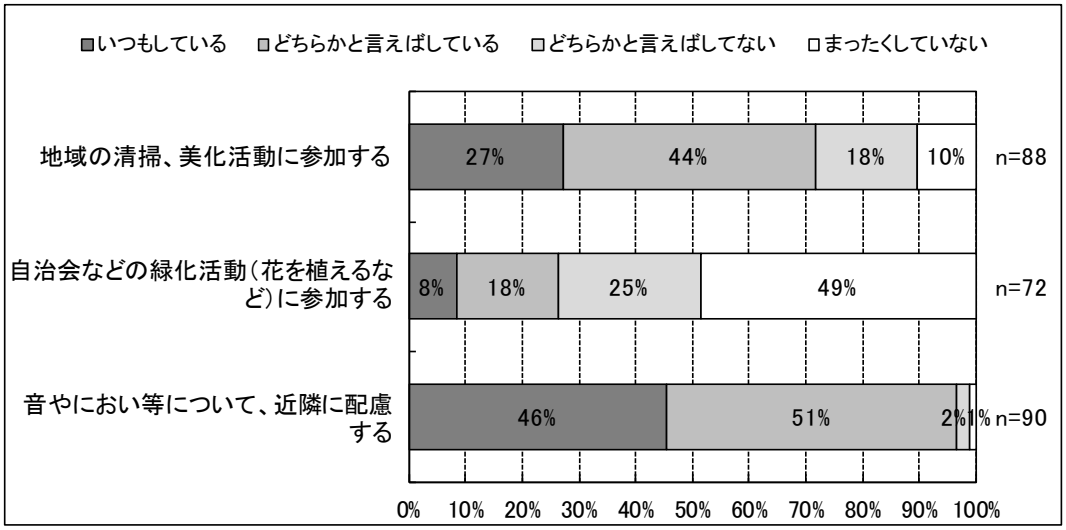


図 120　年代別分析　50 歳代

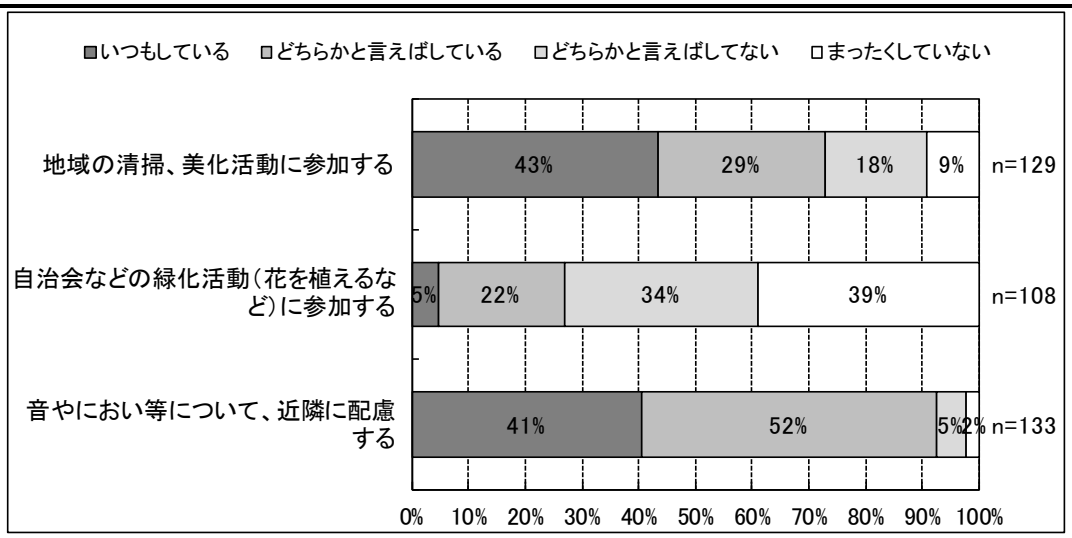


図 121　年代別分析　60 歳代

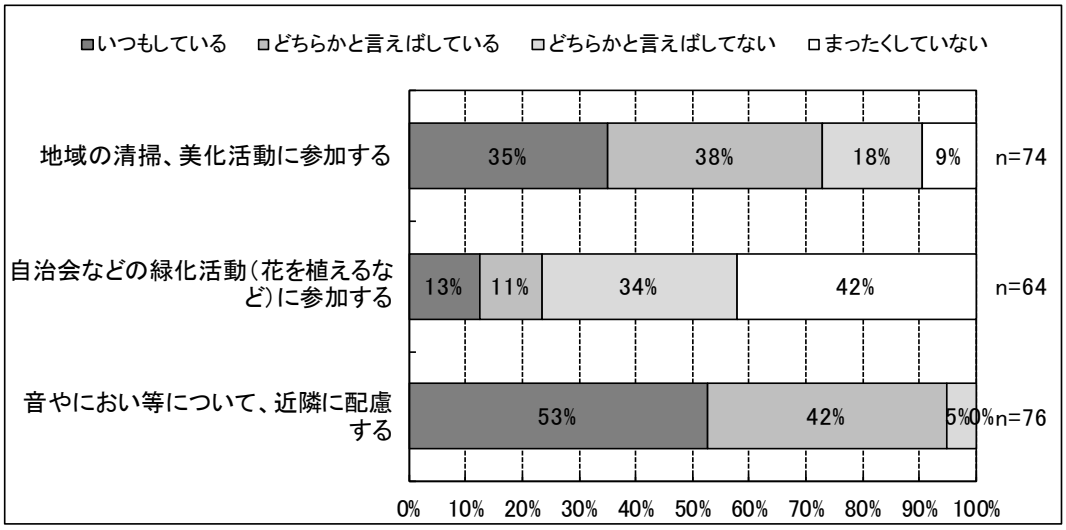


図 122　年代別分析　70 歳代

7) 設問 9-7 その他

その他 ※項目は下記集計結果を参照	
1. いつもしている 2. どちらかと言えばしている	3. どちらかと言えばしていない 4. まったくしていない

a) 全体

「環境問題に関し、新聞記事やテレビなどから情報を得る」に関しての取組が最も多く、一方で「環境保全や自然保護に関する住民活動に参加する」に関しての取組が最も少ない。
平成 19 年度と比較して、全体的な傾向に大きな変化は見られない。

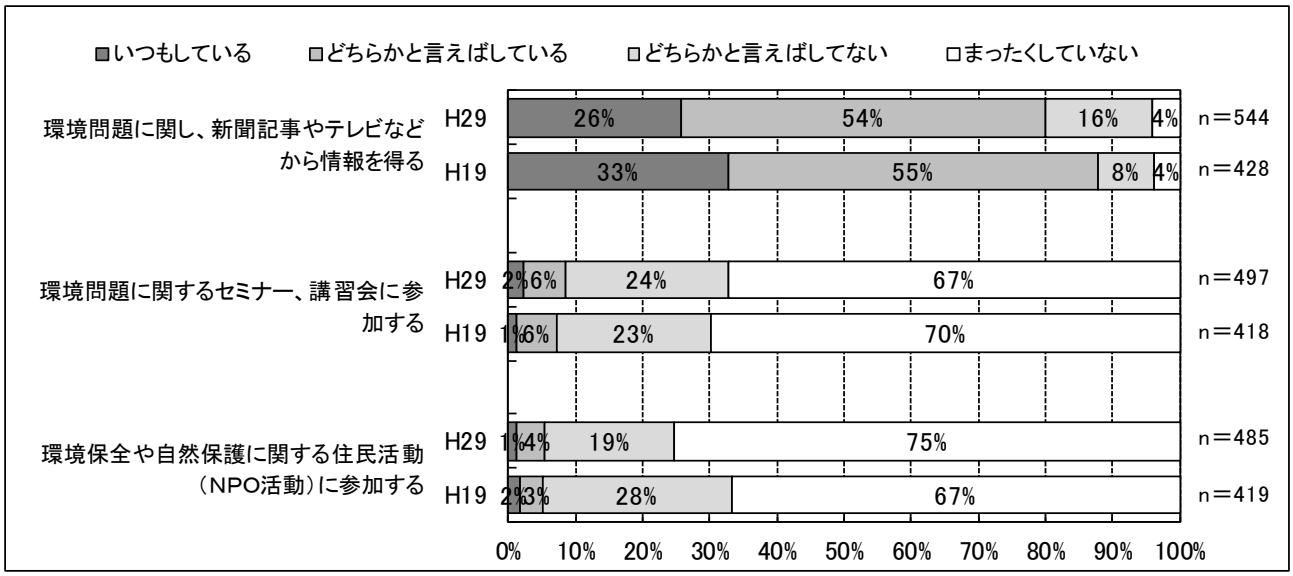


図 123 その他

表 32 その他

			いつもしている	どちらかと言えばしている	どちらかと言えばしてない	まったくしていない	計(無回答を除く)
環境問題に関し、新聞記事やテレビなどから情報を得る	H29	(回答数)	140	295	86	23	544
		(%)	26%	54%	16%	4%	100%
	H19	(%)	33%	55%	8%	4%	100%
環境問題に関するセミナー、講習会に参加する	H29	(回答数)	11	31	121	334	497
		(%)	2%	6%	24%	67%	100%
	H19	(%)	1%	6%	23%	70%	100%
環境保全や自然保護に関する住民活動（ＮＰＯ活動）に参加する	H29	(回答数)	6	20	94	365	485
		(%)	1%	4%	19%	75%	100%
	H19	(%)	2%	3%	28%	67%	100%

b) クロス集計

年齢層別に比較すると、どの年代も「環境問題に関し、新聞記事やテレビなどから情報を得る」に関しての取組が最も多く、一方でどの年代も「環境保全や自然保護に関する住民活動（NPO 活動）に参加する」に関しての取組が最も少ない。

①年代別分析

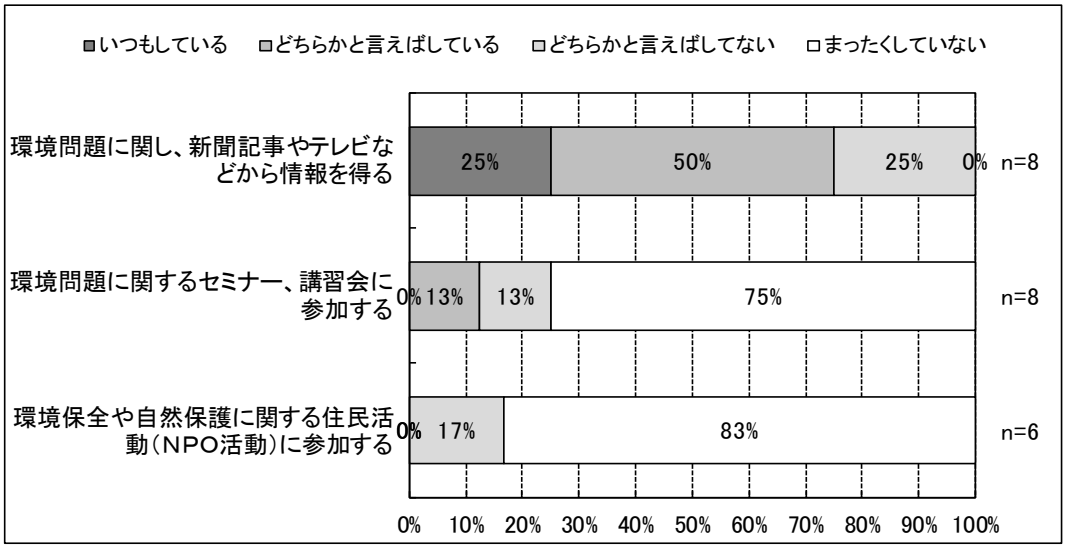


図 124　年代別分析　10 歳代

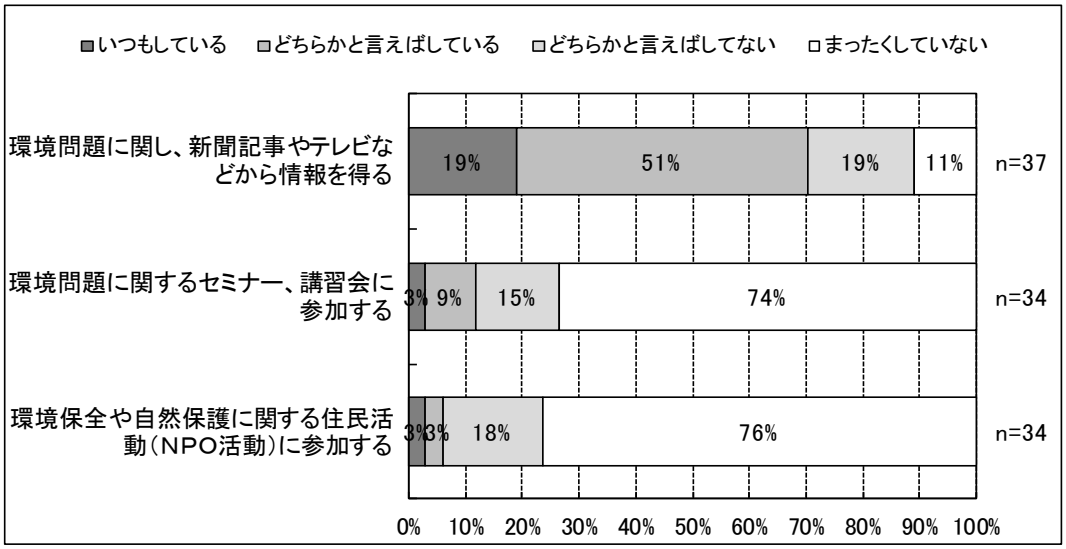


図 125　年代別分析　20 歳代

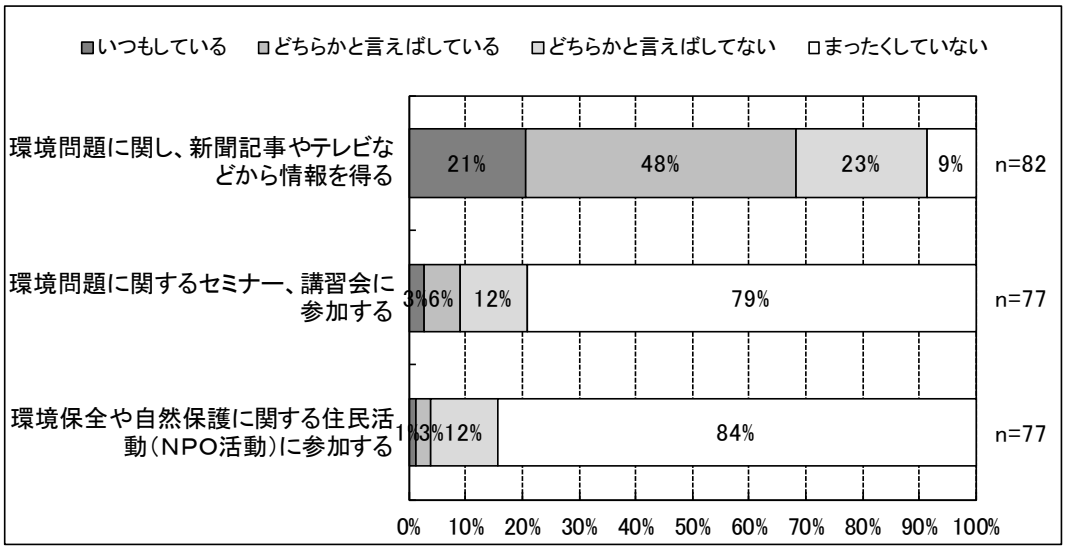


図 126　年代別分析　30 歳代

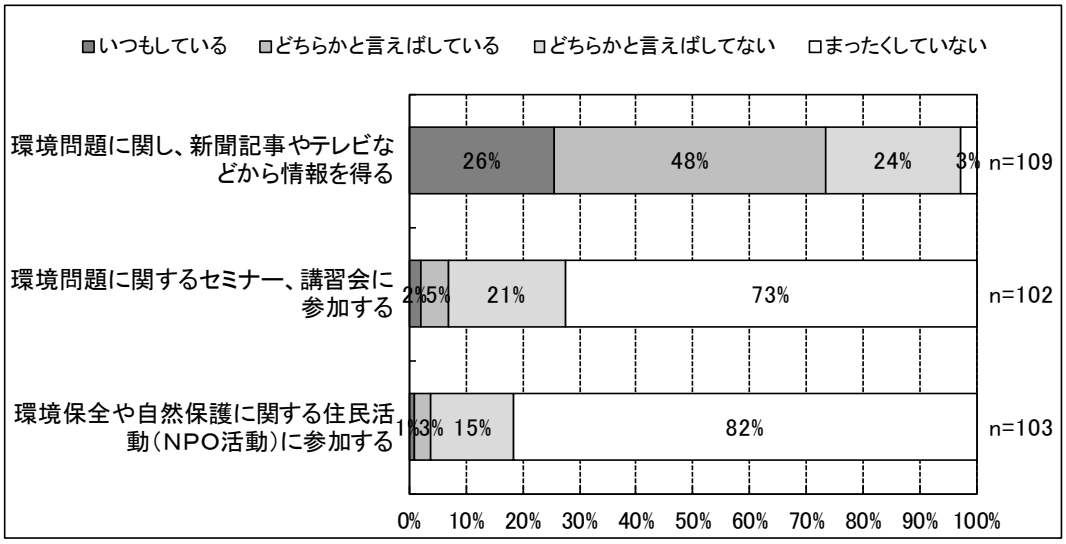


図 127　年代別分析　40 歳代

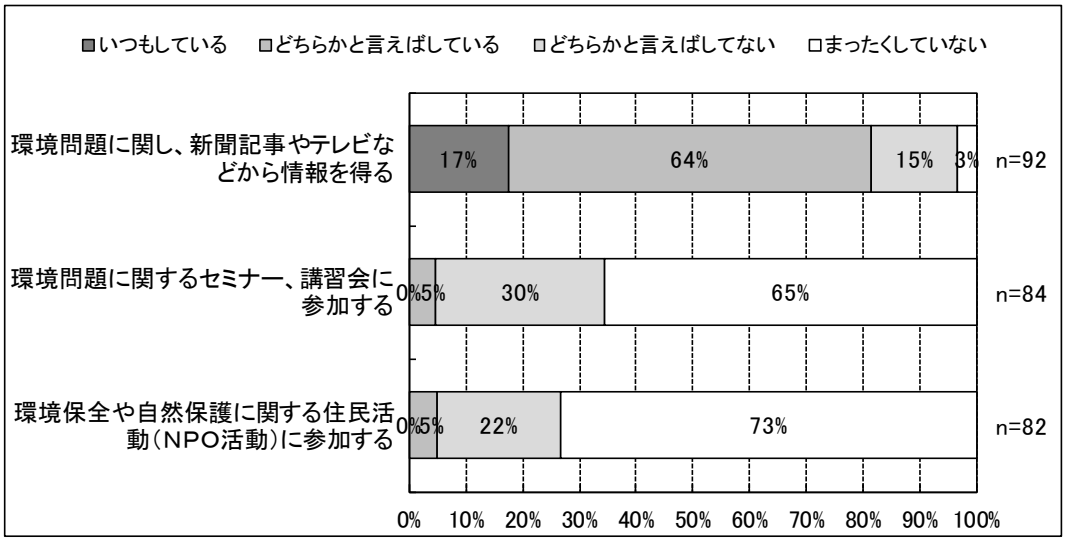


図 128　年代別分析　50 歳代

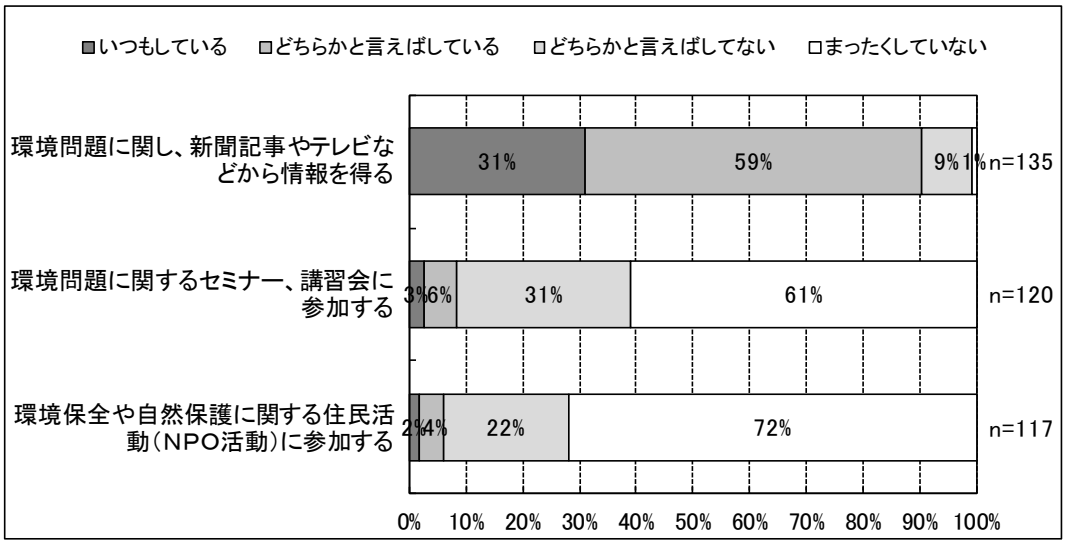


図 129　年代別分析　60 歳代

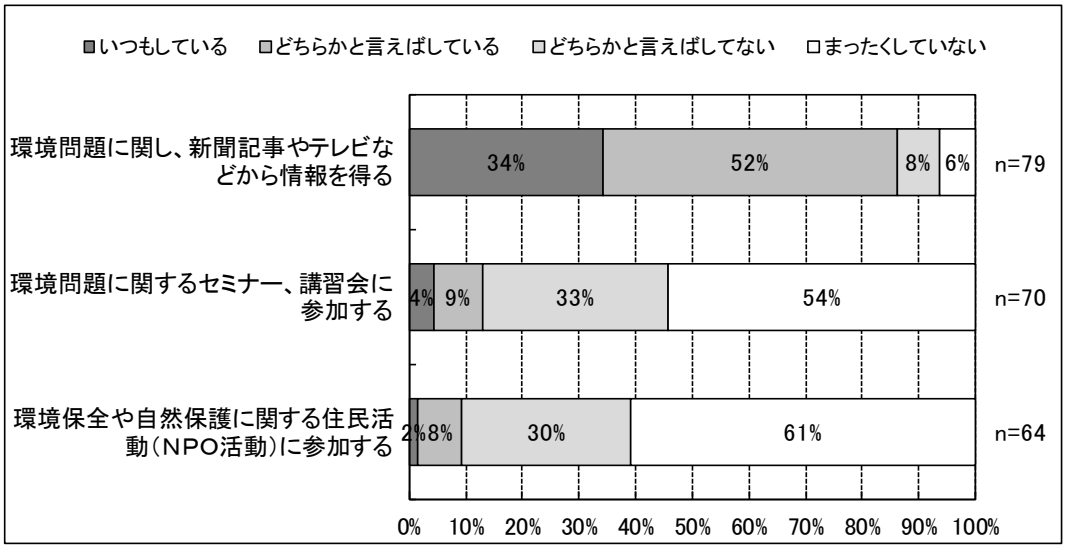


図 130　年代別分析　70 歳代

8) 設問 10　住居や自動車について

あなたの住居や自動車についてお尋ねします。項目ごとに答えを 1 つずつ選んで、該当する番号に○をつけて下さい。 ※項目は下記集計結果を参照	
1. はい 2. いいえ	3. 検討中

a) 全体

「次世代自動車に乗っている」に関しての取組が最も多く、一方で「小形風力発電、地中熱空調システムを導入している」に関しての取組が最も少ない。

平成 19 年度と比較して、平成 29 年度では「太陽光発電を導入している」に関しての取組が増加している傾向がある。

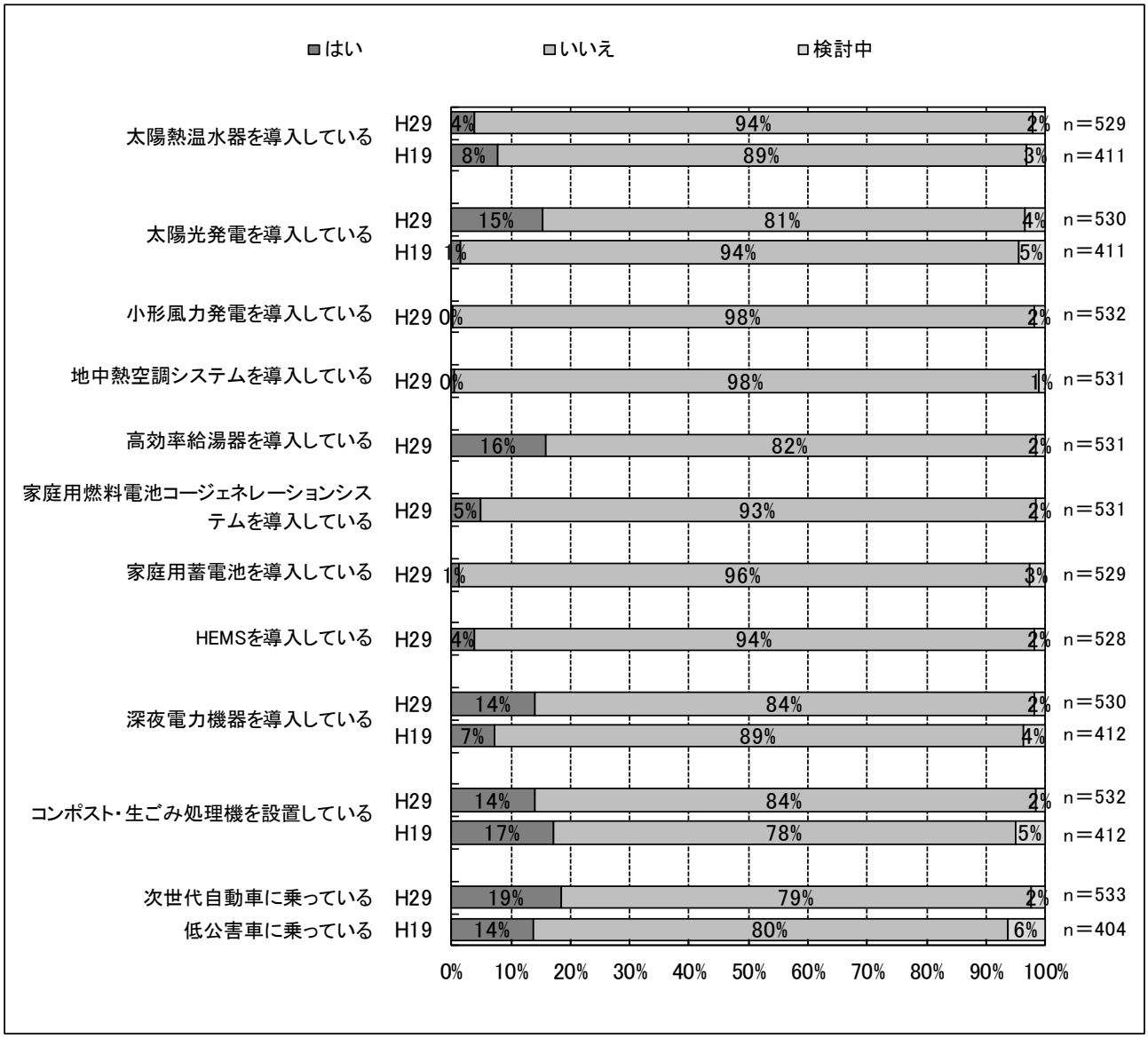


図 131　住居や自動車について

表 33　住居や自動車について

			はい	いいえ	検討中	計(無回答を除く)
太陽熱温水器を導入している	H29	(回答数)	21	497	11	529
		(%)	4%	94%	2%	100%
	H19	(%)	8%	89%	3%	100%
太陽光発電を導入している	H29	(回答数)	81	430	19	530
		(%)	15%	81%	4%	100%
	H19	(%)	1%	94%	5%	100%
小形風力発電を導入している	H29	(回答数)	1	521	10	532
		(%)	0%	98%	2%	100%
地中熱空調システムを導入している	H29	(回答数)	2	523	6	531
		(%)	0%	98%	1%	100%
高効率給湯器を導入している	H29	(回答数)	84	438	9	531
		(%)	16%	82%	2%	100%
家庭用燃料電池コージェネレーションシステムを導入している	H29	(回答数)	26	496	9	531
		(%)	5%	93%	2%	100%
家庭用蓄電池を導入している	H29	(回答数)	6	508	15	529
		(%)	1%	96%	3%	100%
HEMS を導入している	H29	(回答数)	21	497	10	528
		(%)	4%	94%	2%	100%
深夜電力機器を導入している	H29	(回答数)	75	445	10	530
		(%)	14%	84%	2%	100%
	H19	(%)	7%	89%	4%	100%
コンポスト・生ごみ処理機を設置している	H29	(回答数)	74	449	9	532
		(%)	14%	84%	2%	100%
	H19	(%)	17%	78%	5%	100%
次世代自動車に乗っている	H29	(回答数)	99	421	13	533
		(%)	19%	79%	2%	100%
低公害車に乗っている	H19	(%)	14%	80%	6%	100%

b) クロス集計

年齢層別に比較すると、10 歳代は「高効率給湯器を導入している」、20・40 歳代は「太陽光発電を導入している」、30 歳代は「太陽光発電、高効率給湯器を導入」、50 歳代は「次世代自動車に乗っている」、60・70 歳代は「コンポスト・生ごみ処理機を設置している」に関しての取組が最も多く、年代によって差異が見られている。一方どの年代も「小型風力発電、地中熱空調システムを導入」に関しての取組が少ない。特に 10 歳代は全体的に取り組んでいない傾向がある。

①年代別分析

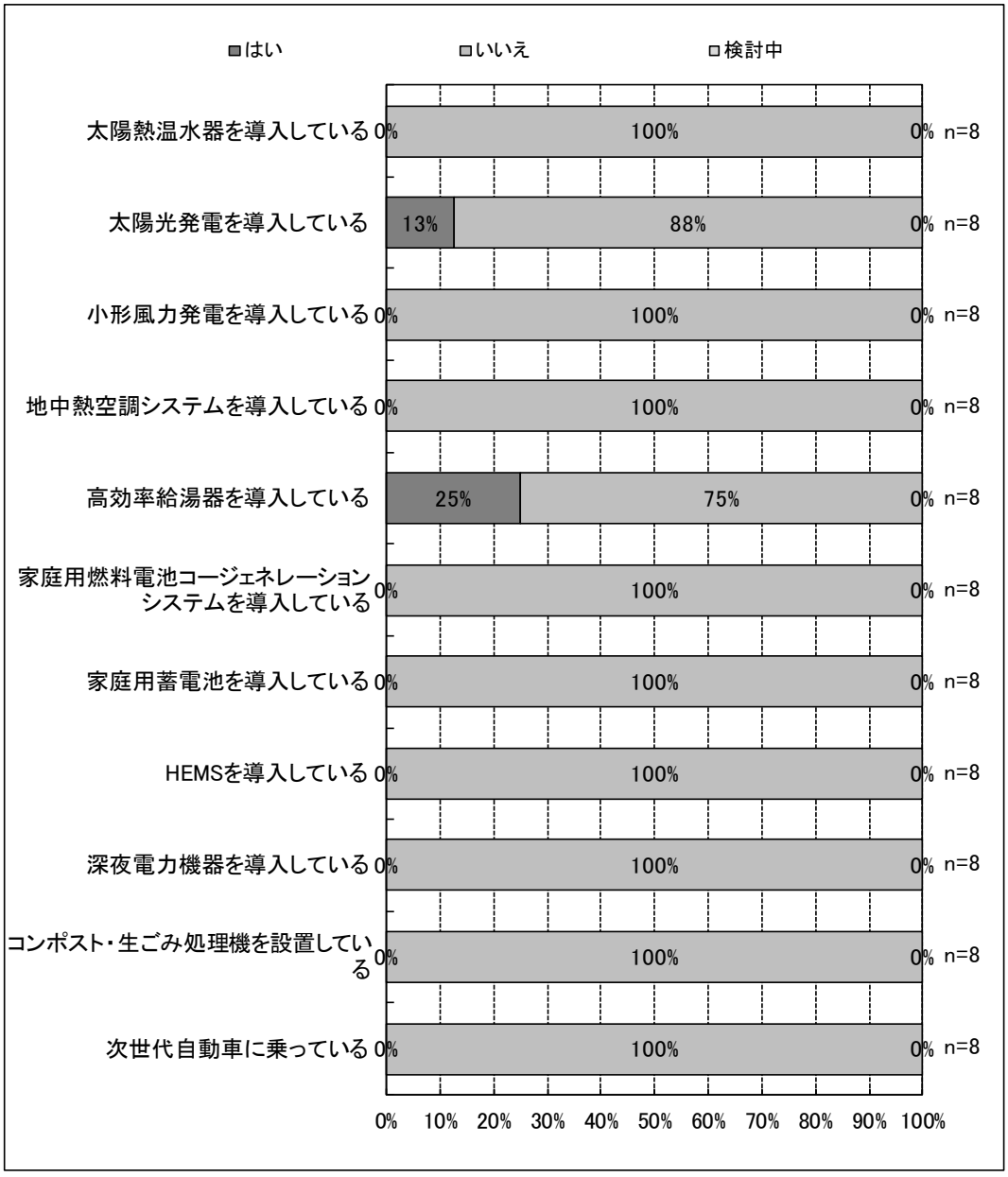


図 132　年代別分析　10 歳代

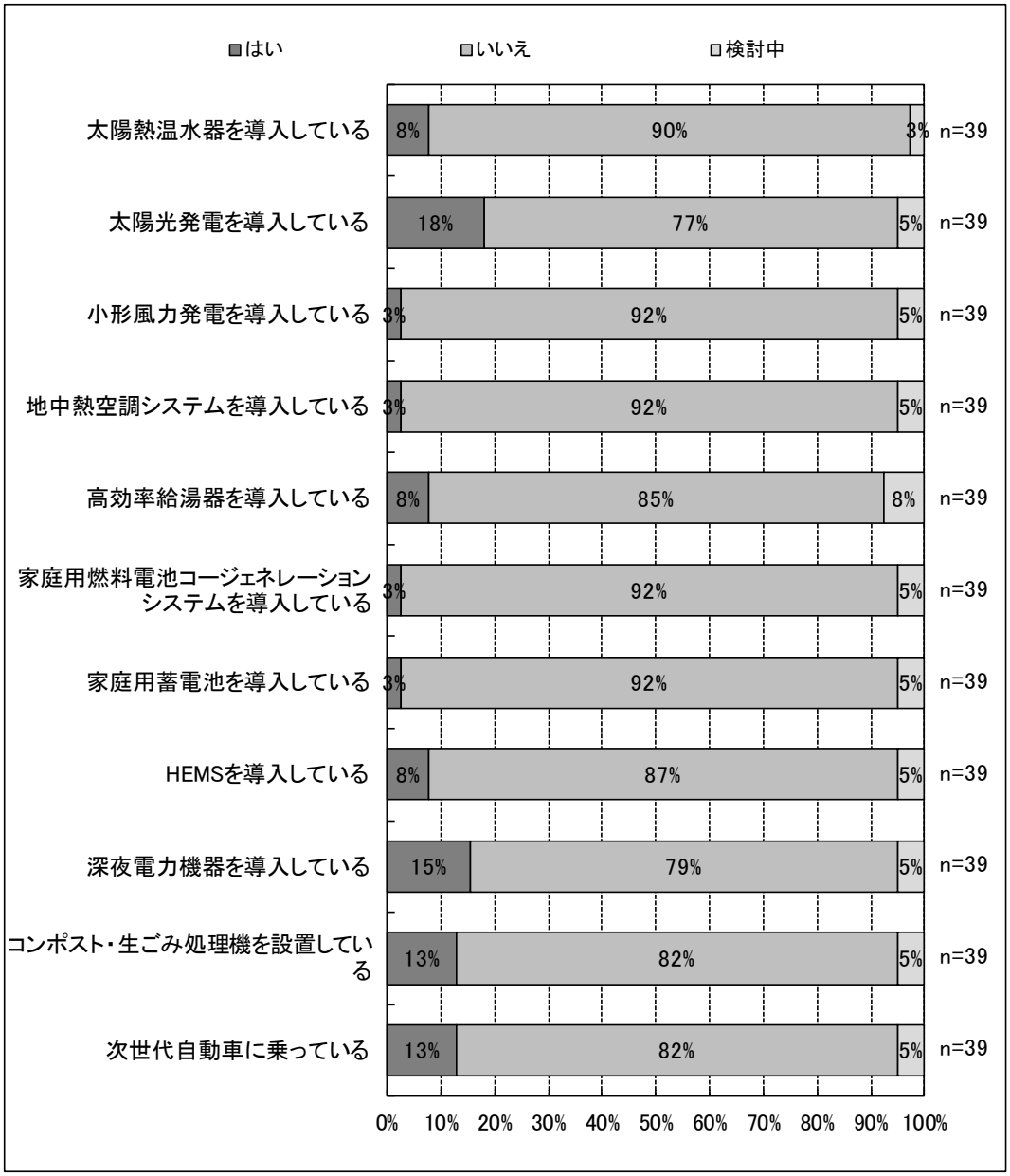


図 133　年代別分析　20 歳代

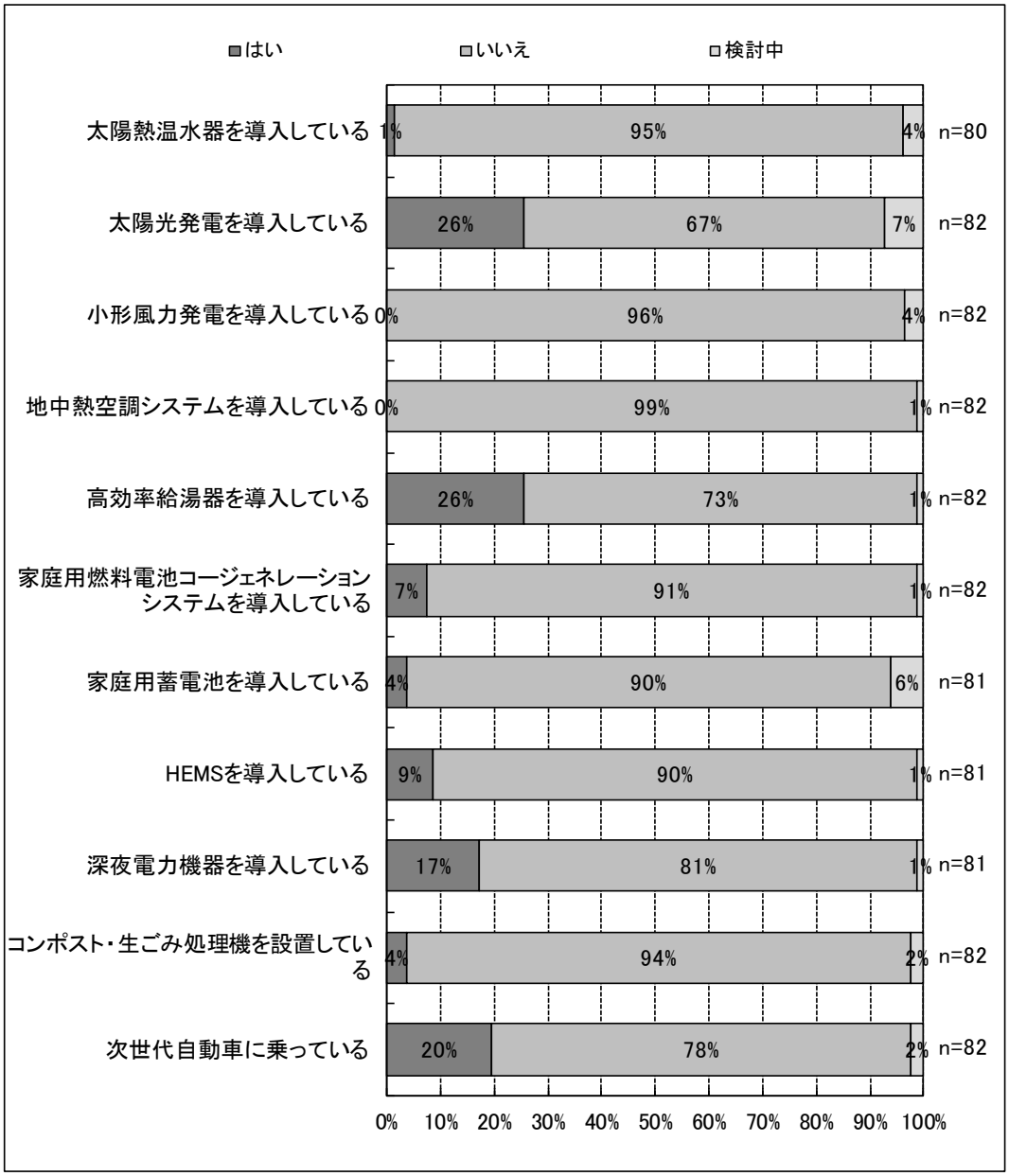


図 134　年代別分析　30 歳代

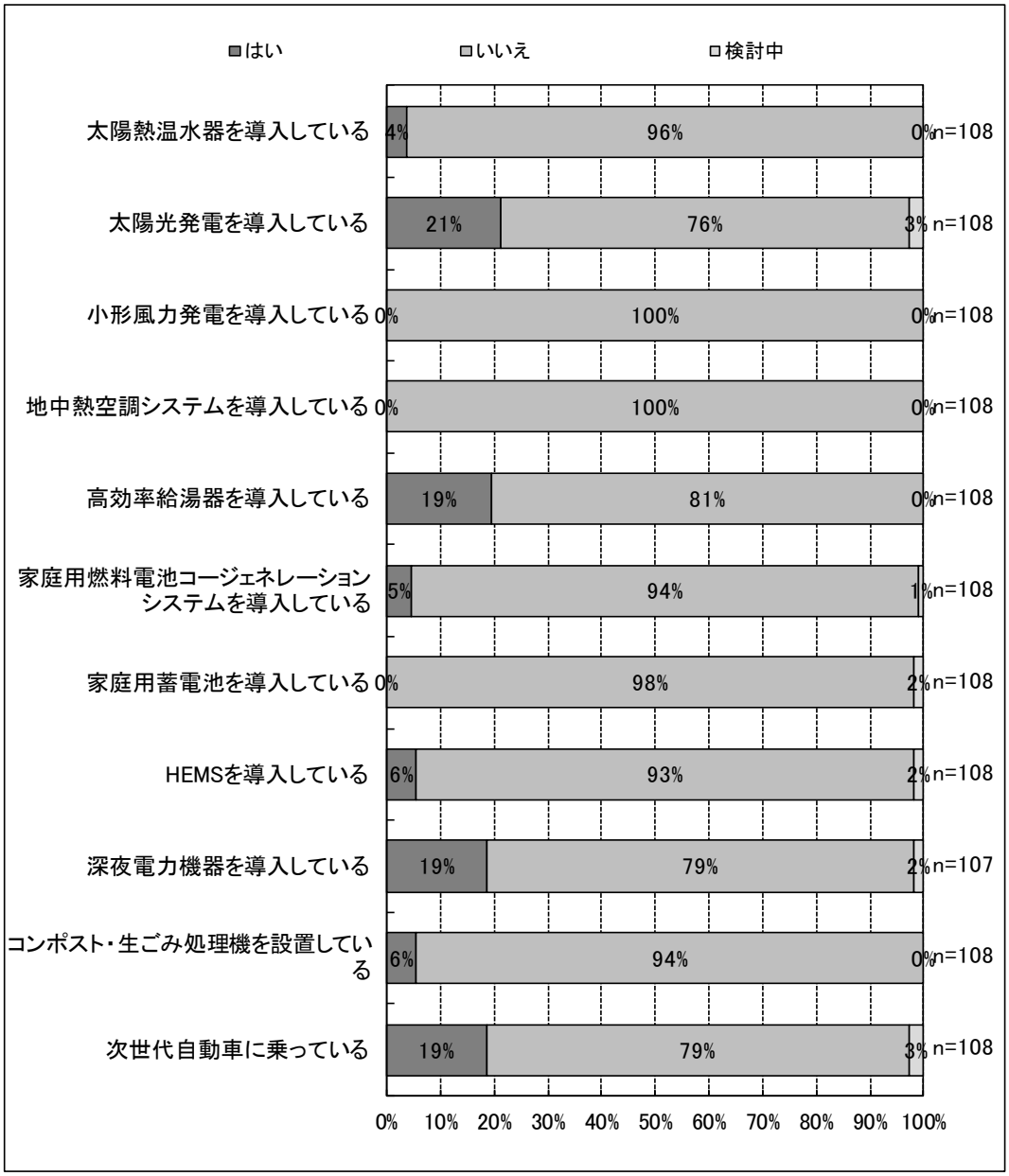


図 135　年代別分析　40 歳代

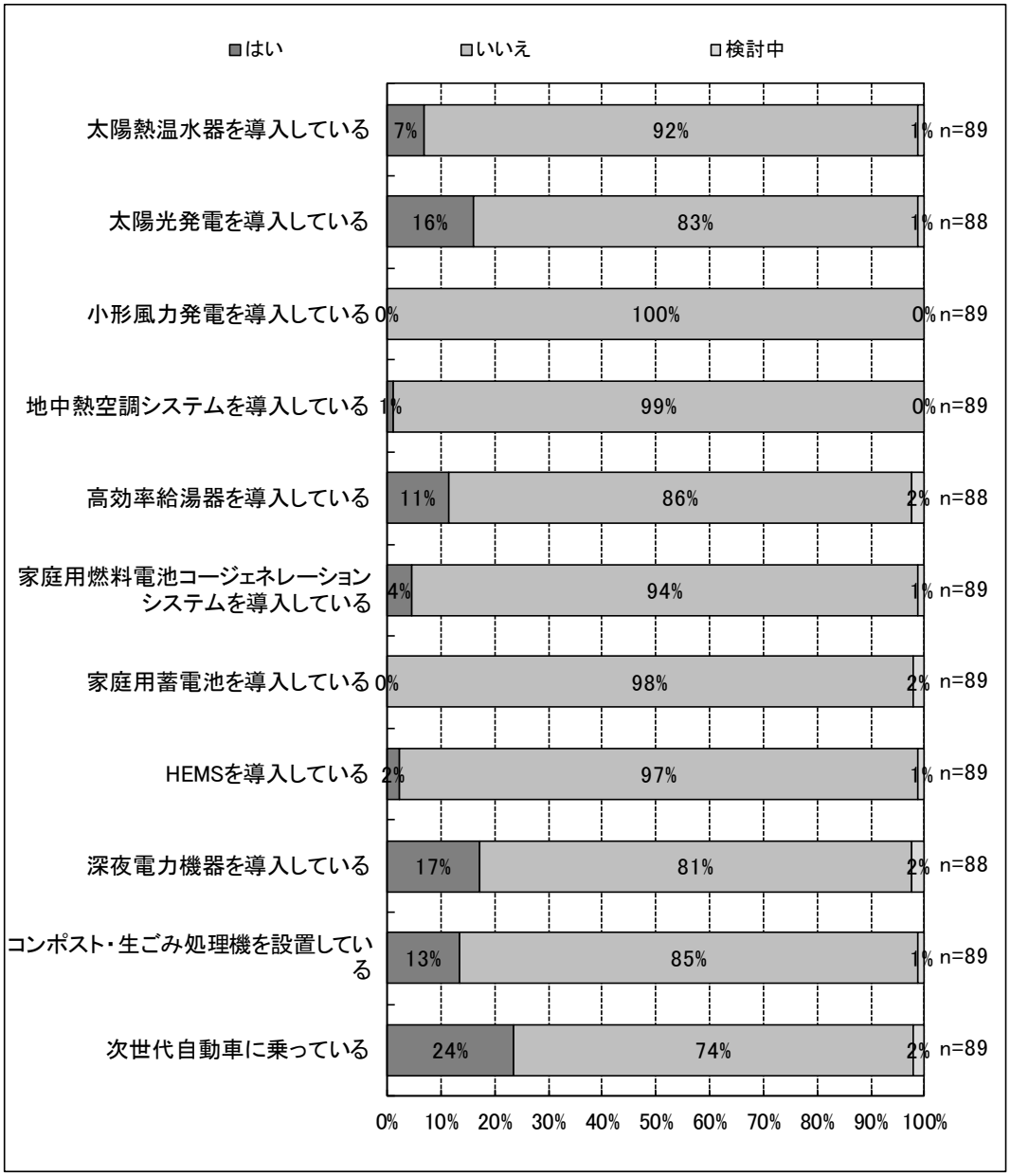


図 136　年代別分析　50 歳代

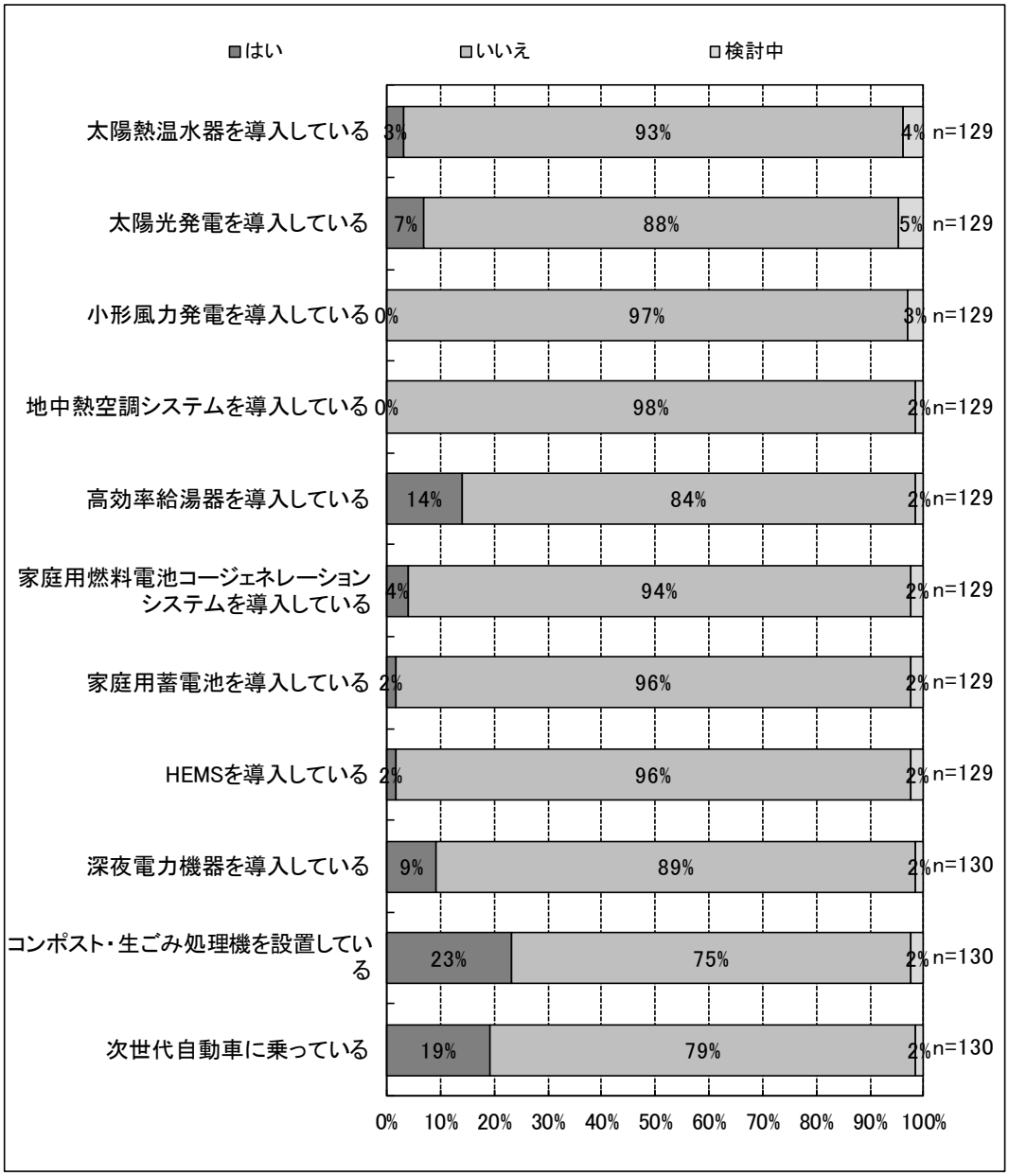


図 137　年代別分析　60 歳代

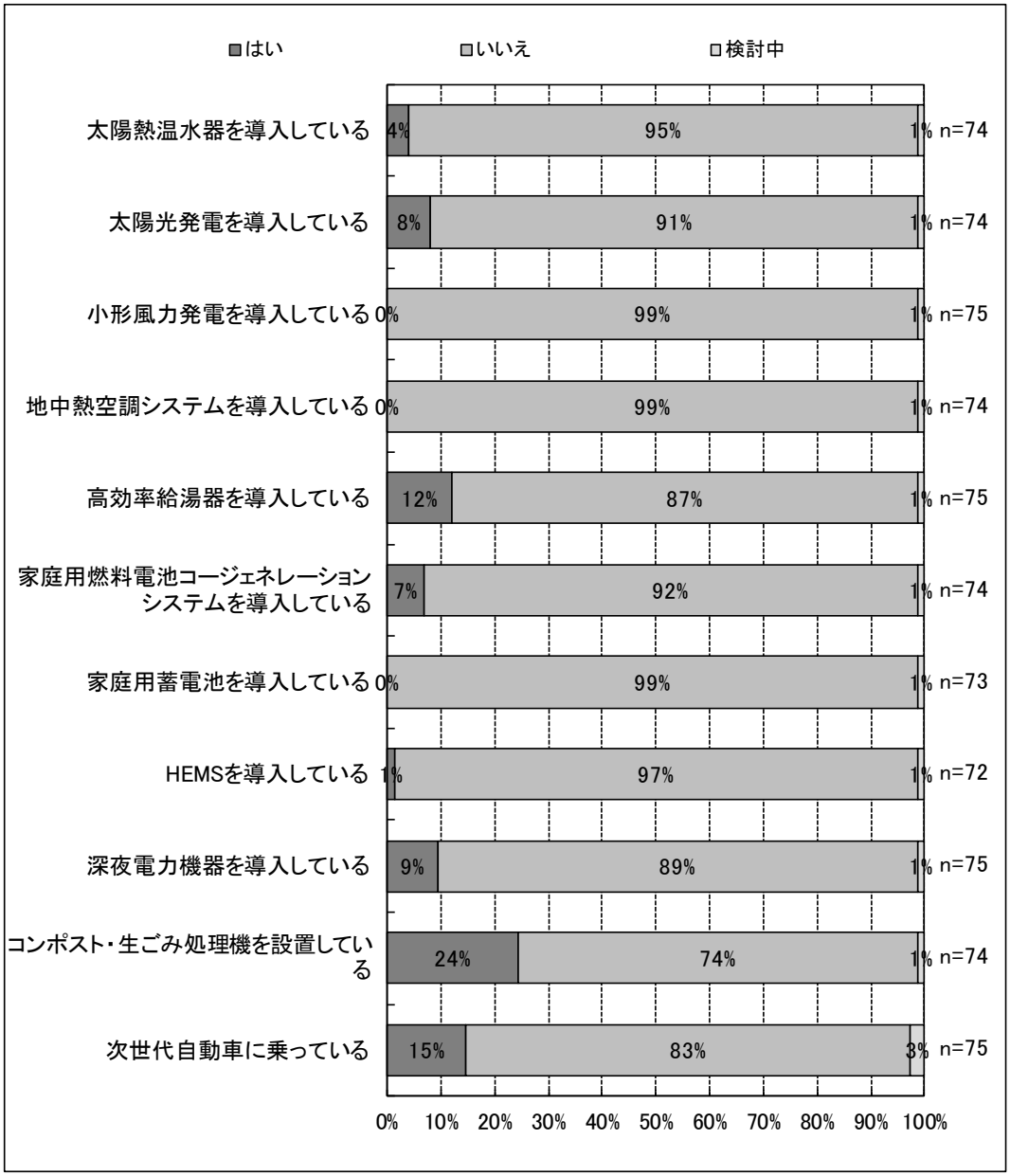


図 138　年代別分析　70 歳代

(4) 環境に関連する新しい動向

1) 設問 11　電力会社の切り替えについて

平成 28 年 4 月より「電力小売全面自由化」がはじまり、家庭等でも使用する電気の会社を自由に選択できるようになりました。 あなたの家庭では、電力会社の切り替えを行っていますか？ 項目ごとに最も近い答えを 1 つずつ選んで、該当する番号に○をつけて下さい。	
1. 切り替えた 2. 切り替え検討中	3. 切り替えていない 4. 仕組みなどがよくわからない

a) 全体

「切り替えた」の割合が 13%となっており、「切り替え検討中」の割合まで含めると 17%となっている。一方で「切り替えていない」の割合が 64%、「仕組みなどがよくわからない」の割合が 19%となっている。

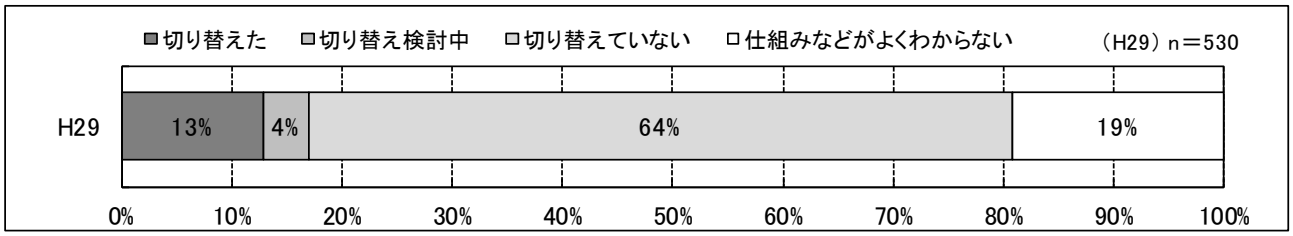


図 139　電力小売全面自由化について

表 34　電力小売全面自由化について

	H29 結果（回答数）	H29 結果（%）
切り替えた	68	13%
切り替え検討中	22	4%
切り替えていない	338	64%
仕組みなどがよくわからない	102	19%
計（無回答を除く）	530	100%

b) クロス集計

年齢層別に比較すると、「切り替えた」の割合は、50 歳代が最も多く、一方で「切り替えていない」、「仕組みなどがよくわからない」の割合は、10～20 歳代が最も多い。

①年代別分析

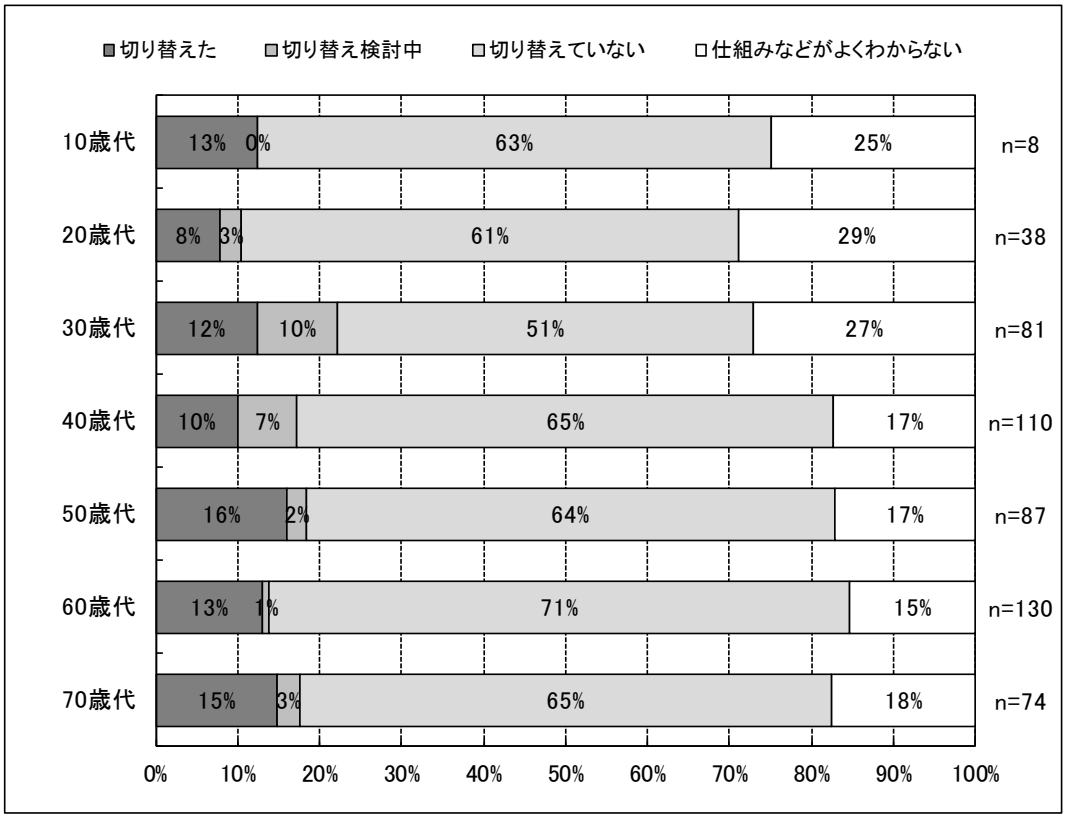


図 140　年代別分析

2) 設問 12　気候変動への備え（適応）等について

気候変動による影響として、農作物の不良、大雨等による水害、熱中症の増加、生態系の変化等のさまざまな問題の可能性が予測されており、既に身の回りでも起こりつつあります。
あなたは、気候変動への備え（適応）等行っていますか？
項目ごとに最も近い答えを 1 つずつ選んで、該当する番号に○をつけて下さい。

1. 国などが発信する情報を収集し、身の回りでできることを備えている 2. 国などが発信する情報を収集している	3. 特になにも行っていない 4. よくわからない

a) 全体

「国などが発信する情報を収集し、身の回りでできることを備えている」の割合が 9%となっており、「国などが発信する情報を収集している」の割合まで含めると 40%となっている。一方で「特になにも行っていない」の割合が 49%、「よくわからない」の割合が 10%となっている。

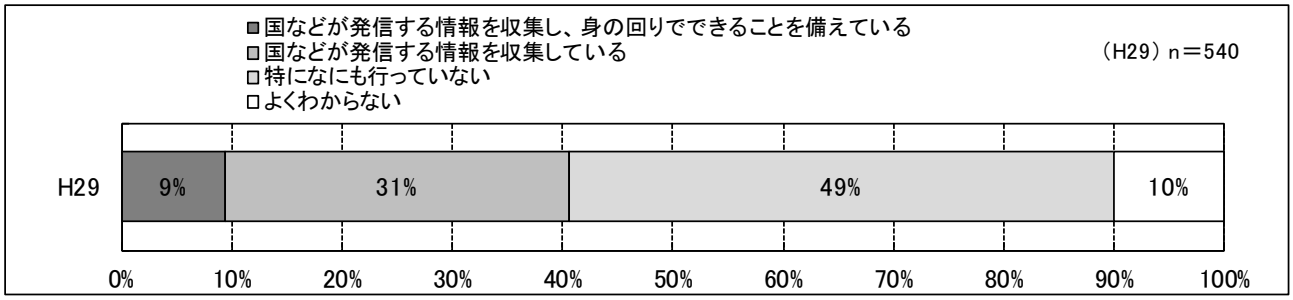


図 141　気候変動への準備について

表 35　気候変動への準備について

	H29 結果（回答数）	H29 結果（%）
国などが発信する情報を収集し、身の回りでできることを備えている	51	9%
国などが発信する情報を収集している	168	31%
特になにも行っていない	267	49%
よくわからない	54	10%
計（無回答を除く）	540	100%

b) クロス集計

年齢層別に比較すると、「国などが発信する情報を収集し、身の回りでできることを備えている」の割合は、30 歳代が最も多く、一方で「特になにも行っていない」の割合は、10～20 歳代が最も多い。

①年代別分析

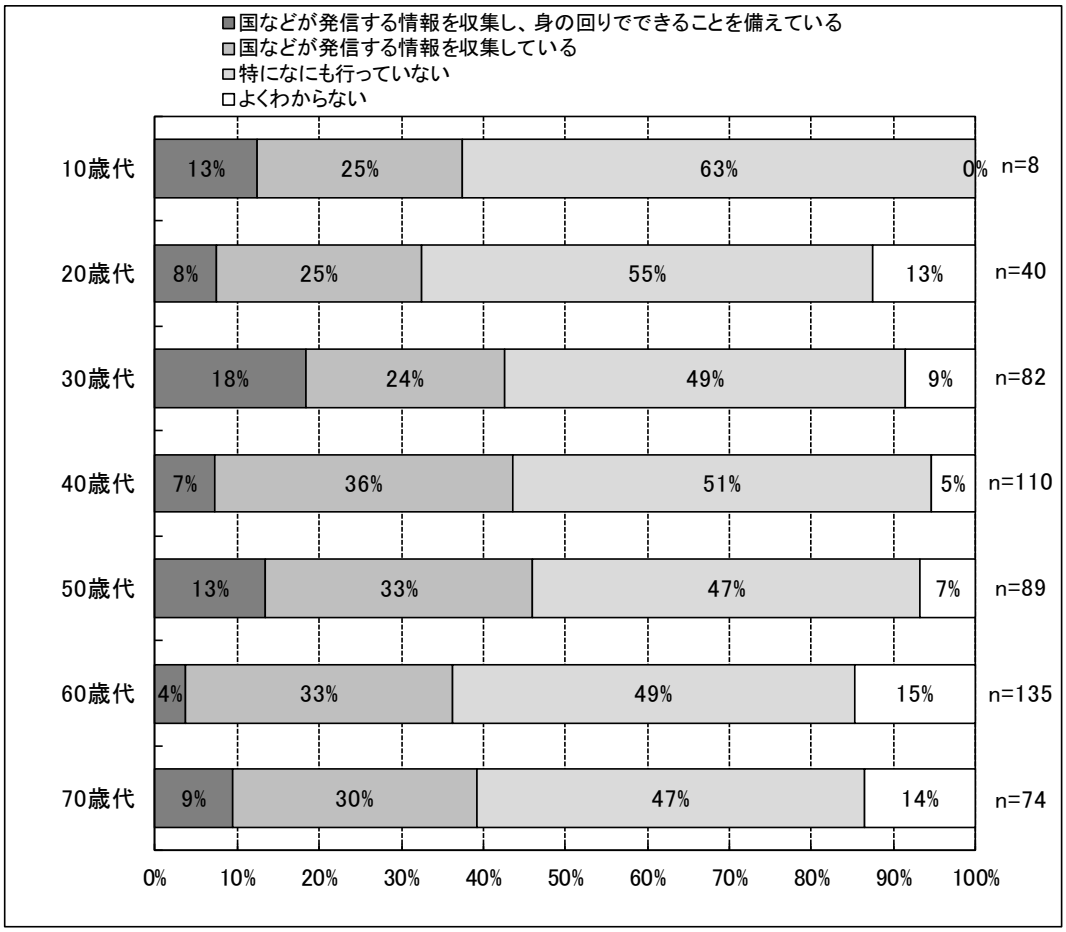


図 142　年代別分析

3) 設問 13　水素エネルギーへの関心について

新たなエネルギーとして「水素」への期待が高まっており、水素を利用した機器、自動車等も普及が始まっています。また神栖市では、「水素エネルギー利活用戦略」を平成 29 年 3 月に策定し、市域における水素エネルギーの可能性も模索しています。 あなたは、水素エネルギーに関心がありますか？ 項目ごとに最も近い答えを 1 つずつ選んで、該当する番号に○をつけて下さい。

1. とても関心がある	3. あまり関心がない
2. 関心がある	4. よくわからない

a) 全体

「とても関心がある」の割合が 6%となっており、「関心がある」の割合まで含めると 40%となっている。一方で「あまり関心がない」の割合が 31%、「よくわからない」の割合が 29%となっている。

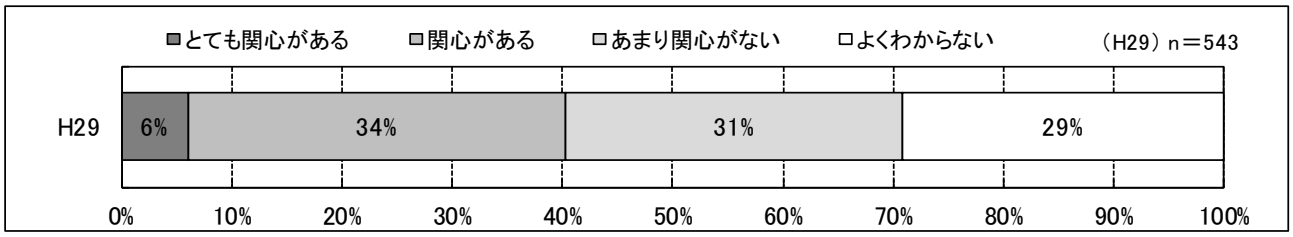


図 143　水素エネルギーへの関心

表 36　水素エネルギーへの関心

	H29 結果（回答数）	H29 結果（%）
とても関心がある	33	6%
関心がある	186	34%
あまり関心がない	166	31%
よくわからない	158	29%
計（無回答を除く）	543	100%

b) クロス集計

年齢層別に比較すると、「とても関心がある」・「関心がある」の割合は、30 歳代が最も多く、一方で「あまり関心がない」の割合は 10 歳代、「よくわからない」の割合は 70 歳代が最も多い。

①年代別分析

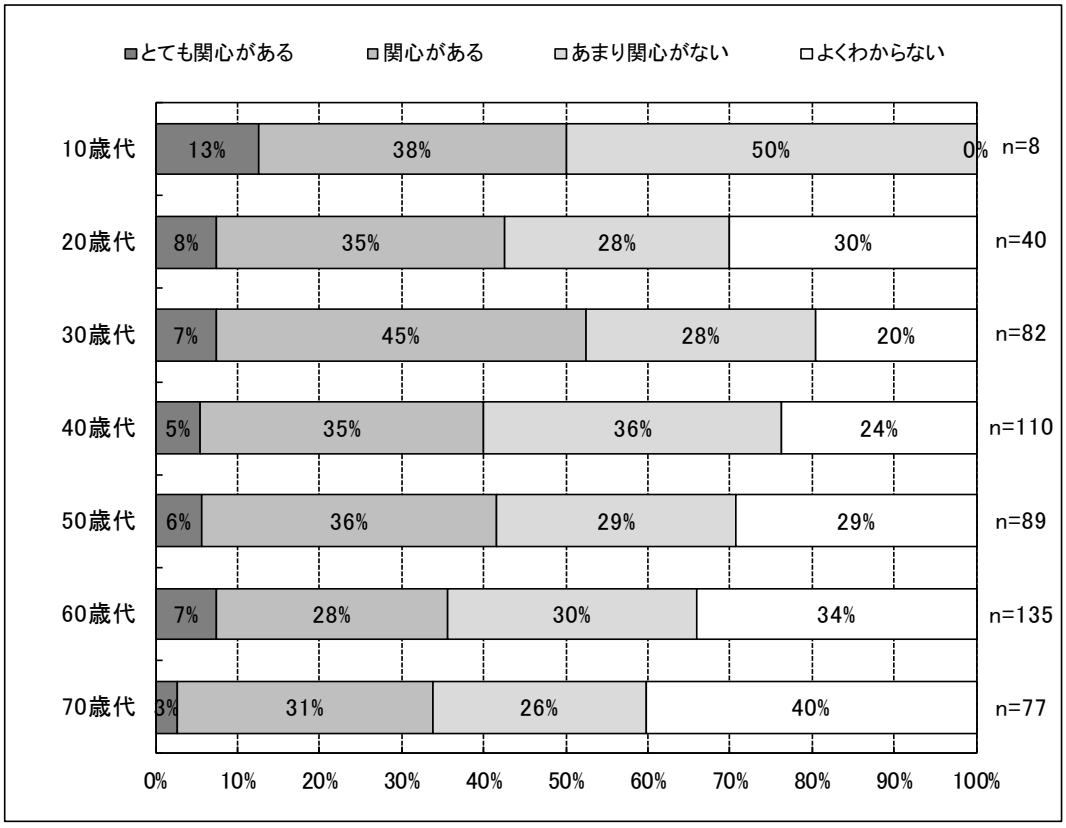


図 144　年代別分析

4) 設問 14　関心のある環境問題について

あなたが関心を持っている環境問題についてお尋ねします。
あてはまる答えを 3 つまで選んで、該当する番号に○をつけて下さい。
※項目は下記集計結果を参照

a) 全体

「ごみのポイ捨て、不法投棄」の割合が最も高く、過半数を超えている。一方で「歴史的文化財保全への取組不足」の割合が最も低い。

平成 19 年度と比較して、平成 29 年度では「地球温暖化による気温の上昇や海水面の上昇による陸地の減少」の割合が減少している。

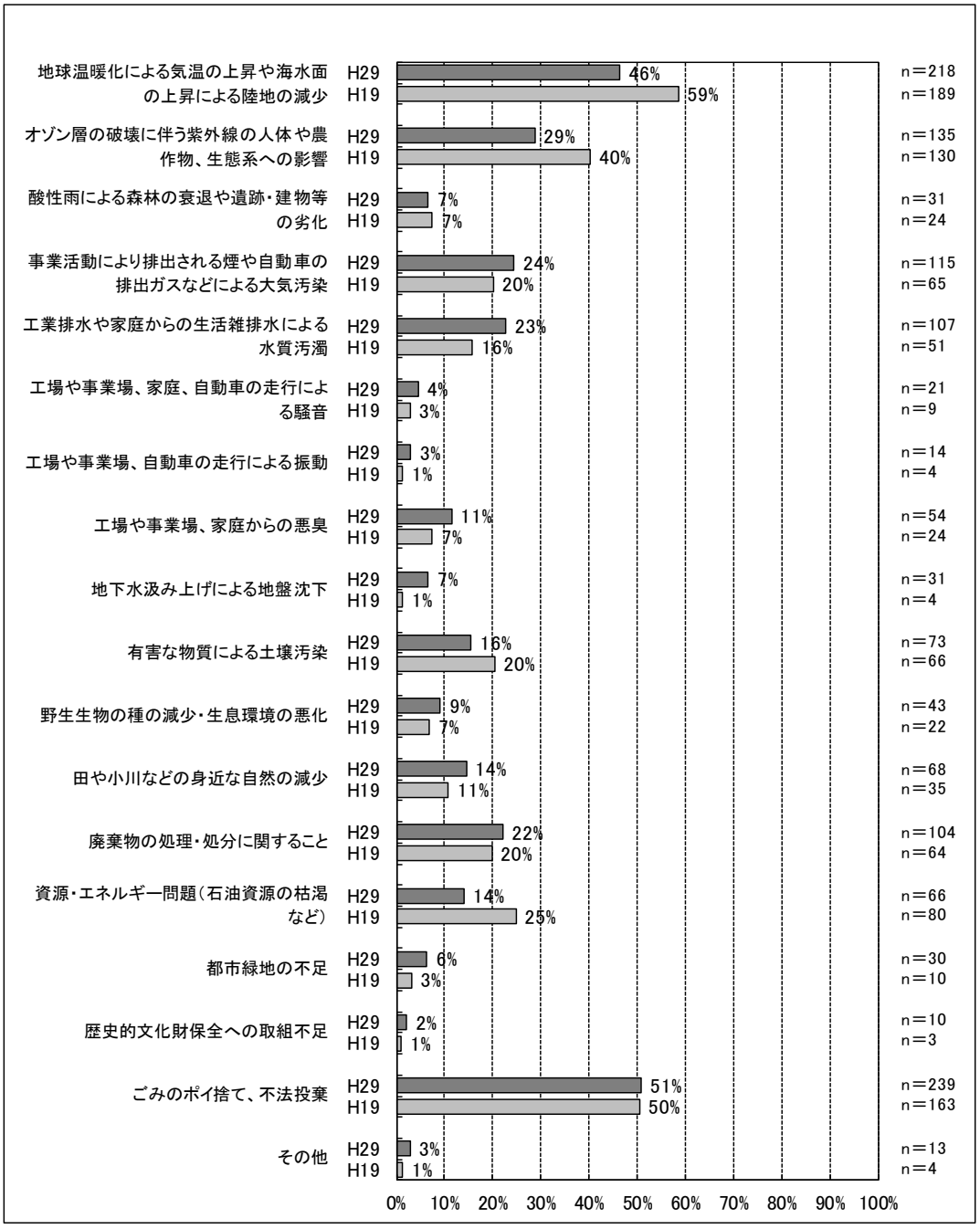


図 145　環境問題への関心

表 37　環境問題への関心

	H29 結果（回答数）	H29 結果（%）	H19 結果(%)
地球温暖化による気温の上昇や海水面の上昇による陸地の減少	218	46%	59%
オゾン層の破壊に伴う紫外線の人体や農作物、生態系への影響	135	29%	40%
酸性雨による森林の衰退や遺跡・建物等の劣化	31	7%	7%
事業活動により排出される煙や自動車の排出ガスなどによる大気汚染	115	24%	20%
工業排水や家庭からの生活雑排水による水質汚濁	107	23%	16%
工場や事業場、家庭、自動車の走行による騒音	21	4%	3%
工場や事業場、自動車の走行による振動	14	3%	1%
工場や事業場、家庭からの悪臭	54	11%	7%
地下水汲み上げによる地盤沈下	31	7%	1%
有害な物質による土壌汚染	73	16%	20%
野生生物の種の減少・生息環境の悪化	43	9%	7%
田や小川などの身近な自然の減少	68	14%	11%
廃棄物の処理・処分に関すること	104	22%	20%
資源・エネルギー問題（石油資源の枯渇など）	66	14%	25%
都市緑地の不足	30	6%	3%
歴史的文化財保全への取組不足	10	2%	1%
ごみのポイ捨て、不法投棄	239	51%	50%
その他	13	3%	1%
計（無回答を除く）			

b) クロス集計

年齢層別に比較すると、どの年代も「地球温暖化による気温の上昇や海水面の上昇による陸地の減少」、「ごみのポイ捨て、不法投棄」の割合が多く、年齢層別の傾向に大きな変化は見られない。

①年代別分析

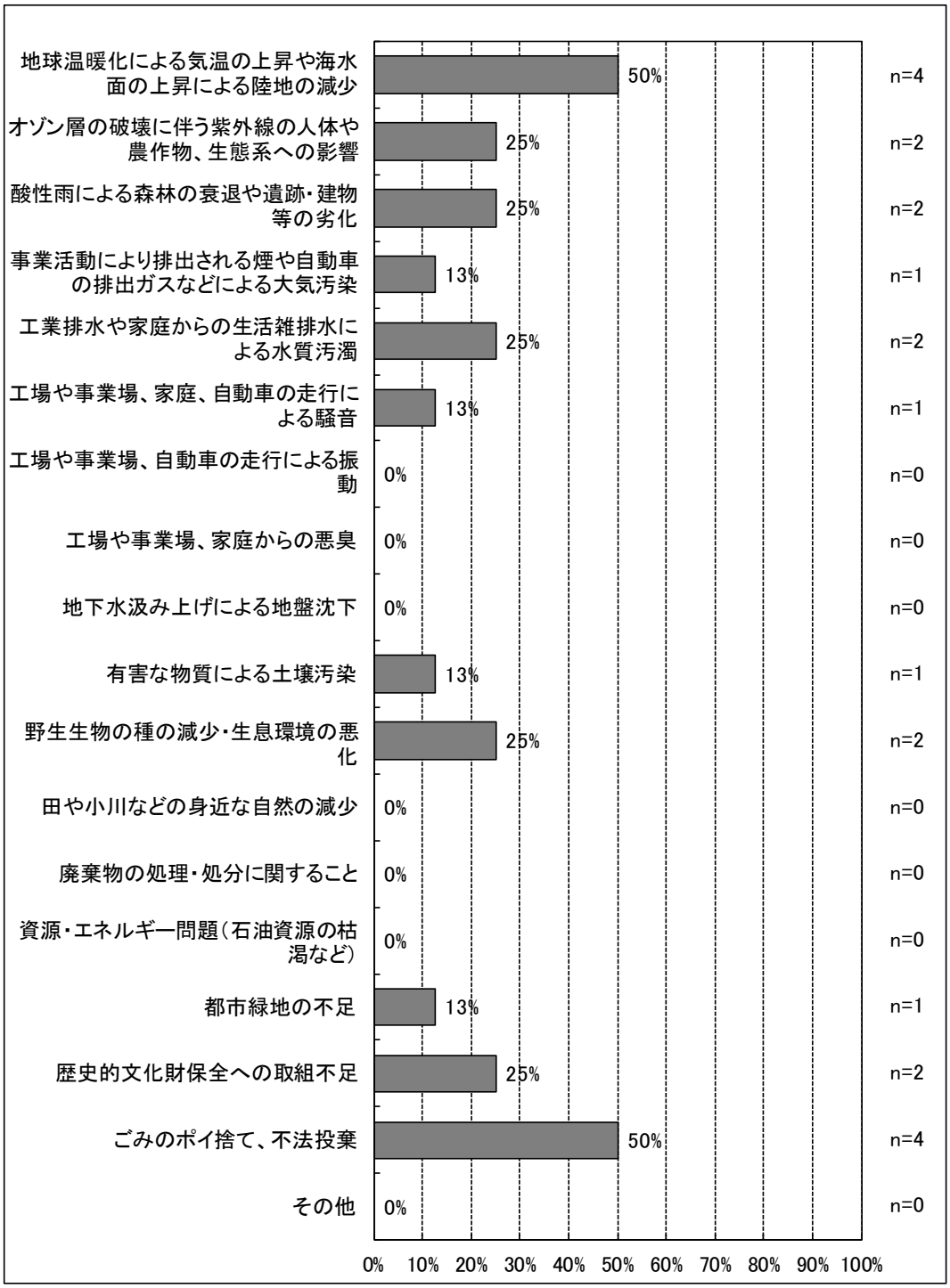


図 146　年代別分析　10 歳代

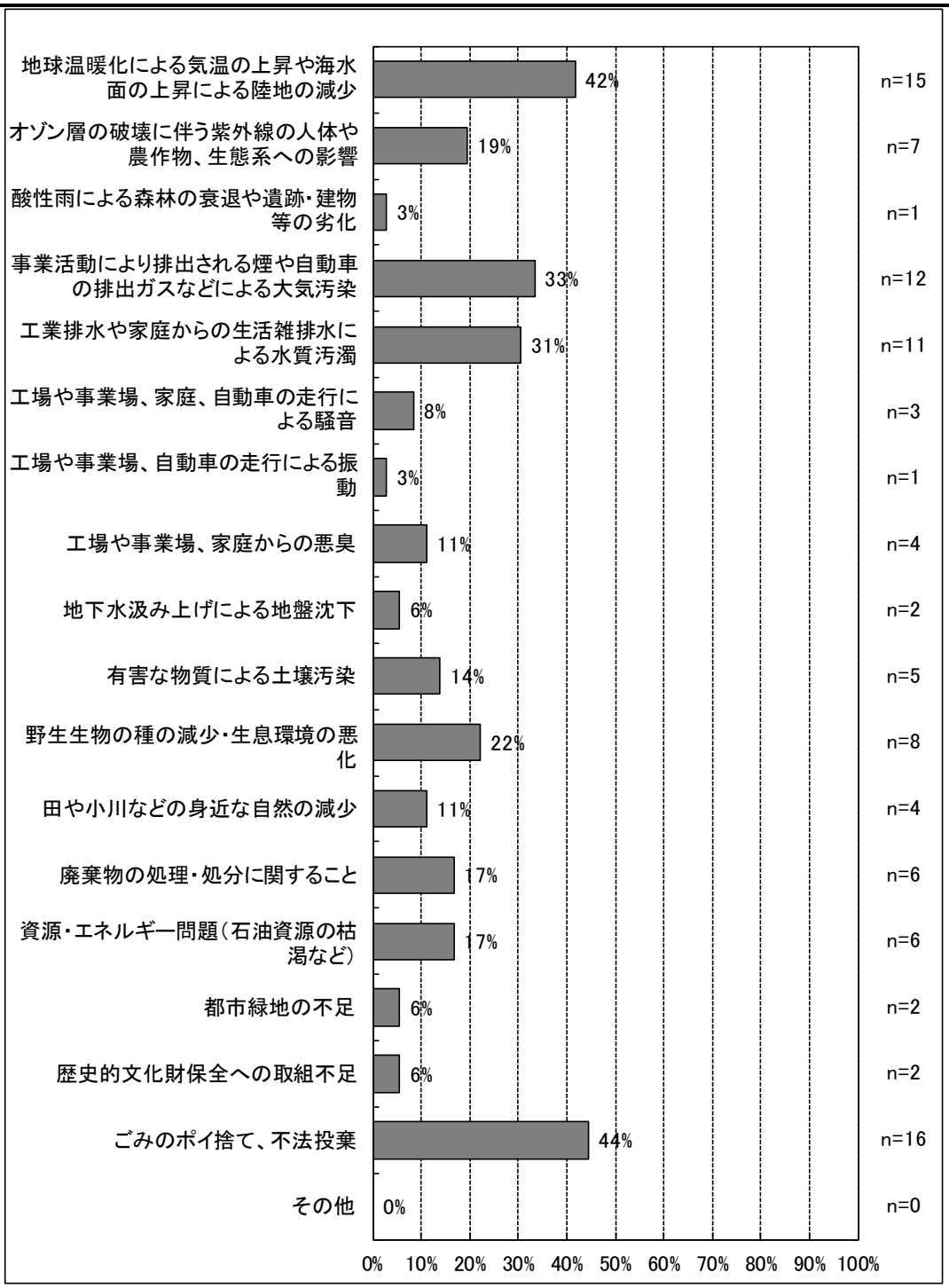


図 147　年代別分析　20 歳代

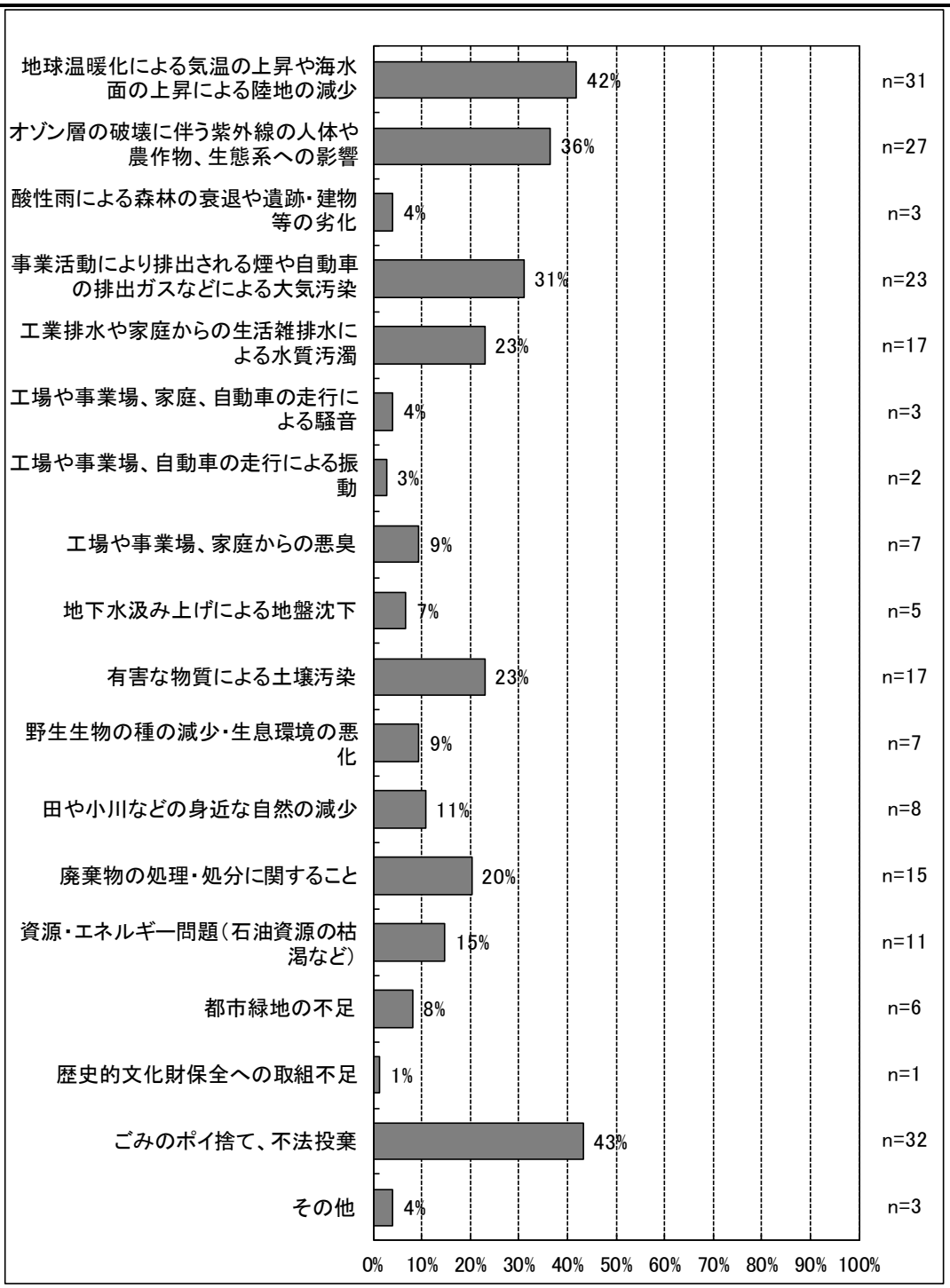


図 148　年代別分析　30 歳代

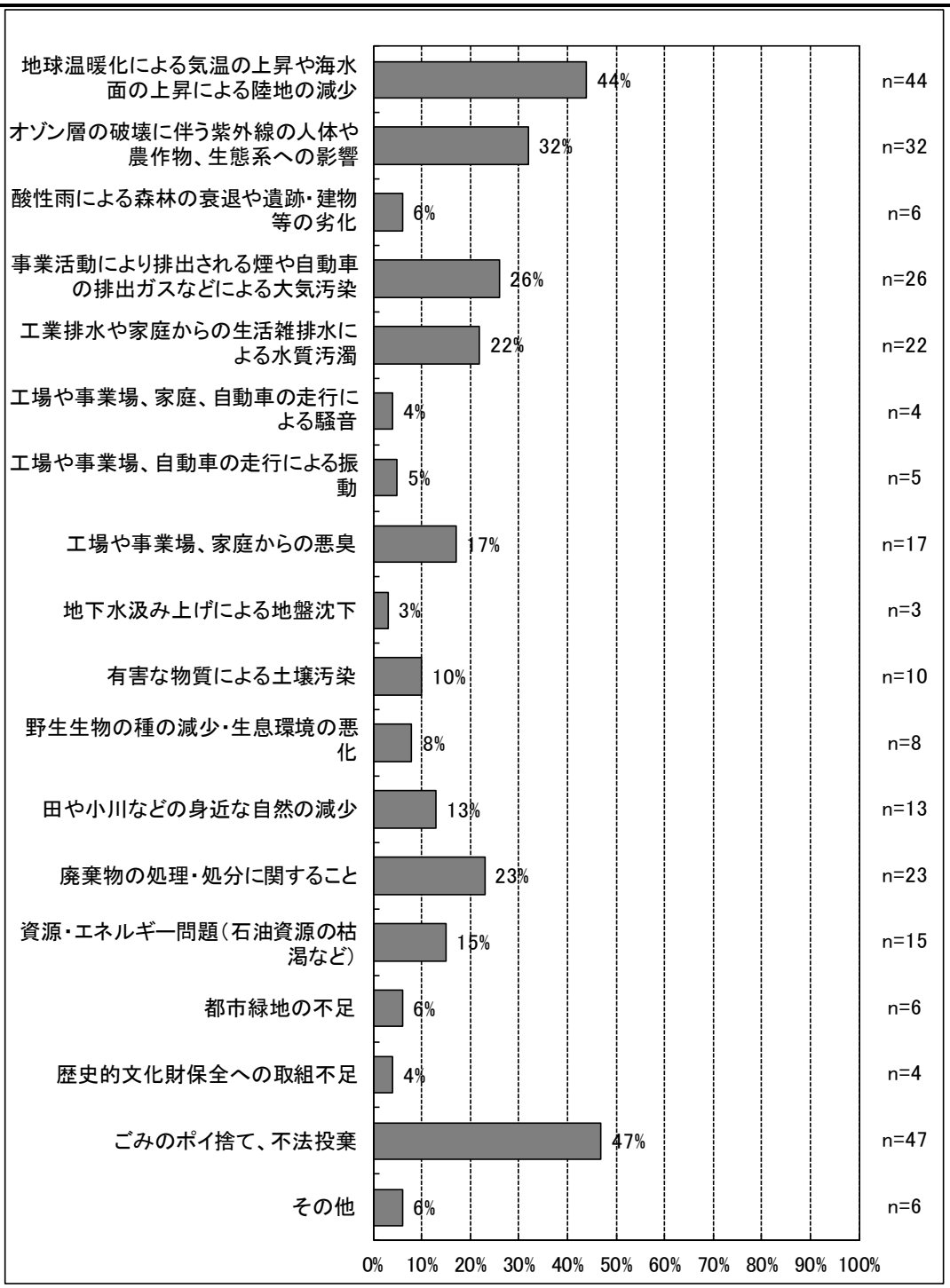


図 149　年代別分析　40 歳代

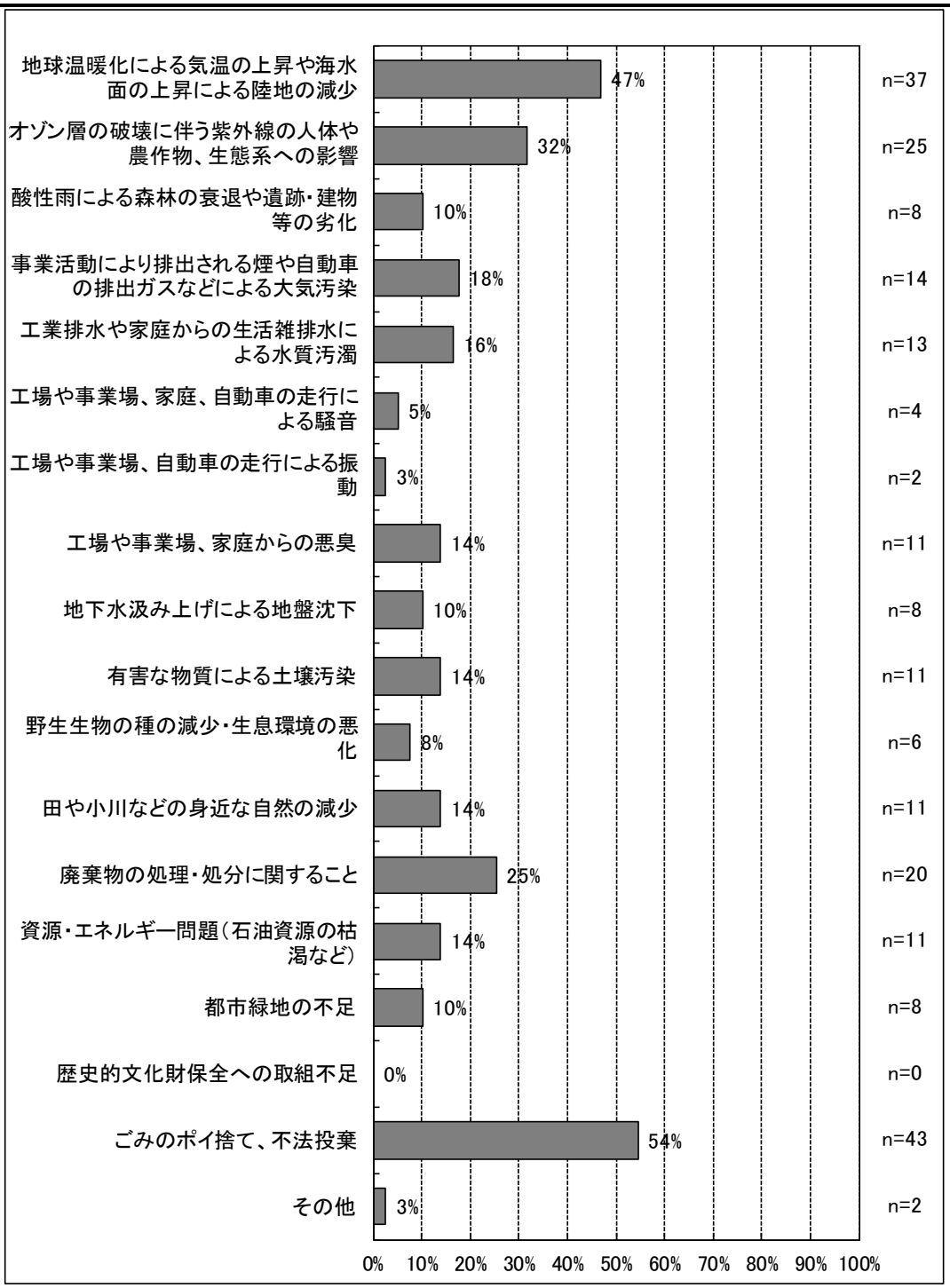


図 150　年代別分析　50 歳代

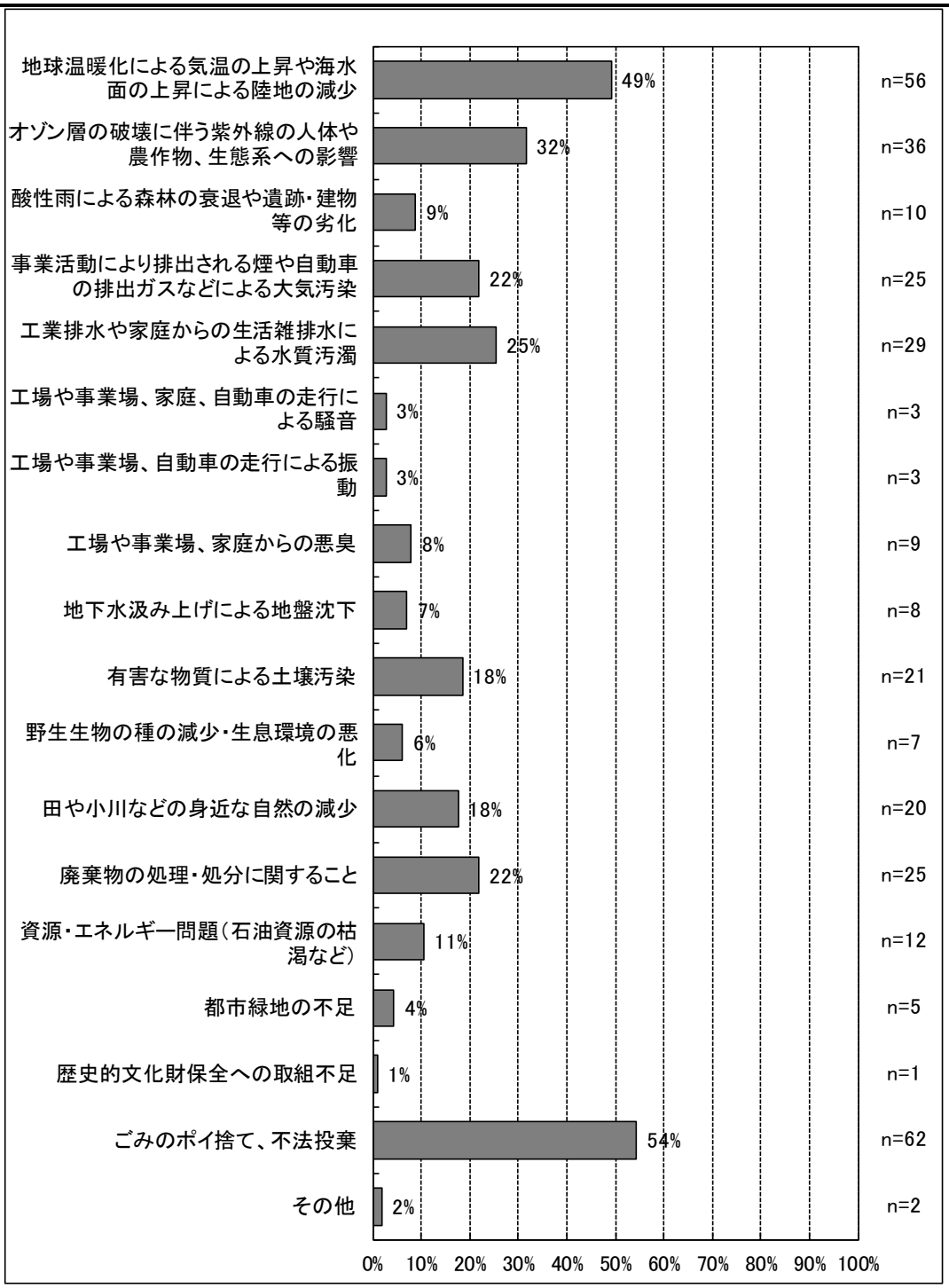


図 151　年代別分析　60 歳代

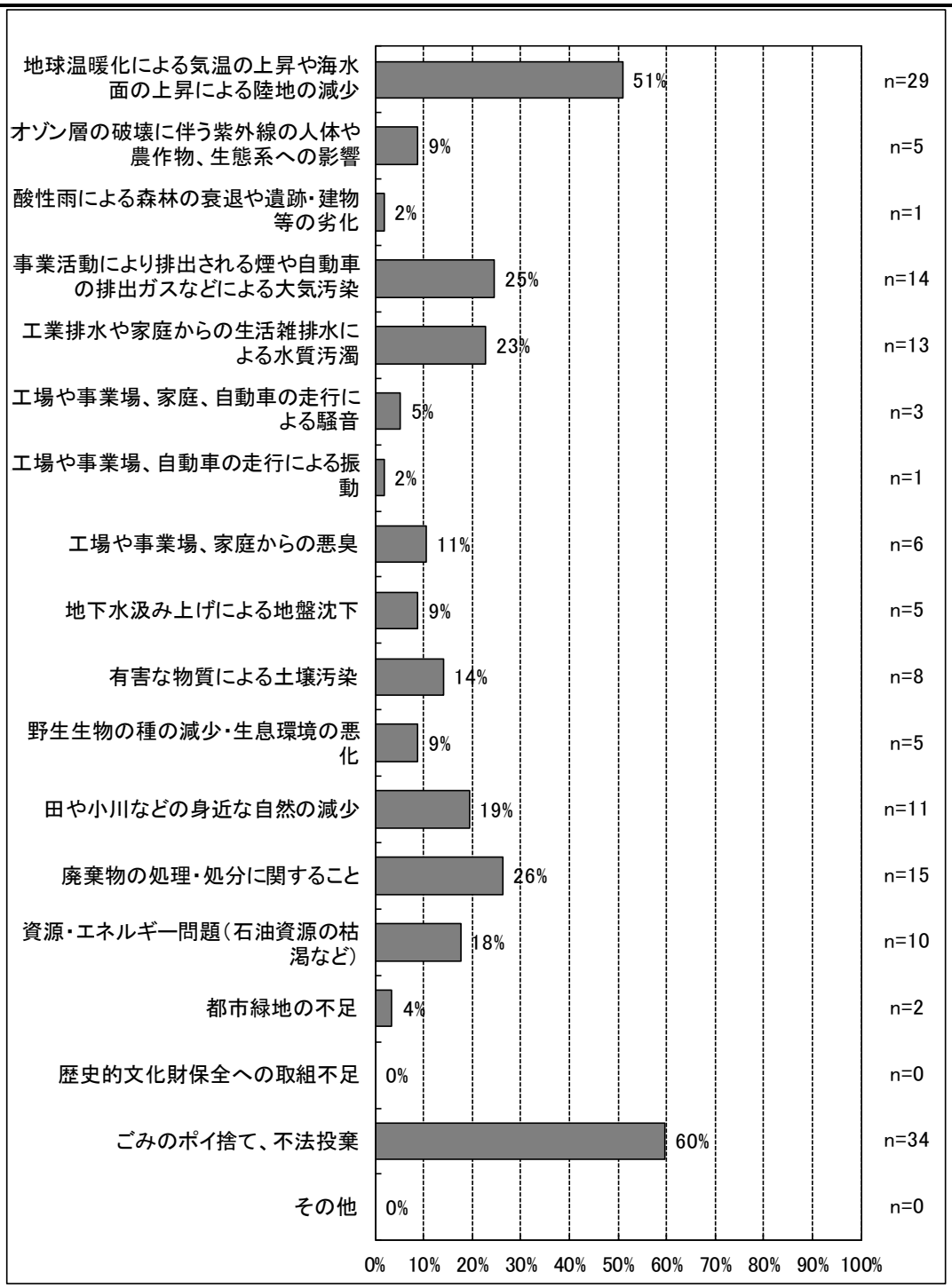


図 152　年代別分析　70 歳代

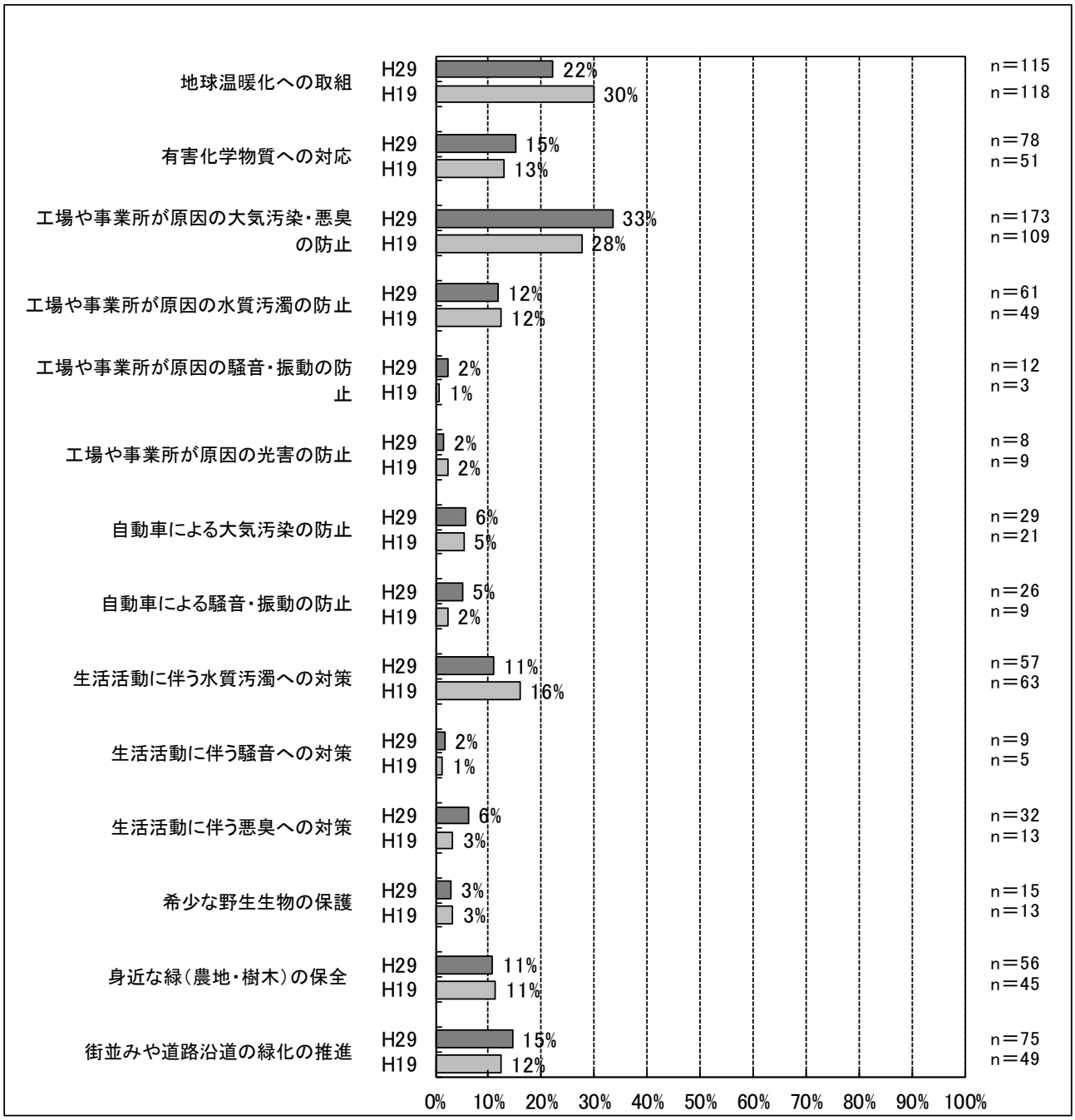
(5) 環境問題と必要な取組

1) 設問 15-1 環境問題に関する情報について

あなたが考える神栖市の環境を良くするための取組についてお尋ねします。
優先的に取り組む必要があると思われるものを 3 つまで選んで、該当する番号に○をつけて下さい。
※項目は下記集計結果を参照

a) 全体

「ごみのポイ捨・不法投棄の防止」の割合が最も高く、一方で「歴史的文化的環境の保全」の割合が最も低い割合となっている。
平成 19 年度と比較して、全体的な傾向に大きな変化は見られない。



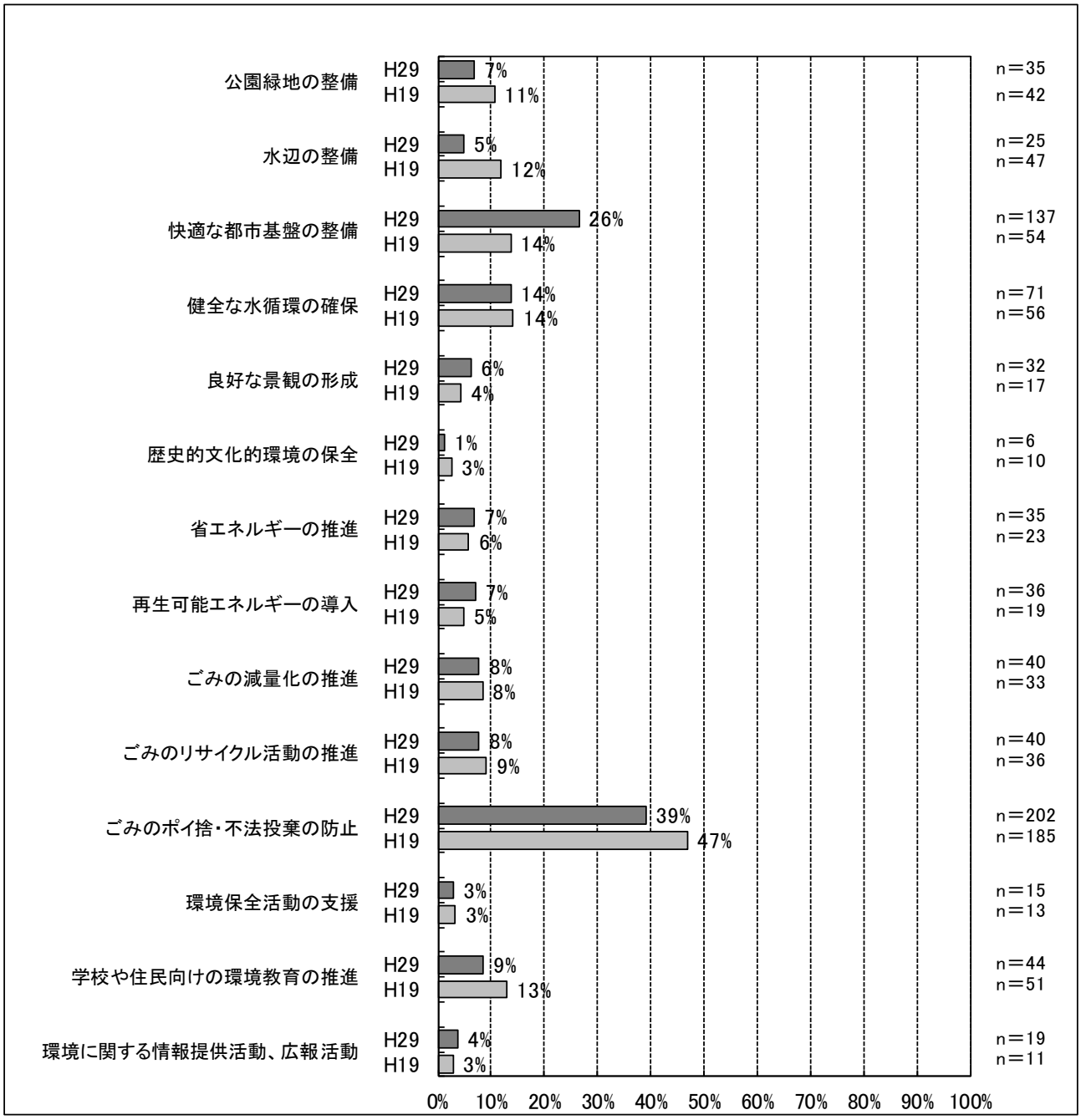


図 153　神栖市の環境を良くするための取組

表 38　神栖市の環境を良くするための取組

	H29 結果（回答数）	H29 結果（%）	H19 結果（%）
地球温暖化への取組	115	22%	30%
有害化学物質への対応	78	15%	13%
工場や事業所が原因の大気汚染・悪臭の防止	173	33%	28%
工場や事業所が原因の水質汚濁の防止	61	12%	12%
工場や事業所が原因の騒音・振動の防止	12	2%	1%
工場や事業所が原因の光害の防止	8	2%	2%
自動車による大気汚染の防止	29	6%	5%
自動車による騒音・振動の防止	26	5%	2%
生活活動に伴う水質汚濁への対策	57	11%	16%
生活活動に伴う騒音への対策	9	2%	1%
生活活動に伴う悪臭への対策	32	6%	3%
希少な野生生物の保護	15	3%	3%
身近な緑（農地・樹木）の保全	56	11%	11%
街並みや道路沿道の緑化の推進	75	15%	12%
公園緑地の整備	35	7%	11%
水辺の整備	25	5%	12%
快適な都市基盤の整備	137	26%	14%
健全な水循環の確保	71	14%	14%
良好な景観の形成	32	6%	4%
歴史的文化的環境の保全	6	1%	3%
省エネルギーの推進	35	7%	6%
再生可能エネルギーの導入	36	7%	5%
ごみの減量化の推進	40	8%	8%
ごみのリサイクル活動の推進	40	8%	9%
ごみのポイ捨・不法投棄の防止	202	39%	47%
環境保全活動の支援	15	3%	3%
学校や住民向けの環境教育の推進	44	9%	13%
環境に関する情報提供活動、広報活動	19	4%	3%
計（無回答を除く）			

2.2.2 事業所

(1) 回答者の属性

1) 設問１ 所在地

貴事業所の所在地についてお尋ねします。該当する番号に○をつけて下さい。

神栖東部地域	神栖西部地域	波崎地域	矢田部地域	若松地域
1. 横瀬	25. 居切	41. 東町	63. 仲新田	80. 日和山
2. 日川	26. 深芝	42. 仲町	64. 清水	81. 東押揚
3. 萩原	27. 平泉	43. 西町	65. 東海	82. 西押揚
4. 芝崎	28. 下幡木	44. 東仲島東	66. 西前宿	83. 東宝山
5. 石神	29. 鰐川	45. 東仲島西	67. 上中	84. 西宝山
6. 高浜	30. 筒井	46. 西仲島	68. 川尻	85. 太田新町
7. 田畑	31. 立野	47. 東明神町	69. 押植	86. 東須田
8. 木崎	32. 賀	48. 東明神前	70. 土合東	87. 仲須田
9. 溝口	33. 浜松	49. 明神前	71. 土合西	88. 西須田
10. 奥野谷	34. 神栖	50. 浜新田	72. 土合中央	89. 須田浜
11. 知手	35. 泉町	51. 本新町	73. 土合南	90. 須田団地
12. 柳堀	36. 新港	52. 海老台	74. 土合本町中	91. 相生
13. 一貫野	37. 大野原	53. 本郷	75. 東松下	92. 高砂
14. 亀の甲団地	38. 息栖原	54. 高野	76. 西松下	93. 二本松
15. 知手中央仲町	39. 息栖	55. 別所	77. 十町歩	94. 若ノ松
16. 知手中央東町	40. 掘割	56. 荒波	78. 土合北	95. 柳川団地
17. 奥野谷浜		57. 石津	79. 矢田部	96. 北若松
18. 知手浜		58. 仲舎利		97. 波崎工業団地
19. 知手浜東団地		59. 内出		
20. 日川浜		60. 松本		
21. 横瀬団地		61. 芝		
22. 砂山		62. 舎利浜		
23. 東和田				
24. 南浜				

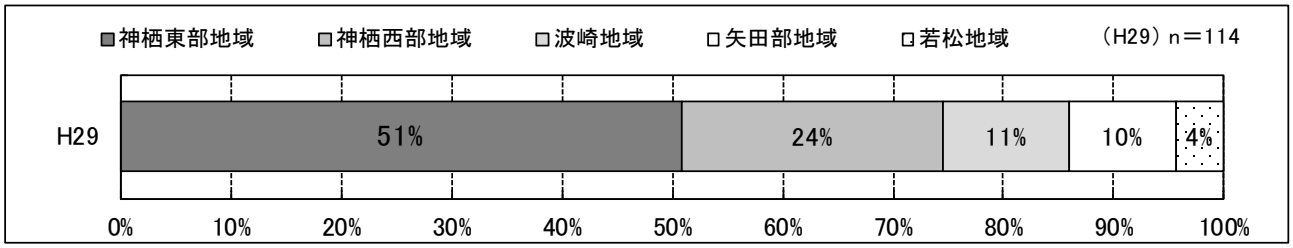


図 154 居住地区

表 39 居住地区

	H29 結果 (回答数)	H29 結果 (%)
神栖東部地域	58	51%
神栖西部地域	27	24%
波崎地域	13	11%
矢田部地域	11	10%
若松地域	5	4%
計 (無回答・無効を除く)	114	100%

2) 設問２　業種

貴事業所の業種についてお尋ねします。該当する番号に○をつけて下さい。	
1. 農林業 2. 水産業 3. 鉱業 4. 建設業 5. 製造業 6. 電気・ガス・水道業 7. 運輸・通信業	8. 卸・小売業、飲食店 9. 金融・保険業 10. 不動産業 11. サービス業 12. 公務 13. その他

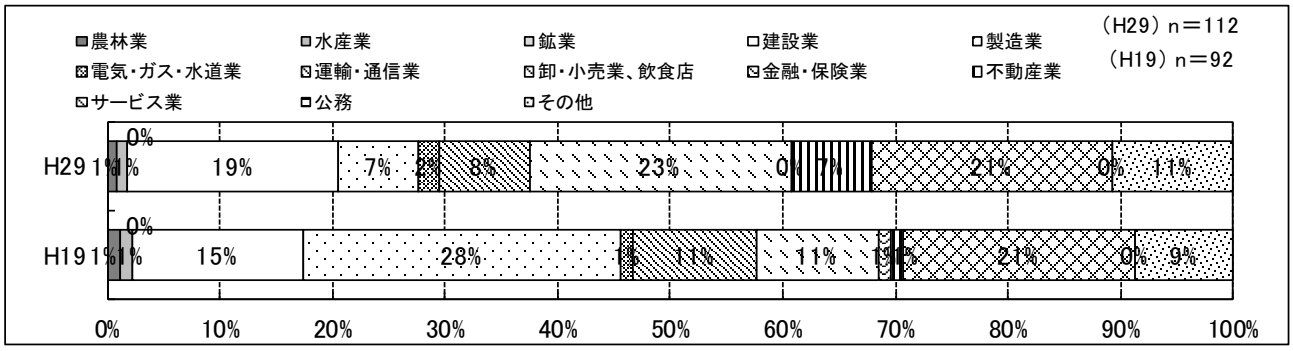


図 155　業種

表 40　業種

	H29 結果（回答数）	H29 結果（%）	H19 結果（%）
農林業	1	1%	1%
水産業	1	1%	1%
鉱業	0	0%	0%
建設業	21	19%	15%
製造業	8	7%	28%
電気・ガス・水道業	2	2%	1%
運輸・通信業	9	8%	11%
卸・小売業、飲食店	26	23%	11%
金融・保険業	0	0%	1%
不動産業	8	7%	1%
サービス業	24	21%	21%
公務	0	0%	0%
その他	12	11%	9%
計（無回答を除く）	112	100%	100%

3) 設問３　種類

貴事業所の種類についてお尋ねします。該当する番号に○をつけて下さい。	
1. 事務所（製造設備を設置していない） 2. 工場（製造設備を設置している）・農場・漁港	3. 店舗 4. その他

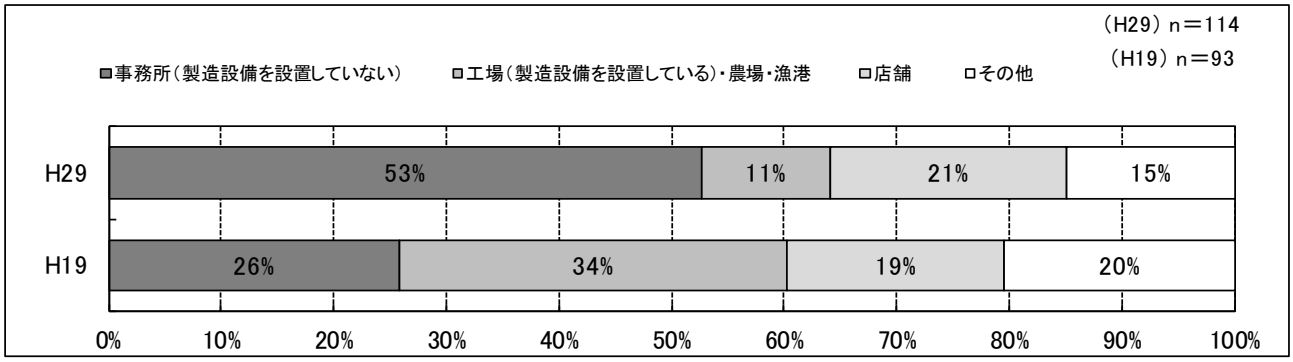


図 156　事業所の種類

表 41　事業所の種類

	H29 結果（回答数）	H29 結果（%）	H19 結果（%）
事務所（製造設備を設置していない）	60	53%	26%
工場（製造設備を設置している）・農場・漁港	13	11%	34%
店舗	24	21%	19%
その他	17	15%	20%
計（無回答を除く）	114	100%	100%

4) 設問 4　従業員数

貴事業所の従業員数についてお尋ねします。該当する番号に○をつけて下さい。	
1. 9 人以下 2. 10～29 人 3. 30～49 人	4. 50～99 人 5. 100～299 人 6. 300 人以上

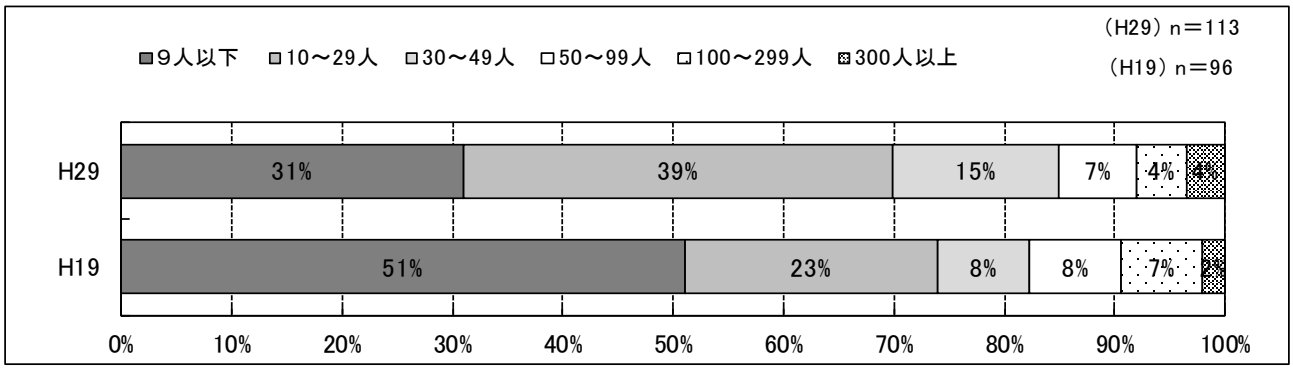


図 157　従業員数

表 42　従業員数

	H29 結果（回答数）	H29 結果（%）	H19 結果（%）
9 人以下	35	31%	51%
10～29 人	44	39%	23%
30～49 人	17	15%	8%
50～99 人	8	7%	8%
100～299 人	5	4%	7%
300 人以上	4	4%	2%
計（無回答を除く）	113	100%	100%

5) 設問５　本支店

貴事業所は本社（本店）ですか？それとも支社（支店）ですか？ 該当する番号に○をつけて下さい。	
1. 本社	2. 支社

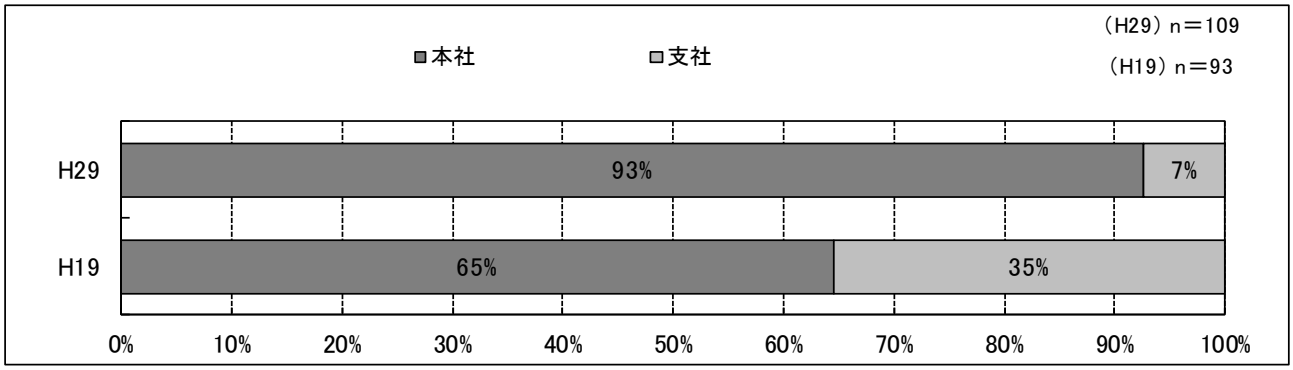


図 158　事業所の形態

表 43　事業所の形態

	H29 結果 （回答数）	H29 結果 （%）	H19 結果 (%)
本社	101	93%	65%
支社	8	7%	35%
計（無回答を除く）	109	100%	100%

6) 設問 6　設置年数

貴事業所は神栖市に設置して何年になりますか？ 該当する番号に○をつけて下さい。	
1. 2 年未満 2. 2～5 年未満 3. 5～10 年未満	4. 10～20 年未満 5. 20 年以上

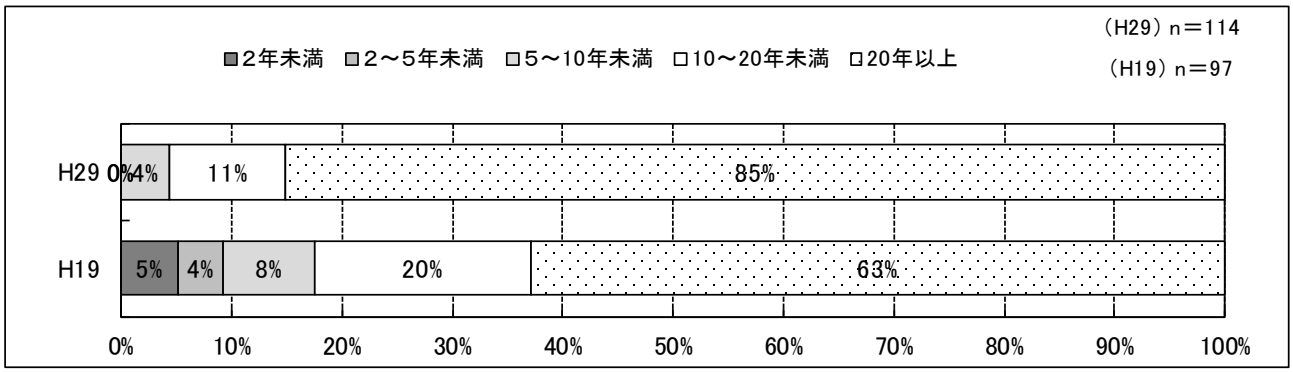


図 159　設置年数

表 44　設置年数

	H29 結果（回答数）	H29 結果（%）	H19 結果（%）
2 年未満	0	0%	5%
2～5 年未満	0	0%	4%
5～10 年未満	5	4%	8%
10～20 年未満	12	11%	20%
20 年以上	97	85%	63%
計（無回答を除く）	114	100%	100%

(2) 保全活動の状況

1) 設問 7　環境汚染対策について

貴事業所の環境汚染対策について、お尋ねします。 項目ごとに答えを 1 つずつ選んで、該当する番号に○をつけて下さい。 業務上必要のない項目、または、不可能な項目については、「業務上必要無し」の欄に○をつけて下さい。 ※項目は下記集計結果を参照

1. 実施 2. 検討中	3. 取り組んでいない

a) 全体

「河川への水質汚濁対策をしている」に関しての取組が最も多く、一方で「環境汚染物質の移動量を把握・集計・公表している」に関しての取組が最も少ない。

平成 19 年度と比較して、平成 29 年度では「環境汚染物質の移動量を把握・集計・公表している」に次いで「振動対策をしている」に関しての取組が大きく減少している。

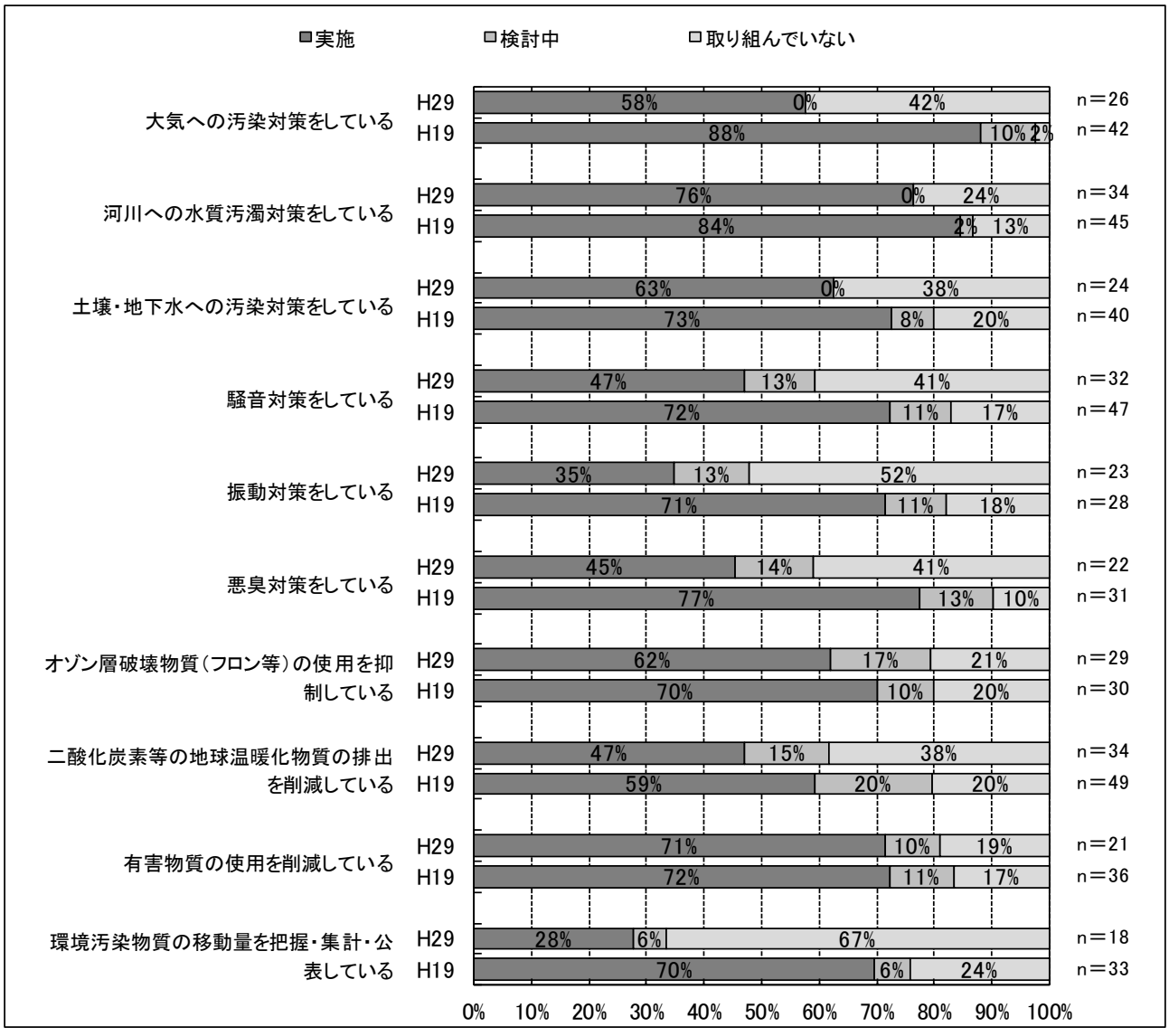


図 160　汚染対策について

表 45　汚染対策について

			実施	検討中	取り組んでいない	計(無回答を除く)
大気への汚染対策をしている	H29	(回答数)	15	0	11	26
		(%)	58%	0%	42%	100%
	H19	(%)	88%	10%	2%	100%
河川への水質汚濁対策をしている	H29	(回答数)	26	0	8	34
		(%)	76%	0%	24%	100%
	H19	(%)	84%	2%	13%	100%
土壌・地下水への汚染対策をしている	H29	(回答数)	15	0	9	24
		(%)	63%	0%	38%	100%
	H19	(%)	73%	8%	20%	100%
騒音対策をしている	H29	(回答数)	15	4	13	32
		(%)	47%	13%	41%	100%
	H19	(%)	72%	11%	17%	100%
振動対策をしている	H29	(回答数)	8	3	12	23
		(%)	35%	13%	52%	100%
	H19	(%)	71%	11%	18%	100%
悪臭対策をしている	H29	(回答数)	10	3	9	22
		(%)	45%	14%	41%	100%
	H19	(%)	77%	13%	10%	100%
オゾン層破壊物質（フロン等）の使用を抑制している	H29	(回答数)	18	5	6	29
		(%)	62%	17%	21%	100%
	H19	(%)	70%	10%	20%	100%
二酸化炭素等の地球温暖化物質の排出を削減している	H29	(回答数)	16	5	13	34
		(%)	47%	15%	38%	100%
	H19	(%)	59%	20%	20%	100%
有害物質の使用を削減している	H29	(回答数)	15	2	4	21
		(%)	71%	10%	19%	100%
	H19	(%)	72%	11%	17%	100%
環境汚染物質の移動量を把握・集計・公表している	H29	(回答数)	5	1	12	18
		(%)	28%	6%	67%	100%
	H19	(%)	70%	6%	24%	100%

b) クロス集計

用途別に比較すると、事務所は「河川への水質汚濁対策をしている」、工場・農場・漁港は「大気への汚染対策をしている」、「河川への水質汚濁対策をしている」、「有害物質の使用を削減している」、店舗とその他は「有害物質の使用を削減している」に関しての取組が最も多い。一方で工場を除くどの事業所も「環境汚染物質の移動量を把握・集計・公表している」に関しての取組が最も少ない。

①用途別分析

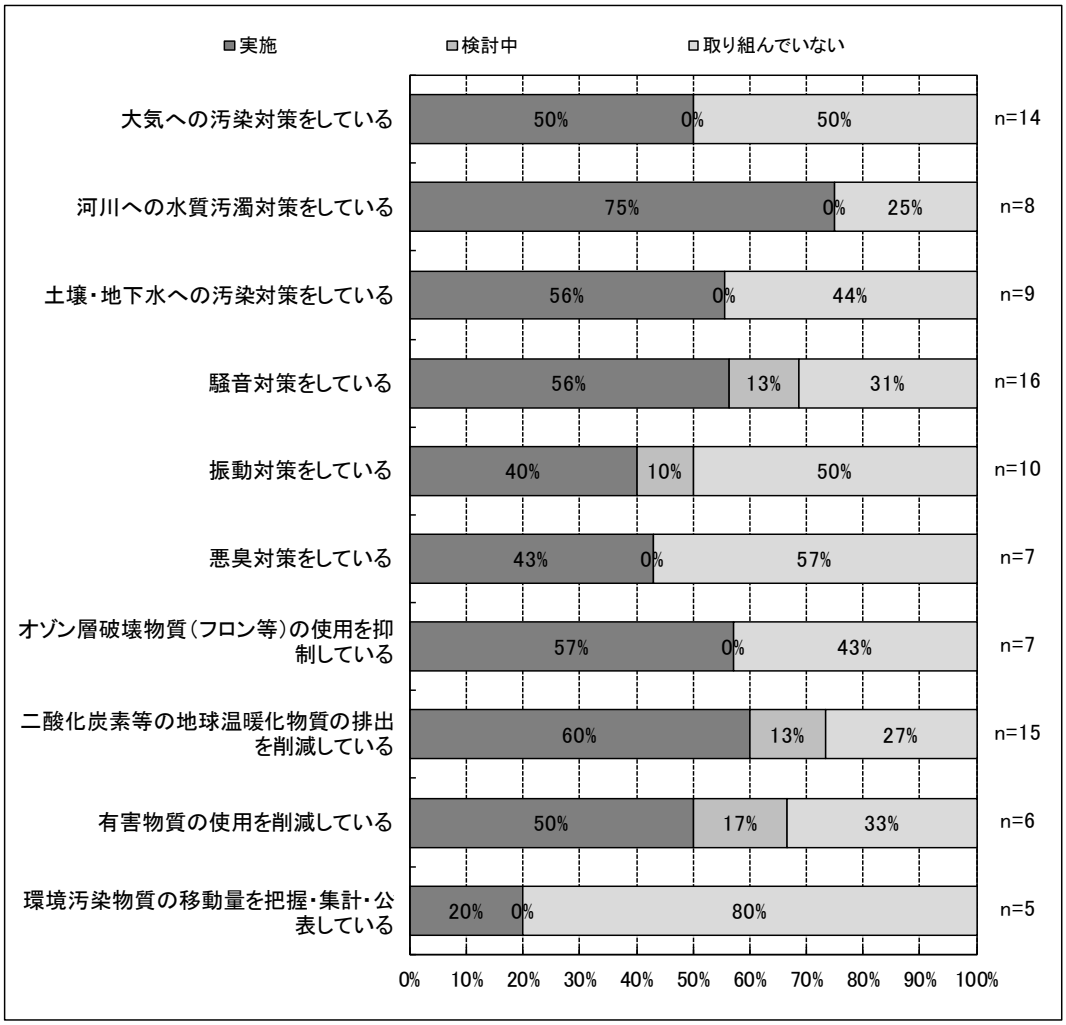


図 161　用途別分析　事務所（製造設備を設置していない）

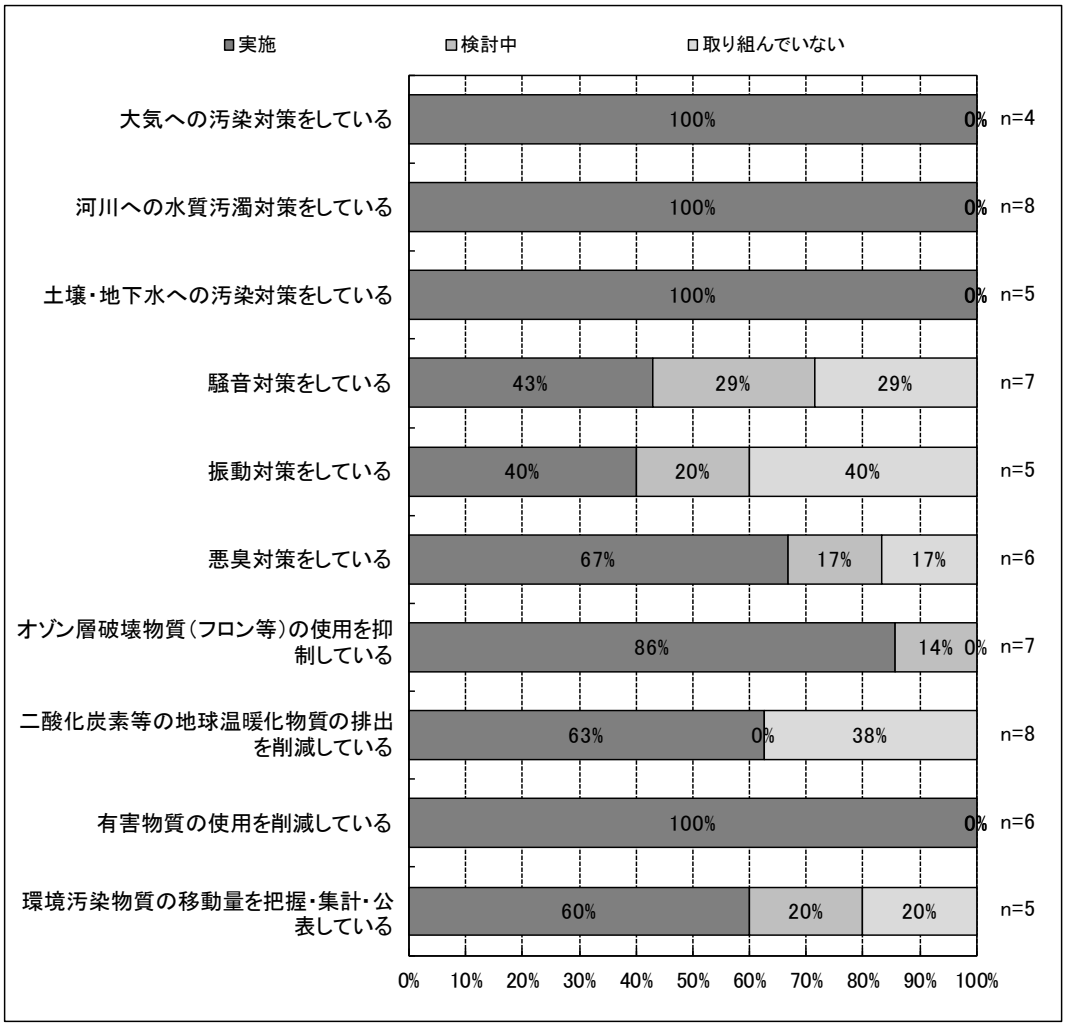


図 162　用途別分析　工場（製造設備を設置している）・農場・漁港

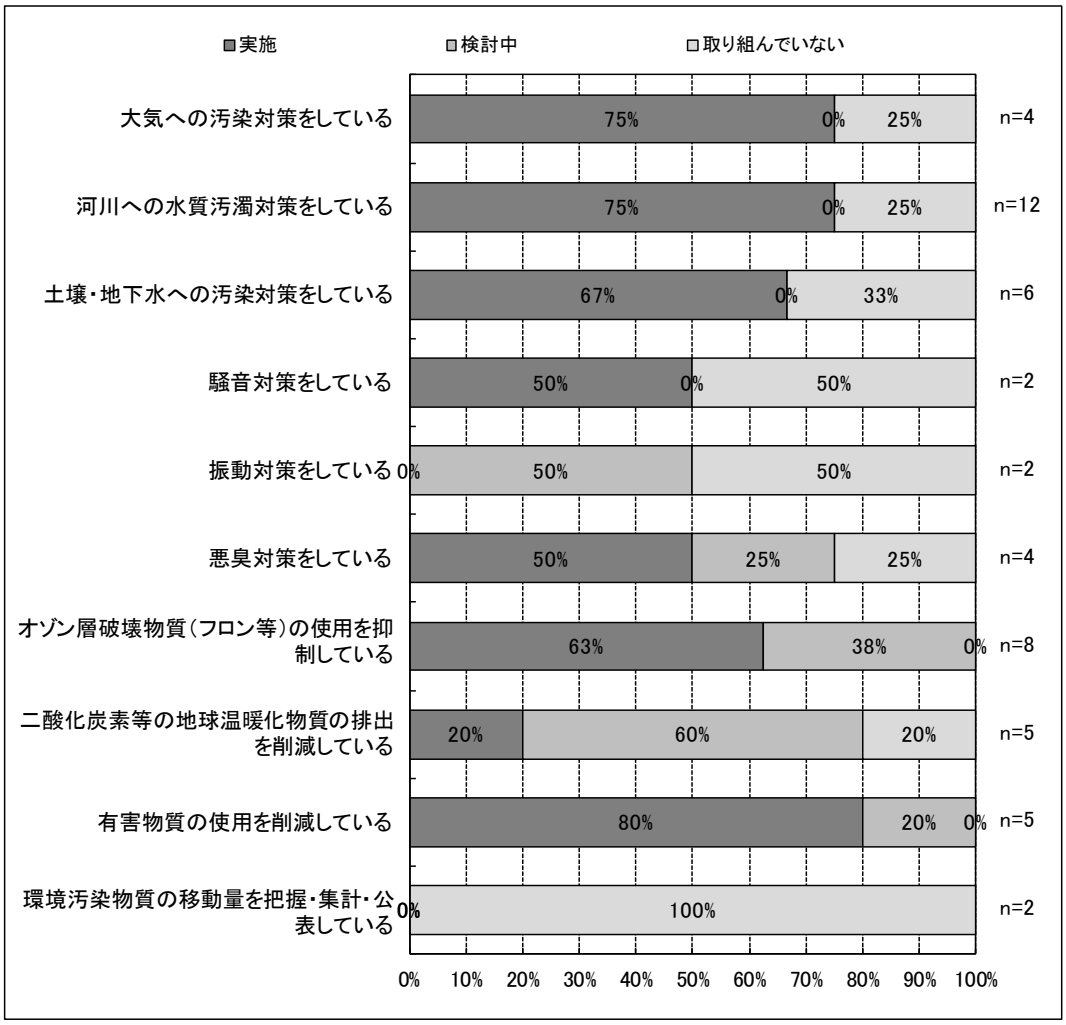


図 163　用途別分析　店舗

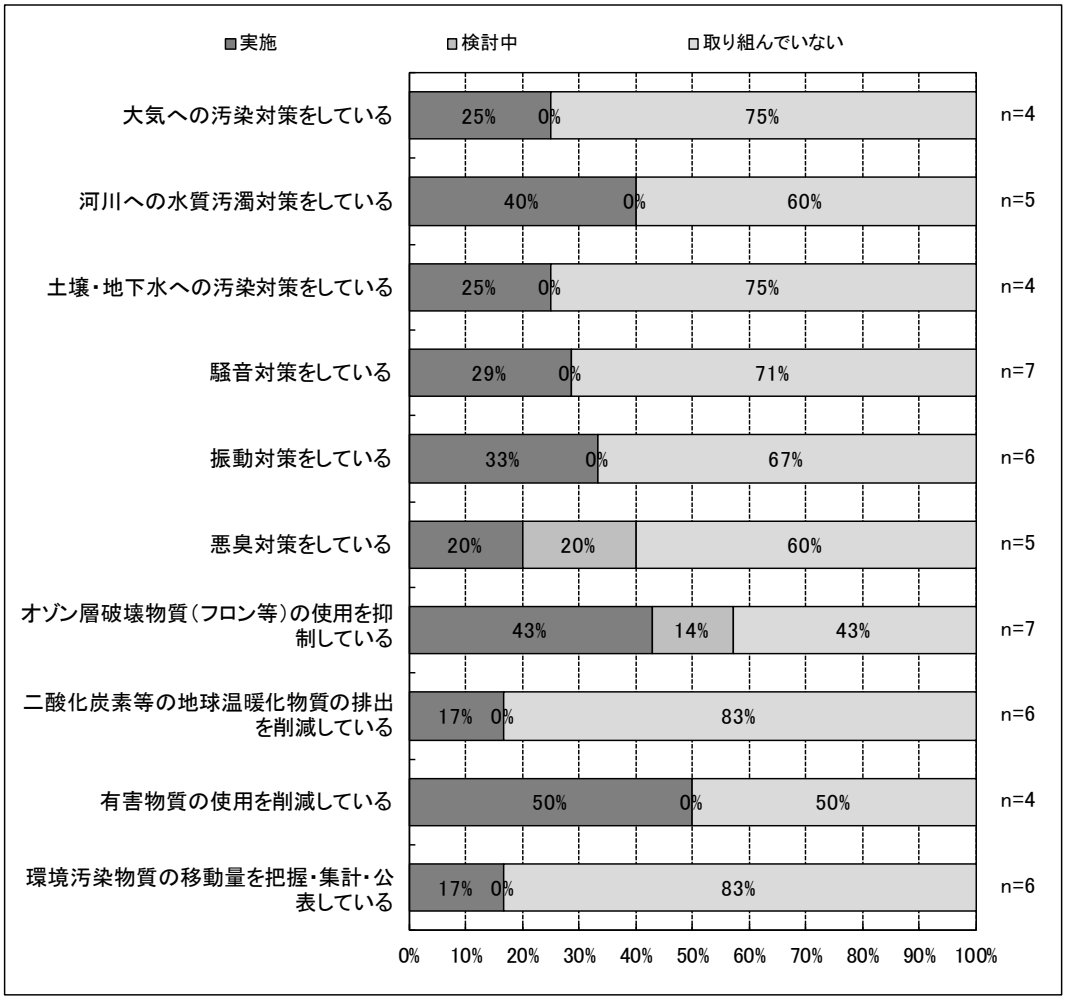


図 164　用途別分析　その他

2) 設問 8　廃棄物対策について

貴事業所から発生する廃棄物の減量・リサイクルに対する取組ついて、お尋ねします。 項目ごとに答えを 1 つずつ選んで、該当する番号に○をつけて下さい。 業務上必要のない項目、または、不可能な項目については、「業務上必要無し」の欄に○をつけて下さい。 ※項目は下記集計結果を参照

1. 実施 2. 検討中	3. 取り組んでいない

a) 全体

「発生した廃棄物は適切に処理している」に関しての取組が最も多く、一方で「ゼロ・エミッションに取り組んでいる」に関しての取組が最も少ない。
平成 19 年度と比較して、平成 29 年度では項目ごとに対しての取組が、減少している傾向にある。

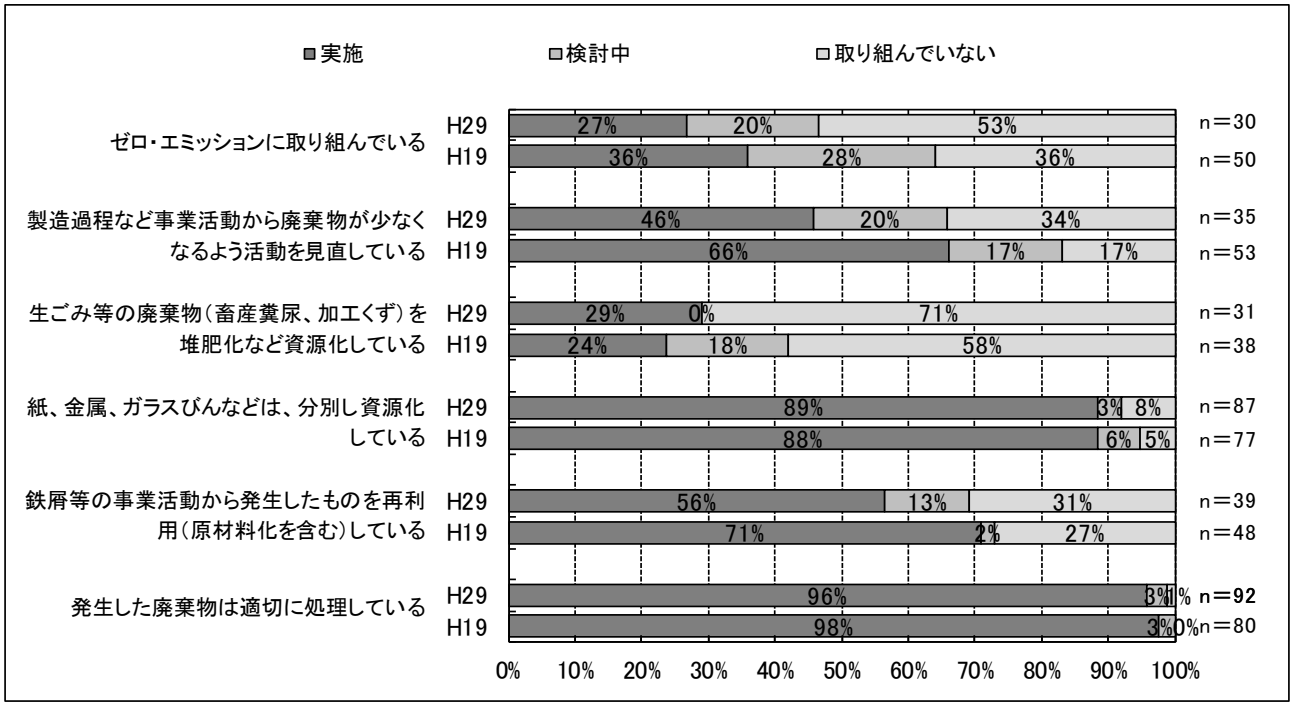


図 165　廃棄物の減量・リサイクルに対する取組

表 46　廃棄物の減量・リサイクルに対する取組

			実施	検討中	取り組んでいない	計(無回答を除く)
ゼロ・エミッションに取り組んでいる	H29	(回答数)	8	6	16	30
		(%)	27%	20%	53%	100%
	H19	(%)	36%	28%	36%	100%
製造過程など事業活動から廃棄物が少なくなるよう活動を見直している	H29	(回答数)	16	7	12	35
		(%)	46%	20%	34%	100%
	H19	(%)	66%	17%	17%	100%
生ごみ等の廃棄物（畜産糞尿、加工くず）を堆肥化など資源化している	H29	(回答数)	9	0	22	31
		(%)	29%	0%	71%	100%
	H19	(%)	24%	18%	58%	100%
紙、金属、ガラスびんなどは、分別し資源化している	H29	(回答数)	77	3	7	87
		(%)	89%	3%	8%	100%
	H19	(%)	88%	6%	5%	100%
鉄屑等の事業活動から発生したものを再利用（原材料化を含む）している	H29	(回答数)	22	5	12	39
		(%)	56%	13%	31%	100%
	H19	(%)	71%	2%	27%	100%
発生した廃棄物は適切に処理している	H29	(回答数)	88	3	1	92
		(%)	96%	3%	1%	100%
	H19	(%)	98%	3%	0%	100%

b) クロス集計

用途別に比較すると、どの事業所も「発生した廃棄物は適切に処理している」に関しての取組が最も多く、一方で事務所とその他は「生ごみ等の廃棄物を堆肥化など資源化している」、工場・農場・漁港は「ゼロ・エミッションに取り組んでいる」及び「製造過程など事業活動から廃棄物が少なくなるよう活動を見直している」、店舗は「ゼロ・エミッションに取り組んでいる」に関しての取組が最も少ない。

①用途別分析

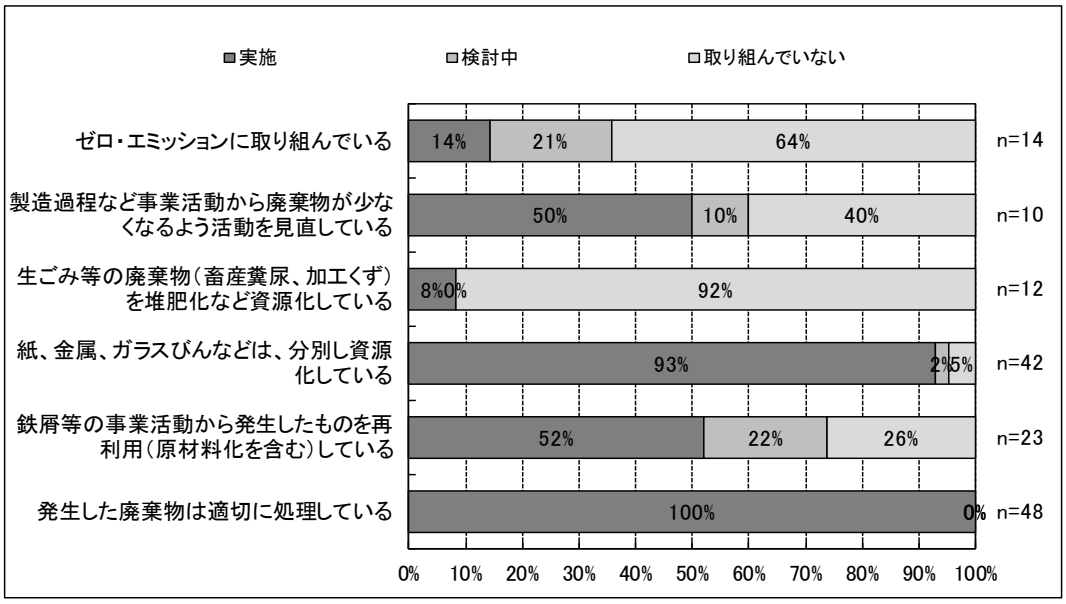


図 166　用途別分析　事務所（製造設備を設置していない）

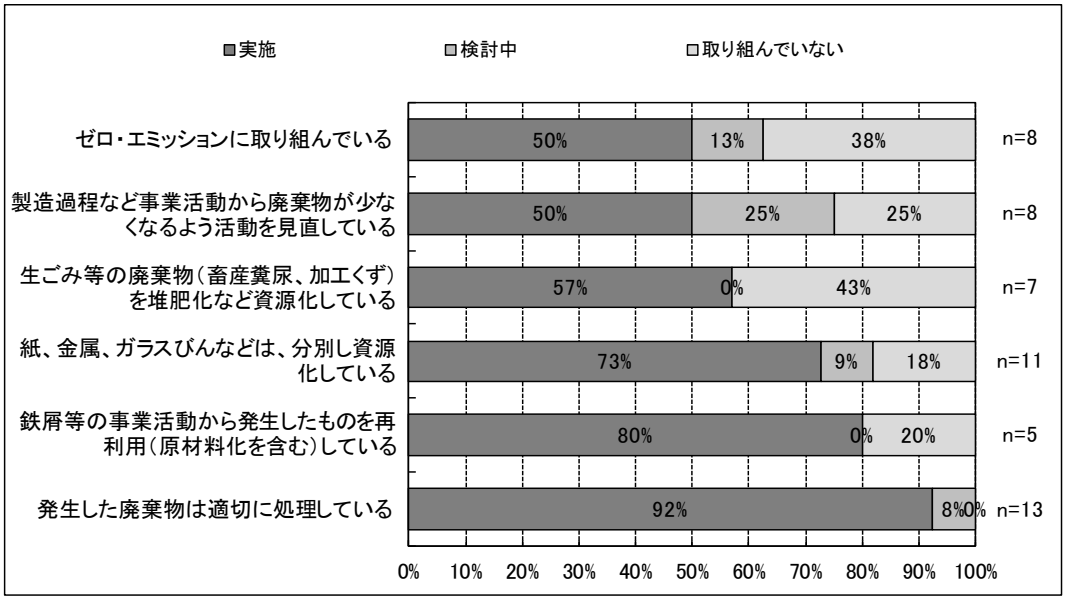


図 167　用途別分析　工場（製造設備を設置している）・農場・漁港

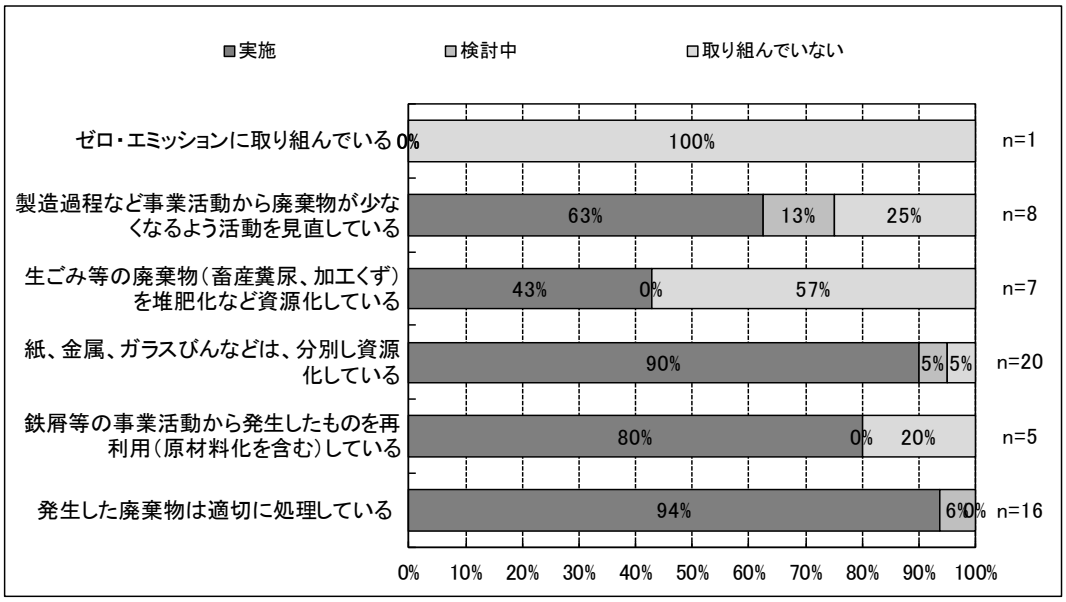


図 168　用途別分析　店舗

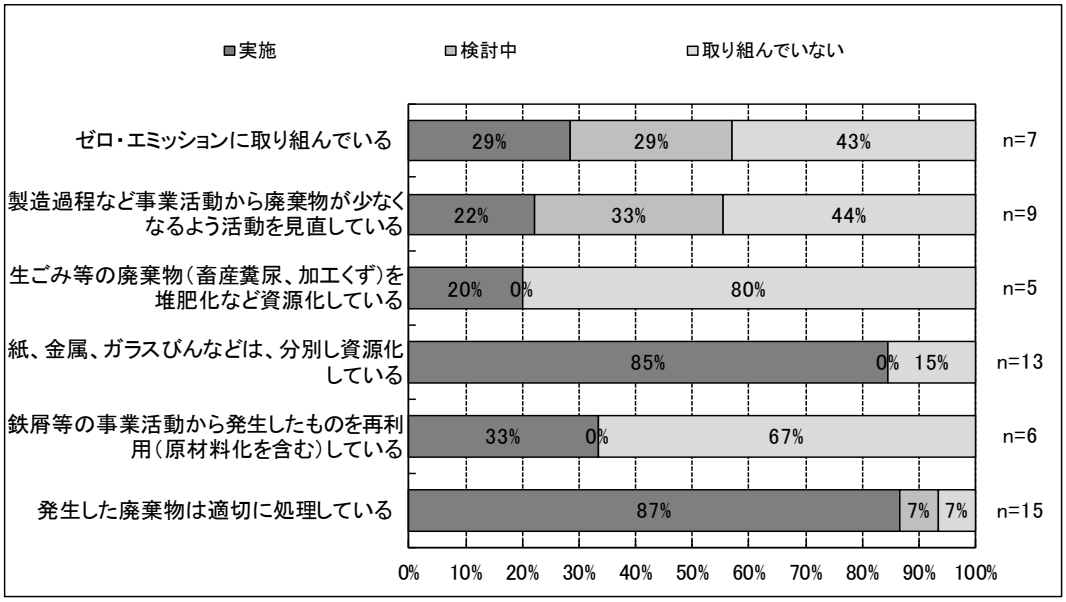


図 169　用途別分析　その他

3) 設問 9　製品を購入する際の取組について

貴事業所が製品を購入する際の取組についてお尋ねします。 項目ごとに答えを 1 つずつ選んで、該当する番号に○をつけて下さい。 業務上必要のない項目、または、不可能な項目については、「業務上必要無し」の欄に○をつけて下さい。 ※項目は下記集計結果を参照

1. 実施 2. 検討中	3. 取り組んでいない

a) 全体

「省エネルギー型の製品を導入している」に関しての取組が最も多く、一方で「ボールペンなどの事務用品は、廃プラスチックから作られた製品や再生利用が可能な製品を購入している」に関しての取組が最も少ない。

平成 19 年度と比較して、平成 29 年度では項目ごとの取組が、減少している傾向にある。

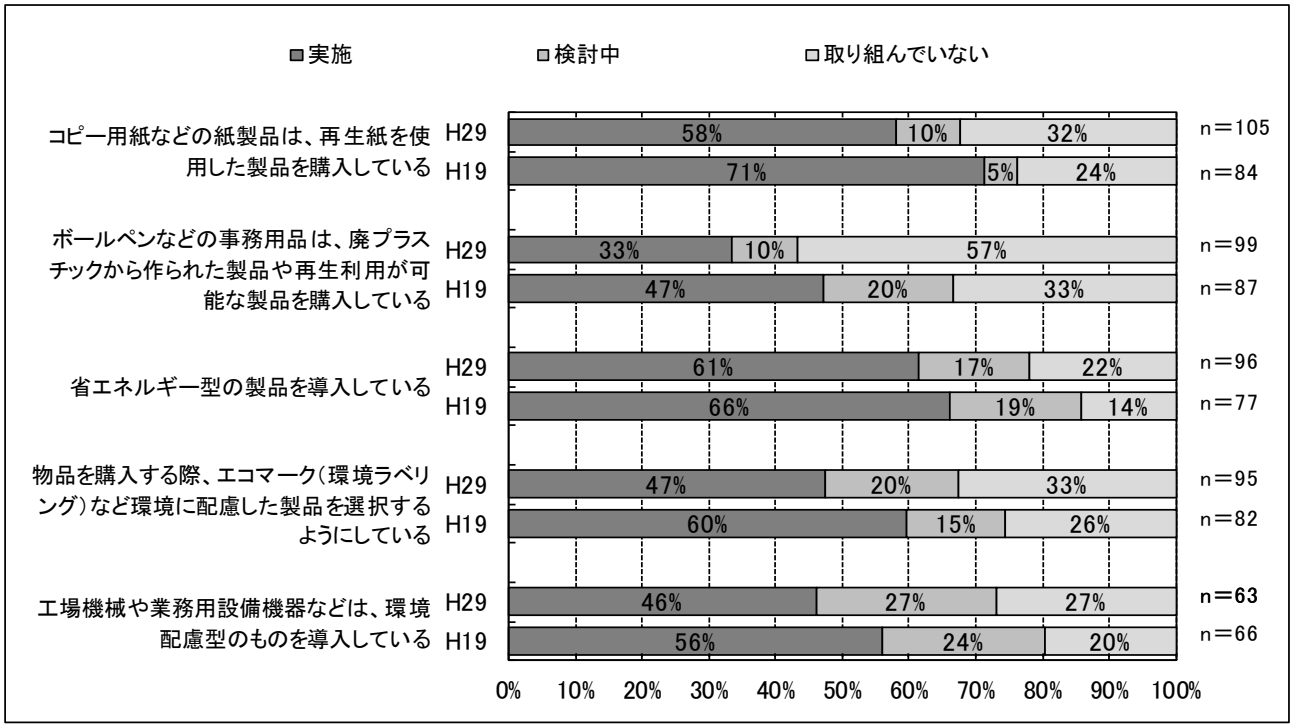


図 170　製品購入の際の取組

表 47　製品購入の際の取組

			実施	検討中	取り組んでいない	計(無回答を除く)
コピー用紙などの紙製品は、再生紙を使用した製品を購入している	H29	(回答数)	61	10	34	105
		(%)	58%	10%	32%	100%
	H19	(%)	71%	5%	24%	100%
ボールペンなどの事務用品は、廃プラスチックから作られた製品や再生利用が可能な製品を購入している	H29	(回答数)	33	10	56	99
		(%)	33%	10%	57%	100%
	H19	(%)	47%	20%	33%	100%
省エネルギー型の製品を導入している	H29	(回答数)	59	16	21	96
		(%)	61%	17%	22%	100%
	H19	(%)	66%	19%	14%	100%
物品を購入する際、エコマーク（環境ラベリング）など環境に配慮した製品を選択するようにしている	H29	(回答数)	45	19	31	95
		(%)	47%	20%	33%	100%
	H19	(%)	60%	15%	26%	100%
工場機械や業務用設備機器などは、環境配慮型のものを導入している	H29	(回答数)	29	17	17	63
		(%)	46%	27%	27%	100%
	H19	(%)	56%	24%	20%	100%

b) クロス集計

用途別に比較すると、事務所は「コピー用紙などの紙製品は、再生紙を使用した製品を購入している」、店舗と工場・農場・漁港とその他は「省エネルギー型の製品を導入している」に関しての取組が最も多く、一方どの事業所も、「ボールペンなどの事務用品は、廃プラスチックから作られた製品や再生利用が可能な製品を購入している」に関しての取組が最も少ない。

①用途別分析

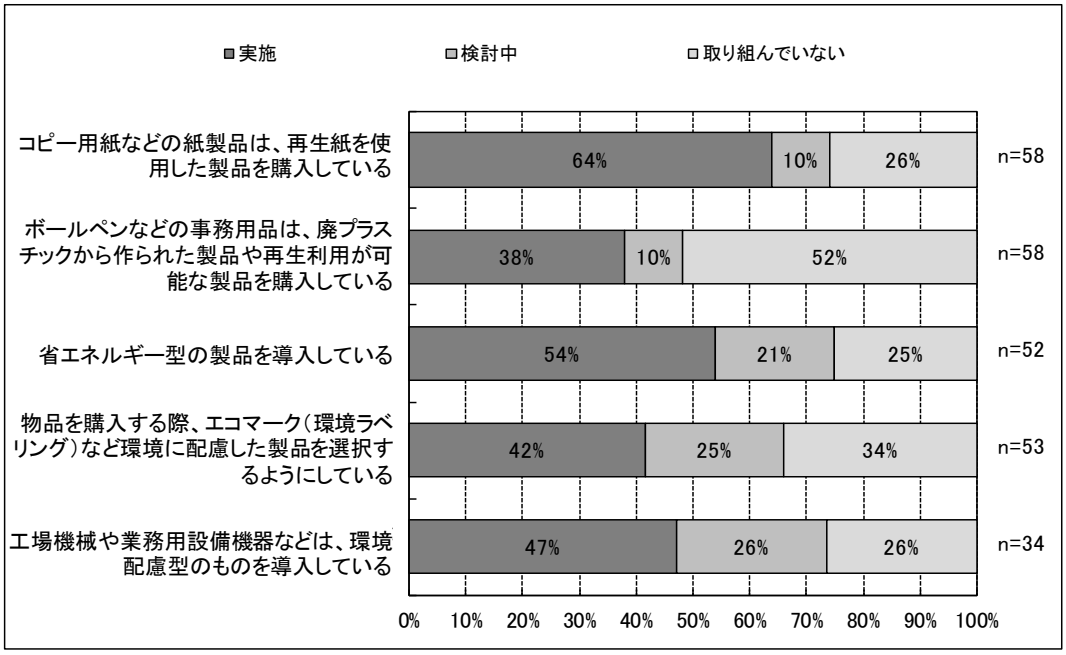


図 171　用途別分析　事務所（製造設備を設置していない）

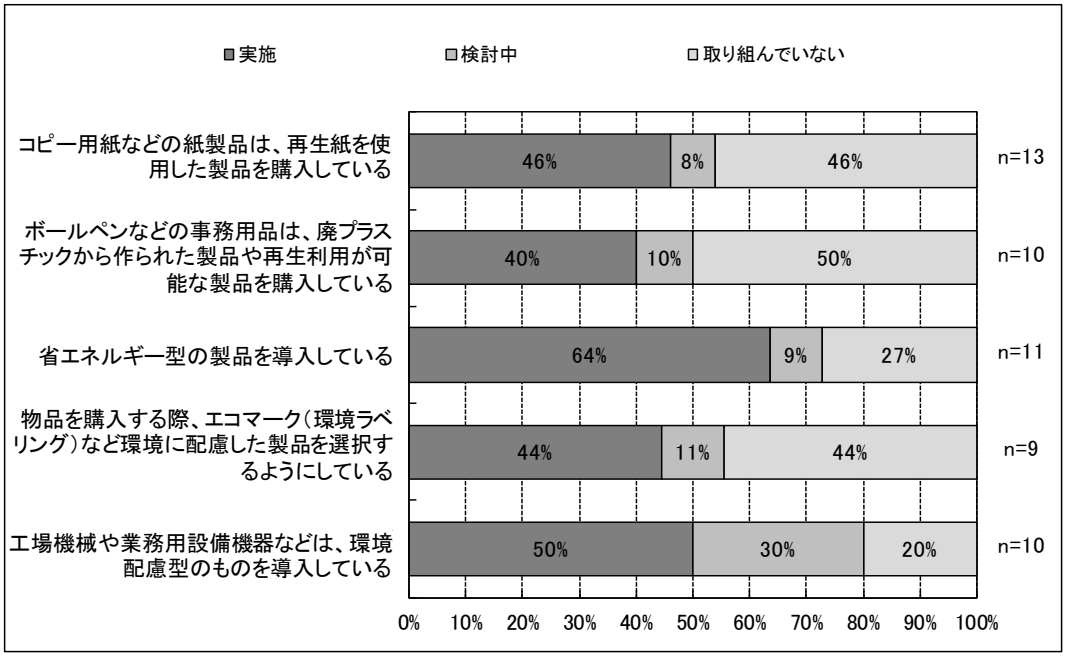


図 172　用途別分析　工場（製造設備を設置している）・農場・漁港

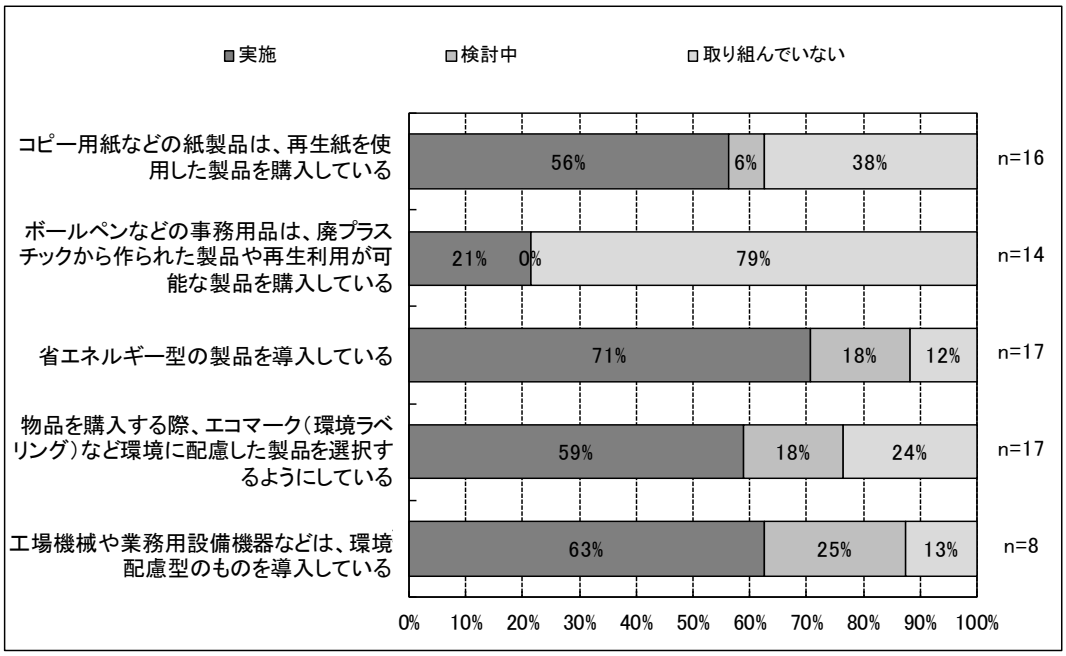


図 173　用途別分析　店舗

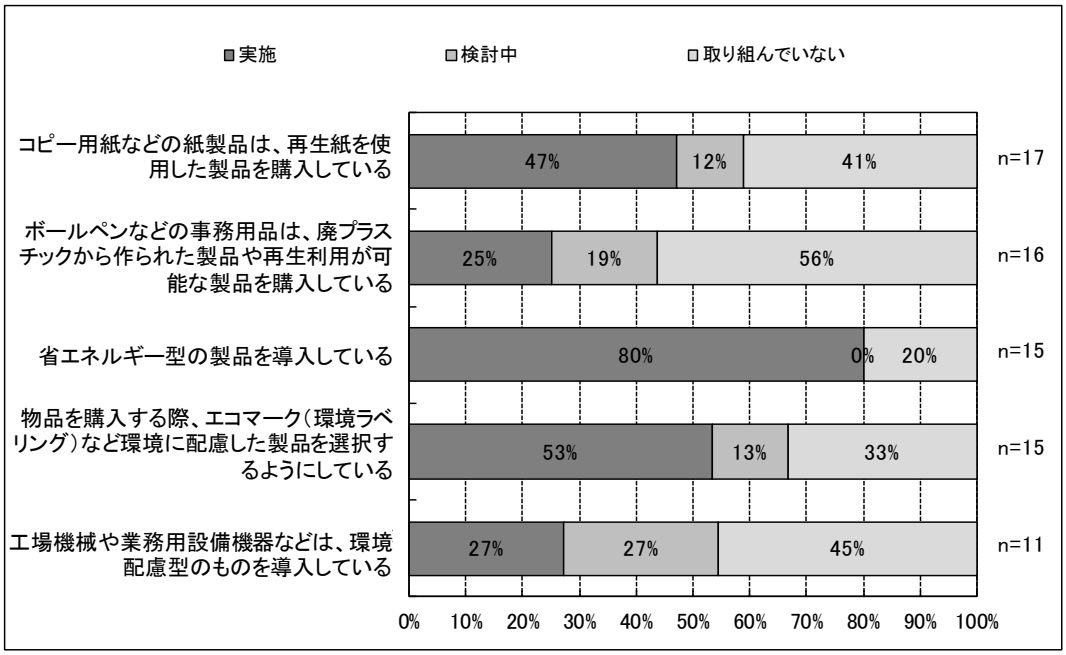


図 174　用途別分析　その他

5) 設問 10　省エネルギーに対する取組について

貴事業所の省エネルギーに対する取組について、お尋ねします。 項目ごとに答えを 1 つずつ選んで、該当する番号に○をつけて下さい。 業務上必要のない項目、または、不可能な項目については、「業務上必要無し」の欄に○をつけて下さい。 ※項目は下記集計結果を参照

1. 実施 2. 検討中	3. 取り組んでいない

a) 全体

「不要個所の電灯の消灯」に関しての取組が最も多く、一方で「自家用車の通勤を控える」に関しての取組が最も少ない。

平成 19 年度と比較して、全体的な傾向に大きな変化は見られない。

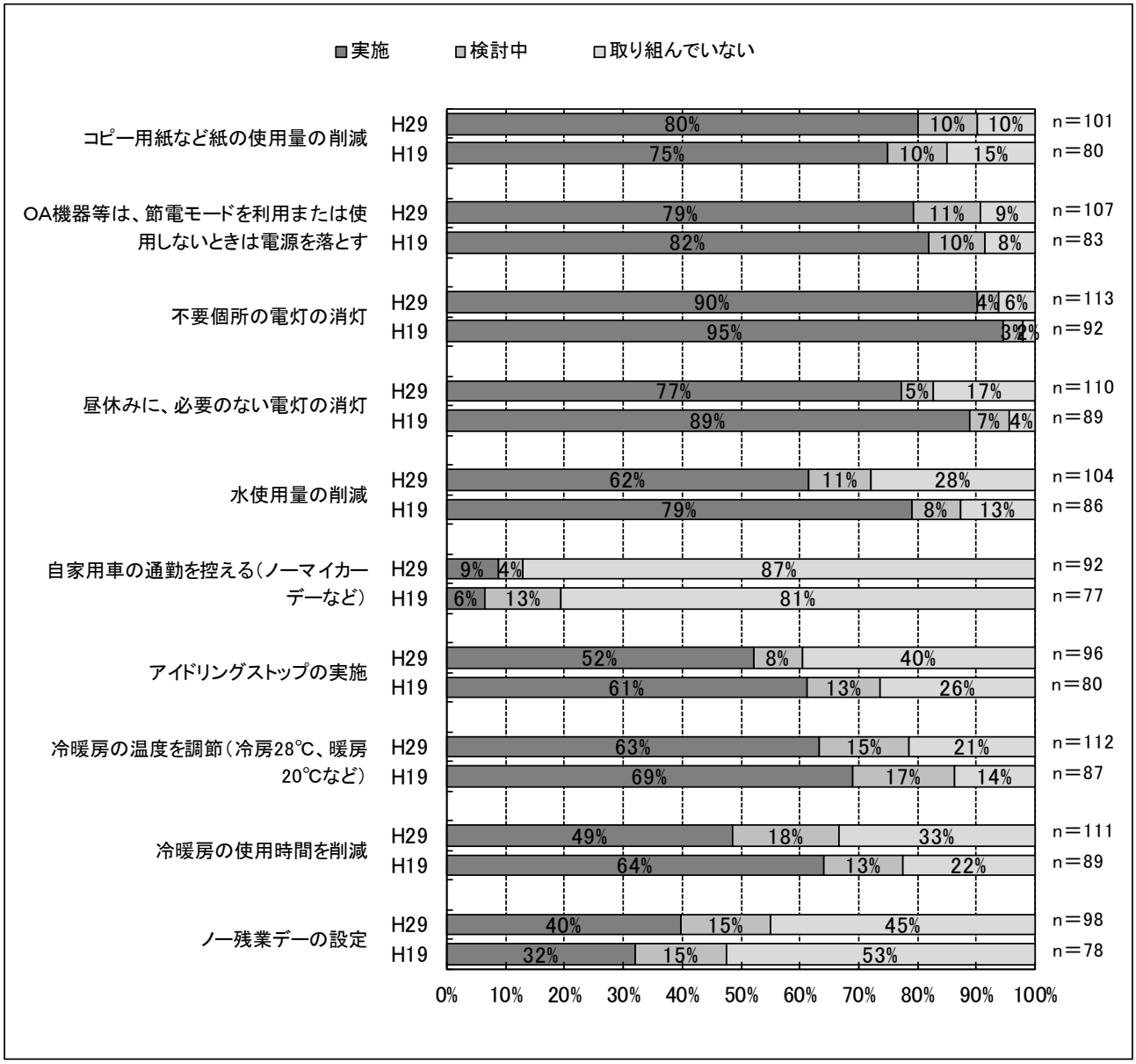


図 175　省エネルギーに対する取組

表 48　省エネルギーに対する取組

			実施	検討中	取り組んでいない	計(無回答を除く)
コピー用紙など紙の使用量の削減	H29	(回答数)	81	10	10	101
		(%)	80%	10%	10%	100%
	H19	(%)	75%	10%	15%	100%
ＯＡ機器等は、節電モードを利用または使用しないときは電源を落とす	H29	(回答数)	85	12	10	107
		(%)	79%	11%	9%	100%
	H19	(%)	82%	10%	8%	100%
不要個所の電灯の消灯	H29	(回答数)	102	4	7	113
		(%)	90%	4%	6%	100%
	H19	(%)	95%	3%	2%	100%
昼休みに、必要のない電灯の消灯	H29	(回答数)	85	6	19	110
		(%)	77%	5%	17%	100%
	H19	(%)	89%	7%	4%	100%
水使用量の削減	H29	(回答数)	64	11	29	104
		(%)	62%	11%	28%	100%
	H19	(%)	79%	8%	13%	100%
自家用車の通勤を控える（ノーマイカーデーなど)	H29	(回答数)	8	4	80	92
		(%)	9%	4%	87%	100%
	H19	(%)	6%	13%	81%	100%
アイドリングストップの実施	H29	(回答数)	50	8	38	96
		(%)	52%	8%	40%	100%
	H19	(%)	61%	13%	26%	100%
冷暖房の温度を調節（冷房 28℃、暖房 20℃など）	H29	(回答数)	71	17	24	112
		(%)	63%	15%	21%	100%
	H19	(%)	69%	17%	14%	100%
冷暖房の使用時間を削減	H29	(回答数)	54	20	37	111
		(%)	49%	18%	33%	100%
	H19	(%)	64%	13%	22%	100%
ノー残業デーの設定	H29	(回答数)	39	15	44	98
		(%)	40%	15%	45%	100%
	H19	(%)	32%	15%	53%	100%

b) クロス集計

用途別に比較すると、事務所とその他は「不要個所の電灯の消灯」、工場・農場・漁港は「OA 機器等は、節電モードを利用または使用しないときは電源を落とす」、店舗は「コピー用紙など紙の使用量の削減」に関しての取組が最も多く、一方どの事業所も、「自家用車の通勤を控える」に関しての取組が最も少ない。

①用途別分析

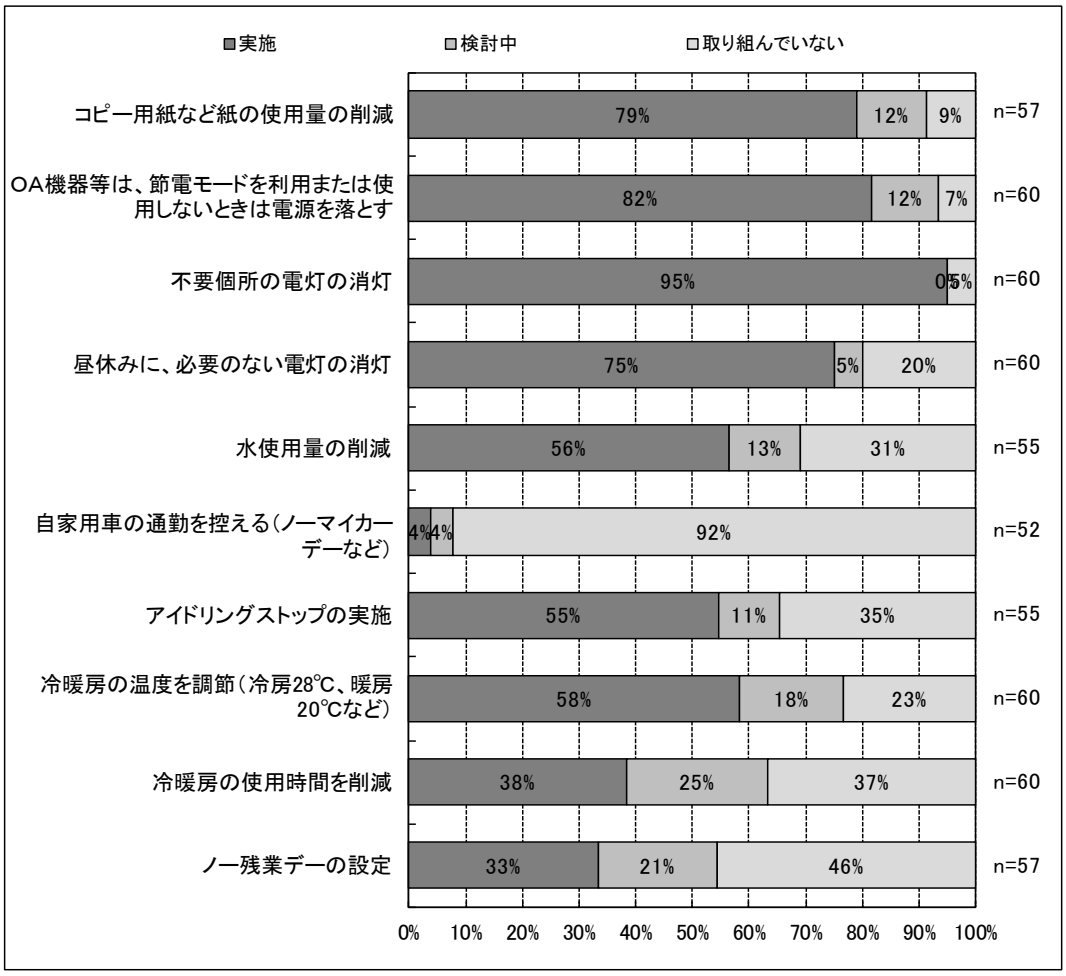


図 176　用途別分析　事務所（製造設備を設置していない）

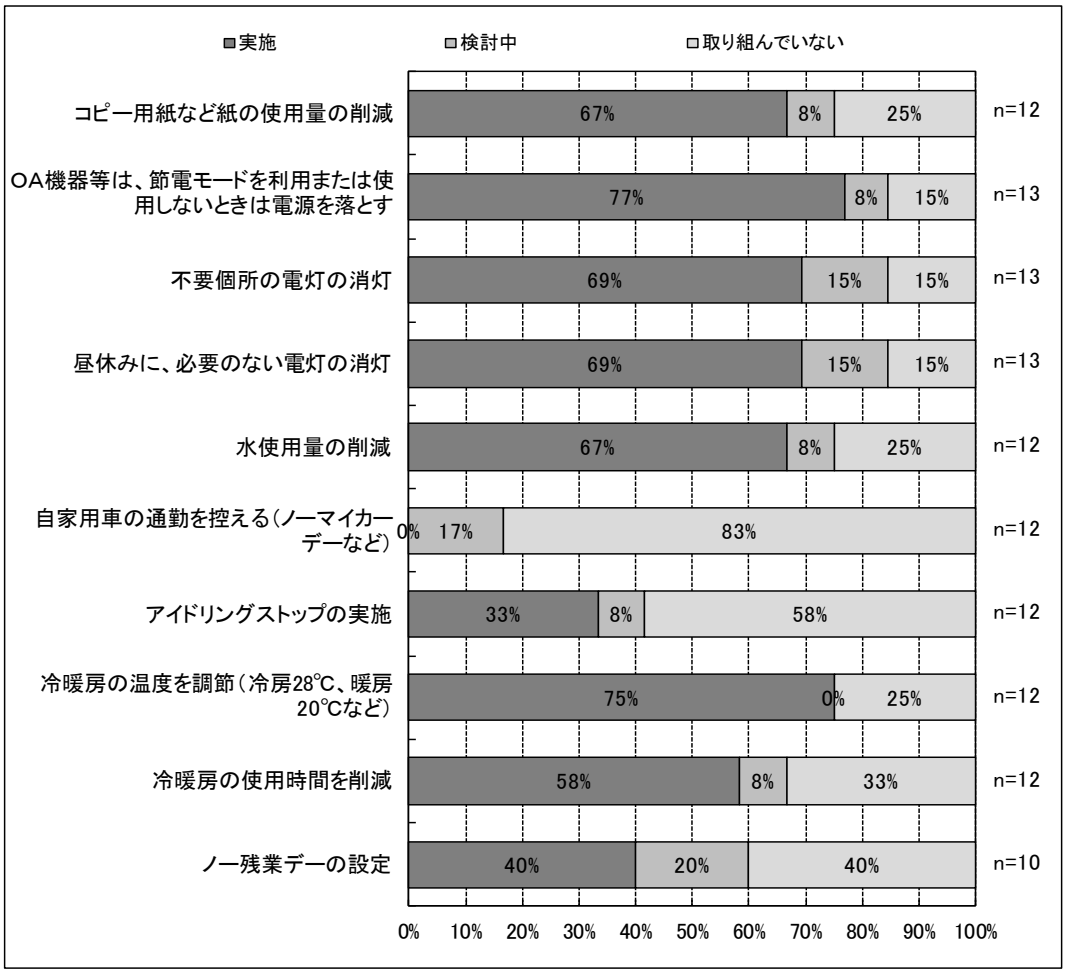


図 177　用途別分析　工場（製造設備を設置している）・農場・漁港

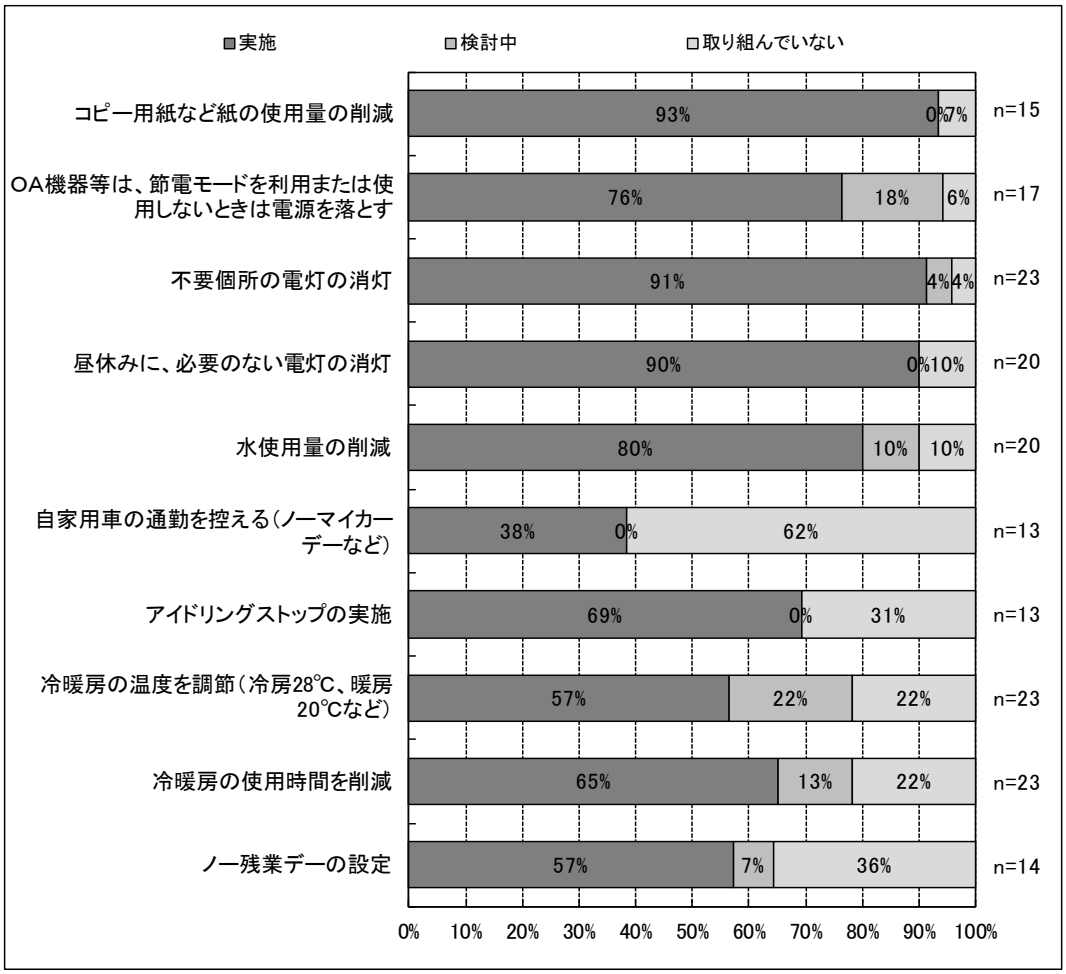


図 178　用途別分析　店舗

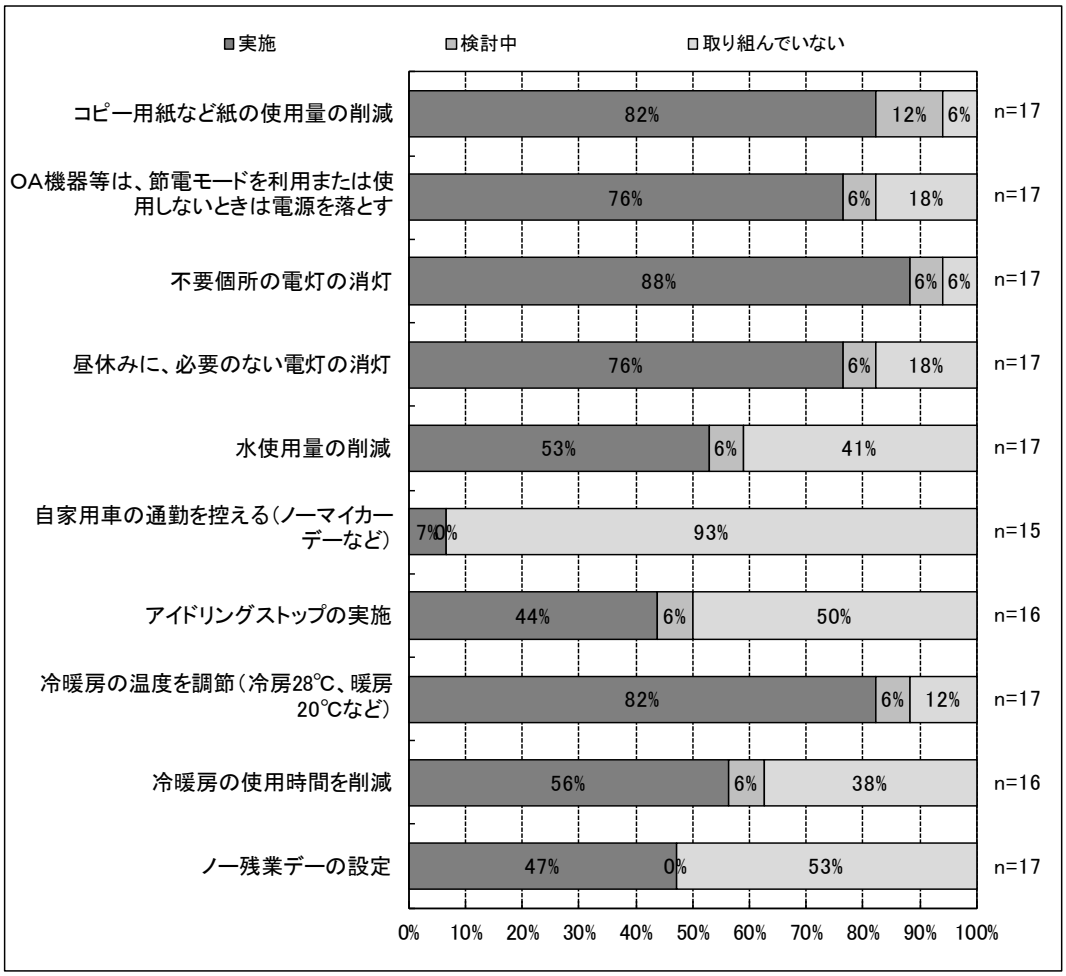


図 179　用途別分析　その他

6) 設問 11　製品サービスへの環境配慮について

貴事業所の製品・サービスへの環境配慮について、お尋ねします。 項目ごとに答えを 1 つずつ選んで、該当する番号に○をつけて下さい。 業務上必要のない項目、または、不可能な項目については、「業務上必要無し」の欄に○をつけて下さい。また、この他に製品・サービスへの環境配慮を行っている場合は、下欄に具体的にご記入下さい。 ※項目は下記集計結果を参照

1. 実施 2. 検討中	3. 取り組んでいない

a) 全体

「リサイクル可能な製品の製造・販売など環境に配慮した製品・サービスの提供」に関しての取組が最も多く、一方で「ライフサイクル・アセスメントの実施」に関しての取組が最も少ない。
平成 19 年度と比較して、全体的に減少している傾向がある。

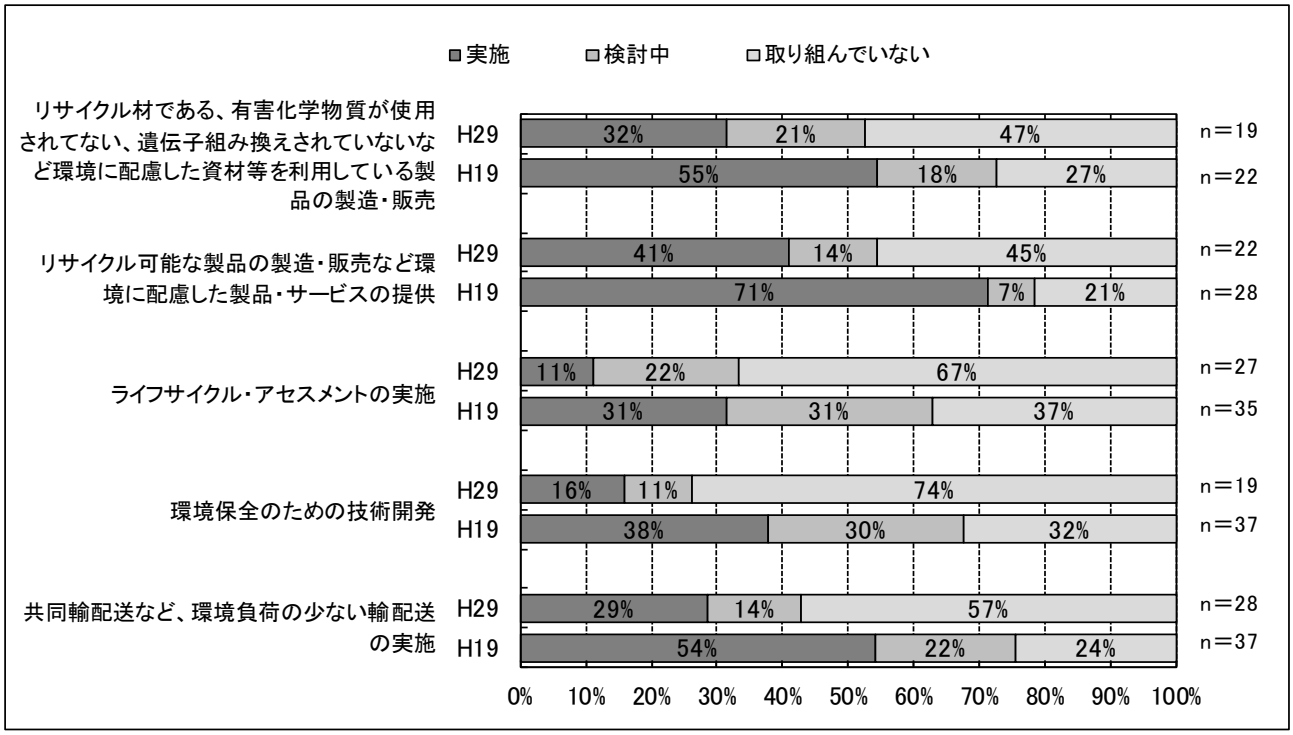


図 180　製品・サービスへの環境配慮について

表 49　製品・サービスへの環境配慮について

			実施	検討中	取り組んでいない	計(無回答を除く)
リサイクル材である、有害化学物質が使用されてない、遺伝子組み換えされていないなど環境に配慮した資材等を利用している製品の製造・販売	H29	(回答数)	6	4	9	19
		(%)	32%	21%	47%	100%
	H19	(%)	55%	18%	27%	100%
リサイクル可能な製品の製造・販売など環境に配慮した製品・サービスの提供	H29	(回答数)	9	3	10	22
		(%)	41%	14%	45%	100%
	H19	(%)	71%	7%	21%	100%
ライフサイクル・アセスメントの実施	H29	(回答数)	3	6	18	27
		(%)	11%	22%	67%	100%
	H19	(%)	31%	31%	37%	100%
環境保全のための技術開発	H29	(回答数)	3	2	14	19
		(%)	16%	11%	74%	100%
	H19	(%)	38%	30%	32%	100%
共同輸配送など、環境負荷の少ない輸配送の実施	H29	(回答数)	8	4	16	28
		(%)	29%	14%	57%	100%
	H19	(%)	54%	22%	24%	100%

b) クロス集計

用途別に比較すると、どの事業所も「リサイクル可能な製品の製造・販売など環境に配慮した製品・サービスの提供」に関しての取組が多く、一方で、事務所、工場・農場・漁港とその他は「ライフサイクル・アセスメントの実施」、店舗は「環境保全のための技術開発」と「共同輸配送など、環境負荷の少ない輸配送の実施」に関しての取組が最も少ない。

①用途別分析

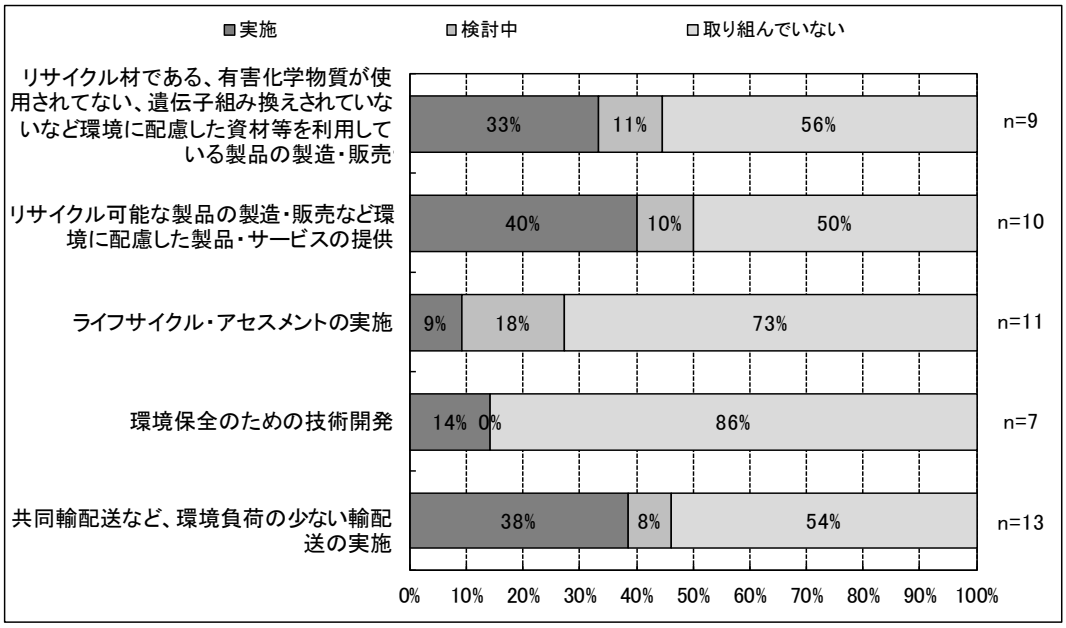


図 181　用途別分析　事務所（製造設備を設置していない）

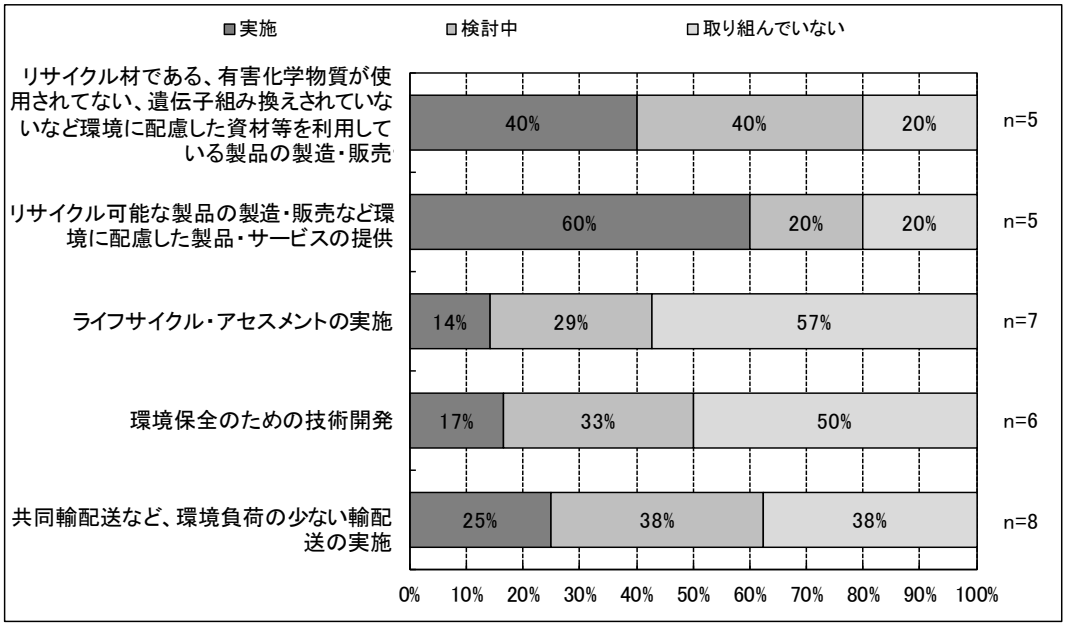


図 182　用途別分析　工場（製造設備を設置している）・農場・漁港

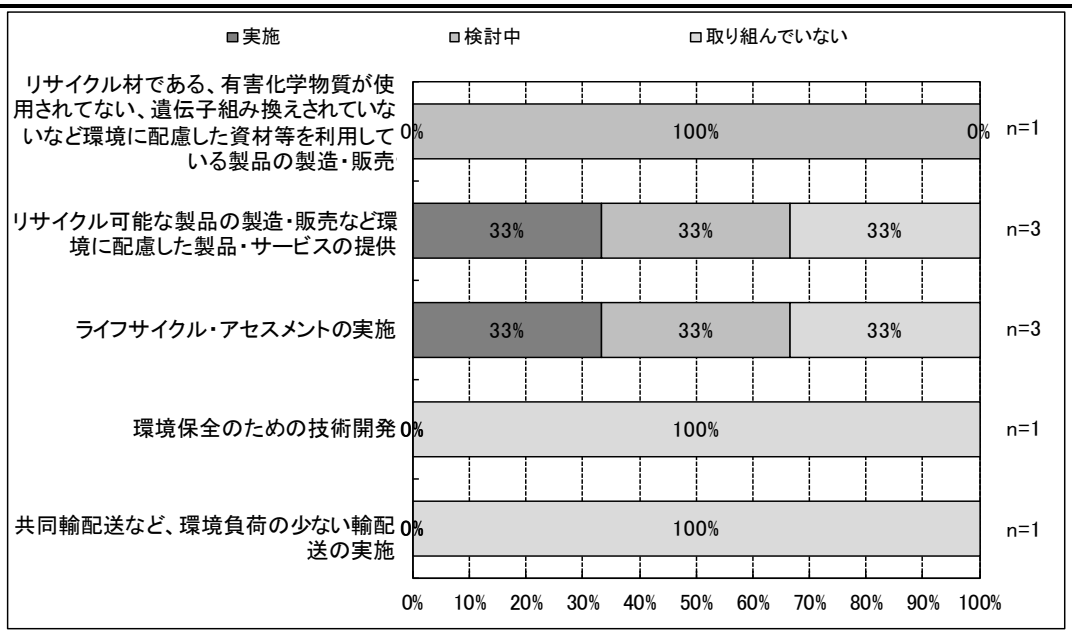


図 183　用途別分析　店舗

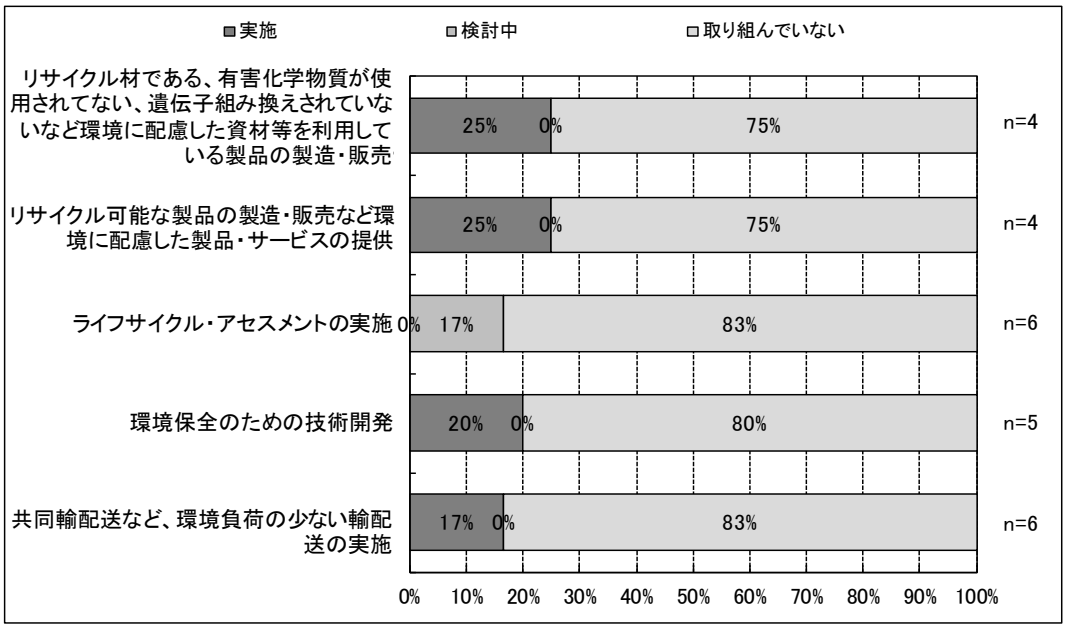


図 184　用途別分析　その他

7) 設問 12　省エネルギー設備の導入について

貴事業所での省エネルギー設備の導入について、お尋ねします。 項目ごとに答えを 1 つずつ選んで、該当する番号に○をつけて下さい。 業務上必要のない項目、または、不可能な項目については、「業務上必要無し」の欄に○をつけて下さい。また、この他に省エネルギー設備やシステムを導入している場合は、下欄に具体的にご記入下さい。 ※項目は下記集計結果を参照

1. 実施 2. 検討中	3. 取り組んでいない

a) 全体

「太陽熱温水器・太陽光発電の導入」に関しての取組が最も多く、続いて「次世代自動車の導入」に関しての取組が多くなっている。

平成 19 年度と比較して、平成 29 年度では「太陽熱温水器・太陽光発電の導入」に関しての取組が大きく上回っている。

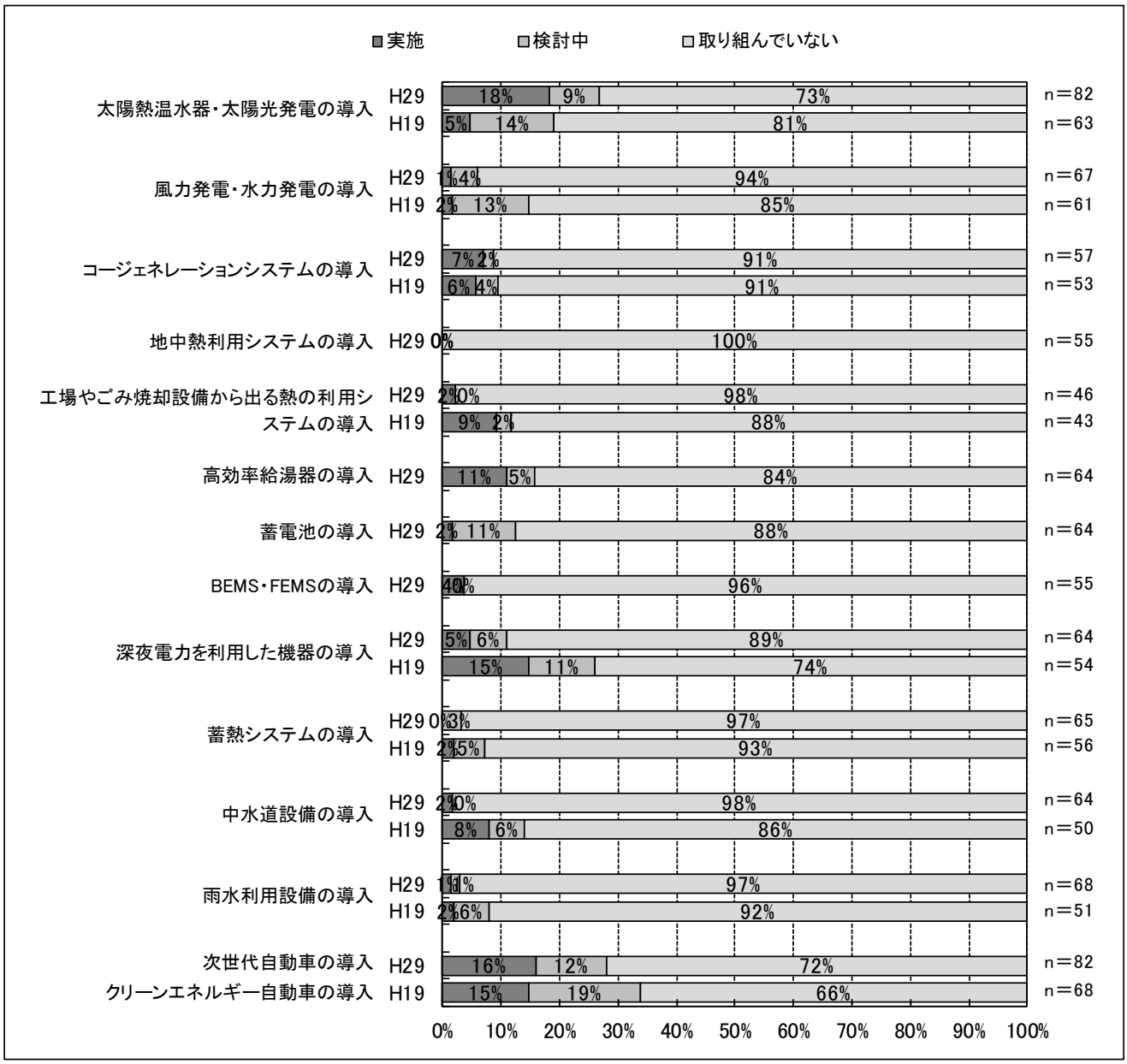


図 185　省エネルギー設備の導入について

表 50　省エネルギー設備の導入について

			実施	検討中	取り組んでいない	計(無回答を除く)
太陽熱温水器・太陽光発電の導入	H29	(回答数)	15	7	60	82
		(%)	18%	9%	73%	100%
	H19	(%)	5%	14%	81%	100%
風力発電・水力発電の導入	H29	(回答数)	1	3	63	67
		(%)	1%	4%	94%	100%
	H19	(%)	2%	13%	85%	100%
コージェネレーションシステムの導入	H29	(回答数)	4	1	52	57
		(%)	7%	2%	91%	100%
	H19	(%)	6%	4%	91%	100%
地中熱利用システムの導入	H29	(回答数)	0	0	55	55
		(%)	0%	0%	100%	100%
工場やごみ焼却設備から出る熱の利用システムの導入	H29	(回答数)	1	0	45	46
		(%)	2%	0%	98%	100%
	H19	(%)	9%	2%	88%	100%
高効率給湯器の導入	H29	(回答数)	7	3	54	64
		(%)	11%	5%	84%	100%
蓄電池の導入	H29	(回答数)	1	7	56	64
		(%)	2%	11%	88%	100%
BEMS・FEMS の導入	H29	(回答数)	2	0	53	55
		(%)	4%	0%	96%	100%
深夜電力を利用した機器の導入	H29	(回答数)	3	4	57	64
		(%)	5%	6%	89%	100%
	H19	(%)	15%	11%	74%	100%
蓄熱システムの導入	H29	(回答数)	0	2	63	65
		(%)	0%	3%	97%	100%
	H19	(%)	2%	5%	93%	100%
中水道設備の導入	H29	(回答数)	1	0	63	64
		(%)	2%	0%	98%	100%
	H19	(%)	8%	6%	86%	100%
雨水利用設備の導入	H29	(回答数)	1	1	66	68
		(%)	1%	1%	97%	100%
	H19	(%)	2%	6%	92%	100%
次世代自動車の導入	H29	(回答数)	13	10	59	82
		(%)	16%	12%	72%	100%
クリーンエネルギー自動車の導入	H19	(%)	15%	19%	66%	100%

b) クロス集計

用途別に比較すると、事務所と工場・農場・漁港は「太陽熱温水器・太陽光発電の導入」、店舗とその他は「次世代自動車の導入」に関しての取組が最も多い。一方で、どの事業所も「地中熱利用システムの導入」に関しての取組がない。

①用途別分析

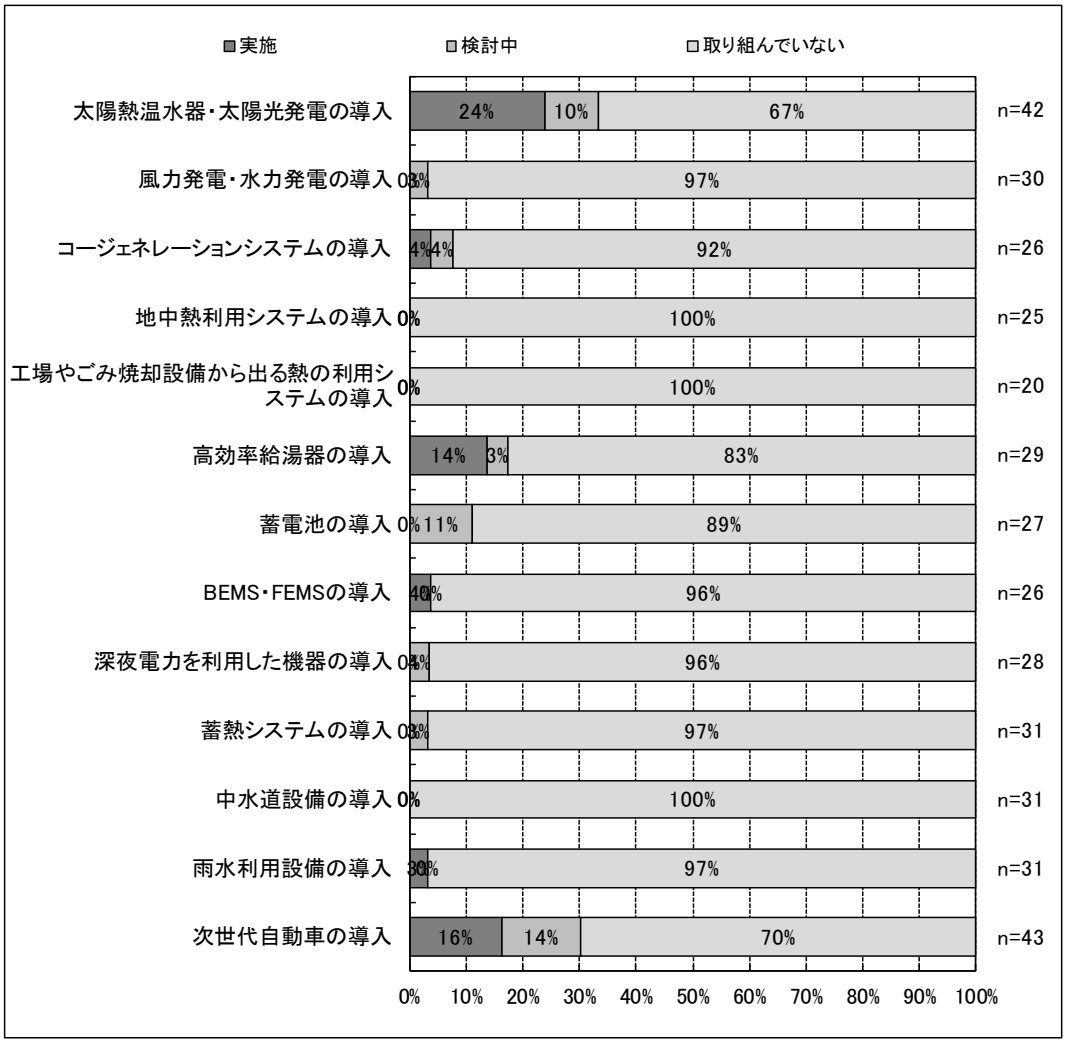


図 186　用途別分析　事務所（製造設備を設置していない）

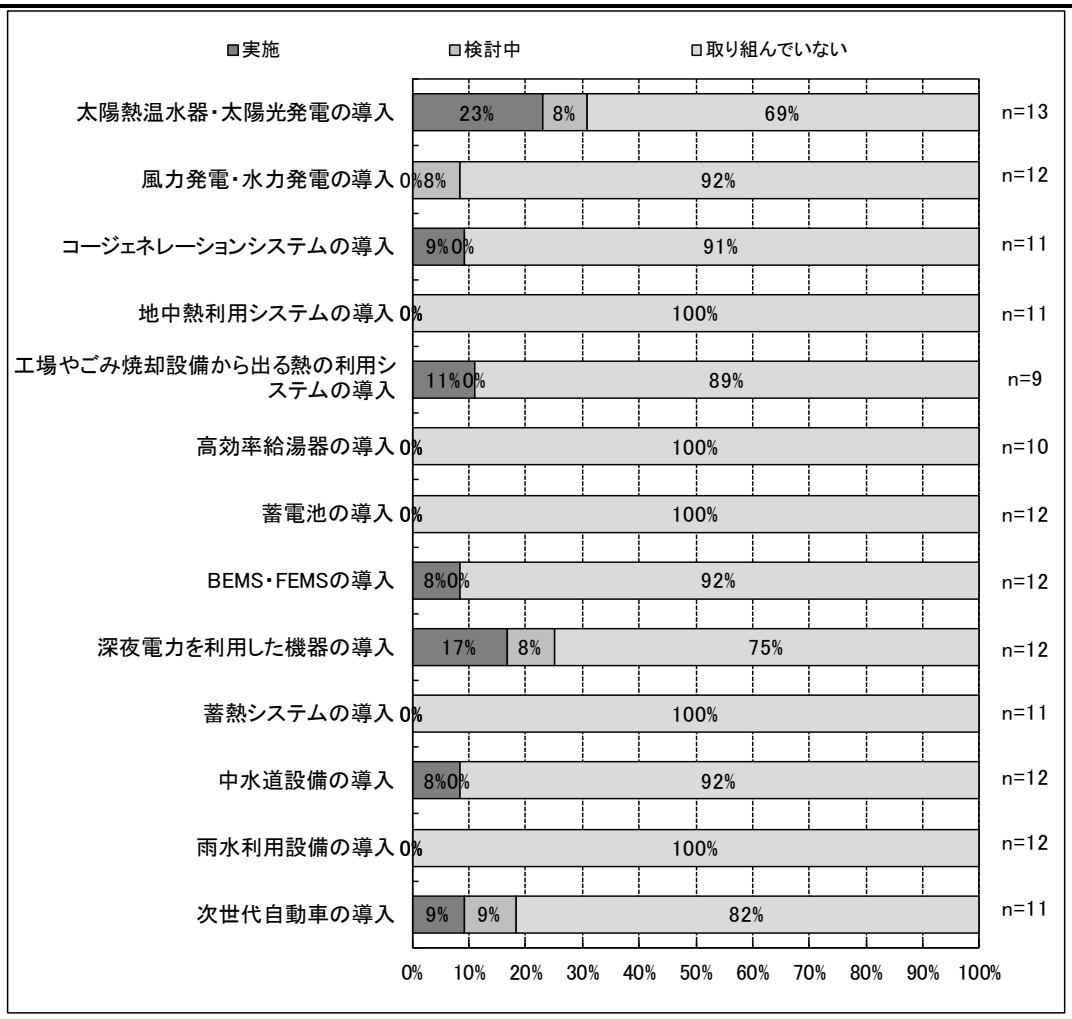


図 187　用途別分析　工場（製造設備を設置している）・農場・漁港

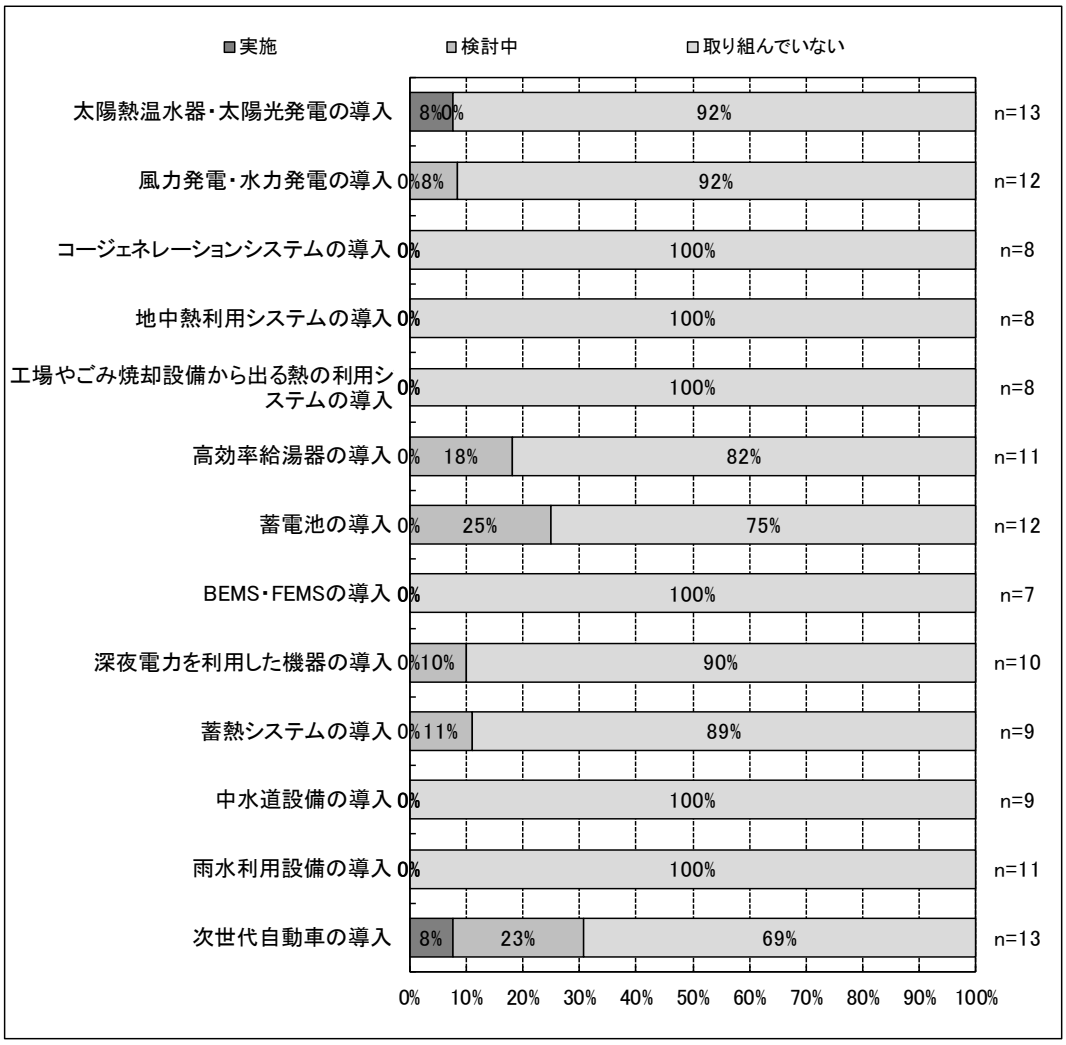


図 188　用途別分析　店舗

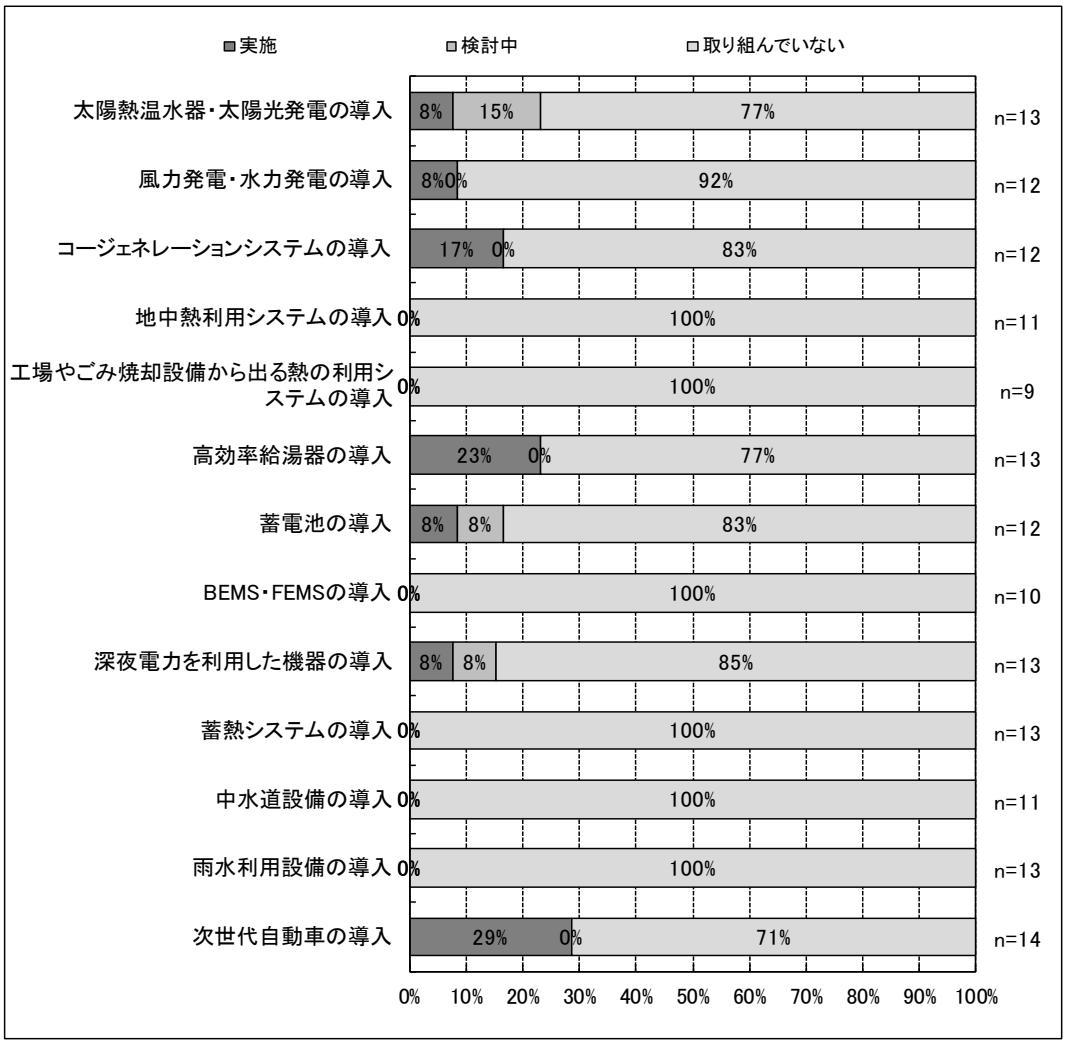


図 189　用途別分析　その他

8) 設問 13　環境管理について

貴事業所の環境管理について、お尋ねします。 項目ごとに答えを 1 つずつ選んで、該当する番号に○をつけて下さい。 業務上必要のない項目、または、不可能な項目については、「業務上必要無し」の欄に○をつけて下さい。 ※項目は下記集計結果を参照

1. 実施 2. 検討中	3. 取り組んでいない

a) 全体

「社員に対する環境教育の実施」に関しての取組が最も多く、一方で「ISO14000S 認証取得」に関しての取組が最も少ない。
平成 19 年度と比較して、平成 29 年度では項目ごとの取組が、減少している傾向にある。

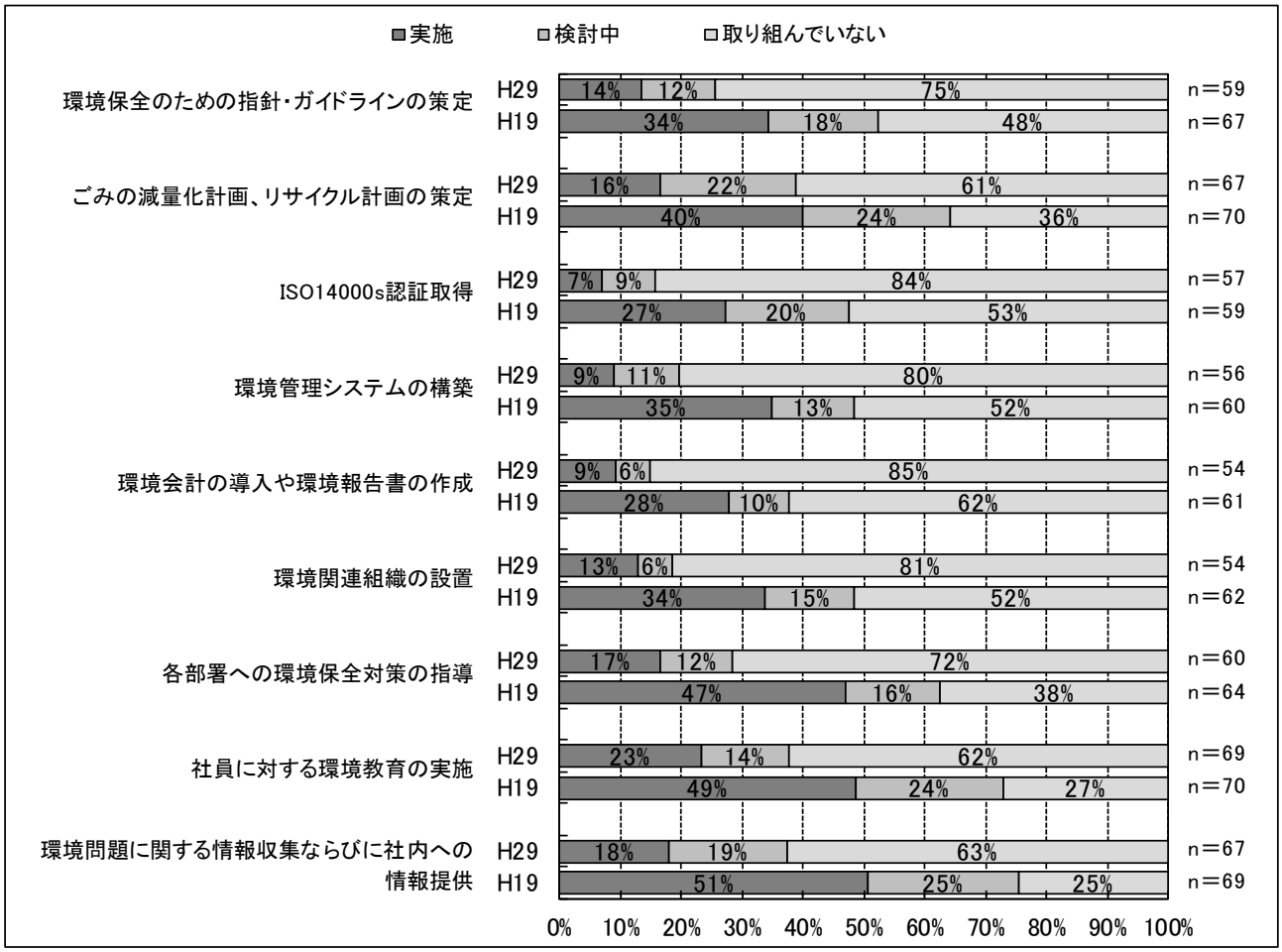


図 190　環境管理について

表 51　環境管理について

			実施	検討中	取り組んでいない	計(無回答を除く)
環境保全のための指針・ガイドラインの策定	H29	(回答数)	8	7	44	59
		(%)	14%	12%	75%	100%
	H19	(%)	34%	18%	48%	100%
ごみの減量化計画、リサイクル計画の策定	H29	(回答数)	11	15	41	67
		(%)	16%	22%	61%	100%
	H19	(%)	40%	24%	36%	100%
ISO14000s 認証取得	H29	(回答数)	4	5	48	57
		(%)	7%	9%	84%	100%
	H19	(%)	27%	20%	53%	100%
環境管理システムの構築	H29	(回答数)	5	6	45	56
		(%)	9%	11%	80%	100%
	H19	(%)	35%	13%	52%	100%
環境会計の導入や環境報告書の作成	H29	(回答数)	5	3	46	54
		(%)	9%	6%	85%	100%
	H19	(%)	28%	10%	62%	100%
環境関連組織の設置	H29	(回答数)	7	3	44	54
		(%)	13%	6%	81%	100%
	H19	(%)	34%	15%	52%	100%
各部署への環境保全対策の指導	H29	(回答数)	10	7	43	60
		(%)	17%	12%	72%	100%
	H19	(%)	47%	16%	38%	100%
社員に対する環境教育の実施	H29	(回答数)	16	10	43	69
		(%)	23%	14%	62%	100%
	H19	(%)	49%	24%	27%	100%
環境問題に関する情報収集ならびに社内への情報提供	H29	(回答数)	12	13	42	67
		(%)	18%	19%	63%	100%
	H19	(%)	51%	25%	25%	100%

b) クロス集計

用途別に比較すると、事務所は「社員に対する環境教育の実施」、工場・農場・漁港は「環境保全のための指針・ガイドラインの策定」、「ごみの減量化計画、リサイクル計画の策定」及び「環境関連組織の設置」、店舗は「ごみの減量化計画、リサイクル計画の策定」、その他は「各部署への環境保全対策の指導」に関しての取組が最も多い。全体的に見ると工場・農場・漁港は、環境管理に関する各取組の実施率が高い傾向が見られ、店舗は少ない傾向が見られる。

①用途別分析

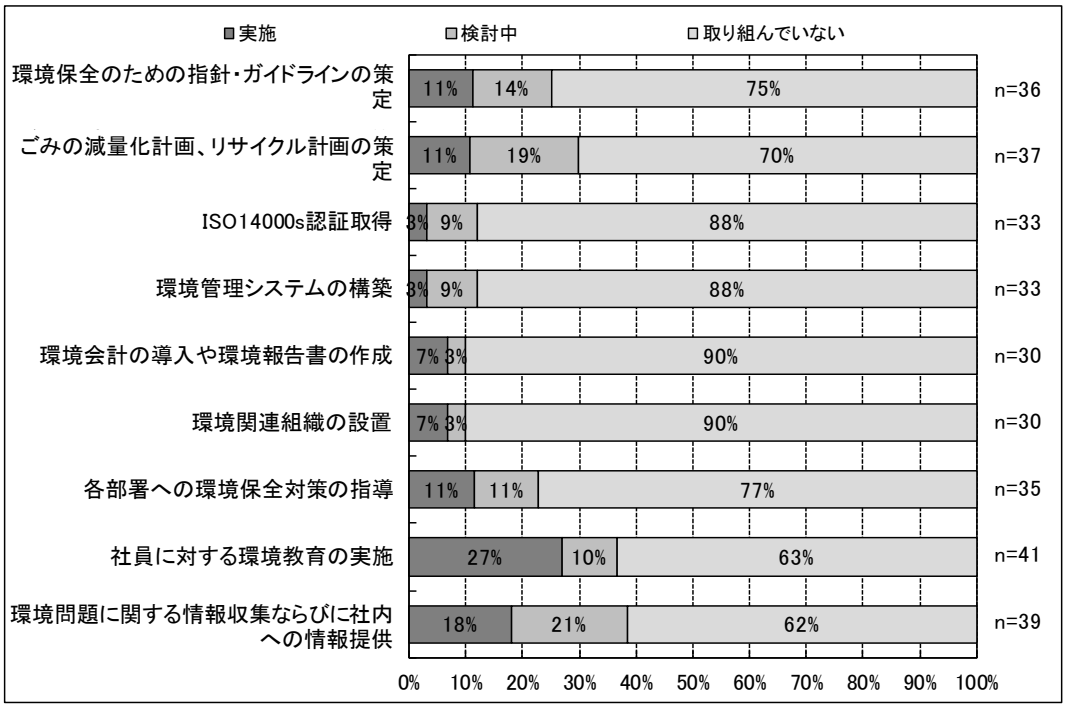


図 191　用途別分析　事務所（製造設備を設置していない）

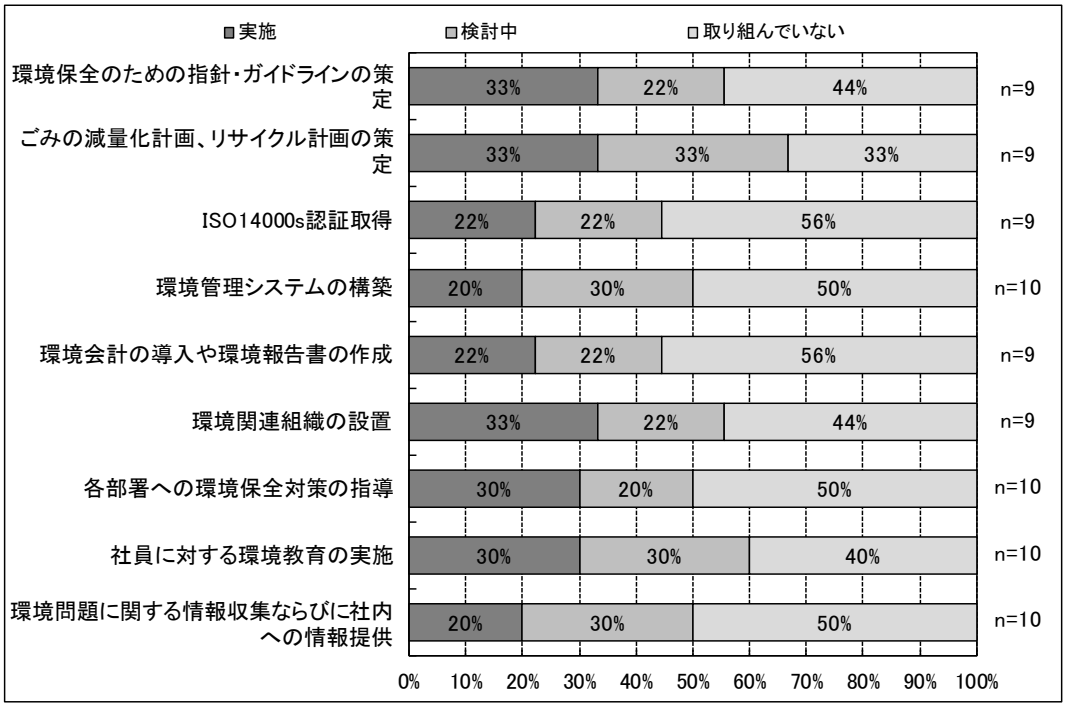


図 192　用途別分析　工場（製造設備を設置している）・農場・漁港

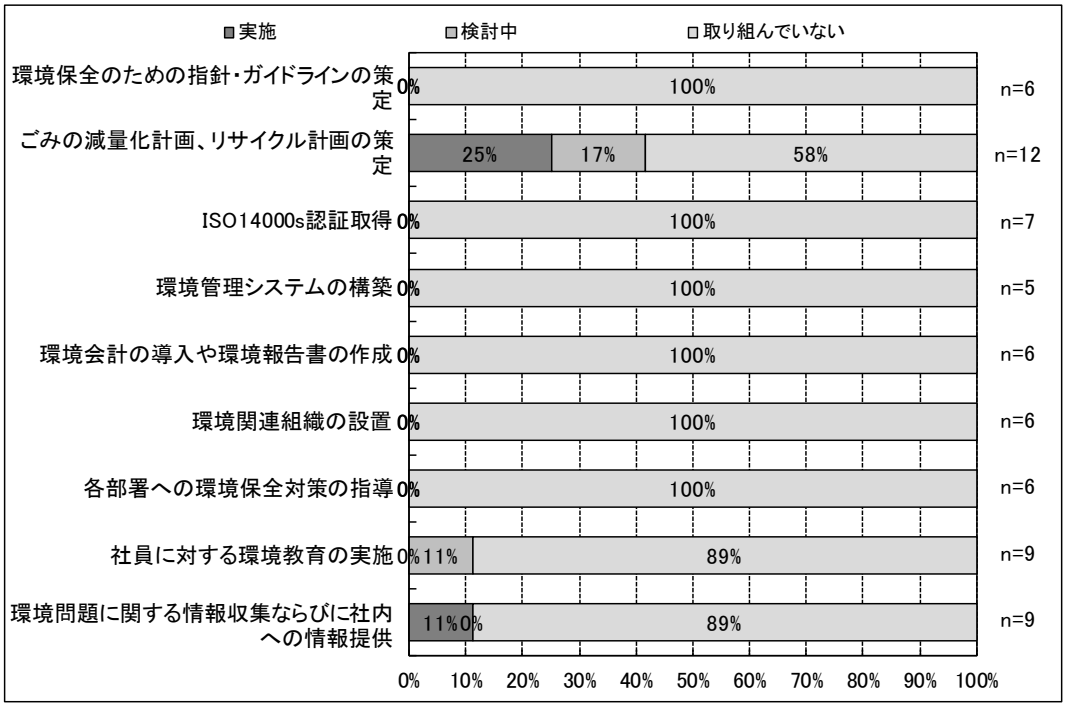


図 193　用途別分析　店舗

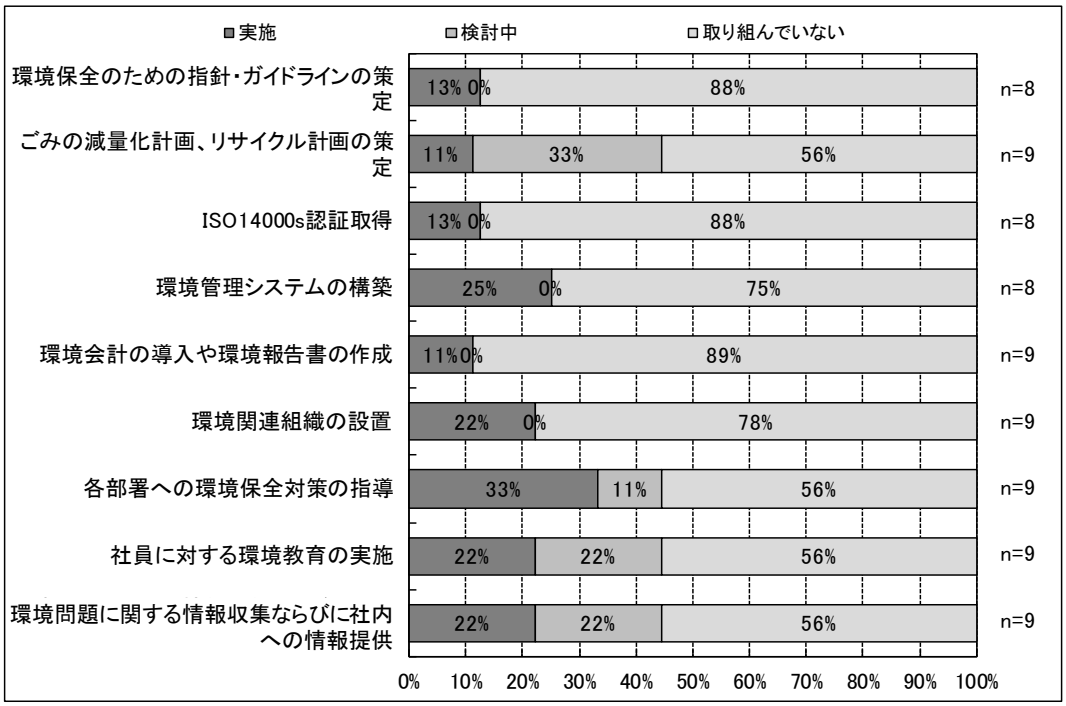


図 194　用途別分析　その他

9) 設問 14　環境保全への自主的な取組について

貴事業所の環境保全への自主的な取組について、お尋ねします。 項目ごとに答えを 1 つずつ選んで、該当する番号に○をつけて下さい。 業務上必要のない項目、または、不可能な項目については、「業務上必要無し」の欄に○をつけて下さい。また、この他に行っている取組があれば、下欄にご記入下さい。 ※項目は下記集計結果を参照

1. 実施 2. 検討中	3. 取り組んでいない

a) 全体

「事業所周辺の清掃」に関しての取組が最も多く、一方で「野生動植物への配慮」に関しての取組が最も少ない。
平成 19 年度と比較して、平成 29 年度では項目ごとの取組が、減少している傾向にある。

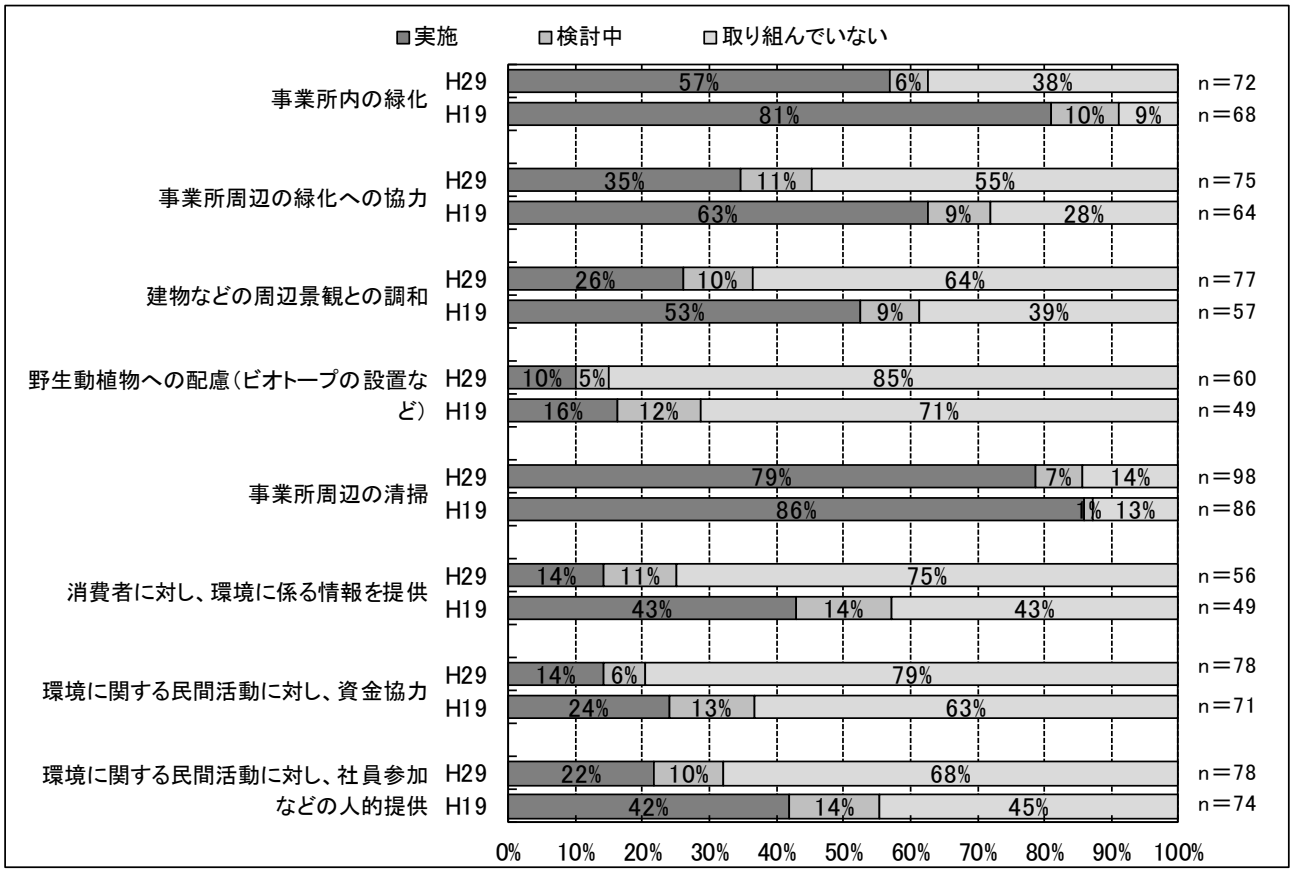


図 195　環境保全への自主的な取組

表 52　環境保全への自主的な取組

			実施	検討中	取り組んでいない	計(無回答を除く)
事業所内の緑化	H29	(回答数)	41	4	27	72
		(%)	57%	6%	38%	100%
	H19	(%)	81%	10%	9%	100%
事業所周辺の緑化への協力	H29	(回答数)	26	8	41	75
		(%)	35%	11%	55%	100%
	H19	(%)	63%	9%	28%	100%
建物などの周辺景観との調和	H29	(回答数)	20	8	49	77
		(%)	26%	10%	64%	100%
	H19	(%)	53%	9%	39%	100%
野生動植物への配慮（ビオトープの設置など)	H29	(回答数)	6	3	51	60
		(%)	10%	5%	85%	100%
	H19	(%)	16%	12%	71%	100%
事業所周辺の清掃	H29	(回答数)	77	7	14	98
		(%)	79%	7%	14%	100%
	H19	(%)	86%	1%	13%	100%
消費者に対し、環境に係る情報を提供	H29	(回答数)	8	6	42	56
		(%)	14%	11%	75%	100%
	H19	(%)	43%	14%	43%	100%
環境に関する民間活動に対し、資金協力	H29	(回答数)	11	5	62	78
		(%)	14%	6%	79%	100%
	H19	(%)	24%	13%	63%	100%
環境に関する民間活動に対し、社員参加などの人的提供	H29	(回答数)	17	8	53	78
		(%)	22%	10%	68%	100%
	H19	(%)	42%	14%	45%	100%

b) クロス集計

用途別に比較すると、事務所・店舗・その他は「事業所周辺の清掃」に関しての取組が最も多く、工場・農場・漁港は「事業所内の緑化」が最も多い。
一方でどの事業所も「野生動植物への配慮」に関しての取組が最も少ない。

①用途別分析

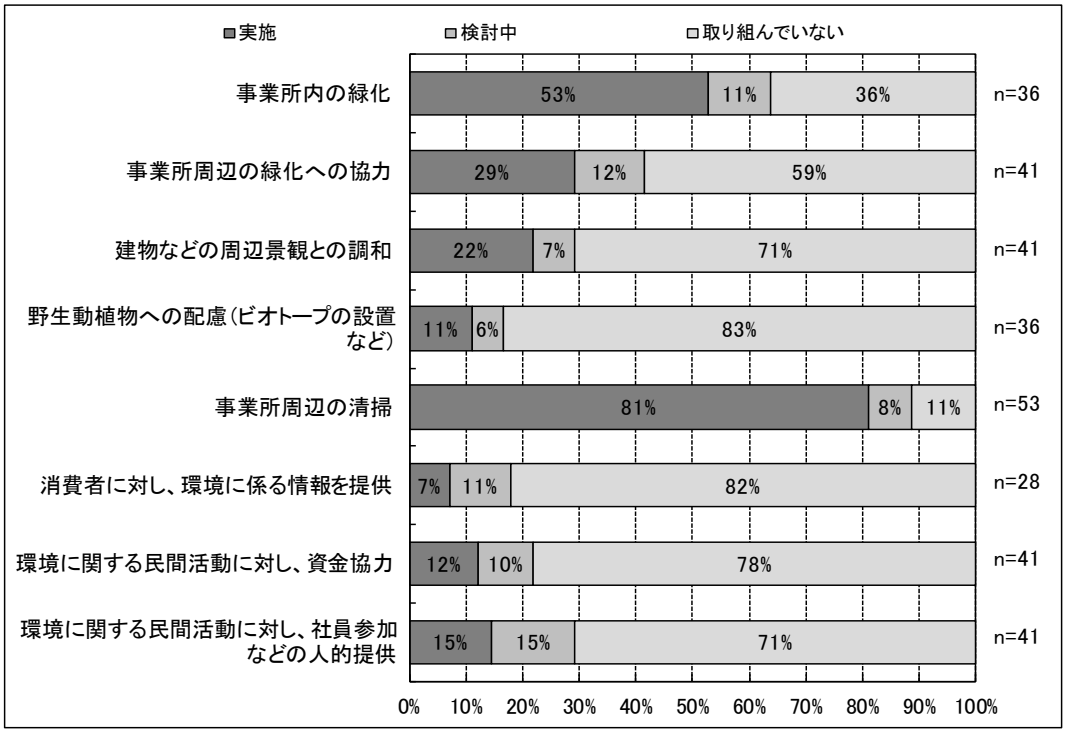


図 196　用途別分析　事務所（製造設備を設置していない）

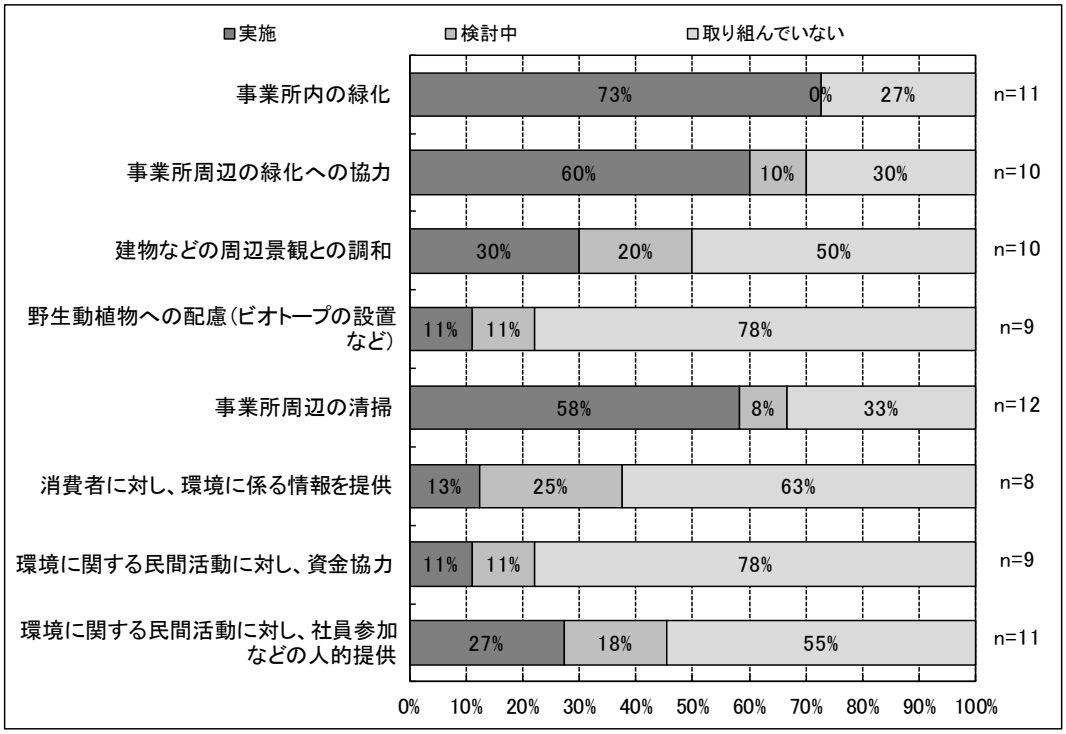


図 197　用途別分析　工場（製造設備を設置している）・農場・漁港

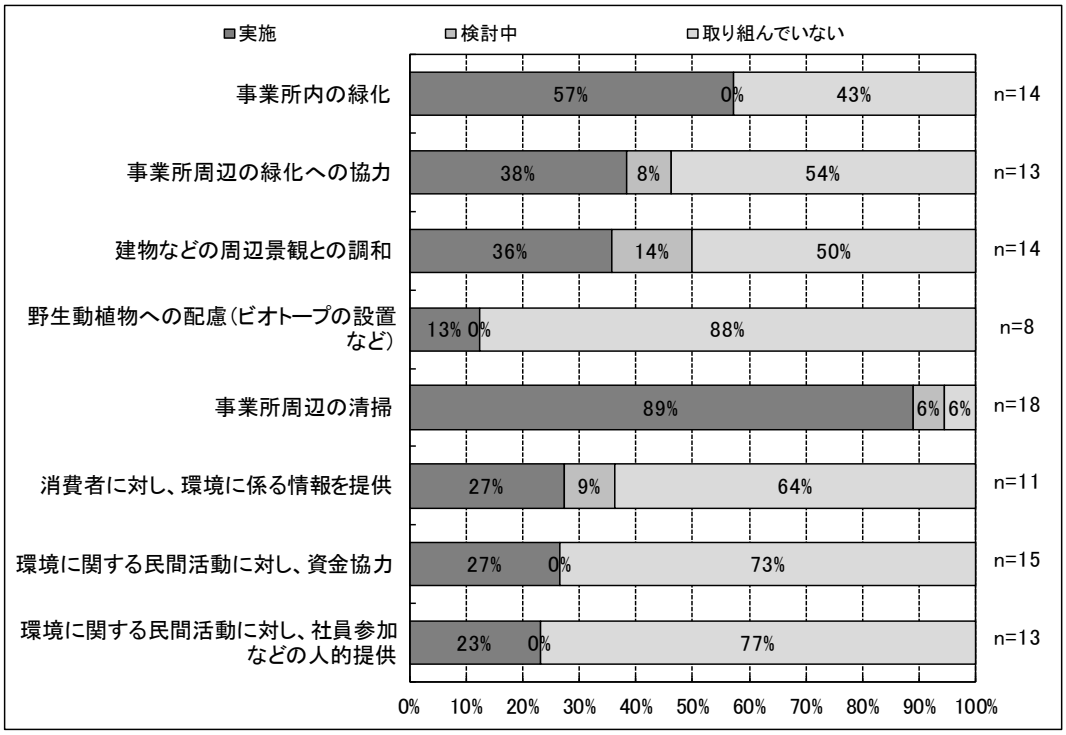


図 198　用途別分析　店舗

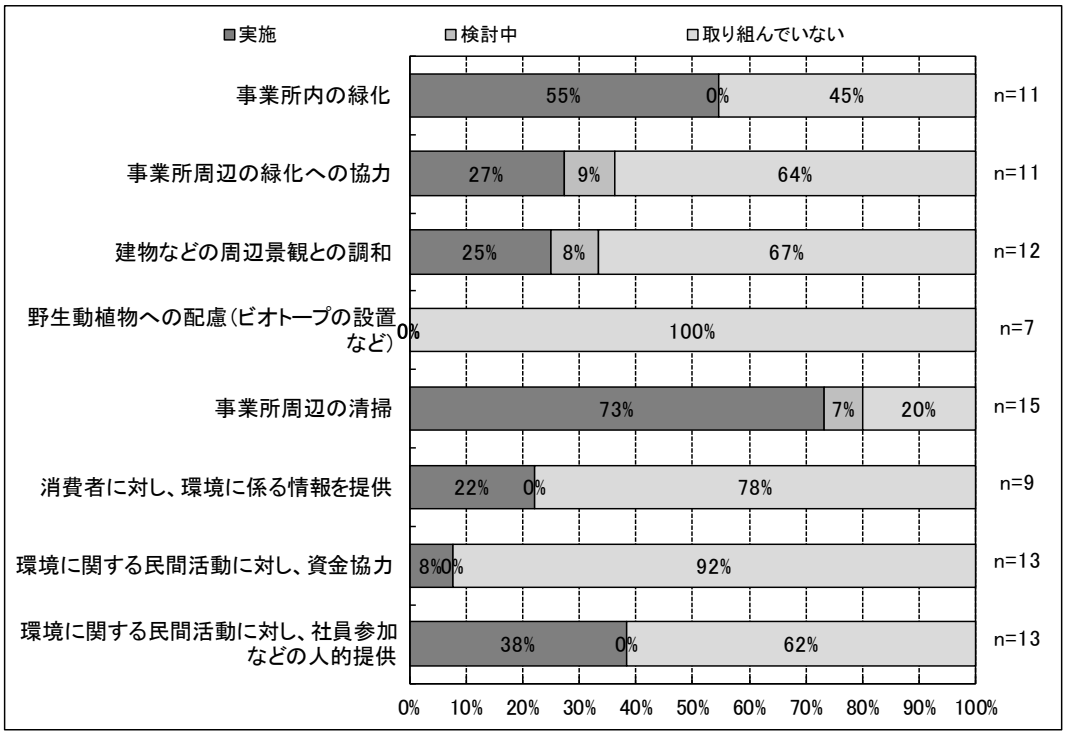


図 199　用途別分析　その他

(3) 環境に関連する新しい動向

1) 設問 15　電力会社の切り替えについて

平成 28 年 4 月より「電力小売全面自由化」がはじまり、商店等でも使用する電気の会社を自由に選択できるようになりました。 貴事業所では、電力会社の切り替えを行っています？ 項目ごとに最も近い答えを 1 つずつ選んで、該当する番号に○をつけて下さい。	
1. 切り換えた 2. 切り替え検討中	3. 切り換えていない 4. 仕組みなどがよくわからない

a) 全体

「切り換えた」の割合が 11%となっており、「切り替え検討中」の割合まで含めると 20%となっている。一方で「仕組みなどがよくわからない」の割合が 9%となっている。

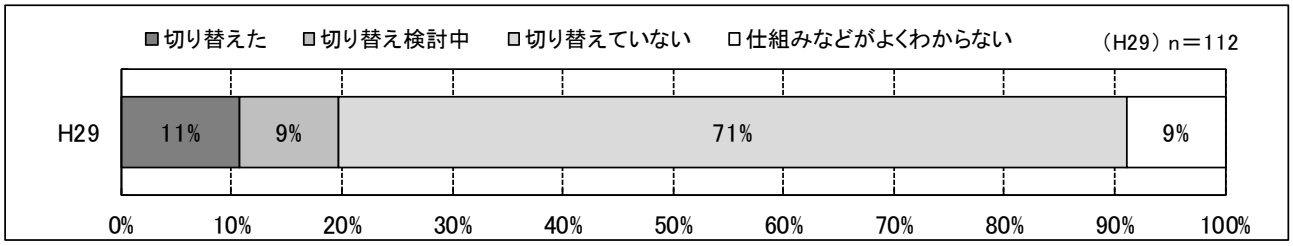


図 200　電力小売全面自由化について

表 53　電力小売全面自由化について

	H29 結果（回答数）	H29 結果（%）
切り替えた	12	11%
切り替え検討中	10	9%
切り替えていない	80	71%
仕組みなどがよくわからない	10	9%
計（無回答を除く）	112	100%

b) クロス集計

用途別に比較すると、「切り換えた」・「切り替え検討中」を含めた回答の中で、工場・農場・漁港が最も高く、23%となっている。

①用途別分析

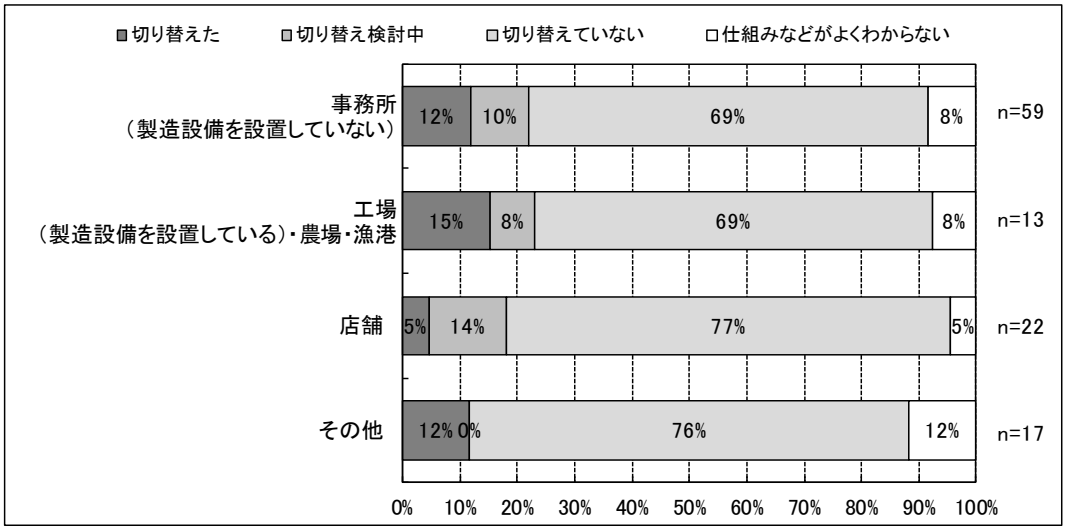


図 201　用途別分析

2) 設問 16　水素エネルギーへの関心について

新たなエネルギーとして「水素」への期待が高まっており、水素を利用した機器、自動車等も普及が始まっています。また神栖市では、「水素エネルギー利活用戦略」を平成 29 年 3 月に策定し、市域における水素エネルギーの可能性も模索しています。 貴事業所は、水素エネルギーに関心がありますか？ 項目ごとに最も近い答えを 1 つずつ選んで、該当する番号に○をつけて下さい。

1. とても関心がある	3. あまり関心がない
2. 関心がある	4. 関心がない

a) 全体

「とても関心がある」の割合が 5%となっており、「関心がある」の割合まで含めると 34%となっている。一方で「よくわからない」の割合が 29%となっている。

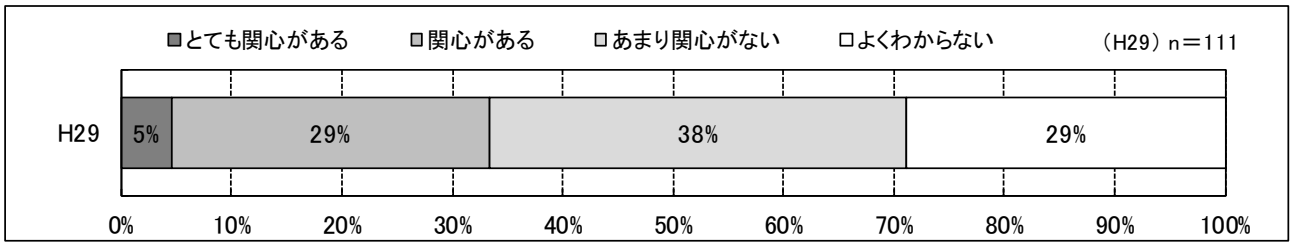


図 202　水素エネルギーへの関心

表 54　水素エネルギーへの関心

	H29 結果（回答数）	H29 結果（%）
とても関心がある	5	5%
関心がある	32	29%
あまり関心がない	42	38%
よくわからない	32	29%
計（無回答を除く）	111	100%

b) クロス集計

用途別に比較すると、「とても関心がある」、「関心がある」を含めた回答の中で、工場・農場・漁港が最も高く 38%となっている。

①用途別分析

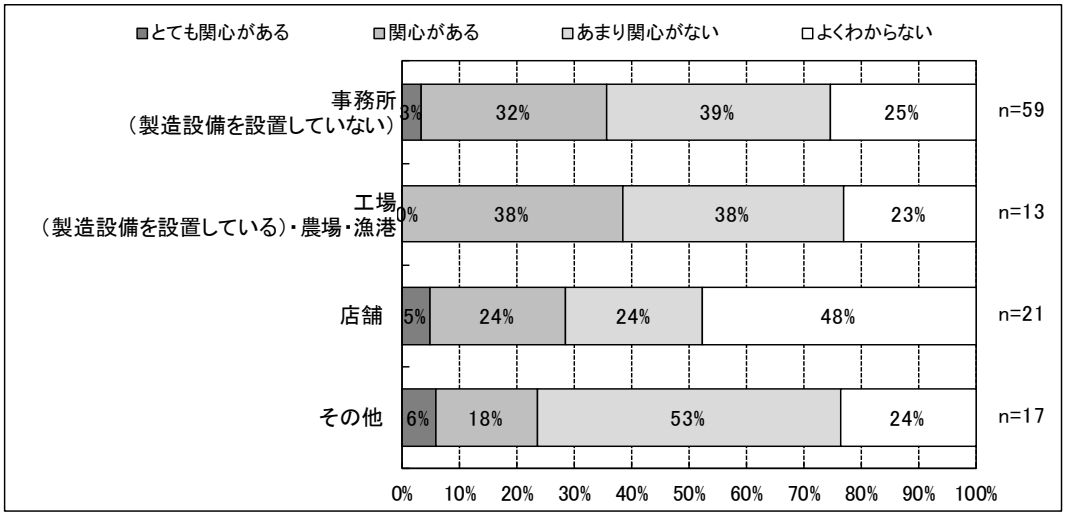


図 203　用途別分析

(4) 市への要望

1) 設問 17-1 市に望む施策について

貴事業所が神栖市に望む環境保全に関する施策について、お尋ねします。
該当する番号に 3 つまで○をつけて下さい。また、この他に神栖市に望む環境保全に関する施策があれば、下欄にご記入下さい。
※項目は下記集計結果を参照

a) 全体

「環境保全のための公的融資や補助金制度の充実」の割合が最も高く、一方で「事業所、ボランティア団体、NPO の環境保全への取組を評価する制度づくり」の割合が最も低い。

平成 19 年度と比較して、「資源リサイクルの推進のためのリサイクルシステムの整備・支援」の項目が減少しているが、全体的な傾向に大きな変化は見られない。

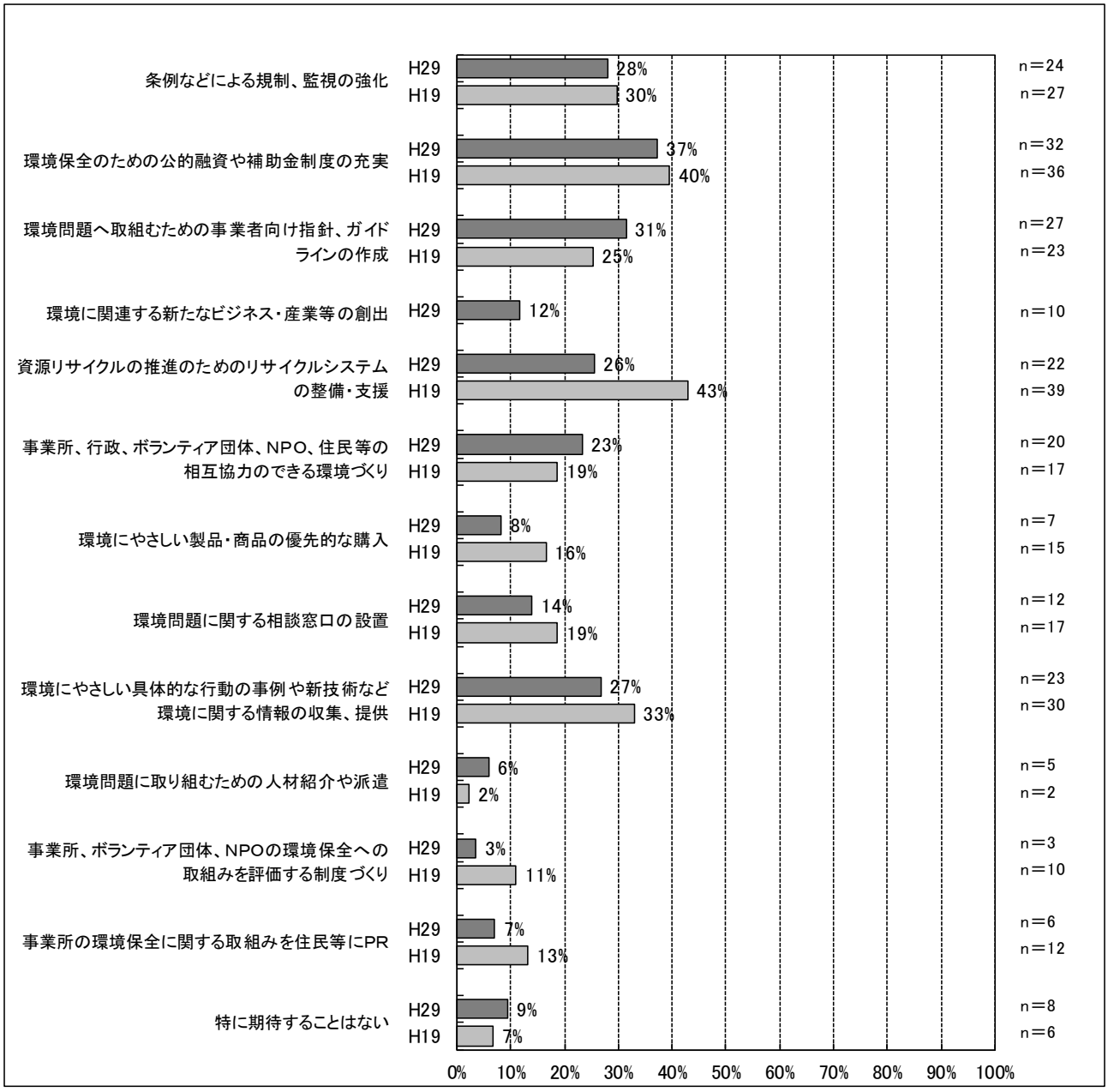


図 204 神栖市に望む環境保全に関する施策

表 55　神栖市に望む環境保全に関する施策

	H29 結果（回答数）	H29 結果（%）	H19 結果(%)
条例などによる規制、監視の強化	24	28%	30%
環境保全のための公的融資や補助金制度の充実	32	37%	40%
環境問題へ取組むための事業者向け指針、ガイドラインの作成	27	31%	25%
環境に関連する新たなビジネス・産業等の創出	10	12%	-
資源リサイクルの推進のためのリサイクルシステムの整備・支援	22	26%	43%
事業所、行政、ボランティア団体、NPO、住民等の相互協力のできる環境づくり	20	23%	19%
環境にやさしい製品・商品の優先的な購入	7	8%	16%
環境問題に関する相談窓口の設置	12	14%	19%
環境にやさしい具体的な行動の事例や新技術など環境に関する情報の収集、提供	23	27%	33%
環境問題に取り組むための人材紹介や派遣	5	6%	2%
事業所、ボランティア団体、NPO の環境保全への取組を評価する制度づくり	3	3%	11%
事業所の環境保全に関する取組を住民等にＰＲ	6	7%	13%
特に期待することはない	8	9%	7%
計（無回答を除く）			

2.2.3 学生

(1) 回答者の属性

1) 設問１ 性別

あなたの性別を教えてください。あてはまる番号に○をつけて下さい。	
1. 男	2. 女

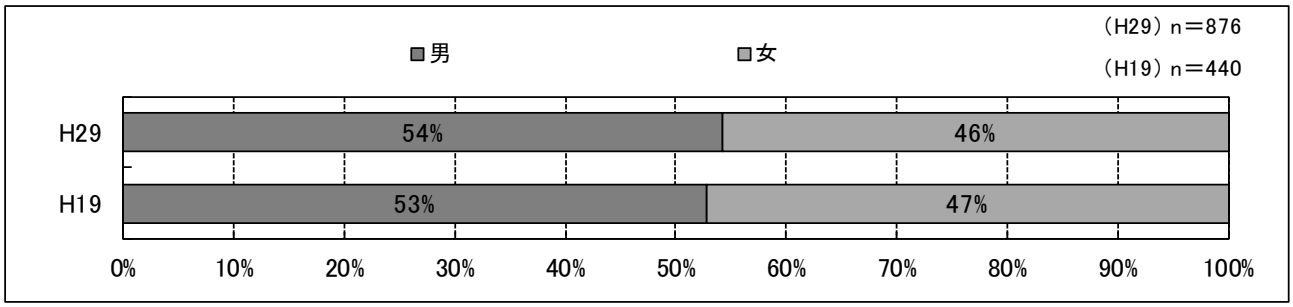


図 205 性別

表 56 性別

	H29 結果（回答数）	H29 結果（%）	H19 結果（%）
男	475	54%	53%
女	401	46%	47%
計（無回答を除く）	876	100%	100%

2) 設問２　居住地区

あなたはどこに住んでいますか？あてはまる番号に○をつけて下さい。

神栖東部地域	神栖西部地域	波崎地域	矢田部地域	若松地域
1. 横瀬	25. 居切	41. 東町	63. 仲新田	80. 日和山
2. 日川	26. 深芝	42. 仲町	64. 清水	81. 東押揚
3. 萩原	27. 平泉	43. 西町	65. 東海	82. 西押揚
4. 芝崎	28. 下幡木	44. 東仲島東	66. 西前宿	83. 東宝山
5. 石神	29. 鰐川	45. 東仲島西	67. 上中	84. 西宝山
6. 高浜	30. 筒井	46. 西仲島	68. 川尻	85. 太田新町
7. 田畑	31. 立野	47. 東明神町	69. 押植	86. 東須田
8. 木崎	32. 賀	48. 東明神前	70. 土合東	87. 仲須田
9. 溝口	33. 浜松	49. 明神前	71. 土合西	88. 西須田
10. 奥野谷	34. 神栖	50. 浜新田	72. 土合中央	89. 須田浜
11. 知手	35. 泉町	51. 本新町	73. 土合南	90. 須田団地
12. 柳堀	36. 新港	52. 海老台	74. 土合本町中	91. 相生
13. 一貫野	37. 大野原	53. 本郷	75. 東松下	92. 高砂
14. 亀の甲団地	38. 息栖原	54. 高野	76. 西松下	93. 二本松
15. 知手中央仲町	39. 息栖	55. 別所	77. 十町歩	94. 若ノ松
16. 知手中央東町	40. 掘割	56. 荒波	78. 土合北	95. 柳川団地
17. 奥野谷浜		57. 石津	79. 矢田部	96. 北若松
18. 知手浜		58. 仲舎利		97. 波崎工業団地
19. 知手浜東団地		59. 内出		
20. 日川浜		60. 松本		
21. 横瀬団地		61. 芝		
22. 砂山		62. 舎利浜		
23. 東和田				
24. 南浜				

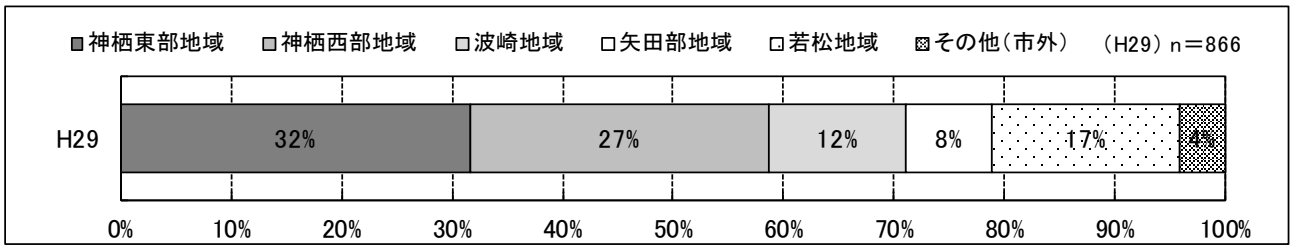


図 206　居住地区

表 57　居住地区

	H29 結果（回答数）	H29 結果（%）
神栖東部地域	274	32%
神栖西部地域	234	27%
波崎地域	108	12%
矢田部地域	67	8%
若松地域	147	17%
その他（市外）	36	4%
計　（無回答・無効を除く）	866	100%

備考）　その他（市外）は、神栖市内の学校を通っている市外に居住の学生。

(2) 環境への関心

1) 設問 3-1 地域の環境について

あなたは、神栖市の環境を、どう感じていますか？ ①～⑱の項目について、あなたの考えにもっとも近い答えを 1 つずつ選んで、番号に○をつけて下さい。 ※項目は下記集計結果を参照	
1. はい	2. いいえ

a) 全体

「神社や寺などの文化財が大切に残されていると感じる」の割合が最も高く、一方で「川や池、海辺がきれい」の割合が最も低い。

平成 19 年度と比較して、全体的な傾向に大きな変化は見られない。

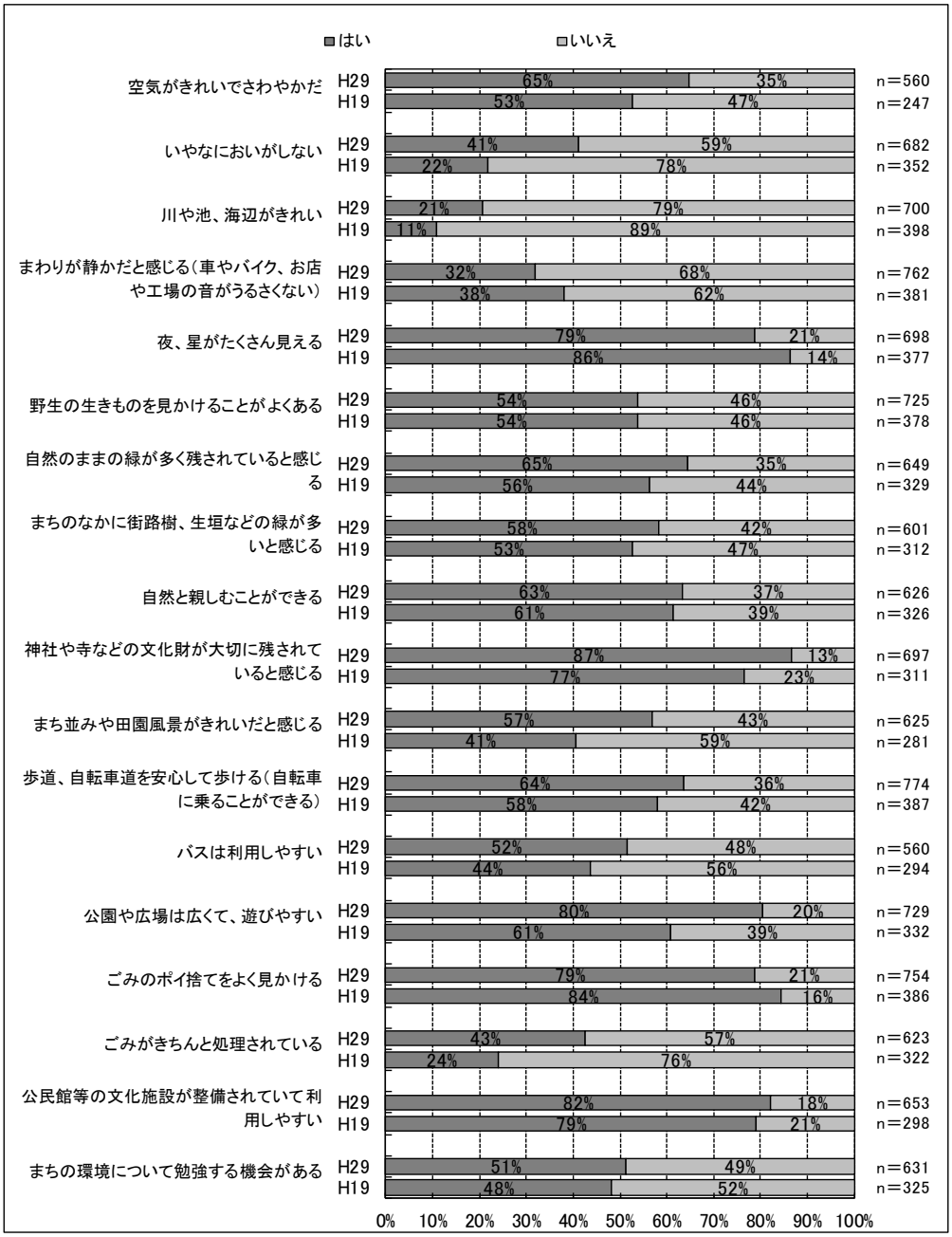


図 207 神栖市の環境

表 58　神栖市の環境

			はい	いいえ	計(無回答を除く)
空気がきれいでさわやかだ	H29	(回答数)	363	197	560
		(%)	65%	35%	100%
	H19	(%)	53%	47%	100%
いやなにおいがしない	H29	(回答数)	281	401	682
		(%)	41%	59%	100%
	H19	(%)	22%	78%	100%
川や池、海辺がきれい	H29	(回答数)	144	556	700
		(%)	21%	79%	100%
	H19	(%)	11%	89%	100%
まわりが静かだと感じる（車やバイク、お店や工場の音がうるさくない)	H29	(回答数)	243	519	762
		(%)	32%	68%	100%
	H19	(%)	38%	62%	100%
夜、星がたくさん見える	H29	(回答数)	550	148	698
		(%)	79%	21%	100%
	H19	(%)	86%	14%	100%
野生の生きものを見かけることがよくある	H29	(回答数)	390	335	725
		(%)	54%	46%	100%
	H19	(%)	54%	46%	100%
自然のままの緑が多く残されていると感じる	H29	(回答数)	419	230	649
		(%)	65%	35%	100%
	H19	(%)	56%	44%	100%
まちのなかに街路樹、生垣などの緑が多いと感じる	H29	(回答数)	350	251	601
		(%)	58%	42%	100%
	H19	(%)	53%	47%	100%
自然と親しむことができる	H29	(回答数)	397	229	626
		(%)	63%	37%	100%
	H19	(%)	61%	39%	100%
神社や寺などの文化財が大切に残されていると感じる	H29	(回答数)	604	93	697
		(%)	87%	13%	100%
	H19	(%)	77%	23%	100%
まち並みや田園風景がきれいだと感じる	H29	(回答数)	355	270	625
		(%)	57%	43%	100%
	H19	(%)	41%	59%	100%
歩道、自転車道を安心して歩ける（自転車に乗ることができる)	H29	(回答数)	493	281	774
		(%)	64%	36%	100%
	H19	(%)	58%	42%	100%
バスは利用しやすい	H29	(回答数)	289	271	560
		(%)	52%	48%	100%
	H19	(%)	44%	56%	100%
公園や広場は広くて、遊びやすい	H29	(回答数)	586	143	729
		(%)	80%	20%	100%
	H19	(%)	61%	39%	100%
ごみのポイ捨てをよく見かける	H29	(回答数)	594	160	754
		(%)	79%	21%	100%
	H19	(%)	84%	16%	100%

			はい	いいえ	計 (無回答を除く)
ごみがきちんと処理されている	H29	(回答数)	265	358	623
		(%)	43%	57%	100%
	H19	(%)	24%	76%	100%
公民館等の文化施設が整備されていて利用しやすい	H29	(回答数)	537	116	653
		(%)	82%	18%	100%
	H19	(%)	79%	21%	100%
まちの環境について勉強する機会がある	H29	(回答数)	324	307	631
		(%)	51%	49%	100%
	H19	(%)	48%	52%	100%

b) クロス集計

学校別に比較すると、小学生と中学生は「神社や寺などの文化財が大切に残されていると感じる」、高校生は「ごみのポイ捨てをよく見かける」の割合が最も高い。一方で最も低い割合の回答は、小学生は「まわりが静かだと感じる」、中学生と高校生は「川や池、海辺がきれい」となっている。

①学校別分析

図 208　学校別分析　小学生

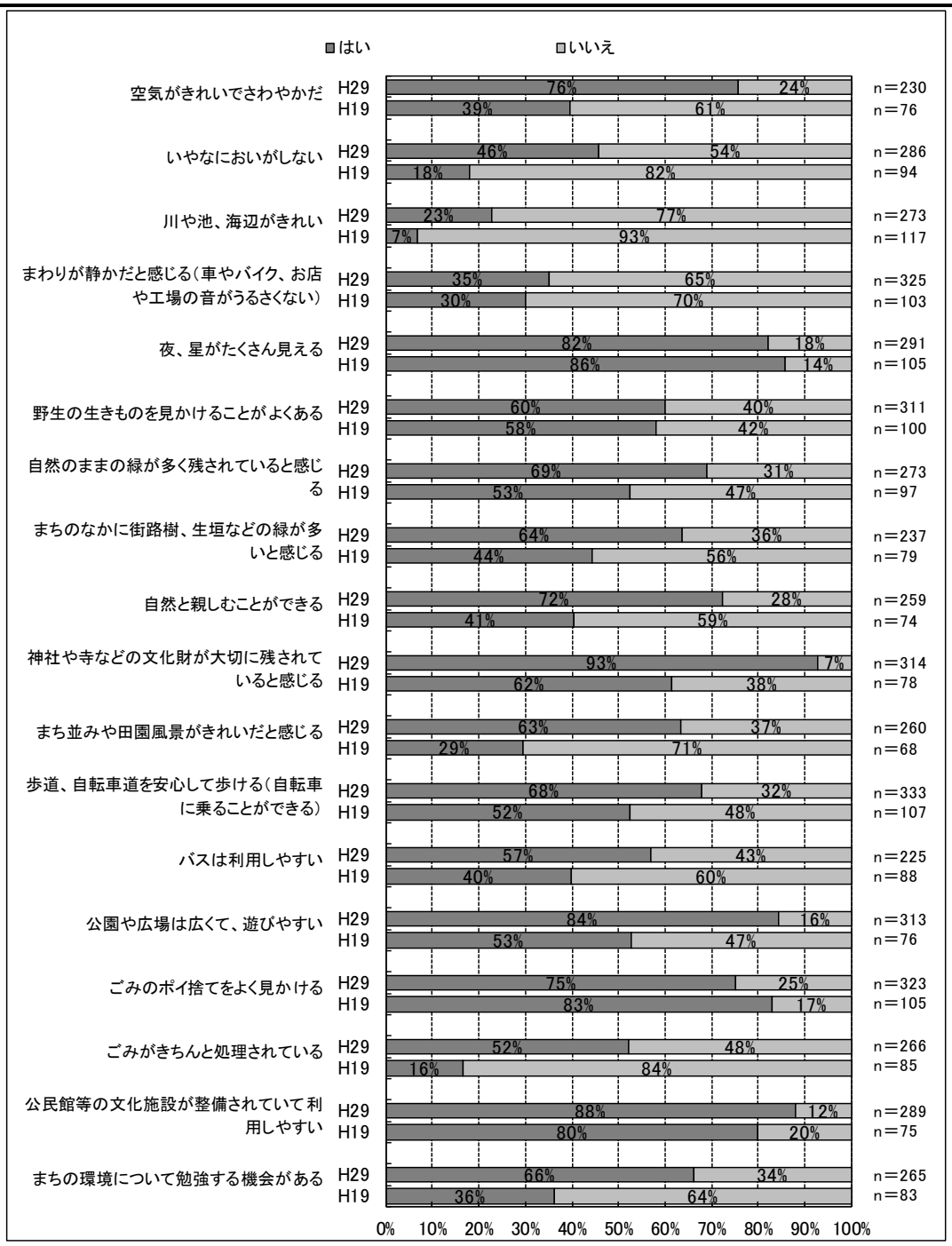


図 209　学校別分析　中学生

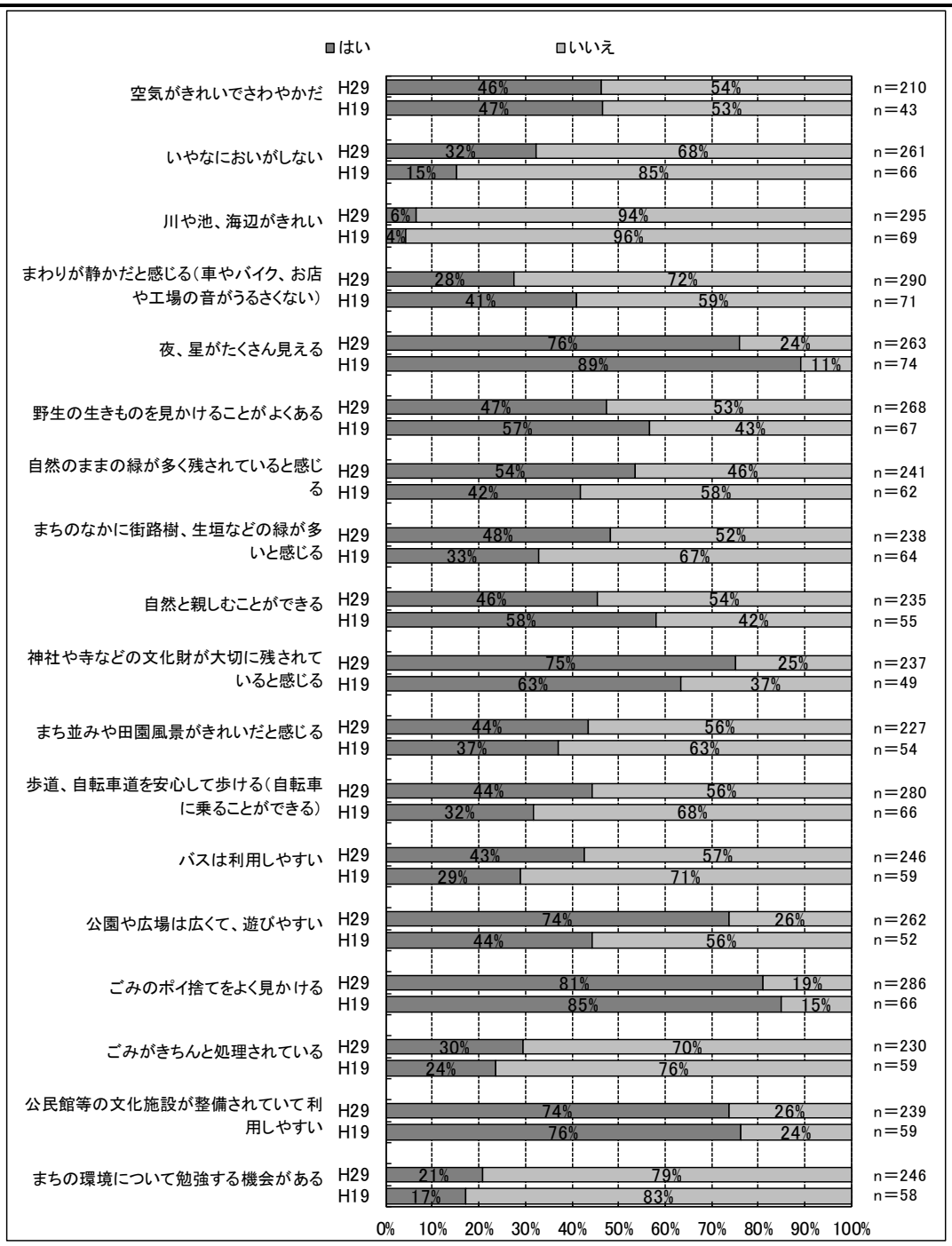


図 210　学校別分析　高校生

c) クロス集計

地域別に比較すると、神栖東部地域・波崎地域・若松地域では「神社や寺などの文化財が大切に残されていると感じる」、神栖西部地域では「公園や広場は広くて、遊びやすい」、矢田部地域では「夜、星がたくさん見える」、その他（市外）では「公民館等の文化施設が整備されていて利用しやすい」の割合が最も高く、一方で神栖東部地域では「まわりが静かだと感じる（車やバイク、お店や工場の音がうるさくない）」、神栖西部地域・波崎地域・若松地域・その他（市外）では「川や池、海辺がきれい」の割合が最も低い。

②地域別分析

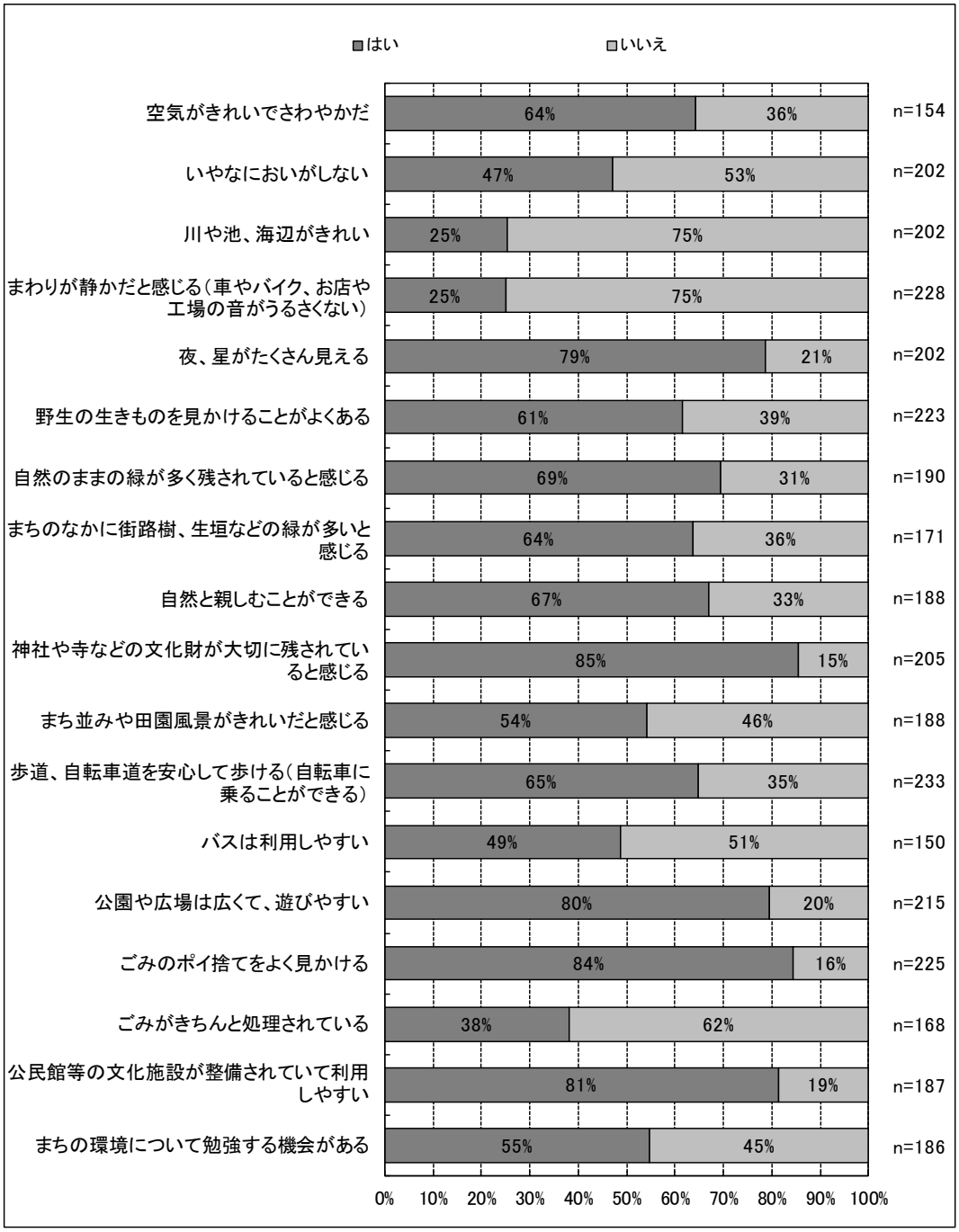


図 211　地域別分析　神栖東部地域

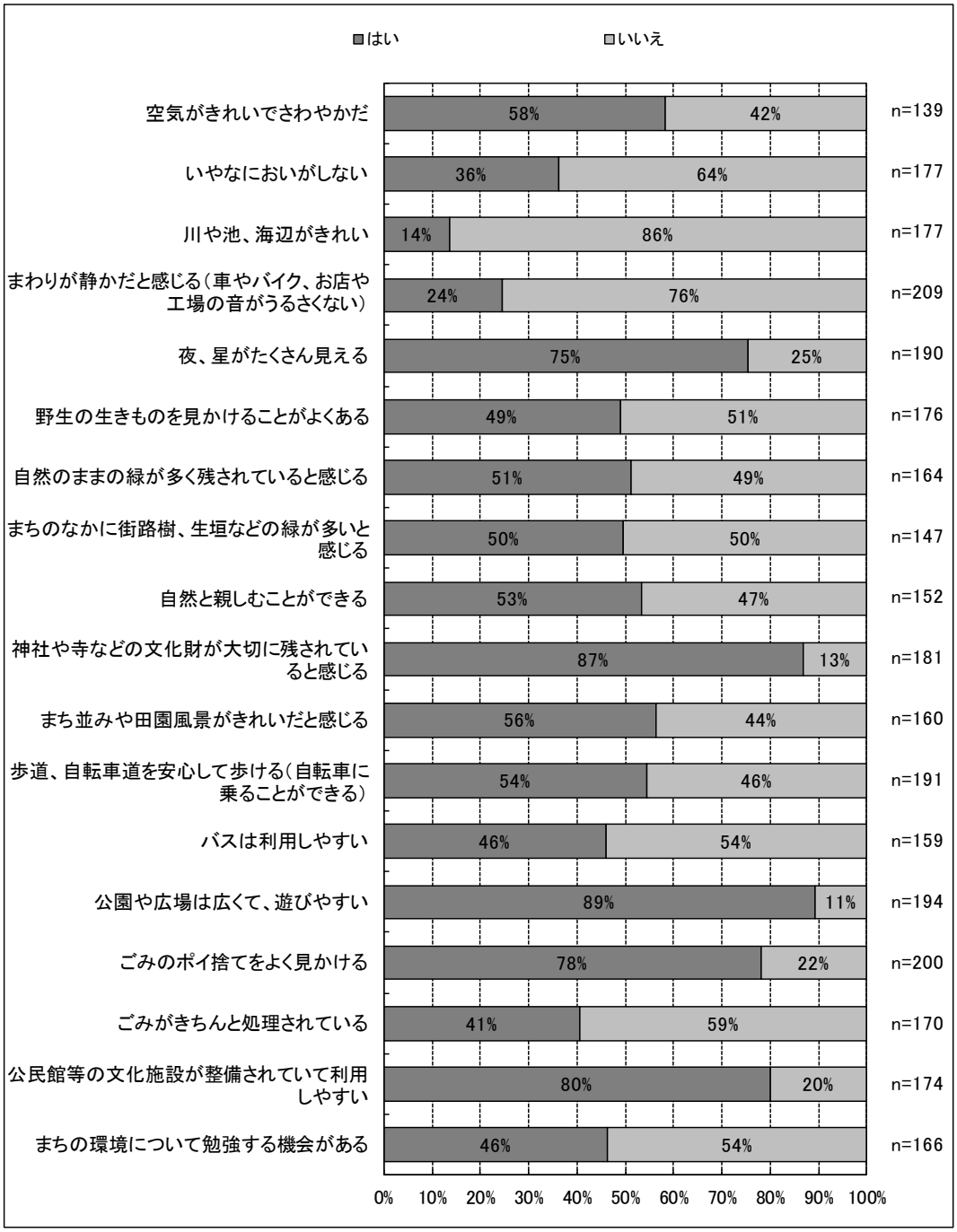


図 212　地域別分析　神栖西部地域

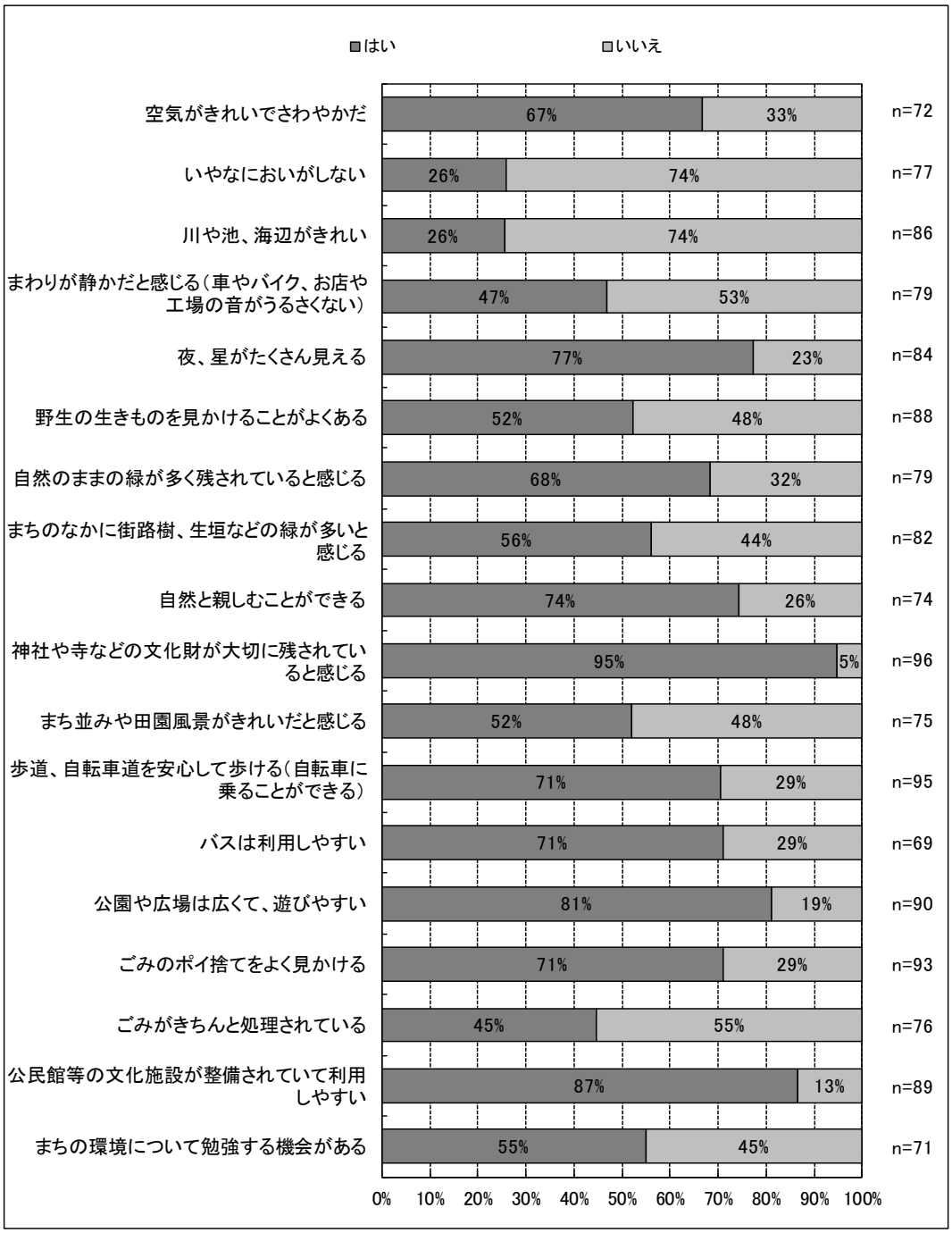


図 213　地域別分析　波崎地域

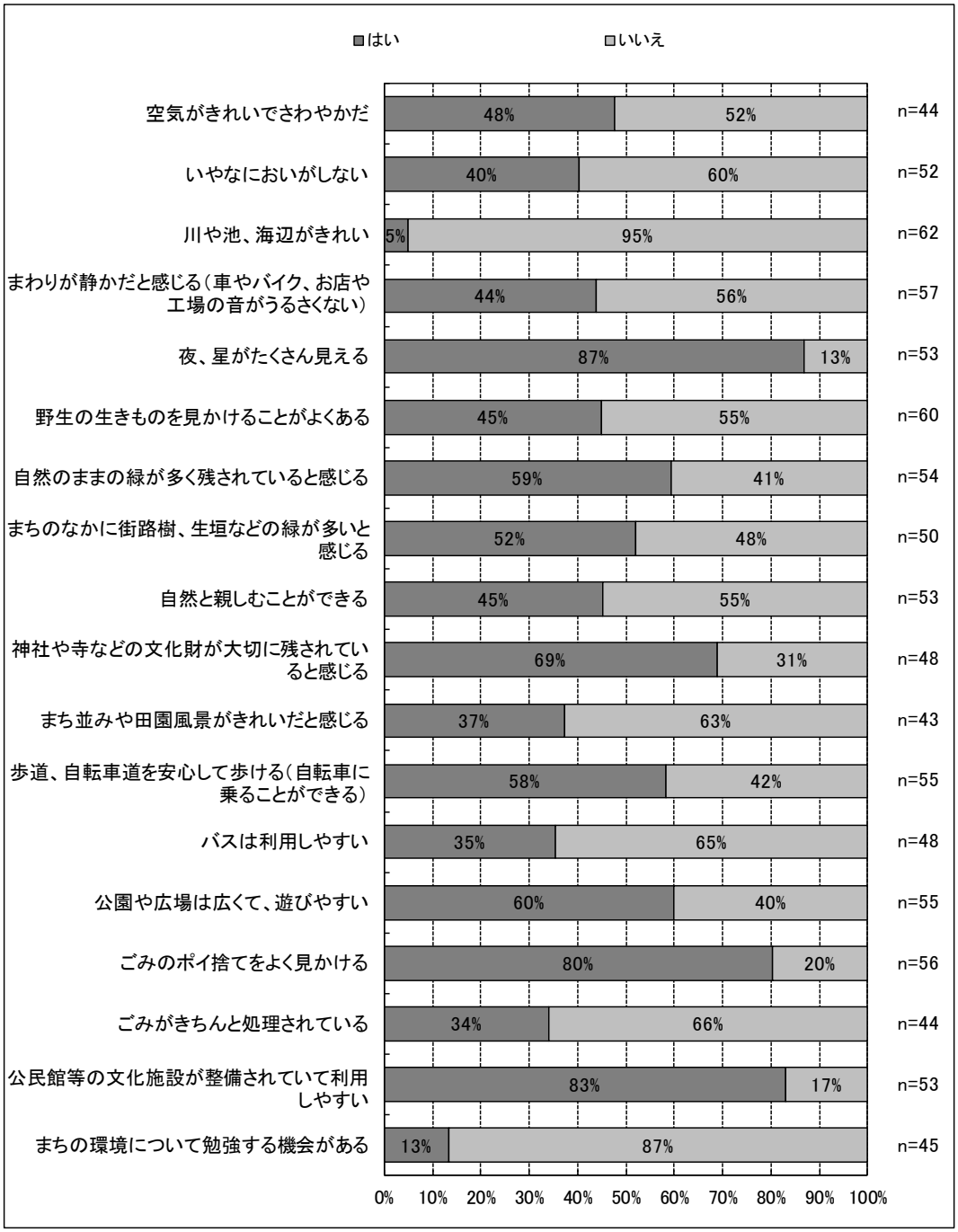


図 214　地域別分析　矢田部地域

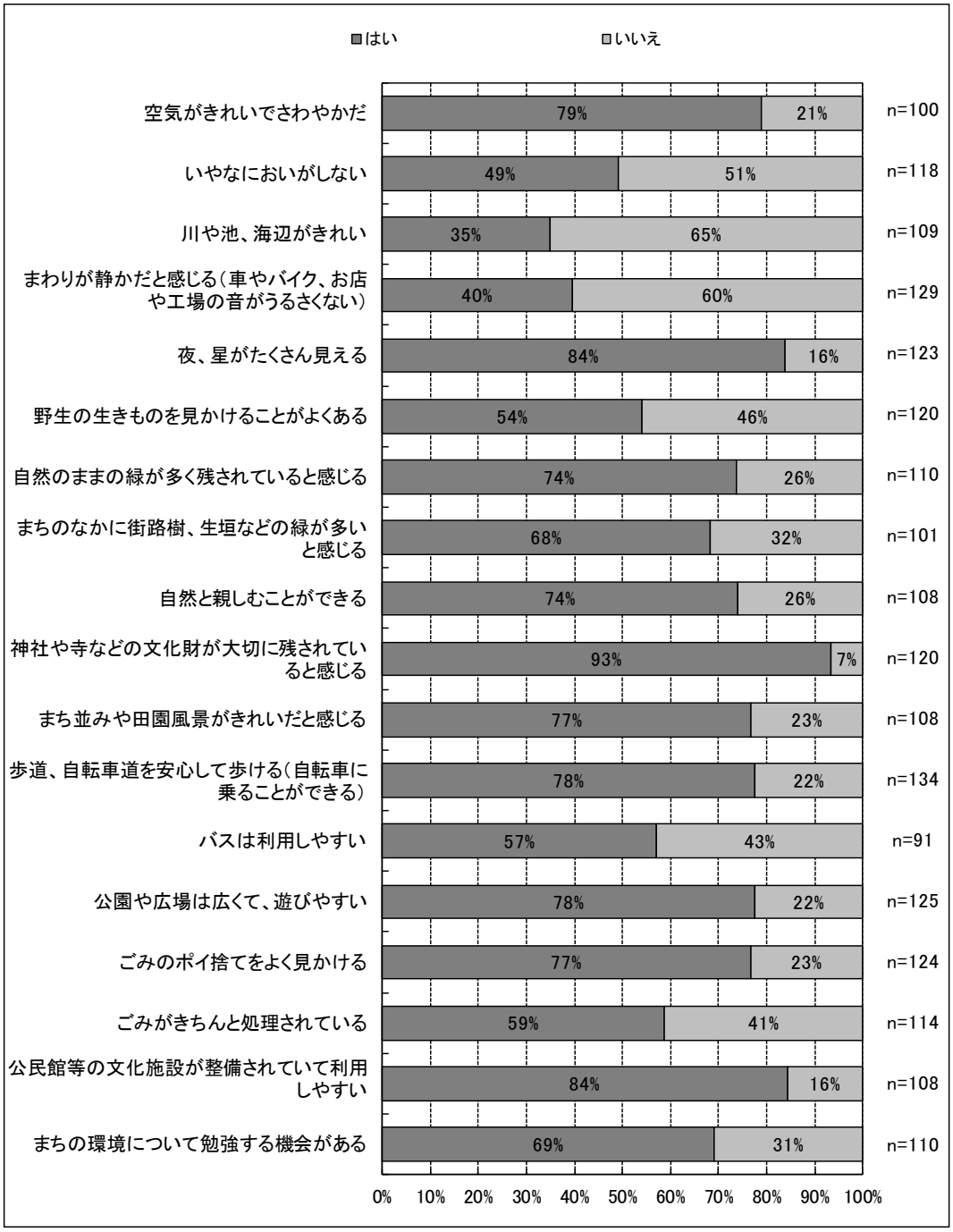


図 215　地域別分析　若松地域

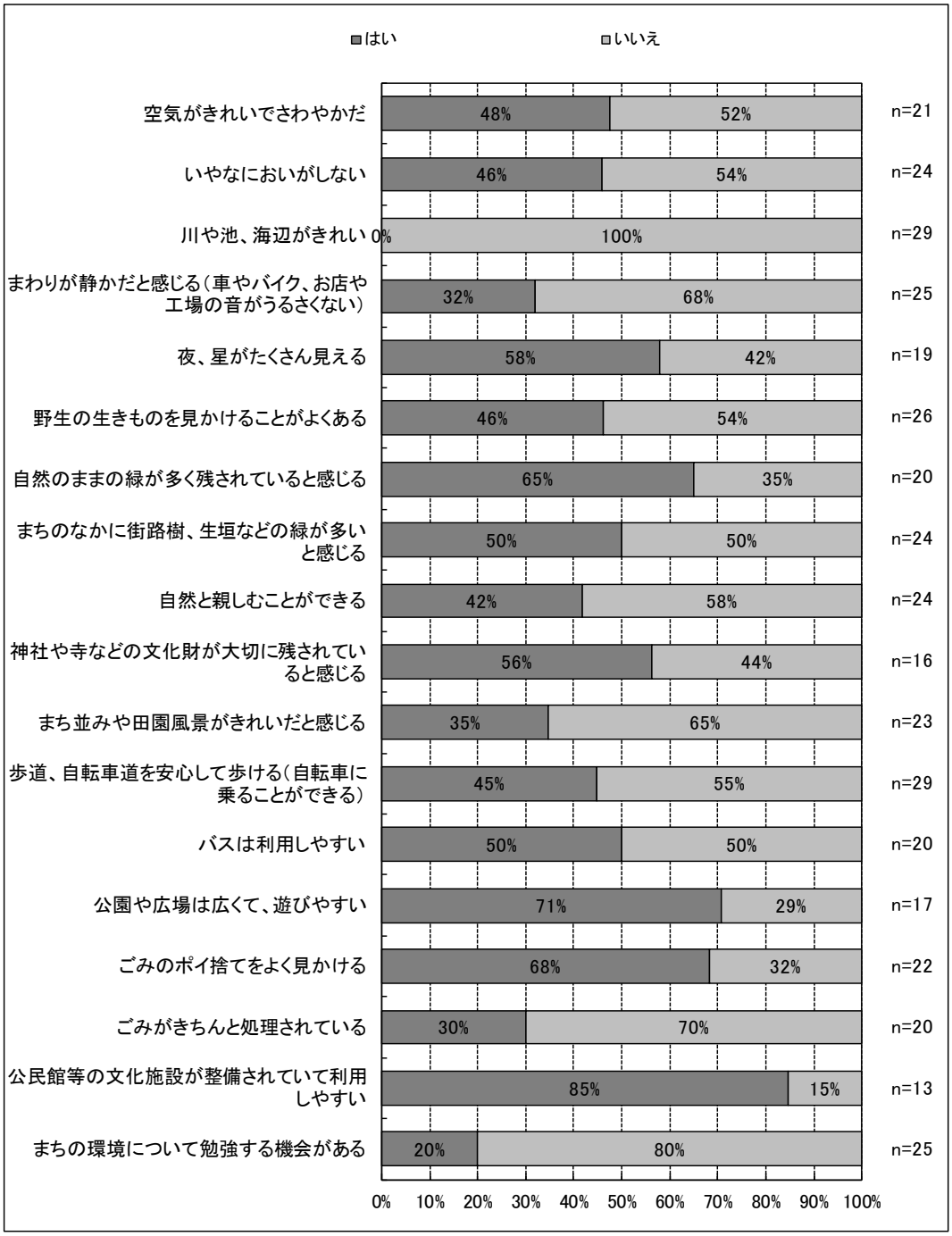


図 216　地域別分析　その他（市外）地域

2) 設問 3-2　重要と考える地域の環境

また、この中で神栖市の環境にとって、特に大切だと思う項目はどれですか？
あなたが、特に大切だと思う項目を①～⑱の中から選び上位 5 つを下の欄に記入してください。

1. 空気がきれいでさわやかだ	10. 神社や寺などの文化財が大切に残されていると感じる
2. いやなにおいがしない	11. まち並みや田園風景がきれいだと感じる
3. 川や池、海辺がきれい	12. 歩道、自転車道を安心して歩ける（自転車に乗ることができる）
4. まわりが静かだと感じる（車やバイク、お店や工場の音がうるさくない）	13. バスは利用しやすい
5. 夜、星がたくさん見える	14. 公園や広場は広くて、遊びやすい
6. 野生の生きものを見かけることがよくある	15. ごみのポイ捨てをよく見かける
7. 自然のままの緑が多く残されていると感じる	16. ごみがきちんと処理されている
8. まちのなかに街路樹、生垣などの緑が多いと感じる	17. 公民館等の文化施設が整備されていて利用しやすい
9. 自然と親しむことができる	18. まちの環境について勉強する機会がある

a) 全体

特に大切と考える項目で、「空気がきれいでさわやかだ」が 1 位となっている。
平成 19 年度と比較して、平成 29 年度では 1 位と 2 位の順位が入れ替わり、3 位以降は新たな項目が選ばれている。

表 59　神栖市の環境にとって大切な項目

	H29（地域全体）	H19（波崎地域）
1 位	空気がきれいでさわやかだ	川や池、海辺がきれい
2 位	川や池、海辺がきれい	空気がきれいでさわやかだ
3 位	いやなにおいがしない	自然のままの緑が多く残されていると感じる
4 位	歩道、自転車道を安心して歩ける（自転車に乗ることができる）	ごみのポイ捨てをよく見かける
5 位	まわりが静かだと感じる（車やバイク、お店や工場の音がうるさくない）	ごみがきちんと処理されている

3) 設問 4　外での遊び方について

あなたは、普段、外で遊ぶ時、どのようなことをしていますか？ ①～⑧の項目について、あてはまる答えを 1 つずつ選んで、番号に○をつけて下さい。 ※項目は下記集計結果を参照
1. する　　2. しない

a) 全体

「サイクリング」の割合が最も高く、一方で「野鳥の観察」の割合が最も低い。
平成 19 年度と比較して、全体的な傾向に大きな変化は見られない。

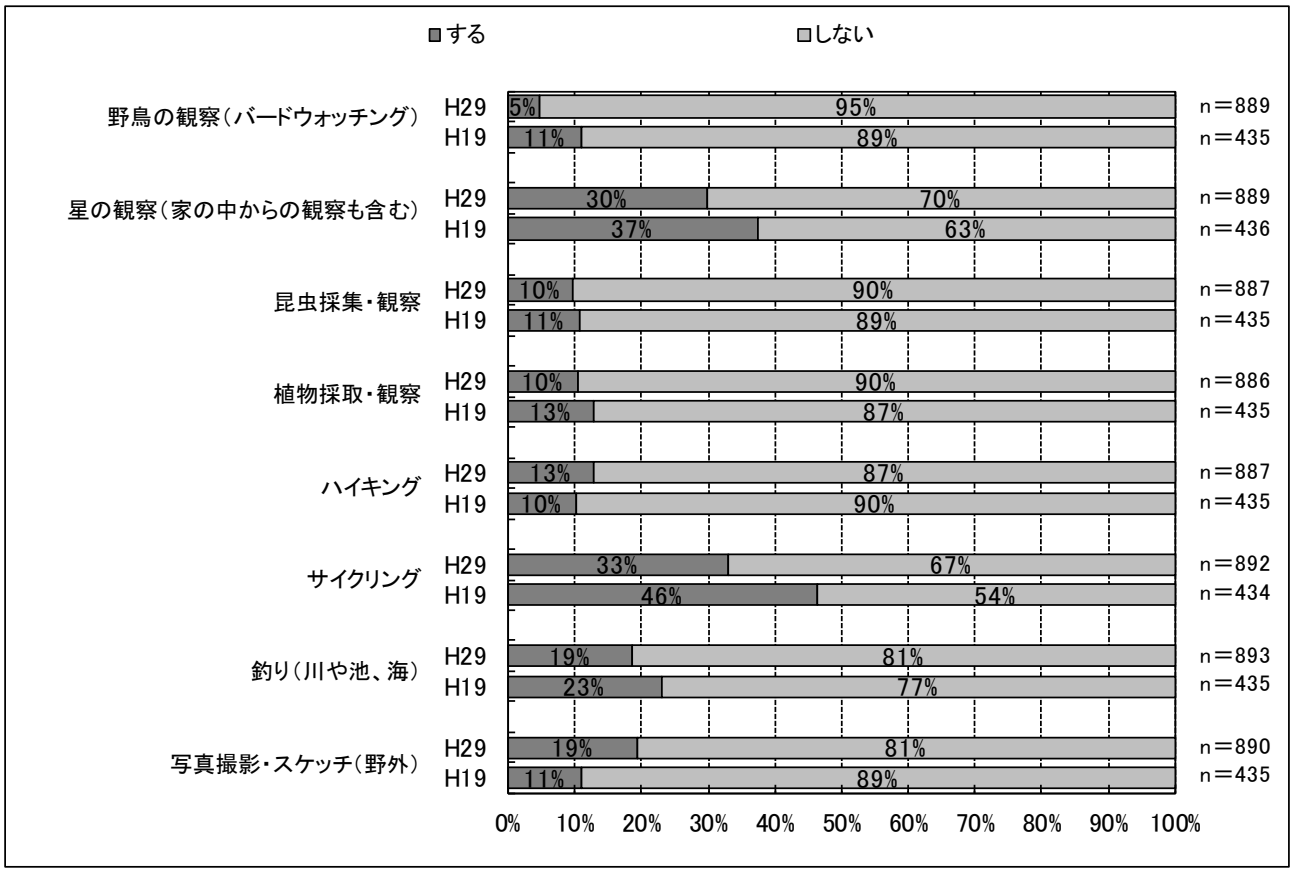


図 217　外で遊ぶときについて

表 60　外で遊ぶときについて

			はい	いいえ	計 (無回答を除く)
野鳥の観察（バードウォッチング）	H29	(回答数)	41	848	889
		(%)	5%	95%	100%
	H19	(%)	11%	89%	100%
星の観察（家の中からの観察も含む）	H29	(回答数)	265	624	889
		(%)	30%	70%	100%
	H19	(%)	37%	63%	100%
昆虫採集・観察	H29	(回答数)	86	801	887
		(%)	10%	90%	100%
	H19	(%)	11%	89%	100%
植物採取・観察	H29	(回答数)	93	793	886
		(%)	10%	90%	100%
	H19	(%)	13%	87%	100%
ハイキング	H29	(回答数)	114	773	887
		(%)	13%	87%	100%
	H19	(%)	10%	90%	100%
サイクリング	H29	(回答数)	294	598	892
		(%)	33%	67%	100%
	H19	(%)	46%	54%	100%
釣り（川や池、海）	H29	(回答数)	167	726	893
		(%)	19%	81%	100%
	H19	(%)	23%	77%	100%
写真撮影・スケッチ（野外）	H29	(回答数)	173	717	890
		(%)	19%	81%	100%
	H19	(%)	11%	89%	100%

b) クロス集計

学校別に比較すると、小学生・中学生では「サイクリング」の割合が最も高く、高校生では「星の観察(家の中からの観察も含む)」が最も高い割合となっている。
一方で「野鳥の観察」の割合が最も低い。

①学校別分析

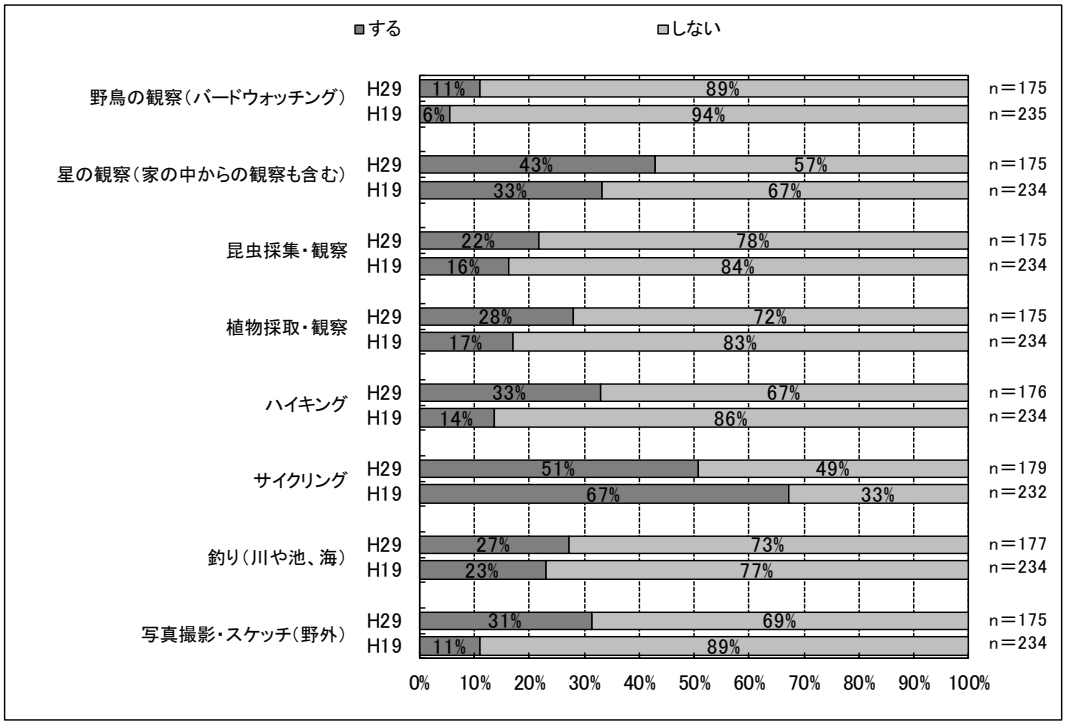


図 218 学校別分析 小学生

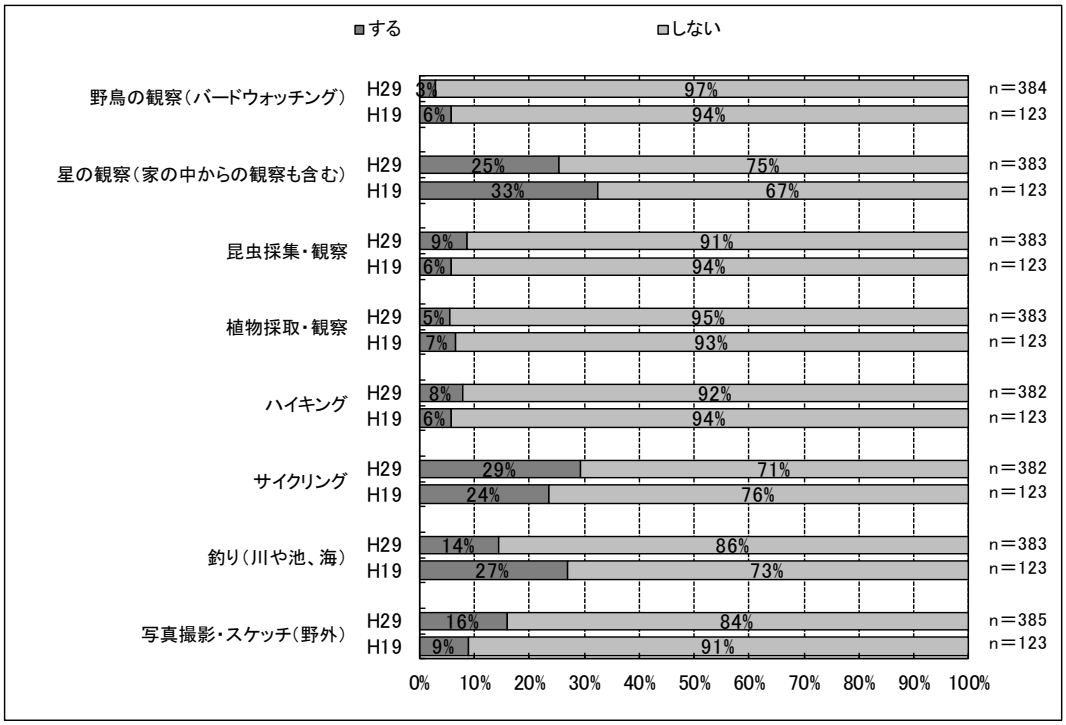


図 219 学校別分析 中学生

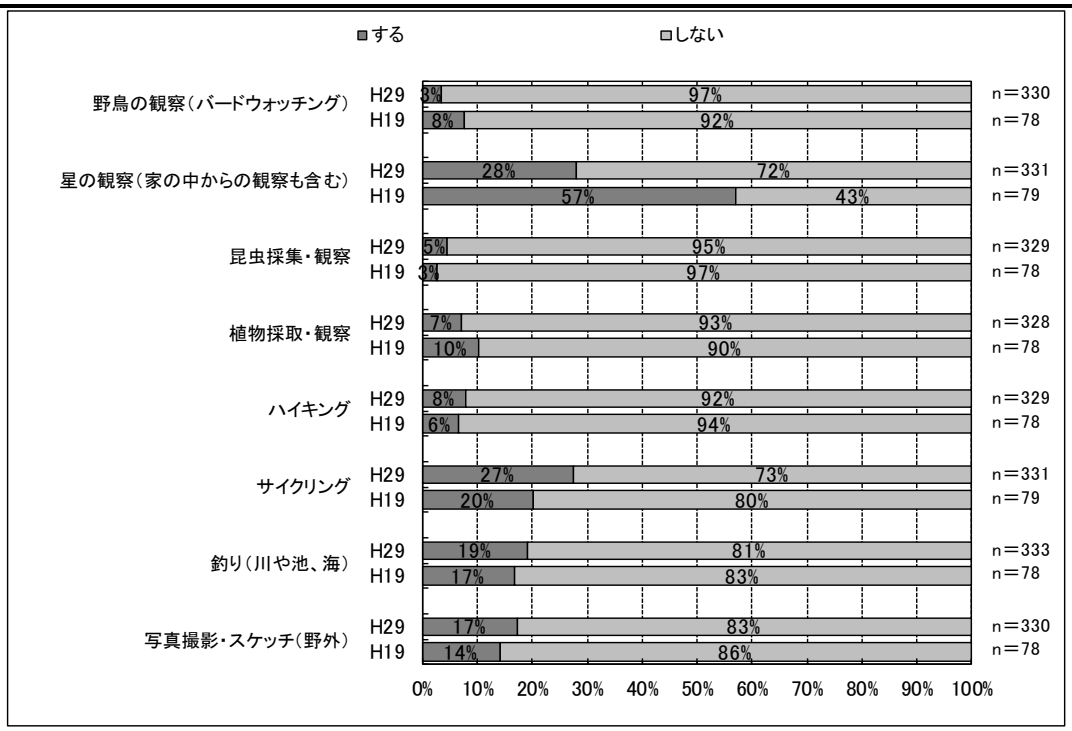


図 220　学校別分析　高校生

4) 設問５　環境保全の行動について

あなたは、環境を守るために、毎日の生活の中で次のようなことをしていますか？ ①～⑤の項目について、もっとも近い答えを１つずつ選んで、番号に○をつけて下さい。 ※項目は下記集計結果を参照
1. はい　　2. いいえ

a) 全体

「洗濯用、食器用の洗剤を使い過ぎないようにする」の割合が最も高く、一方で「テレビを見る時間やゲームをする時間を決めている」の割合が最も低い。
平成 19 年度と比較して、全体的な傾向に大きな変化は見られない。

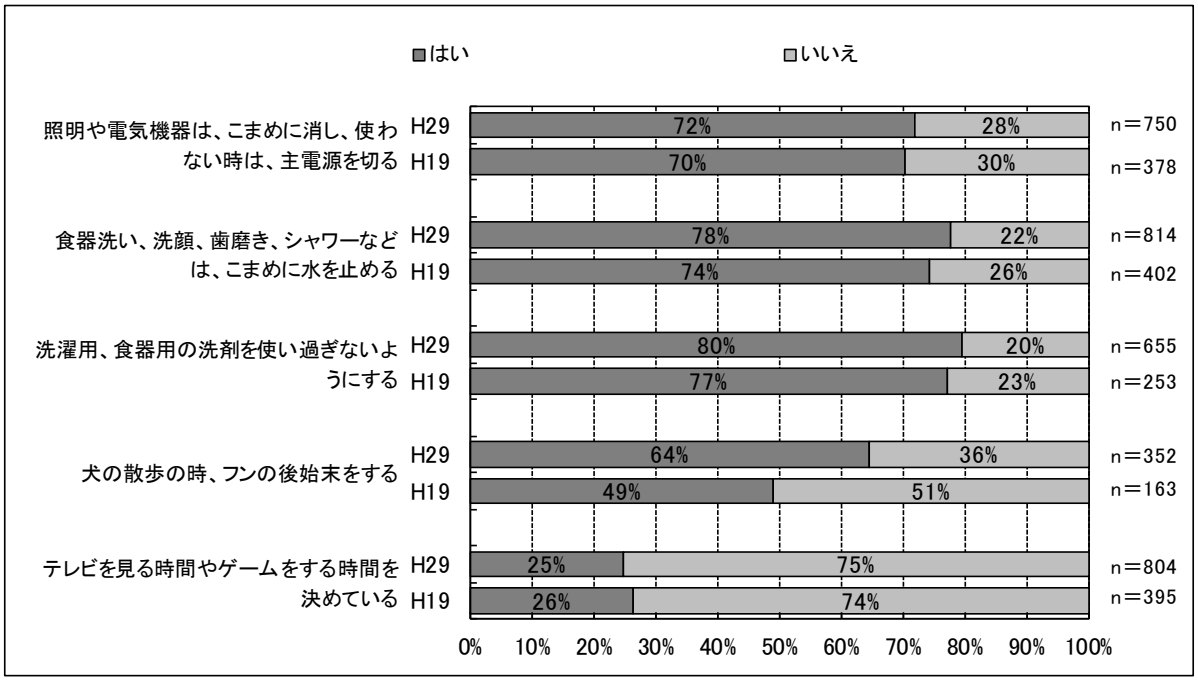


図 221　環境のための取組

表 61　環境のための取組

			はい	いいえ	計 (無回答を除く)
照明や電気機器は、こまめに消し、使わない時は、主電源を切る	H29	(回答数)	539	211	750
		(%)	72%	28%	100%
	H19	(%)	70%	30%	100%
食器洗い、洗顔、歯磨き、シャワーなどは、こまめに水を止める	H29	(回答数)	633	181	814
		(%)	78%	22%	100%
	H19	(%)	74%	26%	100%
洗濯用、食器用の洗剤を使い過ぎないようにする	H29	(回答数)	522	133	655
		(%)	80%	20%	100%
	H19	(%)	77%	23%	100%
犬の散歩の時、フンの後始末をする	H29	(回答数)	227	125	352
		(%)	64%	36%	100%
	H19	(%)	49%	51%	100%
テレビを見る時間やゲームをする時間を決めている	H29	(回答数)	199	605	804
		(%)	25%	75%	100%
	H19	(%)	26%	74%	100%

b) クロス集計

学校別に比較すると、小学生・中学生・高校生ともに「洗濯用、食器用の洗剤を使い過ぎないようにする」の割合が最も高く、一方で「テレビを見る時間やゲームをする時間を決めている」の割合が最も低い。

①学校別分析

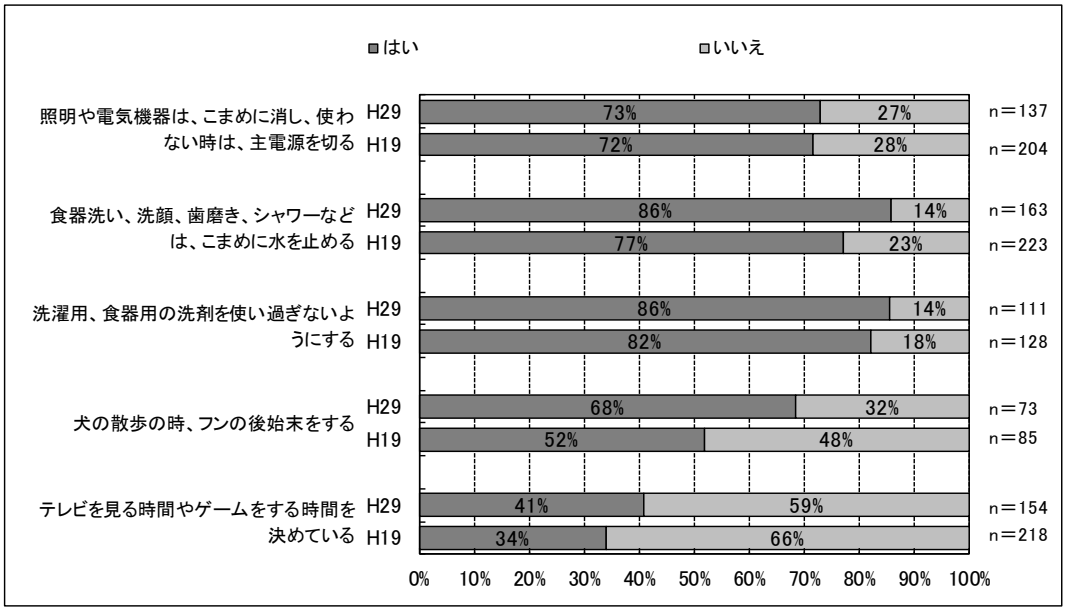


図 222　学校別分析　小学生

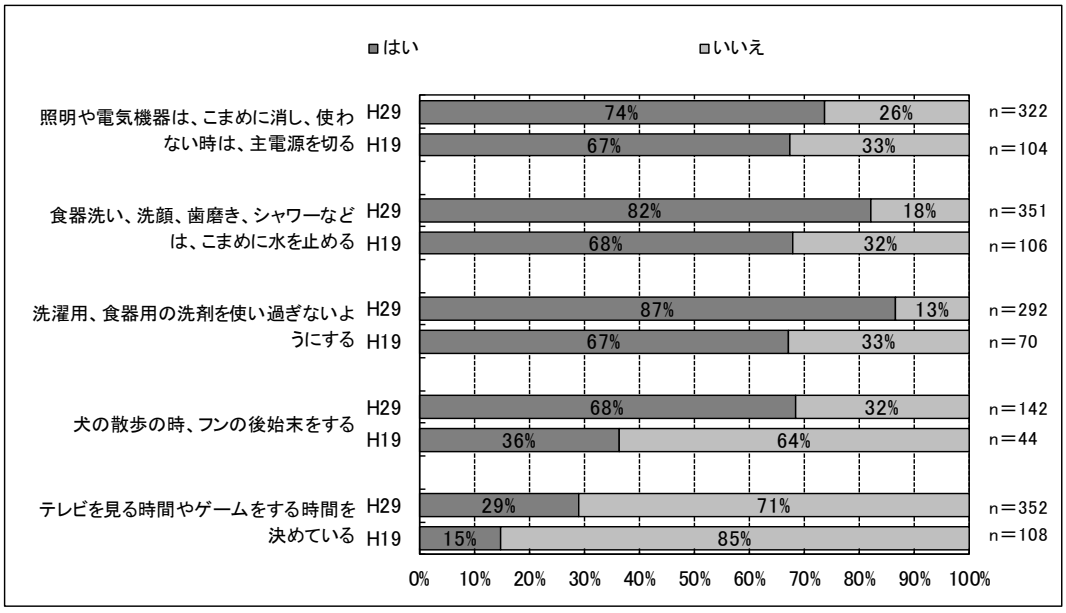


図 223　学校別分析　中学生

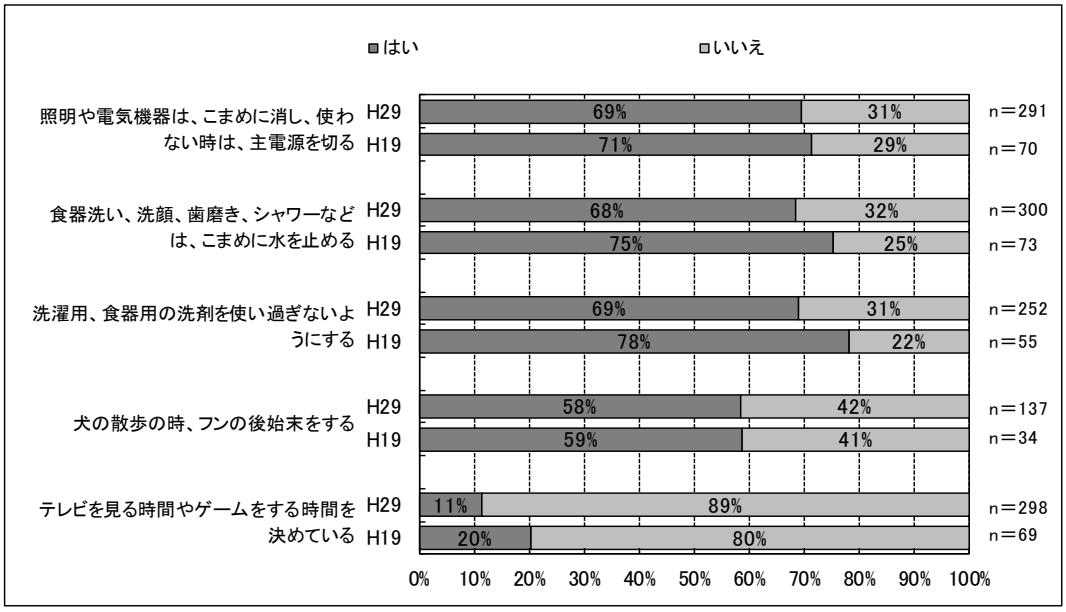


図 224　学校別分析　高校生

5) 設問 6　環境活動について

あなたは、次のような活動をしていますか？ ①～⑥の項目について、もっとも近い答えを 1 つずつ選んで、番号に○をつけて下さい。 ※項目は下記集計結果を参照	
1. はい	2. いいえ

a) 全体

「休みの日には海や川へ出かける」の割合が最も高く、一方で「自然観察会に参加する」の割合が最も低い。

平成 19 年度と比較して、全体的な傾向に大きな変化は見られない。

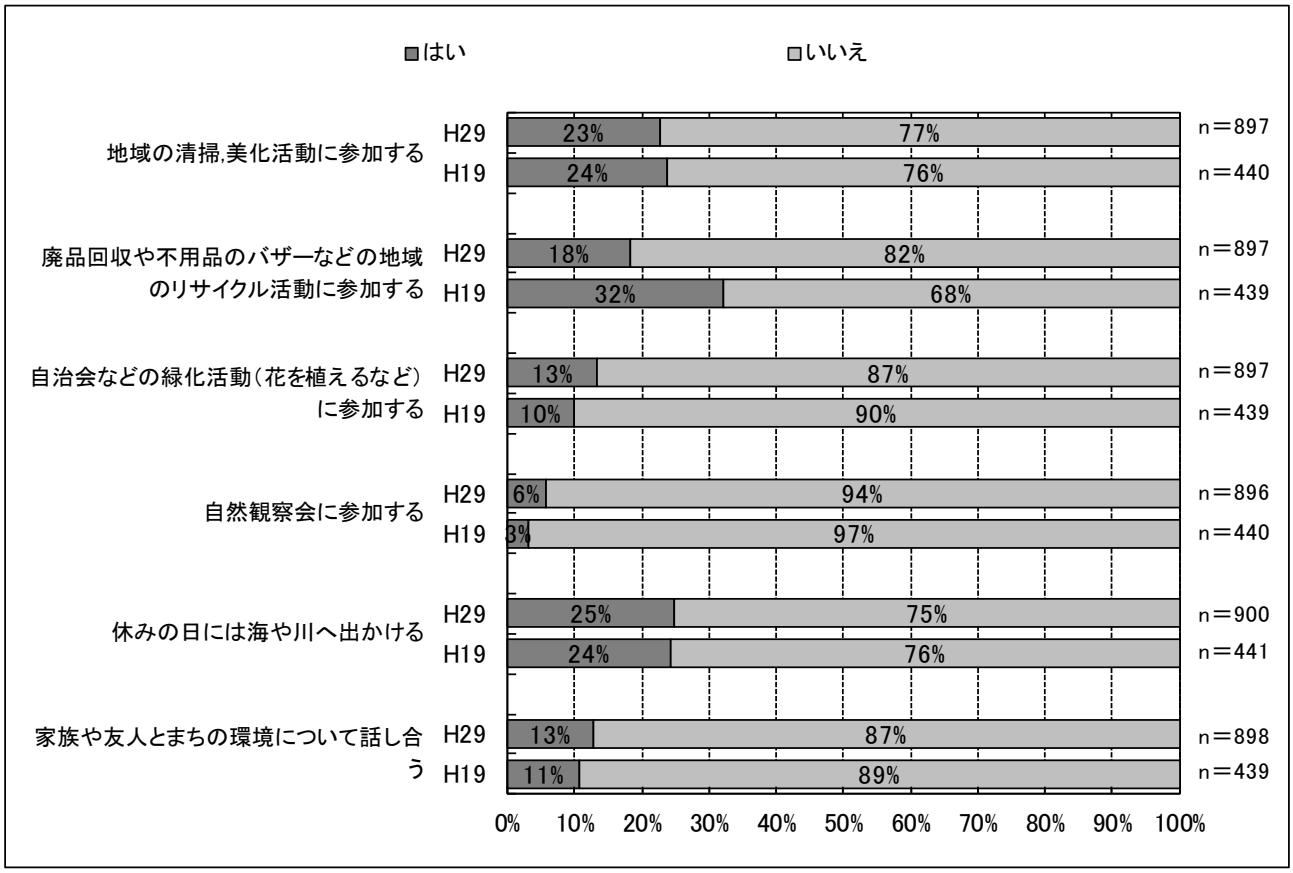


図 225　環境のための活動

表 62　環境のための活動

			はい	いいえ	計 (無回答を除く)
地域の清掃,美化活動に参加する	H29	(回答数)	203	694	897
		(%)	23%	77%	100%
	H19	(%)	24%	76%	100%
廃品回収や不用品のバザーなどの地域のリサイクル活動に参加する	H29	(回答数)	164	733	897
		(%)	18%	82%	100%
	H19	(%)	32%	68%	100%
自治会などの緑化活動（花を植えるなど）に参加する	H29	(回答数)	120	777	897
		(%)	13%	87%	100%
	H19	(%)	10%	90%	100%
自然観察会に参加する	H29	(回答数)	51	845	896
		(%)	6%	94%	100%
	H19	(%)	3%	97%	100%
休みの日には海や川へ出かける	H29	(回答数)	224	676	900
		(%)	25%	75%	100%
	H19	(%)	24%	76%	100%
家族や友人とまちの環境について話し合う	H29	(回答数)	114	784	898
		(%)	13%	87%	100%
	H19	(%)	11%	89%	100%

b) クロス集計

学校別に比較すると、小学生と高校生は「休みの日には海や川へ出かける」、中学生は「地域の清掃,美化活動に参加する」の割合が最も高く、一方でどの学校も「自然観察会に参加する」の割合が最も低い。

①学校別分析

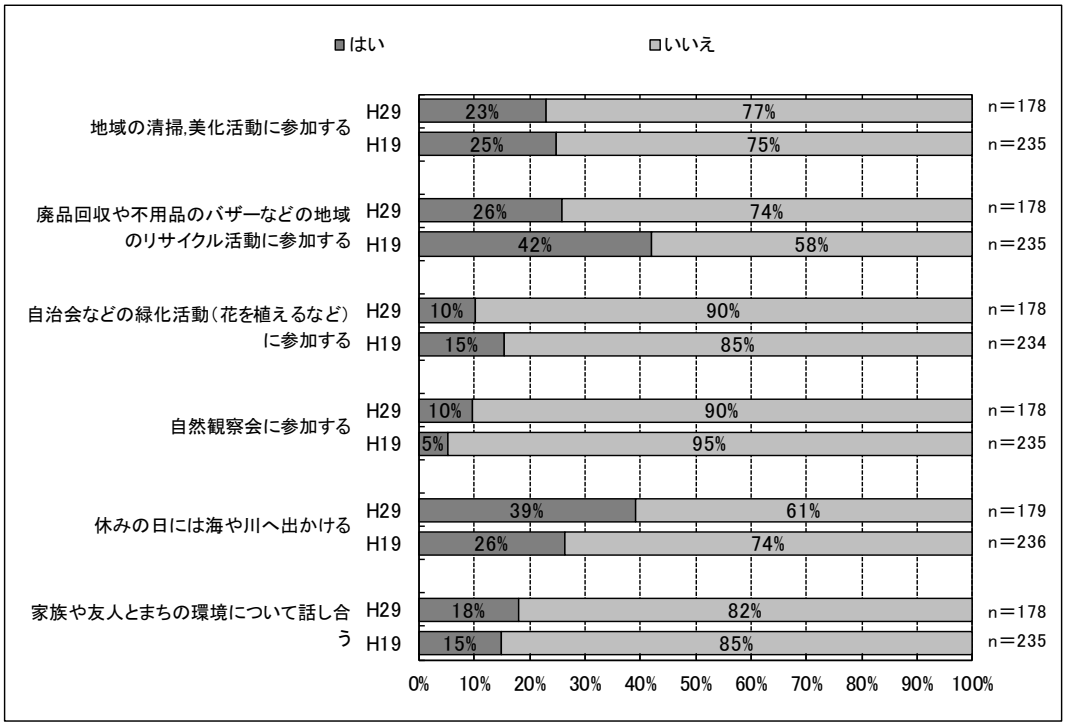


図 226　学校別分析　小学生

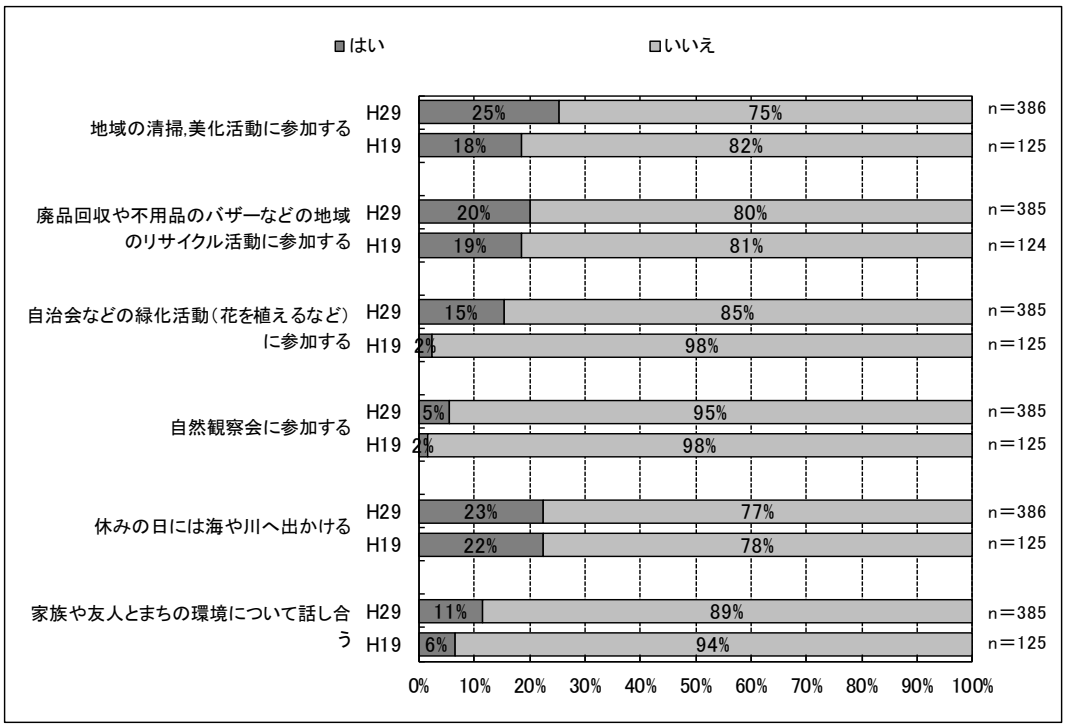


図 227　学校別分析　中学生

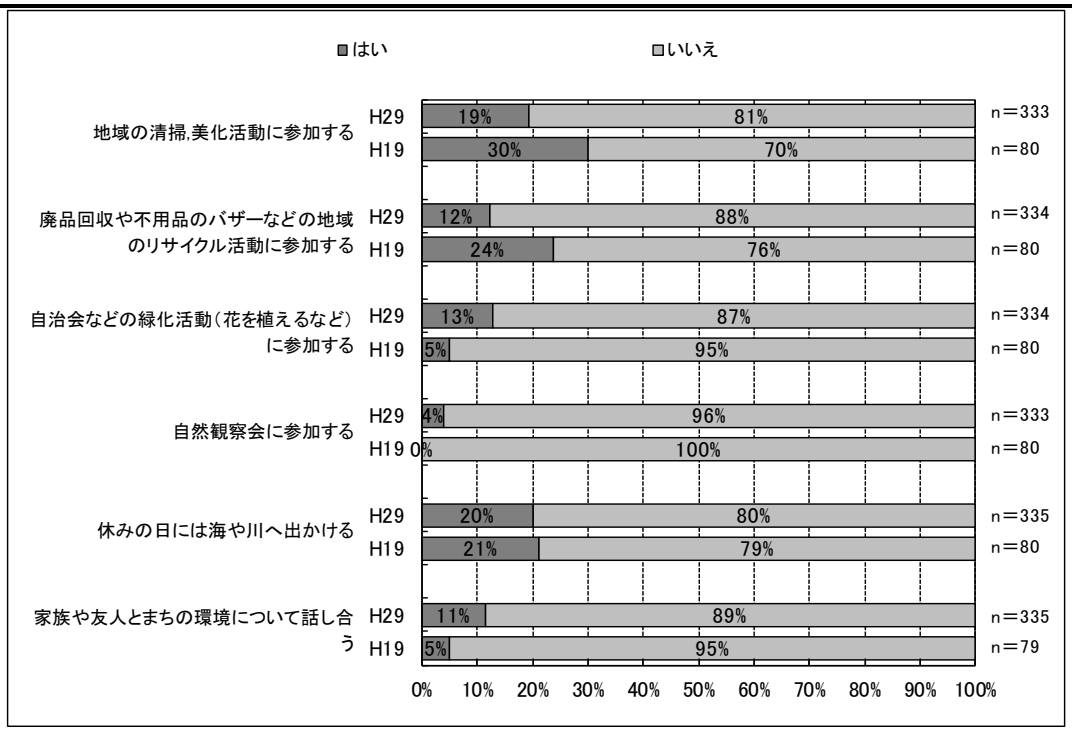


図 228　学校別分析　高校生

6) 設問 7　関心のある環境問題について

あなたが関心を持っている環境問題はなんですか？
あてはまる答えを 3 つまで選んで、番号に○をつけて下さい。
※項目は下記集計結果を参照

a) 全体

「ごみのポイ捨て」の割合が最も高く、一方で「地下水の汲み上げにより地面が沈下すること」の割合が最も低い。

平成 19 年度と比較して、平成 29 年度では「地球温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨などの地球環境問題」への関心を持っている学生の割合が大きく下回っている。

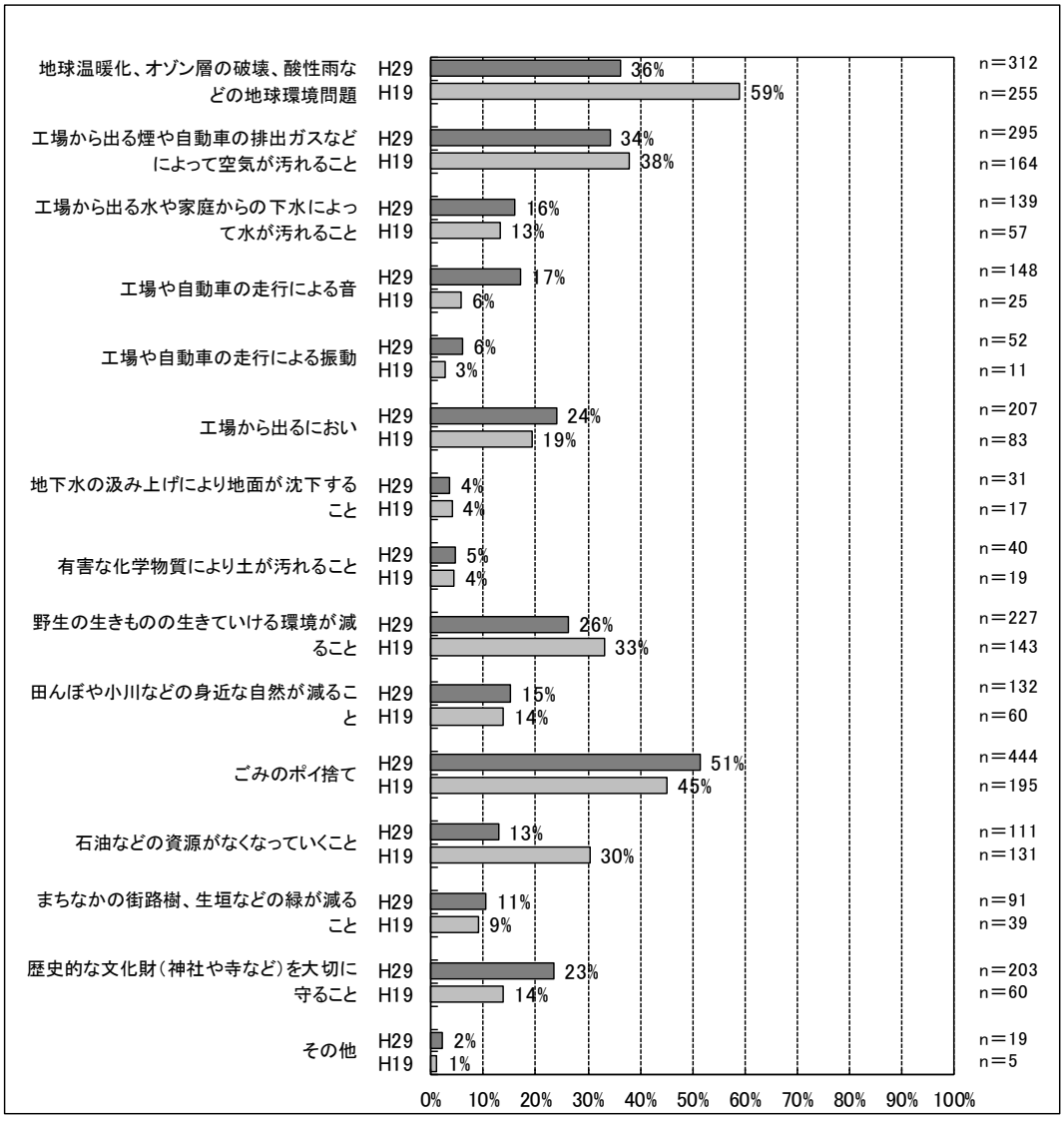


図 229　環境問題への関心

表 63　環境問題への関心

	H29 結果（回答数）	H29 結果（%）	H19 結果（%）
地球温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨などの地球環境問題	312	36%	59%
工場から出る煙や自動車の排出ガスなどによって空気が汚れること	295	34%	38%
工場から出る水や家庭からの下水によって水が汚れること	139	16%	13%
工場や自動車の走行による音	148	17%	6%
工場や自動車の走行による振動	52	6%	3%
工場から出るにおい	207	24%	19%
地下水の汲み上げにより地面が沈下すること	31	4%	4%
有害な化学物質により土が汚れること	40	5%	4%
野生の生きものの生きていける環境が減ること	227	26%	33%
田んぼや小川などの身近な自然が減ること	132	15%	14%
ごみのポイ捨て	444	51%	45%
石油などの資源がなくなっていくこと	111	13%	30%
まちなかの街路樹、生垣などの緑が減ること	91	11%	9%
歴史的な文化財（神社や寺など）を大切に守ること	203	23%	14%
その他	19	2%	1%
計（無回答を除く）			

b) クロス集計

学校別に比較すると、どの学校も「ごみのポイ捨て」の割合が最も高く、一方で小学生は「有害な化学物質により土が汚れること」、中学生と高校生では「地下水の汲み上げにより地面が沈下すること」の割合が最も低い。

①学校別分析

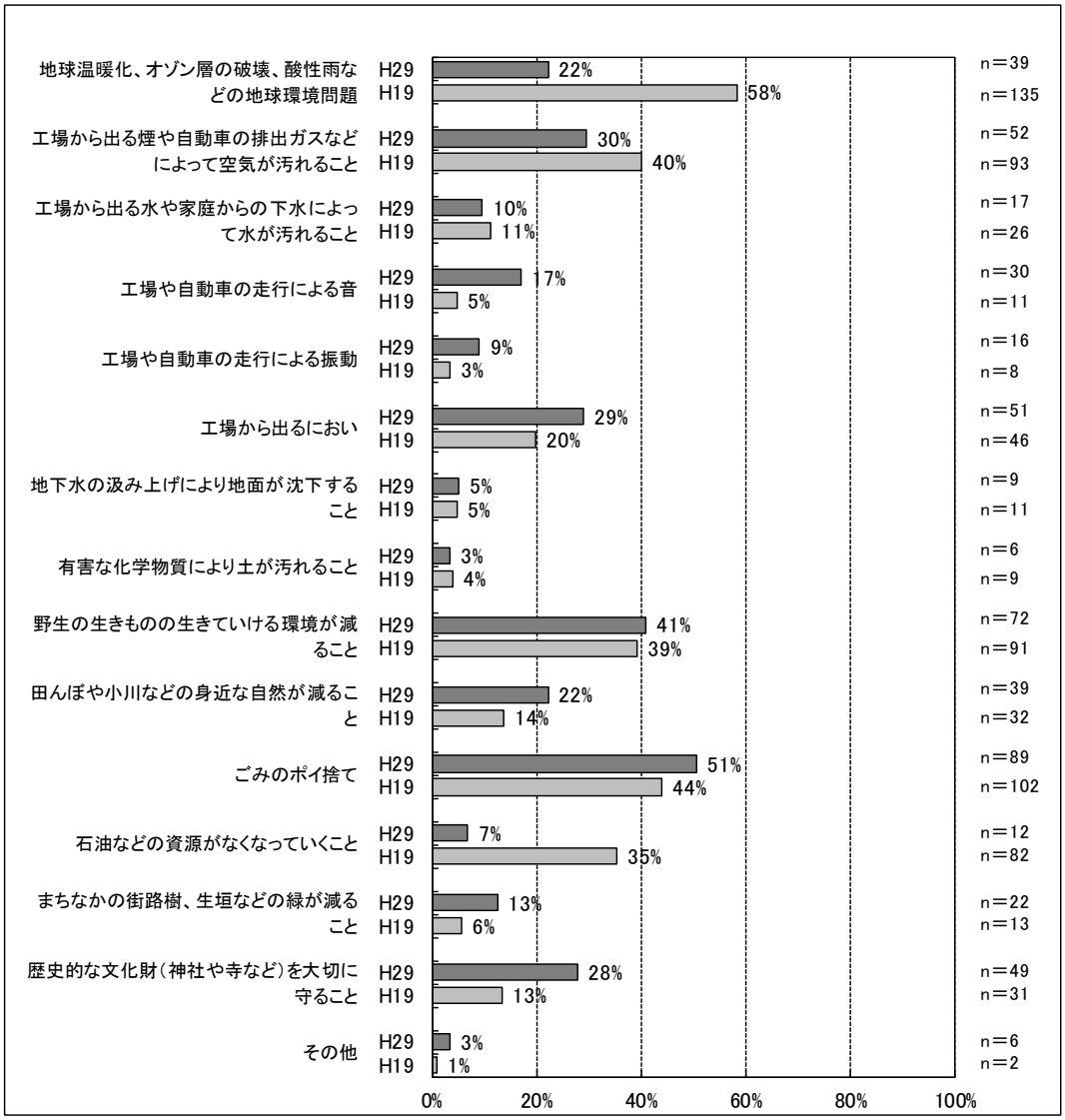


図 230　学校別分析　小学生

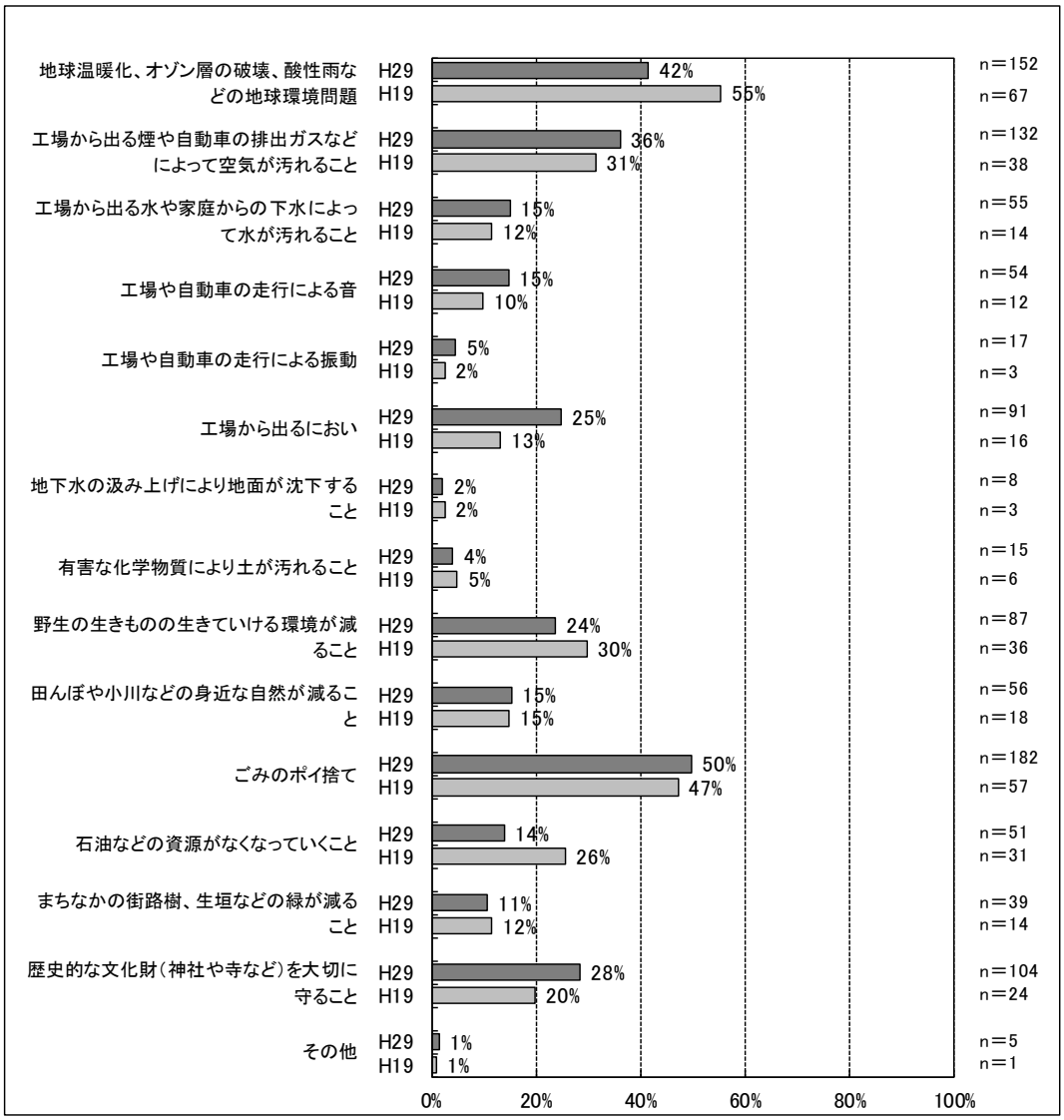


図 231　学校別分析　中学生

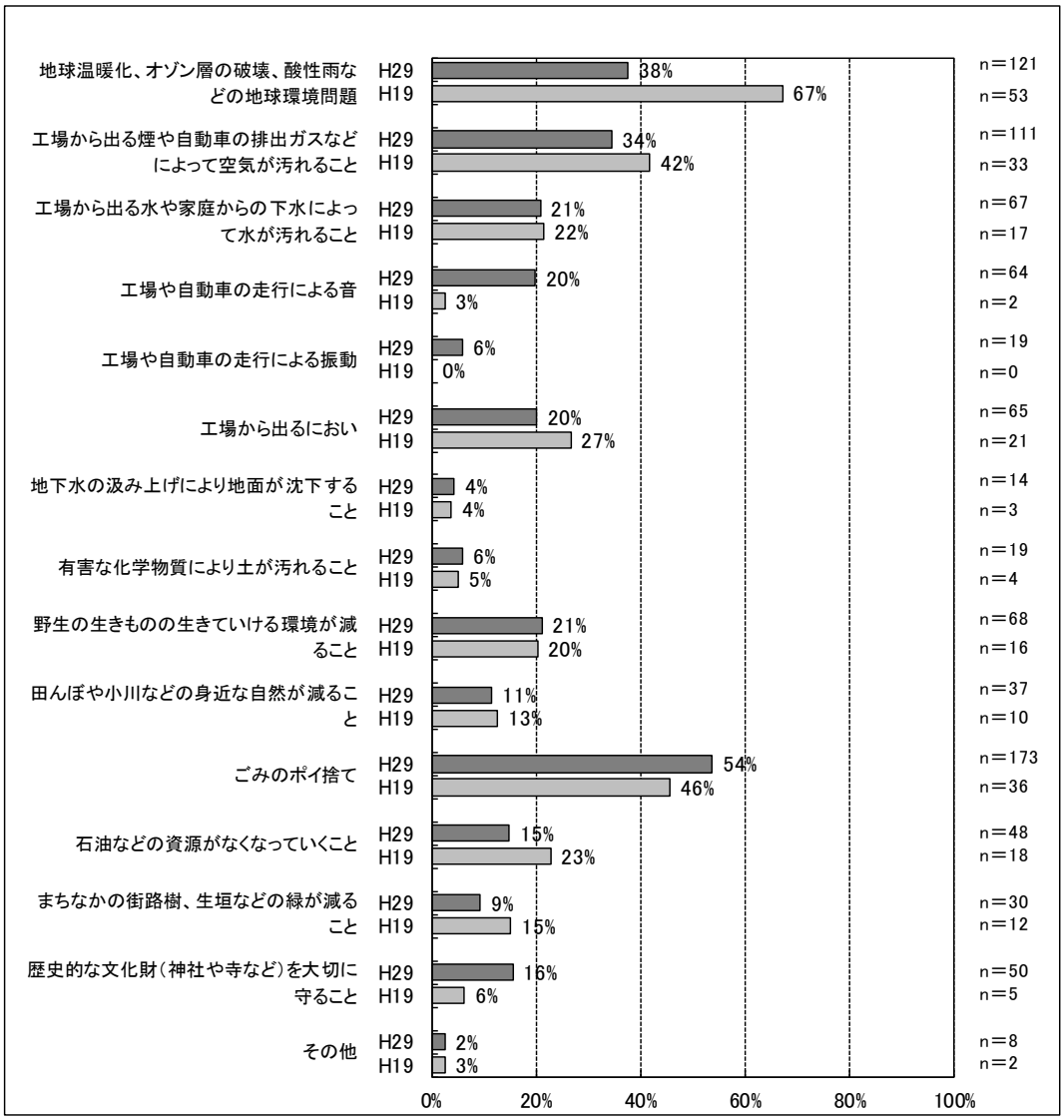


図 232　学校別分析　高校生

(3) 環境に関連する新しい動向

1) 設問 9　気候変動への備え（適応）等について

気候変動による影響として、農作物の不良、大雨等による水害、熱中症の増加、生態系の変化等のさまざまな問題の可能性が予測されており、既に身の回りでも起こりつつあります。 あなたは、気候変動への備え（適応）等行っていますか？ 項目ごとに最も近い答えを 1 つずつ選んで、該当する番号に○をつけて下さい。	
1. テレビなどが発信する情報を収集し、家庭内でできる備えを行っている 2. テレビなどが発信する情報を収集している	3. 特になにも行っていない 4. よくわからない

a) 全体

「テレビなどが発信する情報を収集し、家庭内でできる備えを行っている」の割合が 12%となっており、「テレビなどが発信する情報を収集している」の割合まで含めると 48%となっている。一方で「よくわからない」の割合が 27%となっている。

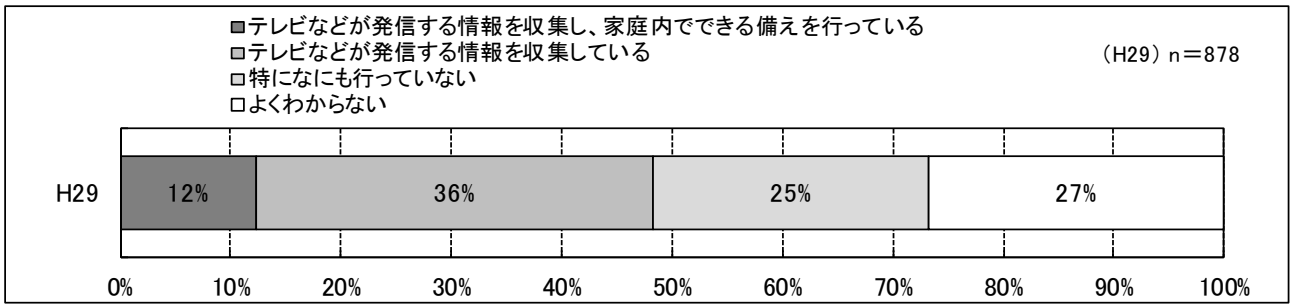


図 233　気候変動への準備について

表 64　気候変動への準備について

	H29 結果（回答数）	H29 結果（%）
テレビなどが発信する情報を収集し、家庭内でできる備えを行っている	108	12%
テレビなどが発信する情報を収集している	316	36%
特になにも行っていない	219	25%
よくわからない	235	27%
計（無回答を除く）	878	100%

b) クロス集計

学校別に比較すると、「テレビなどが発信する情報を収集し、家庭内でできる備えを行っている」、「テレビなどが発信する情報を収集している」を含めた回答の中で、小学生が 49%、中学生 45%、高校生 52%となっている。一方で「特になにも行っていない」、「よくわからない」を含めた回答の中で、小学生が 51%、中学生 55%、高校生 48%となっている。

①学校別分析

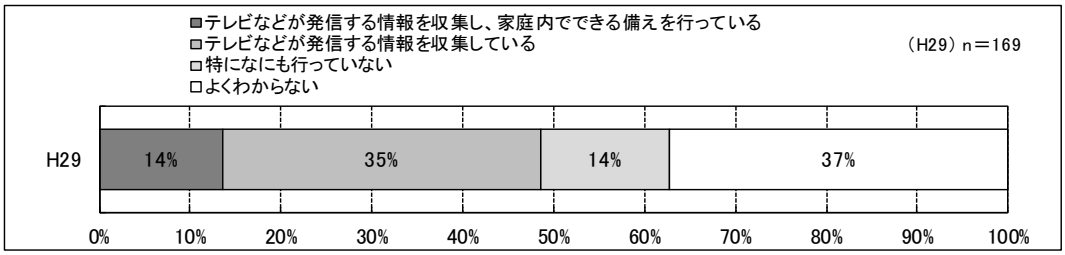


図 234　学校別分析　小学生

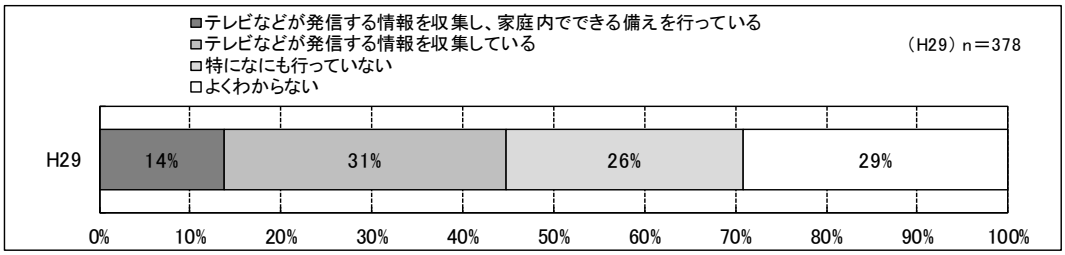


図 235　学校別分析　中学生

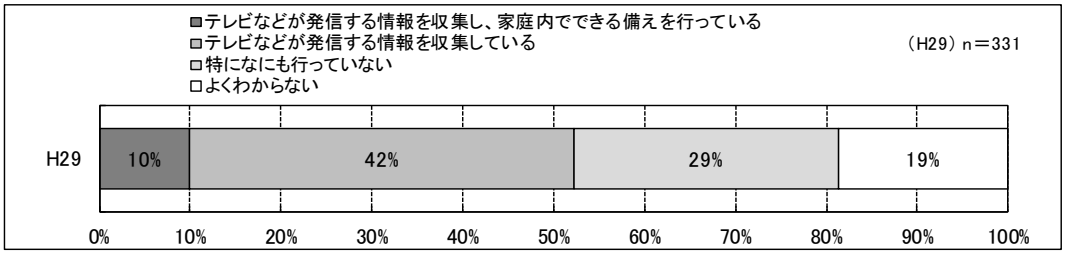


図 236　学校別分析　高校生

2) 設問 10　水素エネルギーへの関心について

新たなエネルギーとして「水素」への期待が高まっており、水素を利用した機器、自動車等も普及が始まっています。また神栖市では、「水素エネルギー利活用戦略」を平成 29 年 3 月に策定し、市域における水素エネルギーの可能性も模索しています。 あなたは、水素エネルギーに関心がありますか？ 項目ごとに最も近い答えを 1 つずつ選んで、該当する番号に○をつけて下さい。

1. とても関心がある	3. あまり関心がない
2. 関心がある	4. 関心がない

a) 全体

「とても関心がある」の割合が 12%となっており、「関心がある」の割合まで含めると 37%となっている。一方で「よくわからない」の割合が 33%となっている。

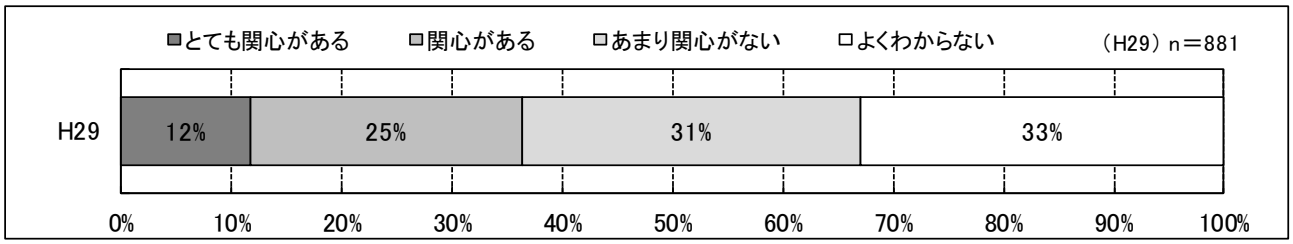


図 237　水素エネルギーへの関心

表 65　水素エネルギーへの関心

	H29 結果（回答数）	H29 結果（%）
とても関心がある	103	12%
関心がある	217	25%
あまり関心がない	271	31%
よくわからない	290	33%
計（無回答を除く）	881	100%

b) クロス集計

学校別に比較すると、「とても関心がある」・「関心がある」を含めた回答の中で、小学生が 42%、中学生が 35%、高校生が 35%となっている。

①学校別分析

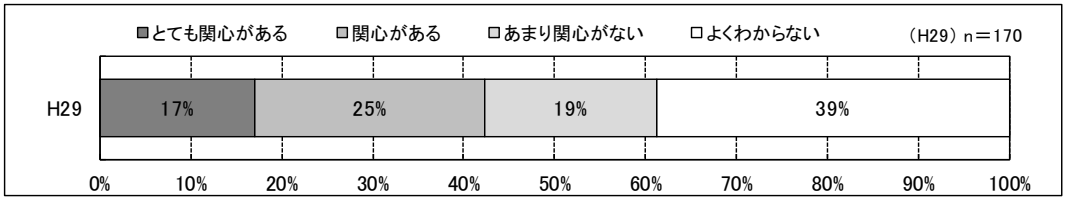


図 238　学校別分析　小学生

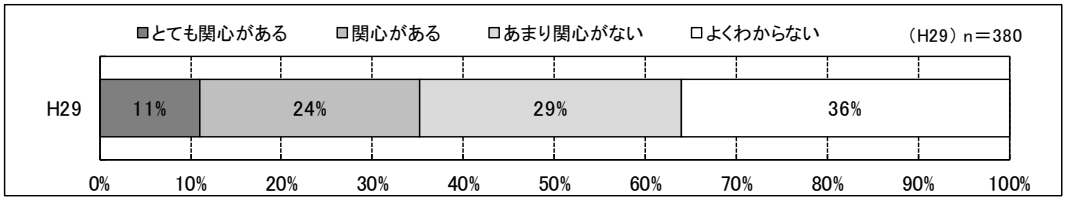


図 239　学校別分析　中学生

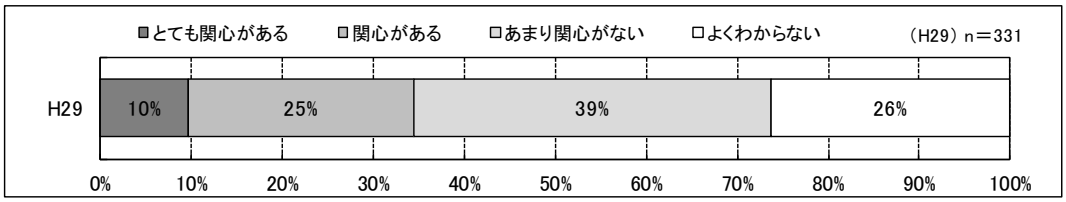


図 240　学校別分析　高校生

(4) 市への要望

1) 設問 11-1 環境問題に関する情報について

あなたは神栖市の環境をより良くするためには、どのようなことをすればよいと思いますか？
あてはまる答えを 3 つまで選んで、該当する番号に○をつけて下さい。
※項目は下記集計結果を参照

a) 全体

「ごみのポイ捨てを減らす」の割合が最も高く、一方で「まちの環境について勉強する」の割合が最も低い。

平成 19 年度と比較して、平成 29 年度では「地球の温暖化を防ぐ」の割合がやや減少しているが、全体的に大きな変化は見られない。

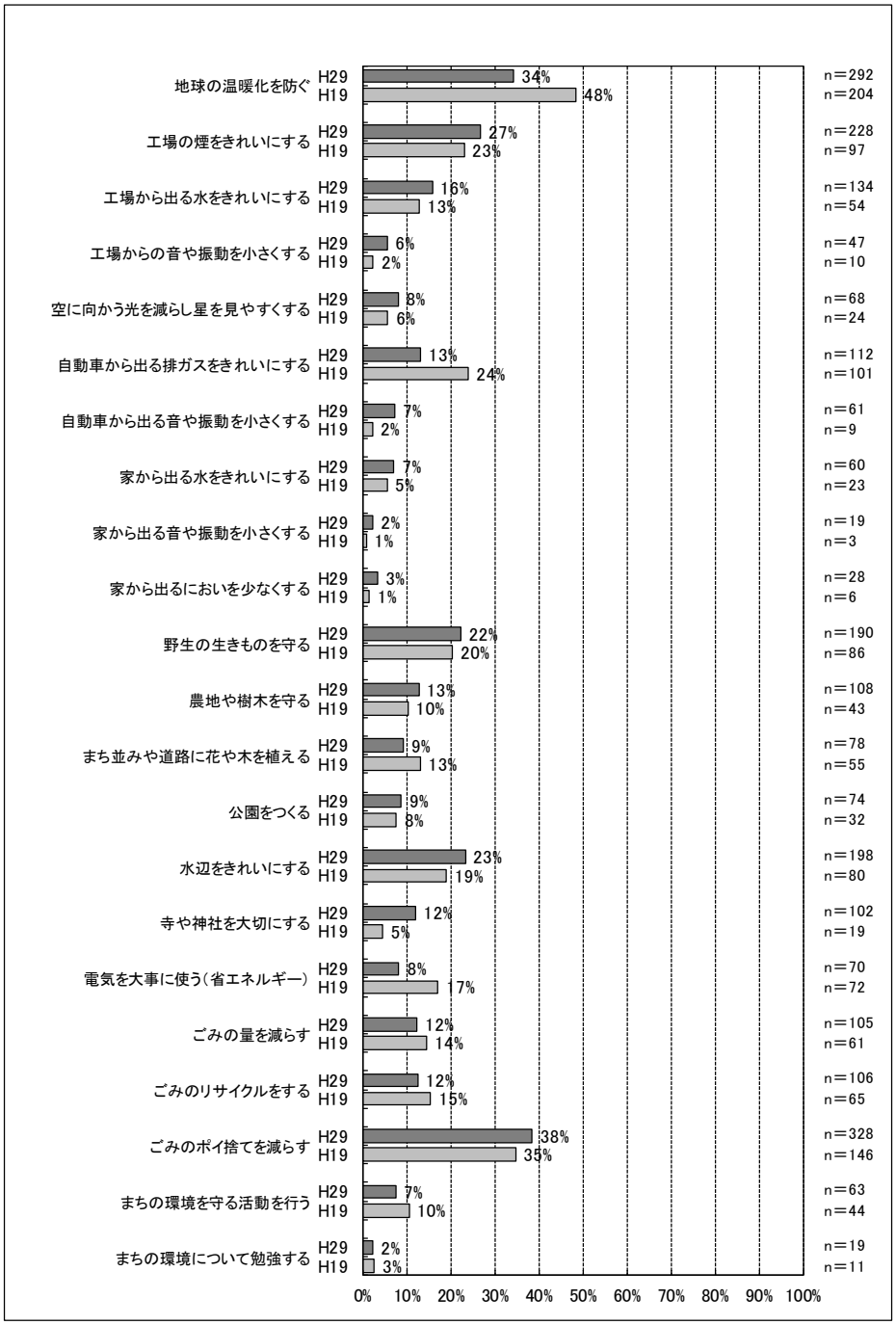


図 241 神栖市の環境を良くするための取組

表 66　神栖市の環境を良くするための取組

	H29 結果（回答数）	H29 結果（%）	H19 結果(%)
地球の温暖化を防ぐ	292	34%	48%
工場の煙をきれいにする	228	27%	23%
工場から出る水をきれいにする	134	16%	13%
工場からの音や振動を小さくする	47	6%	2%
空に向かう光を減らし星を見やすくする	68	8%	6%
自動車から出る排ガスをきれいにする	112	13%	24%
自動車から出る音や振動を小さくする	61	7%	2%
家から出る水をきれいにする	60	7%	5%
家から出る音や振動を小さくする	19	2%	1%
家から出るにおいを少なくする	28	3%	1%
野生の生きものを守る	190	22%	20%
農地や樹木を守る	108	13%	10%
まち並みや道路に花や木を植える	78	9%	13%
公園をつくる	74	9%	8%
水辺をきれいにする	198	23%	19%
寺や神社を大切にする	102	12%	5%
電気を大事に使う（省エネルギー）	70	8%	17%
ごみの量を減らす	105	12%	14%
ごみのリサイクルをする	106	12%	15%
ごみのポイ捨てを減らす	328	38%	35%
まちの環境を守る活動を行う	63	7%	10%
まちの環境について勉強する	19	2%	3%
計（無回答を除く）			

b) クロス集計

学校別に比較すると、小学生は「野生の生きものを守る」及び「ごみのポイ捨てを減らす」が 42%、中学生は「地球の温暖化を防ぐ」が 42%、高校生は「ごみのポイ捨てを減らす」が 40%の割合が最も高く。一方で最も低い割合となっているが、小学生と高校生は「家から出る音や振動を小さくする」と「家から出るにおいを少なくする」が 2%～3%、中学生は「まちの環境について勉強する」1%となっている。

①学校別分析

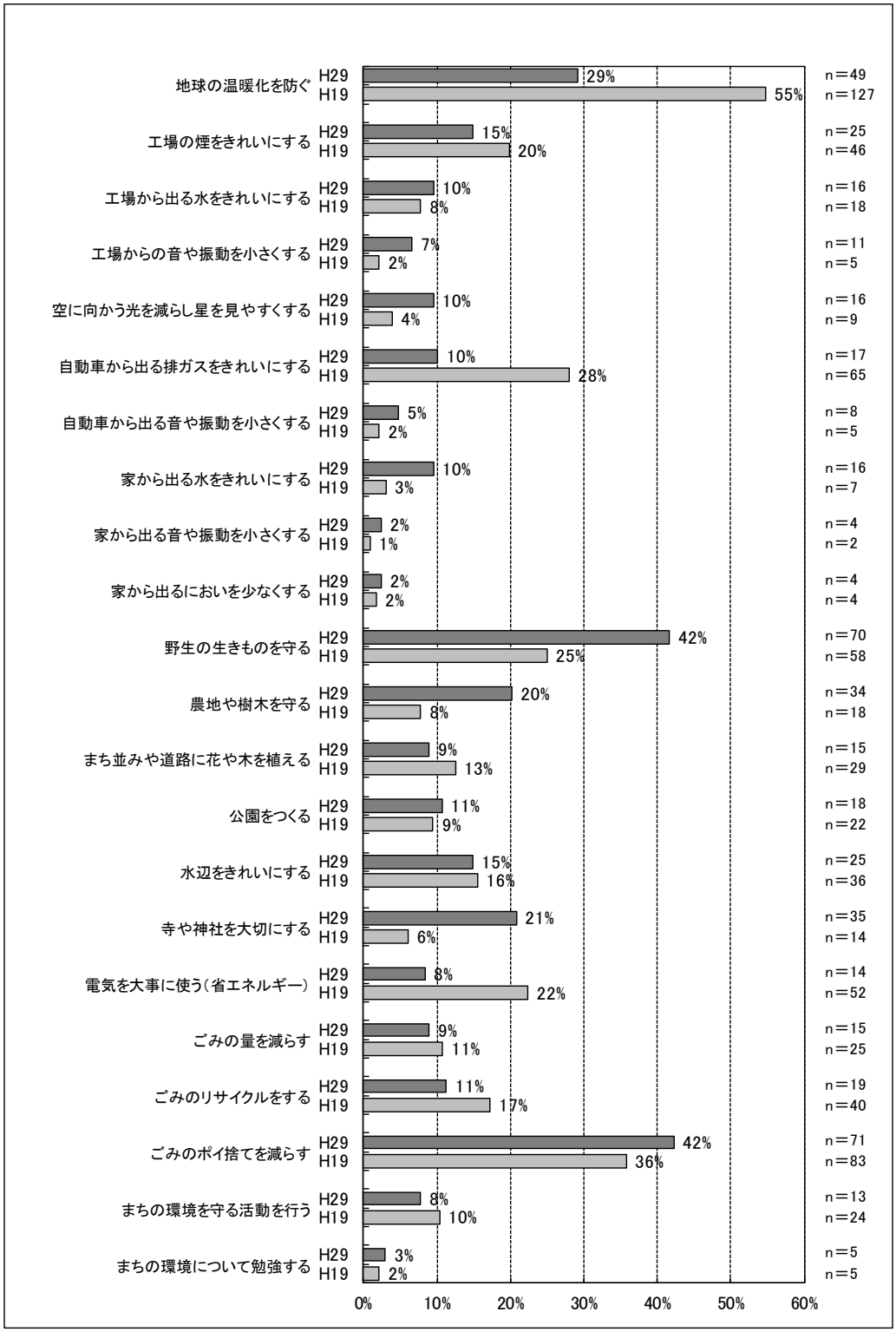


図 242　学校別分析　小学生

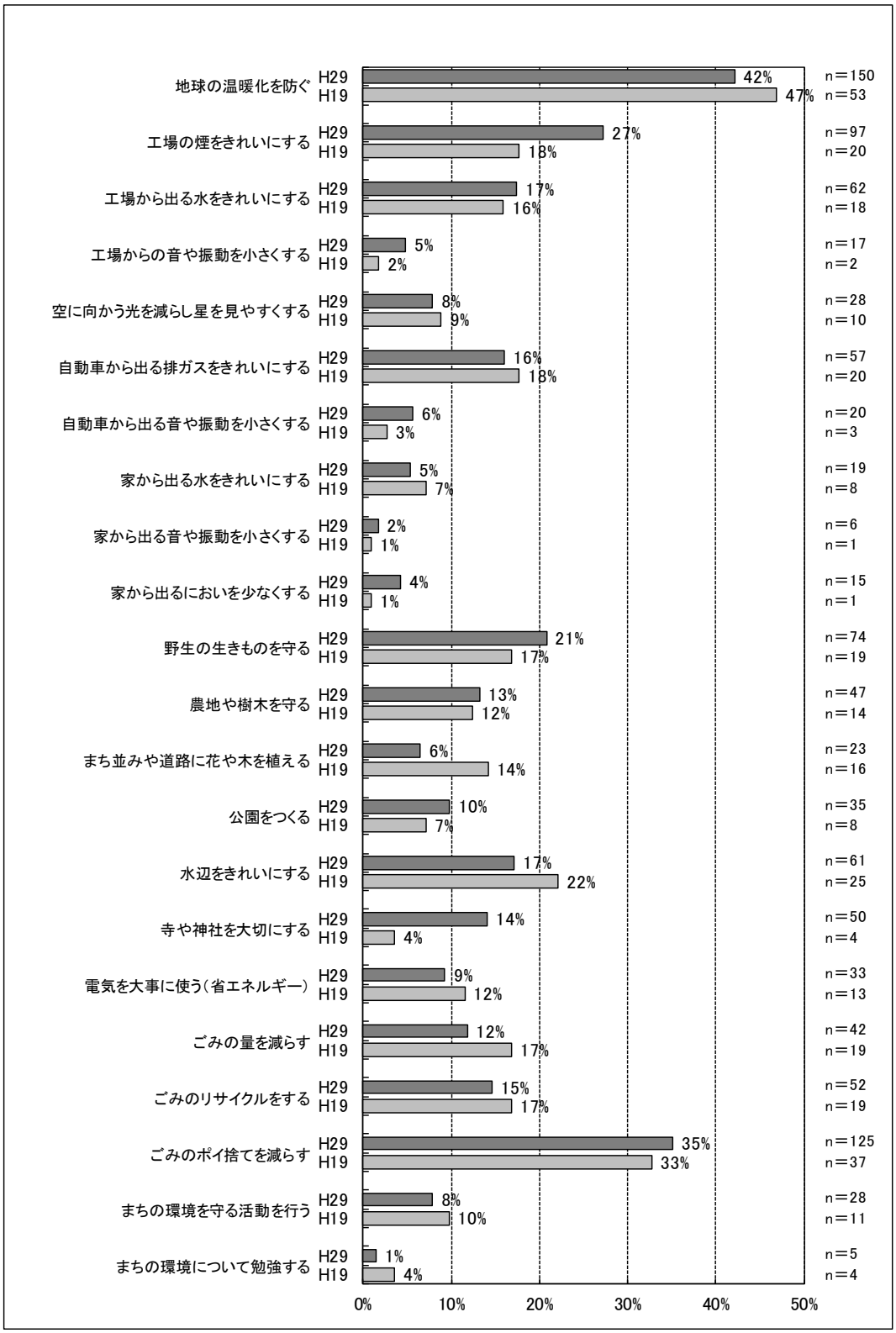


図 243　学校別分析　中学生

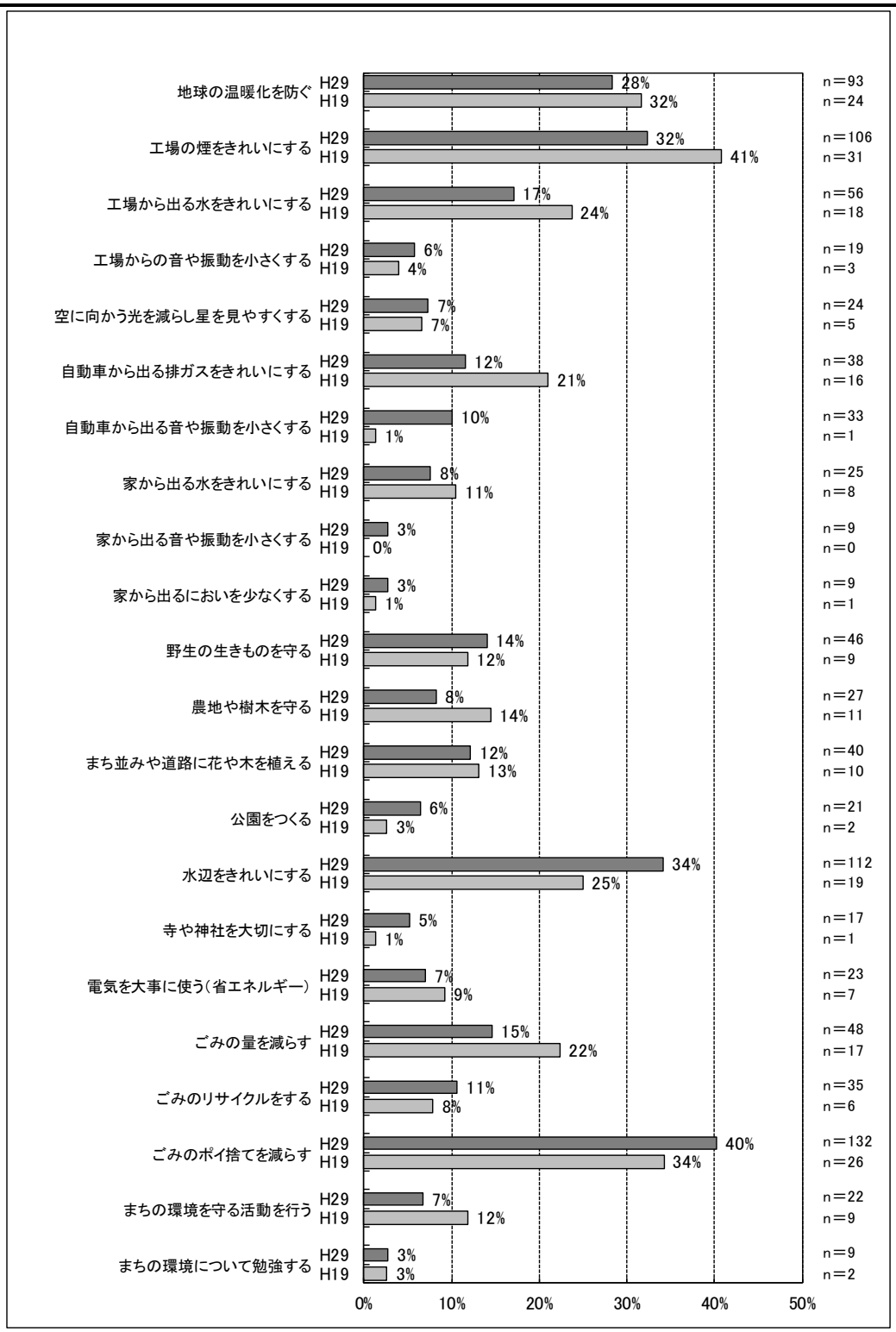


図 244　学校別分析　高校生